

八千代市坊山遺跡

— 萱田地区埋蔵文化財調査報告書VI —

1993

住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部
財団法人 千葉県文化財センター

八千代市坊山遺跡

— 萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅵ —

1993

住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部
財団法人 千葉県文化財センター

序 文

千葉県北西部に位置する八千代市は、新川をはじめとする多くの中小河川が流れ、その恵まれた自然環境により、先土器時代から歴史時代にいたる数多くの遺跡が所在しています。また近年、東京に近接する地理的条件により、急激に人口が増加していることに伴い、大規模な宅地造成事業が各地で実施されており、住宅・都市整備公団は、萱田地区において約100ヘクタールに及ぶ土地区画整理事業を計画しました。

そこで、千葉県教育委員会では、用地内に所在する埋蔵文化財の取扱いについて、住宅・都市整備公団をはじめ関係諸機関と協議を重ねた結果、遺跡の所在地を公園・緑地とした開発計画を立て、極力遺跡の現状保存を図るとともに、現状保存が困難な遺跡について十分な記録保存の処置を講ずることとなり、昭和52年から財団法人千葉県文化財センターが調査を行ってまいりました。

このたび、昭和54年度から58年度にかけて発掘調査を実施した坊山遺跡の調査成果を報告することとなりました。坊山遺跡は先土器時代から平安時代までの遺構・遺物が検出されましたが、とりわけ先土器時代の多数の遺物集中地点からは局部磨製石斧をはじめとする多くの遺物が出土したことで注目され、当地域の歴史を理解するうえで大変貴重な資料といえます。この報告書が、学術資料としてはもとより、教育資料としても広く活用されるとともに、埋蔵文化財の保護・普及のために役立つことを願ってやみません。

終わりに、発掘調査から報告書の刊行まで御指導、御協力いただいた千葉県教育委員会、住宅・都市整備公団、八千代市教育委員会、地元関係諸機関各位にお礼申し上げますとともに、寒暑を厭わず調査に協力された調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成4年12月

財団法人 千葉県文化財センター

理事長 奥 山 浩

凡 例

- 1 本書は、八千代市都市計画事業萱田特定土地区画整理事業に伴い事前発掘調査を実施した八千代市坊山遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査の実施は、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部の依頼により、文化庁及び千葉県教育委員会の指導を受けて、財団法人千葉県文化財センターが行った。
- 3 発掘調査は、昭和54年10月1日から昭和60年3月8日まで数次にわたり実施した。
- 4 整理作業は昭和63年度から平成3年度まで行った。
- 5 坊山遺跡の遺跡コードは、行政管理庁指定統計コード八千代市(221)、千葉県文化財センター遺跡コード(004)を使用し、221-004とした。ただし、調査開始当初において北海道遺跡と坊山遺跡の区分が明確に行われていなかったため、上層遺構の一部は北海道遺跡の遺跡コード(221-002)を使用し、さらに縄文時代の遺物包含層は(221-005)という遺跡コードを使用している。
- 6 本書は、『八千代市権現後遺跡』・『八千代市北海道遺跡』・『八千代市ヲサル山遺跡』・『八千代市井戸向遺跡』・『八千代市白幡前遺跡』に続く萱田地区埋蔵文化財調査報告書の第6冊に当たる。
- 7 整理作業及び本書の原稿執筆は調査部長堀部昭夫・天野努、部長補佐阪田正一・佐久間豊、班長上野純司の指導のもとに大野康男が行った。
- 8 発掘調査から報告書の刊行にいたるまで千葉県教育委員会をはじめ、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部、同千葉北部開発事務所、八千代市教育委員会、地元関係諸機関各位に御指導・御協力をいただいた。
- 9 発掘調査の担当者は以下のとおりである。なお○印は直接現場担当者である。

	昭和54年度	昭和55年度	昭和58年度	昭和59年度
調査部長	白石竹雄	白石竹雄	白石竹雄	鈴木道之助
部長補佐	山田友治	栗本佳弘	根本弘	岡川宏道
班長	沼沢豊	沼沢豊	阪田正一	矢戸三男
主任調査 研究員				田村隆 ○奥田正彦
調査 研究員	萩野谷 悟 加藤修司 関口達彦 ○橋本勝雄 ○丸山浩司 (現鳴田)	萩野谷 悟 加藤修司 ○橋本勝雄 ○丸山浩司 (現鳴田) 今泉 潔	○橋本勝雄 金丸 誠 藤岡孝司	藤岡孝司

目 次

序 文

凡 例

第1章	はじめに	1
第1節	遺跡の位置と環境	1
第2節	調査の経過と方法	3
第2章	先土器時代遺物集中地点の調査	4
第1節	概観	4
第2節	第1文化層	8
第3節	第2文化層	22
第4節	第3文化層	109
第5節	第4文化層	110
第6節	第5文化層	143
第7節	第6文化層	206
第3章	縄文時代以降の遺構調査	214
第1節	竪穴住居跡	214
第2節	土壌	219
第3節	遺物包含層	222
第4章	まとめ	239
第1節	各文化層の石器群	239
第2節	第2文化層の特質	242

挿図目次

第1図	坊山遺跡と周辺地形	2	第30図	S32地点石器実測図	29
第2図	小グリッド配置図	3	第31図	S37・S58・S72・S73地点の位置	29
第3図	標準土層図	4			29
第4図	先土器時代遺物集中地点分布図	5	第32図	S37地点遺物分布状況	30
第5図	S39地点の位置	8	第33図	S37・S58・S72・S73地点遺物分布状況	31
第6図	S39地点遺物分布状況	9			31
第7図	S39地点出土礫の重量別分布	11	第34図	S37・S58地点遺物垂直分布	33
第8図	S39地点遺物垂直分布	11	第35図	S37・S58地点剥片計測値	33
第9図	S39地点剥片計測値	12	第36図	S37地点石器実測図	33
第10図	S39地点石器実測図1	13	第37図	S58地点遺物分布状況	36
第11図	S39地点石器実測図2	14	第38図	S58地点石器実測図	37
第12図	S39地点石器実測図3	15	第39図	S72地点遺物分布状況	38
第13図	S53地点の位置	17	第40図	S72地点剥片計測値	39
第14図	S53・S68地点遺物垂直分布	17	第41図	S72地点石器実測図	39
第15図	S53地点遺物分布状況	18	第42図	S73地点遺物分布状況	40
第16図	S53地点石器実測図	19	第43図	S73地点剥片計測値	41
第17図	S105地点の位置	20	第44図	S73地点石器実測図	41
第18図	S105地点石器実測図	20	第45図	S37・S58・S72・S73地点母岩別遺物分布状況	43
第19図	S105地点遺物分布状況	21			43
第20図	S105地点出土礫の重量別分布	22	第46図	S40地点の位置	45
第21図	S30地点の位置	23	第47図	S40地点遺物分布状況	47
第22図	S30地点遺物分布状況	24	第48図	S40地点出土礫の重量別分布	49
第23図	S30地点遺物垂直分布	25	第49図	S40地点遺物垂直分布	50
第24図	S30地点剥片計測値	25	第50図	S40地点剥片計測値	50
第25図	S30地点石器実測図	25	第51図	S40地点石器実測図	51
第26図	S32地点の位置	27	第52図	S49地点の位置	52
第27図	S32・S33・S70地点遺物垂直分布	27	第53図	S49地点遺物分布状況	53
		27	第54図	S49・S50地点遺物垂直分布	55
第28図	S32地点剥片計測値	27	第55図	S49地点剥片計測値	55
第29図	S32地点遺物分布状況	28	第56図	S49地点石器実測図	55

第57図	S 66地点の位置	55	(頁岩)	85	
第58図	S 66地点遺物分布状況	56	第82図	S 95・S 96地点母岩別遺物分布状況 (流紋岩)	87
第59図	S 66地点遺物垂直分布	57	第83図	S 95・S 96地点石器実測図 1	89
第60図	S 66地点剥片計測値	58	第84図	S 95・S 96地点石器実測図 2	90
第61図	S 66地点石器実測図	59	第85図	S 95・S 96地点石器実測図 3	91
第62図	S 78地点の位置	60	第86図	S 95・S 96地点石器実測図 4	92
第63図	S 78地点遺物垂直分布	60	第87図	S 95・S 96地点石器実測図 5	93
第64図	S 78地点剥片計測値	60	第88図	S 95・S 96地点石器実測図 6	94
第65図	S 78地点遺物分布状況	61	第89図	S 95・S 96地点石器実測図 7	95
第66図	S 78地点出土礫の重量別分布	63	第90図	S 95・S 96地点石器実測図 8	96
第67図	S 78地点石器実測図 1	64	第91図	S 95・S 96地点石器実測図 9	97
第68図	S 78地点石器実測図 2	64	第92図	S 95・S 96地点石器実測図 10	98
第69図	S 95・S 96地点の位置	66	第93図	S 95・S 96地点石器実測図 11	99
第70図	S 95・S 96・S 97・S 104・S 105地点 遺物分布状況	67	第94図	S 95・S 96地点石器実測図 12	100
第71図	S 95・S 96地点遺物分布状況	69	第95図	S 97地点遺物分布状況	103
第72図	S 95・S 96地点出土礫の重量別分布 ……………	71	第96図	S 97地点遺物垂直分布	104
第73図	S 95・S 96地点遺物垂直分布	73	第97図	S 97地点剥片計測値	104
第74図	S 95・S 96地点剥片計測値	73	第98図	S 103地点遺物分布状況	105
第75図	S 95・S 96地点母岩別遺物分布状況 (安山岩 1)	77	第99図	S 103・S 104・S 105地点遺物垂直分 布	106
第76図	S 95・S 96地点母岩別遺物分布状況 (安山岩 2)	79	第100図	S 103地点剥片計測値	106
第77図	S 95・S 96地点母岩別遺物分布状況 (凝灰岩)	81	第101図	S 103地点石器実測図	106
第78図	S 95・S 96地点母岩別遺物分布状況 (黒曜石)	82	第102図	S 104地点遺物分布状況	108
第79図	S 95・S 96地点母岩別遺物分布状況 (チャート)	83	第103図	S 104地点剥片計測値	109
第80図	S 95・S 96地点母岩別遺物分布状況 (珪質頁岩)	84	第104図	S 101地点の位置	109
第81図	S 95・S 96地点母岩別遺物分布状況		第105図	S 101地点石器実測図	110
			第106図	S 38地点の位置	110
			第107図	S 38地点遺物分布状況	111
			第108図	S 38地点遺物垂直分布	113
			第109図	S 38地点剥片計測値	113
			第110図	S 38地点石器実測図 1	115
			第111図	S 38地点石器実測図 2	116

第112図 S 47地点の位置	117	第141図 S 106地点遺物垂直分布	141
第113図 S 47地点剥片計測値	117	第142図 S 106地点遺物分布状況	142
第114図 S 47地点遺物分布状況	118	第143図 S 106地点石器実測図	143
第115図 S 47地点石器実測図	119	第144図 S 33・S 70地点の位置	144
第116図 S 69地点の位置	119	第145図 S 33・S 70地点遺物垂直分布	144
第117図 S 69地点遺物分布状況	120	第146図 S 33・S 70地点遺物分布状況	145
第118図 S 69地点石器実測図	121	第147図 S 33・S 70地点剥片計測値	146
第119図 S 71・S 107地点の位置	121	第148図 S 33・S 70地点石器実測図	147
第120図 S 71・S 107地点遺物分布状況	123	第149図 S 36・S 59地点の位置	148
第121図 S 52・S 71・S 107地点遺物垂直分布	125	第150図 S 59地点遺物分布状況	149
第122図 S 71・S 107地点剥片計測値	125	第151図 S 36・S 59地点遺物垂直分布	150
第123図 S 71・S 107地点石器実測図	126	第152図 S 36・S 59地点剥片計測値	150
第124図 S 74・S 75・S 76地点の位置	128	第153図 S 36・S 59地点石刃計測値	150
第125図 S 74・S 75・S 76地点遺物分布状況	129	第154図 S 59地点石器実測図 1	151
第126図 S 74地点遺物分布状況	130	第155図 S 59地点石器実測図 2	152
第127図 S 74地点石器実測図	131	第156図 S 41～S 44・S 60～S 62地点の位置	153
第128図 S 75地点遺物分布状況	132	第157図 S 41地点遺物垂直分布	153
第129図 S 74・S 75・S 76地点遺物垂直分布	133	第158図 S 41～S 44・S 60～S 65地点遺物分布状況	154
第130図 S 75地点剥片計測値	133	第159図 S 41～S 44・S 60～S 65地点母岩別遺物分布状況	155
第131図 S 75地点遺物垂直分布	133	第160図 S 41地点遺物分布状況	157
第132図 S 75地点石器実測図	134	第161図 S 41地点石器実測図 1	159
第133図 S 76地点遺物分布図	135	第162図 S 41地点石器実測図 2	160
第134図 S 76地点遺物垂直分布	136	第163図 S 41地点剥片計測値	161
第135図 S 76地点剥片計測値	136	第164図 S 41地点石刃計測値	161
第136図 S 76地点石器実測図	137	第165図 S 42地点遺物分布状況	162
第137図 S 74・S 75・S 76地点母岩別遺物分布状況	138	第166図 S 42地点遺物垂直分布	163
第138図 S 35・S 77地点の位置	139	第167図 S 42地点剥片計測値	163
第139図 S 35・S 77地点遺物分布状況	140	第168図 S 42地点石刃計測値	163
第140図 S 106地点の位置	141	第169図 S 42地点石器実測図	164
		第170図 S 43a地点遺物垂直分布	165

第171図 S43a地点遺物分布状況	166	第204図 S61地点石刃計測値	194
第172図 S43a地点剥片計測値	167	第205図 S62地点遺物垂直分布	194
第173図 S43a地点石刃計測値	167	第206図 S62地点遺物分布状況	195
第174図 S43b地点遺物分布状況	168	第207図 S62地点剥片計測値	196
第175図 S43b地点遺物垂直分布	169	第208図 S62地点石刃計測値	196
第176図 S43b地点剥片計測値	169	第209図 S62地点石器実測図	197
第177図 S43b地点石刃計測値	169	第210図 S63地点剥片計測値	198
第178図 S43地点石器実測図	170	第211図 S63地点遺物分布状況	199
第179図 S44地点遺物垂直分布	171	第212図 S64地点遺物分布状況	200
第180図 S44地点遺物分布状況	172	第213図 S64地点遺物垂直分布	201
第181図 S44地点剥片計測値	174	第214図 S64地点剥片計測値	201
第182図 S44地点石刃計測値	174	第215図 S64地点石器実測図	201
第183図 S44地点石器実測図1	175	第216図 S65地点遺物垂直分布	202
第184図 S44地点石器実測図2	176	第217図 S65地点遺物分布状況	203
第185図 S44地点石器実測図3	177	第218図 S65地点剥片計測値	204
第186図 S45・S46地点の位置	178	第219図 S52地点の位置	204
第187図 S45地点遺物分布状況	179	第220図 S52地点遺物分布状況	205
第188図 S45地点遺物垂直分布	180	第221図 S52地点遺物垂直分布	205
第189図 S45地点剥片計測値	180	第222図 S48地点の位置	206
第190図 S45地点石器実測図1	181	第223図 S48地点遺物垂直分布	206
第191図 S45地点石器実測図2	182	第224図 S48地点剥片計測値	206
第192図 S46地点剥片計測値	183	第225図 S48地点遺物分布状況	207
第193図 S46地点遺物分布状況	184	第226図 S48地点出土礫の重量別分布	209
第194図 S60地点遺物垂直分布	185	第227図 S48地点石器実測図1	211
第195図 S60地点剥片計測値	185	第228図 S48地点石器実測図2	212
第196図 S60地点石刃計測値	185	第229図 D150及び出土遺物実測図	214
第197図 S60地点遺物分布状況	186	第230図 上層遺構配置図	215
第198図 S60地点石器実測図	187	第231図 D001実測図	217
第199図 S61地点遺物垂直分布	189	第232図 D002実測図	217
第200図 S61地点遺物分布状況	190	第233図 D003・D004実測図	217
第201図 S61地点石器実測図1	191	第234図 P001～P006実測図	218
第202図 S61地点石器実測図2	192	第235図 D001出土遺物実測図	219
第203図 S61地点剥片計測値	194	第236図 P005出土遺物実測図	219

第237図 P007～P043実測図 ……………221	第248図 萱田地区先土器時代遺物集集中地点の分布 ……………242
第238図 1群土器拓影図 ……………225	第249図 第2文化層出土遺物点数別集集中地点ヒストグラム ……………243
第239図 2群土器拓影図 ……………226	第250図 石材クラスターアンドログラム 245
第240図 3群土器拓影図 ……………228	第251図 石材クラスターの石材組成率 ……246
第241図 4群・5群土器拓影図1 ……………230	第252図 石材クラスターの器種構成 ……247
第242図 5群土器拓影図2 ……………231	第253図 地点・石材クラスター別遺物点数比 ……………247
第243図 5群土器拓影図3 ……………232	第254図 坊山・北海道遺跡の遺物集集中地点の分布 ……………248
第244図 6群土器拓影図 ……………235	
第245図 7群土器拓影図 ……………236	
第246図 土器片錘実測図 ……………237	
第247図 縄文時代石器実測図 ……………239	

表 目 次

第1表 先土器時代文化層一覽 ……………8	第20表 S37・S58・S72・S73地点黒曜石の母岩別構成表……………44
第2表 S39地点遺物集計表……………12	第21表 S40地点遺物集計表……………46
第3表 S39地点遺物観察表……………16	第22表 S40地点遺物観察表……………49
第4表 S53地点遺物集計表……………19	第23表 S49地点遺物集計表……………52
第5表 S53地点遺物観察表……………20	第24表 S49地点遺物観察表……………52
第6表 S105地点遺物集計表 ……………20	第25表 S66地点遺物集計表……………57
第7表 S105地点遺物観察表 ……………22	第26表 S66地点遺物観察表……………58
第8表 S30地点遺物集計表……………23	第27表 S78地点遺物集計表……………62
第9表 S30地点遺物観察表……………26	第28表 S78地点遺物観察表……………63
第10表 S32地点遺物観察表……………27	第29表 S95・S96地点遺物集計表……………74
第11表 S32地点遺物集計表……………28	第30表 S95・S96地点遺物観察表1 ……86
第12表 S37地点遺物集計表……………34	第31表 S95・S96地点遺物観察表2 ……101
第13表 S37地点遺物観察表……………34	第32表 S95・S96地点遺物観察表3 ……102
第14表 S58地点遺物集計表……………35	第33表 S97地点遺物集計表 ……………102
第15表 S58地点遺物観察表……………35	第34表 S103地点遺物集計表……………104
第16表 S72地点遺物集計表……………37	第35表 S103地点遺物観察表……………106
第17表 S72地点遺物観察表……………37	第36表 S104地点遺物集計表……………107
第18表 S73地点遺物集計表……………42	第37表 S101地点遺物集計表……………110
第19表 S73地点遺物観察表……………42	

第38表	S 101地点遺物観察表	110	第66表	S 43a地点遺物観察表	168
第39表	S 38地点遺物集計表	114	第67表	S 43b地点遺物集計表	171
第40表	S 38地点遺物観察表	116	第68表	S 44地点遺物集計表	173
第41表	S 47地点遺物集計表	117	第69表	S 44地点遺物観察表	174
第42表	S 47地点遺物観察表	117	第70表	S 45地点遺物集計表	180
第43表	S 69地点遺物集計表	120	第71表	S 45地点遺物観察表	183
第44表	S 69地点遺物観察表	121	第72表	S 46地点遺物集計表	184
第45表	S 71地点遺物集計表	122	第73表	S 60地点遺物集計表	188
第46表	S 52・S 107地点遺物集計表	125	第74表	S 60地点遺物観察表	189
第47表	S 71・S 107地点遺物観察表	127	第75表	S 61地点遺物観察表	192
第48表	S 74地点遺物集計表	128	第76表	S 61地点遺物集計表	193
第49表	S 74地点遺物観察表	128	第77表	S 62地点遺物集計表	196
第50表	S 75地点遺物集計表	131	第78表	S 62地点遺物観察表	198
第51表	S 75地点遺物観察表	133	第79表	S 63地点遺物集計表	198
第52表	S 76地点遺物集計表	136	第80表	S 64地点遺物集計表	202
第53表	S 76地点遺物観察表	139	第81表	S 64地点遺物観察表	202
第54表	S 35・S 77地点遺物集計表	139	第82表	S 65地点遺物集計表	204
第55表	S 106地点遺物集計表	141	第83表	S 52地点遺物集計表	205
第56表	S 106地点遺物観察表	141	第84表	S 48地点遺物集計表	210
第57表	S 33・S 70地点遺物集計表	146	第85表	S 48地点遺物観察表	213
第58表	S 33・S 70地点遺物観察表	146	第86表	グリッド別土器出土量 1	222
第59表	S 59地点遺物集計表	148	第87表	グリッド別土器出土量 2	223
第60表	S 59地点遺物観察表	150	第88表	使用石材の構成比による相関行列の固有ベクトル	244
第61表	S 41地点遺物集計表	158	第89表	器種構成比による相関行列の固有ベクトル	245
第62表	S 41地点遺物観察表	161	第90表	石材クラスター一覧表	246
第63表	S 42地点遺物観察表	164	第91表	変量別得点表	249
第64表	S 42地点遺物集計表	165			
第65表	S 43a地点遺物集計表	167			

図版目次

- 図版 1 1. 萱田地区全景
- 図版 2 1. ローム層断面
2. S 39地点遺物分布状況
3. S 39地点礫出土状況
- 図版 3 1. S 39地点出土石器
2. S 39地点出土礫
- 図版 4 1. S 53・S 63地点遺物分布状況
2. S 53地点出土石器
3. S 105地点遺物分布状況
4. S 105地点出土石器
- 図版 5 1. S 30地点遺物分布状況
2. S 30地点出土石器
3. S 32地点遺物分布状況
4. S 32地点出土石器
- 図版 6 1. S 37地点遺物分布状況
2. S 37地点出土石器
3. S 58地点遺物分布状況
4. S 58地点出土石器
5. S 72地点遺物分布状況
- 図版 7 1. S 72地点出土石器
2. S 73地点遺物分布状況
3. S 73地点出土石器
4. S 40地点遺物分布状況
- 図版 8 1. S 40地点出土石器
2. S 40地点出土礫
3. S 49地点遺物分布状況
4. S 49地点出土石器
- 図版 9 1. S 66地点出土石器
2. S 78地点遺物分布状況
3. S 78地点出土石器
- 図版 10 1. S 95・S 96地点遺物分布状況
2. S 95・S 96地点出土石器
- 図版 11 1. S 95・S 96地点出土石器
- 図版 12 1. S 97・S 104地点遺物分布状況
2. S 95・S 96地点出土礫
3. S 104地点出土礫
4. S 103地点出土石器
- 図版 13 1. S 101地点出土石器
2. S 38地点遺物分布状況
3. S 38地点出土石器
- 図版 14 1. S 45地点出土石器
2. S 46地点遺物分布状況
3. S 47地点遺物分布状況
- 図版 15 1. S 47地点出土石器
2. S 64地点遺物分布状況
3. S 64地点出土石器
4. S 69地点遺物分布状況
5. S 69地点出土石器
- 図版 16 1. S 71・S 107地点遺物分布状況
2. S 71・S 107地点出土石器
3. S 74地点出土石器
4. S 75地点遺物分布状況
- 図版 17 1. S 75地点出土石器
2. S 76地点遺物分布状況
3. S 76地点出土石器
- 図版 18 1. S 106地点遺物分布状況
2. S 106地点出土石器
3. S 33地点遺物分布状況
4. S 33・S 70地点出土石器
- 図版 19 1. S 41～S 44・S 60～S 63地点遺物

- 分布狀況
2. S 41地点出土石器
- 図版20 1. S 42地点出土石器
2. S 43地点出土石器
- 図版21 1. S 44地点出土石器
2. S 60地点出土石器
- 図版22 1. S 60地点出土石器
2. S 61地点出土石器
- 図版23 1. S 62地点出土石器
2. S 65地点遺物分布狀況
3. S 52地点遺物分布狀況
- 図版24 1. S 59地点出土石器
2. S 48地点遺物分布狀況
3. S 48地点出土石器
- 図版25 1. S 48地点出土石器
- 図版26 1. D 150全景
2. D 150遺物出土狀況
3. D 150出土遺物
- 図版27 1. D 001全景
2. D 002全景
3. D 003・D 004全景
- 図版28 1. P 002全景
2. P 004全景
3. P 015全景
- 図版29 1. 1群土器
- 図版30 1. 2群土器
- 図版31 1. 3群土器
- 図版32 1. 4・5群土器(1)
- 図版33 1. 5群土器(2)
- 図版34 1. 5群土器(3)
- 図版35 1. 6群土器
- 図版36 1. 7群土器
- 図版37 1. 土器片錘
2. 縄文時代石器

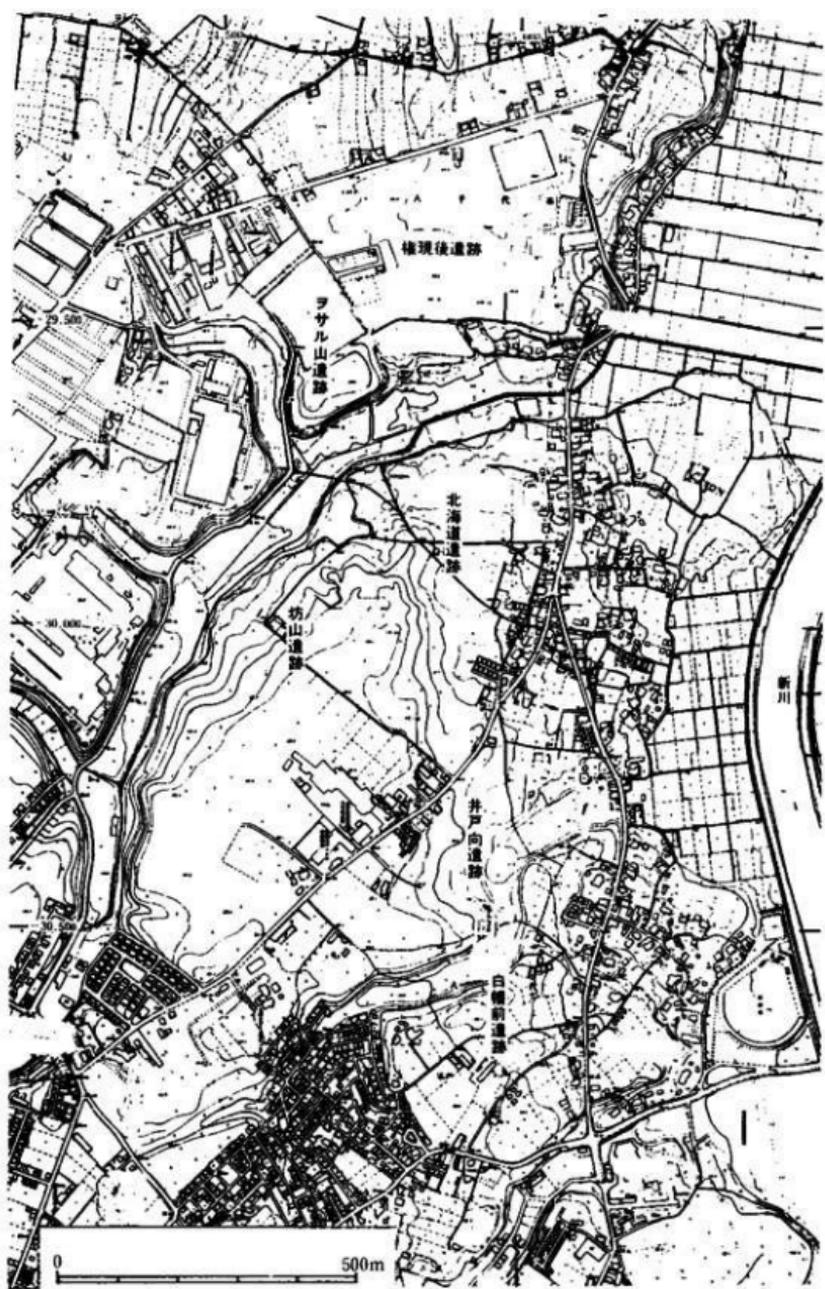
第1章 はじめに

第1節 遺跡の位置と環境

坊山遺跡は千葉県八千代市大和田新田字坊山・弁天作に所在する。この地区は萱田地区の西端に位置し、東葉高速鉄道仮称八千代駅の北側に当たる。

遺跡は、印旛沼へ流れる新川左岸の標高15～25mの台地上に立地している。台地は北から須久茂谷津・寺谷津・池谷津等の支谷に開析され、坊山遺跡はこのうち須久茂谷津と寺谷津に挟まれた台地上に立地している。この台地には新川に向けて3枚の段丘面が広がり、坊山遺跡が新川から最も離れた段丘上位面に、北海道遺跡・井戸向遺跡が段丘中位面に展開している。段丘上位面と中位面の比高は5m前後を測り、段丘中位面は寺谷津を隔てた白幡前遺跡に続いている。須久茂谷津・池谷津に面する斜面には段丘中位面・下位面は形成されていないが、須久茂谷津に面する斜面はかなり緩やかな斜面で、その傾斜は段丘中位面に向かう傾斜と同程度である。台地上部と須久茂谷津との比高は約10mを測る。

坊山遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡の3遺跡は地形図上では互いに隣接するものの、弥生時代・古墳時代や奈良・平安時代の集落にはかなり広い遺構の空白域が存在する。特に奈良・平安時代は遺構数が突出して多いにも関わらず、北海道遺跡と井戸向遺跡を明瞭に区分することができる。北海道遺跡・井戸向遺跡では、奈良・平安時代を中心として100軒を超す竪穴住居跡が検出されているが、坊山遺跡では皆無に等しい状況で、奈良・平安時代の集落はより新川に近い位置に展開している。新川から僅かに奥に入った坊山遺跡は居住の地として選択されなかったのである。しかしながら、先土器時代の遺物集中地点を奈良・平安時代と同じ線で区分することはできず、坊山遺跡から井戸向遺跡にかけて連続して遺物集中地点が分布している。特に坊山遺跡の東側の段丘面の縁辺に位置する遺物集中地点は、具体的に井戸向遺跡と区分することは不可能である。また、坊山遺跡と北海道遺跡は便宜的に段丘上位面と中位面で区分しているが、遺物集中地点の分布から北海道遺跡ですでに報告された第50～53地点の4箇所の遺物集中地点は坊山遺跡に見られる段丘上位面の縁辺に立地する形態をとり、北海道遺跡の他の遺物集中地点とは立地を異にしている。なお、坊山遺跡ではⅢ～Ⅳ層下部並びにⅨ層を中心に良好な石器群が検出されているが、北海道遺跡をはじめとする段丘中位面ではⅨ層の石器群は検出されていない。



第1図 坊山遺跡と周辺地形

第2節 調査の経過と方法

豊田地区における埋蔵文化財の発掘調査は、昭和52年度の権現後遺跡の調査から開始された。平成3年度には事業地区内の発掘調査はすべて終了し、整理作業も終焉に向かっており、すでに権現後遺跡・北海道遺跡・ヲサル山遺跡・井戸向遺跡・白幡前遺跡の報告書も刊行されている。

坊山遺跡の調査は昭和54年度に開始され、初年度には白幡前遺跡と合わせて220,000㎡に及ぶ範囲の確認調査を実施した。確認調査は上層遺構が2m幅のトレンチを原則的に10m間隔に1本設定し、下層は2m×2mのグリッドを100㎡に1箇所設定して行った。確認調査の結果、上層遺構の分布は希薄なもの先土器時代の遺物集中地点が多く確認でき、昭和55年度に本調査を実施することとなった。本調査を行った昭和55年度段階においても北海道遺跡と坊山遺跡の厳密な区分は具体化しておらず、坊山・北海道遺跡両遺跡に対して、(221-002)・(221-004)・(221-005)という3遺跡コードが用いられている。(221-002)は北海道遺跡と坊山遺跡の上層遺構に、(221-004)は坊山遺跡の先土器時代遺物集中地点に、(221-005)は坊山遺跡の縄文時代遺物包含層に付けられたものである。

坊山遺跡では前年度の確認調査の結果、先土器時代遺物集中地点が多く確認されており、確認結果をもとに上層遺構・先土器時代遺物集中地点の本調査を行った。本調査は先土器時代の遺物集中地点の調査が主体となり、確認調査結果から得られた遺物集中地点を対象に本調査範囲を策定し、ローム層中の精査を行った。遺物の取り上げは平板を用いて遺物分布図を1/20で作成している。土層断面はそれぞれの本調査範囲の隅で観察を行い、土層断面図を1/20で作成してある。

また、坊山グランド南遺跡の16,000㎡についても昭和55年度に確認調査を実施している。坊山グランド南遺跡は、確認調査の結果、遺構・遺物はきわめて希薄な分布状況であることが確認され、確認調査で遺構を検出したグリッドを拡張しただけで、本調査は行わなかった。昭和55年度で坊山遺跡の大部分の調査は終了したが、一部用地上の問題で調査に着手出来ない地点があり、この地点について昭和58年8月1日から9月10日、昭和60年1月21日から3月4日までの2次に分けて調査を行った。

整理作業は昭和63年度から開始し、昭和63年度に遺物の復元、平成元年度にトレース、平成2年度に挿図・図版のレイアウト、平成3年度に原稿執筆を行った。

00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
10	11								
20		22							
30			33						
40				44					
50					55				
60						66			
70							77		
80								88	
90									99

0 25m

第2図 小グリッド配置図

第2章 先土器時代遺物集中地点の調査

第1節 概観

1 はじめに

坊山遺跡は井戸向遺跡・北海道遺跡と同一台地上にある。このような遺跡の区分は萱田地区の場合、縄文時代以降、特に奈良・平安時代を中心として見た場合には妥当であるが、先土器時代についての遺跡範囲は当然のことながら奈良・平安時代の範囲と同一視する事は出来ない。すでに述べたように調査開始当初において北海道遺跡と坊山遺跡は明確に区分されておらず、そういう意味からすると、今回報告する遺物集中地点は北海道遺跡及び井戸向遺跡で報告していない地点となる。

さて、この3遺跡における先土器時代の遺物集中地点は、概ね須久茂谷津・寺谷津という二つの大きな支谷に面して立地し、北海道・坊山遺跡ではさらに段丘面を画する斜面に沿って分布が認められる。これまでの報告では須久茂谷津側を北海道遺跡で、寺谷津側を井戸向遺跡で報告している。先土器時代遺跡に対する確認調査の精度の問題はあるが、北海道遺跡と坊山遺跡を区分する根拠となった段丘面を画する斜面では、先土器時代の遺物集中地点は確認できていない。坊山遺跡として報告する先土器時代の遺物集中地点の大部分は北海道遺跡同様須久茂谷津に面して分布するが、わずかに台地中央部及び井戸向遺跡側の段丘高位面の縁辺にも分布が認められる。

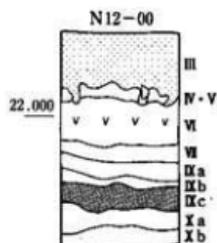
2 土層

萱田地区の立川ローム層の基本的層準については、すでに井戸向遺跡の報告書で詳述されている。しかし、坊山遺跡の調査が実施されたのは、井戸向遺跡の調査時期より古く、昭和55年度である。基本的な層序は現在と大きな違いはないものの、ハードローム層最上部やVI層から第2黒色帯下部にかけての分層は未だ試行錯誤の時期であり、統一的な分層が行われていない。当時としては充分妥当な分層であったが、細部について現在の分層と一致しない部分が存在する。ただ、萱田地区では比較的早い調査から第2黒色帯を3枚に分層しており、特に問題となるのはVI層から第2黒色帯にかけての部分と各層準の呼称法である。以下に坊山遺跡における立川ローム層の標準的な層準を記す。層名は井戸向遺跡での呼称に統一し、調査時と呼称が異なる場合には調査時における呼称も記した。

III層 黄褐色の軟質ローム層。

IV層 褐色の硬質ローム層。

V層 淡暗褐色の硬質ローム層。第1黒色帯に相当するが、IV



第3図 標準土層図

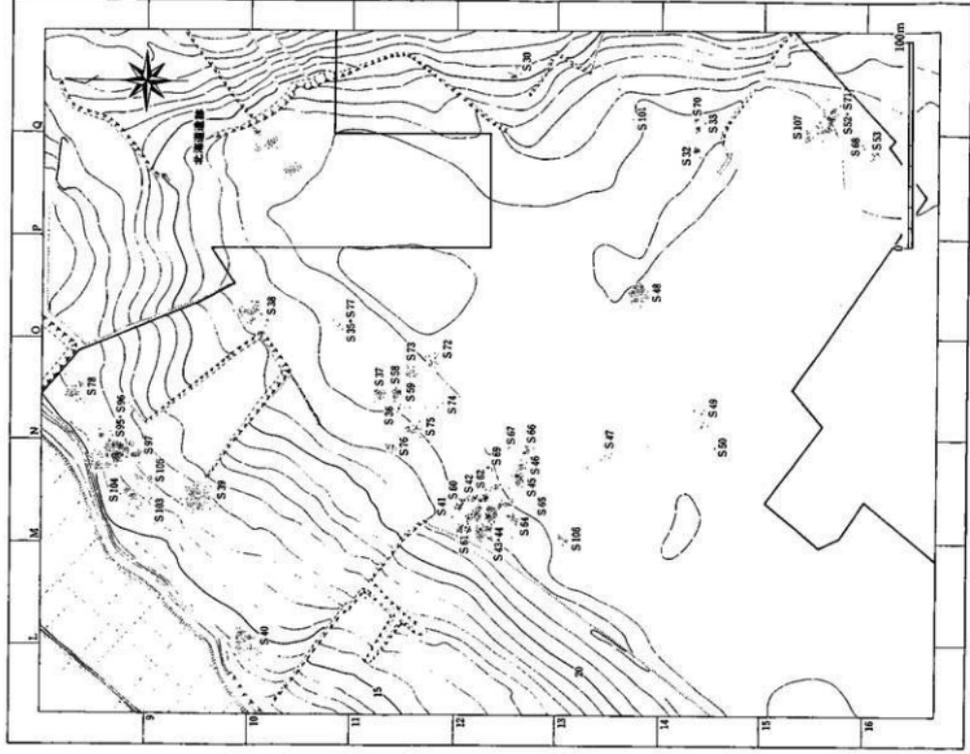


圖 4 新石器時代遺物集中地成分佈圖

層との境界が不明瞭な場合はIV・V層と記述する場合もある。

- VI層 明黄褐色の硬質ローム層。始良Tn火山灰を含む層に相当する。
- VII層 褐色の硬質ローム層。第2黒色帯上部明色部であり、調査時にVI層と呼称されていた。
- IXa層 淡褐色ローム層。スコリア質で、若干粘質。第2黒色帯下部暗色部上部層であり、調査時にVIIa層と呼称されていた。
- IXb層 明褐色ローム層。第2黒色帯下部暗色部の間層帯である。調査時にVIIa～VIIb層と呼称されていた。
- IXc層 濃暗褐色ローム層。第2黒色帯下部暗色部である。色調は非常に暗く、多量の有色スコリアの混入が観察される。調査時にVIIb層と呼称されていた。
- Xa層 立川ローム層最下層の上半である。黄褐色のローム層でしまりがあり、粘性を帯びる。調査時にVIII層と呼称されていた。
- Xb層 立川ローム層最下層下半である。褐色を呈し、スコリアの混入は稀である。調査時にIX層と呼称されていた層が該当する可能性が高い。

3 文化層

大別して6枚の文化層を設定した。各文化層とも土層を基準にした大略であり、内部で細分される可能性もある。

- 第1文化層 III層を産出層準としている。S39・S50・S53・S68・S105の5地点が本文化層に帰属する。S39を除いて小規模な集中地点が多い。
- 第2文化層 IV層からV層を産出層準としている。16箇所の地点からなり、S30・S32・S35・S37・S40・S49・S58・S66・S72・S73・S78・S95・S96・S97・S103・S104が帰属する。
- 第3文化層 VI層を産出層準としている。S101地点がある。
- 第4文化層 VII層からIXa層を産出層準としている。S38・S47・S63・S67・S69・S71・S74・S75・S76・S77・S106・S107の12箇所が帰属する。
- 第5文化層 IXb層からIXc層を産出層準とし、環状ブロックが形成されている。S33・S36・S41・S42・S43・S44・S45・S46・S52・S59・S60・S61・S62・S64・S65・S70の16箇所が帰属するが、このうちの8箇所は環状ブロックを構成する集中地点である。
- 第6文化層 X層を産出層準とする。帰属するのはS48地点1箇所であるが、300点を超す遺物が出土している。

第1表 先土器時代文化層一覧

	遺物集中地点
第1文化層	S39・S50・S53・S68・S105
第2文化層	S30・S32・S35・S37・S40・S49・S58・S66・S72・S73・S78・S95 S96・S97・S103・S104
第3文化層	S101
第4文化層	S38・S45・S46・S47・S63・S67・S69・S71・S74・S75・S76・S77 S106・S107
第5文化層	S33・S36・S41・S42・S43・S44・S52・S59・S60・S61・S62・S64 S65・S70
第6文化層	S48

第2節 第1文化層

第1文化層はIII層を産出層準とする遺物集中地点である。S39・S50・S53・S68・S105の5地点があり、S39を除くと小規模な遺物集中地点である。

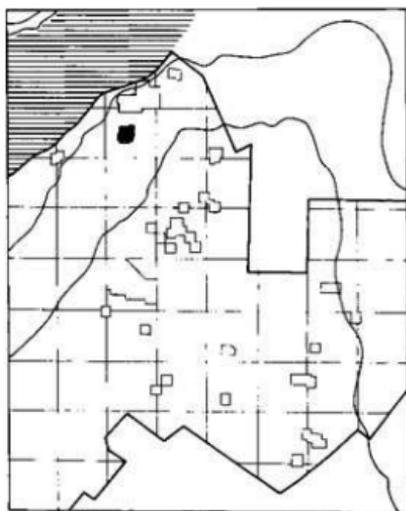
1 S39地点 (第5～12図、第2・3表、図版2・3)

a) 分布

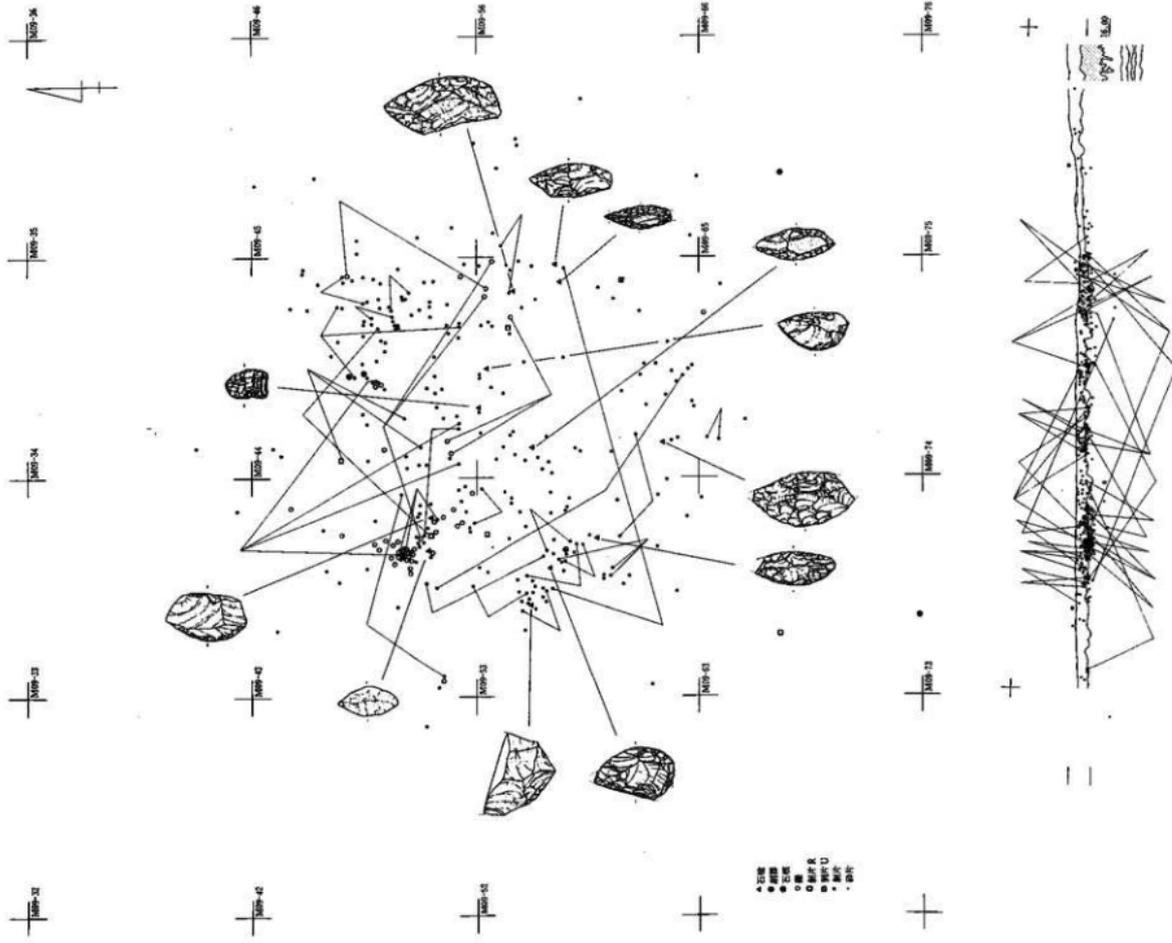
S39地点は須久茂谷津に面する緩斜面に位置し、M09-54グリッドを中心に直径約10mの範囲に遺物が集中している。III層の中位を産出層準とし、垂直分布には約0.8mの幅があるが、標高16.4mをピークとし上下20cm程度の中にほとんどの遺物が納まる。遺物総数は349点で、垂直分布の様相は以下のとおりである。

資料総数	349点
最大値	16.892m
最小値	15.712m
平均値	16.310m
標準偏差	0.1524

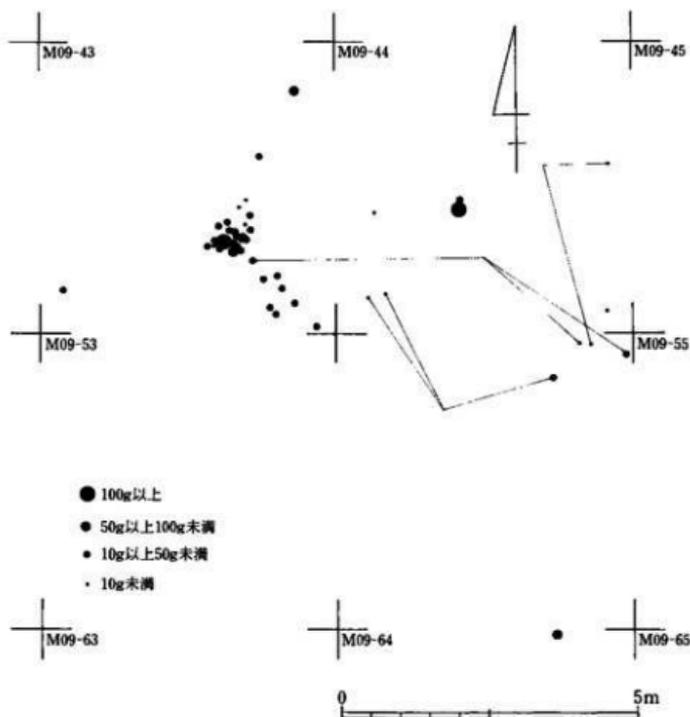
ただし、第8図の垂直分布には標高15.7m付近に弱いピークがあり、この部分はVI層にかかる。しかし、VI層にかかる遺物のなかにはIII層出土の遺物と接合するものもあり、文化層として分離する必要はない。遺物は平面的に粗密なく分布するが、ブロックの北西隅に礫が集中している。礫群の構成礫は多くが完形で遺存し、概ね3cm前後の小形の礫が主



第5図 S39地点の位置



第 6 图 S 20 地质剖面图及地质图

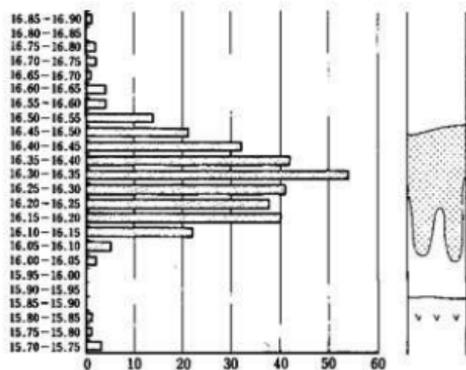


第7図 S39地点出土礫の重量別分布

体をなす。また、被熱した礫は少ない。この他、石槍・尖頭状の削器が多く出土しているが、傾向として遺物集中地点の外縁に多い。

b) 石器

石器総数は349点で、小形石槍あるいは尖頭状の削器が13点と多い。小形石槍と削器の区別が難しいが、片面加工の尖頭状石器は削器とした。この他に彫器が1点あるが、明確なナイフ形石器は伴出してない。使用石材は礫を除くと約半数の54%が

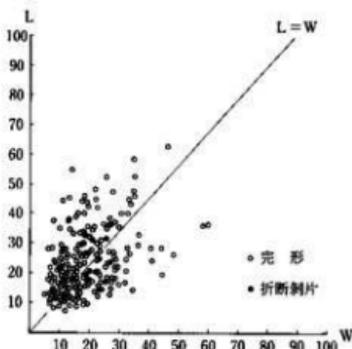


第8図 S39地点遺物垂直分布

安山岩で、凝灰岩・流紋岩・黒曜石を含めると80%以上の遺物が該当する。しかし、黒曜石はこれら4種の石材の中では最も少ない。母岩は安山岩2種、凝灰岩1種、黒曜石1種、流紋岩4種を識別した。

安山岩2 礫面は風化するが、比較的緻密な質感である。M09-54ポイント付近に集中し、若干の接合も認められる。3点の尖頭状石器が製作されている。2・4・7を図示したが、2・4は片面加工の削器、7は一部に礫面を残す両面加工の小形石槍である。この他の切片は不定形なものも多く、礫面を残すものも11点ある。

安山岩3 礫面・剥離面とも風化が著しい。特に偏った集中は見られないが、凝灰岩1が集中するM09-53グリッドには少ない傾向が認められる。小形の石槍・削器が製作され、6は石槍に分類したが、裏面の調整は周縁部にわずかに行われているだけである。また、1も両面に調整があり、石槍に分類したが、尖頭部の調整は粗雑であり、削器としての機能を考えたほうが妥

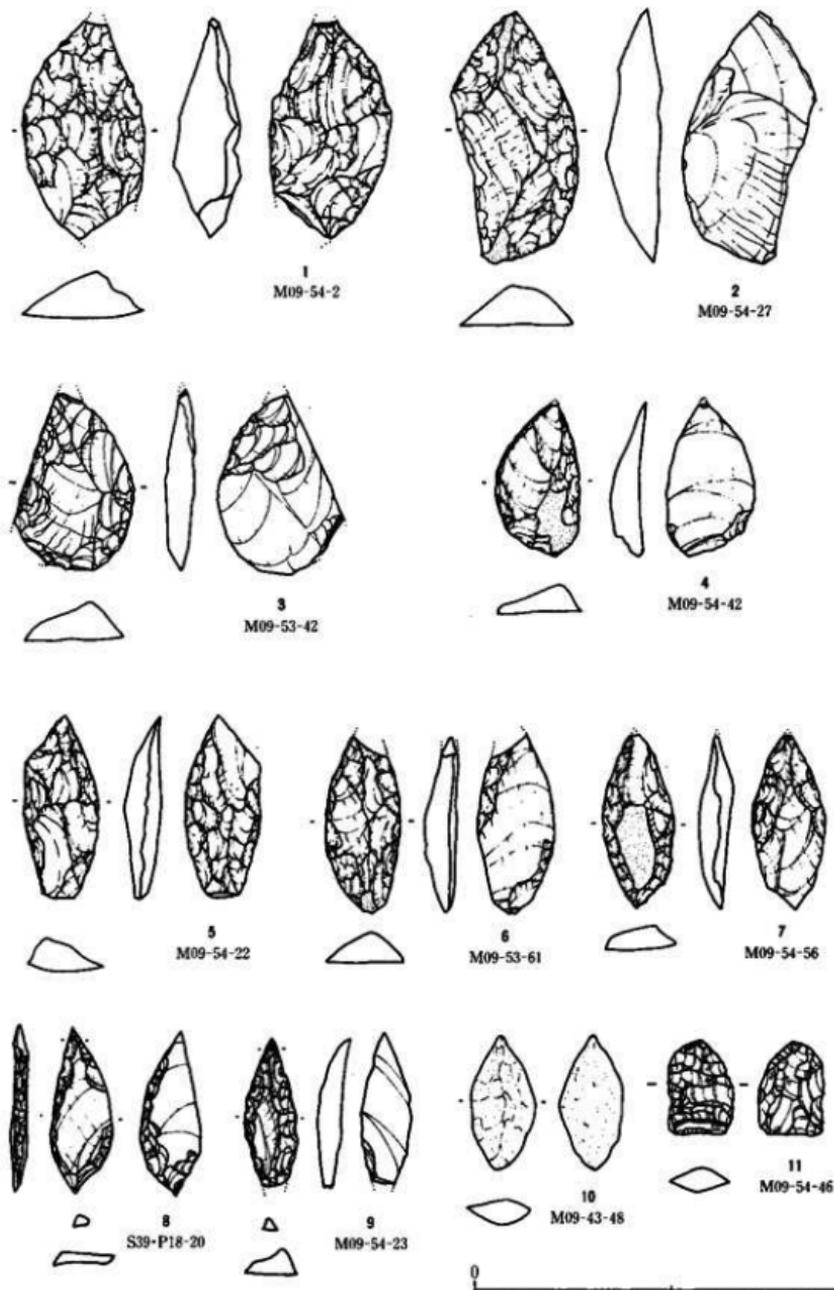


第9図 S39地点切片計測値

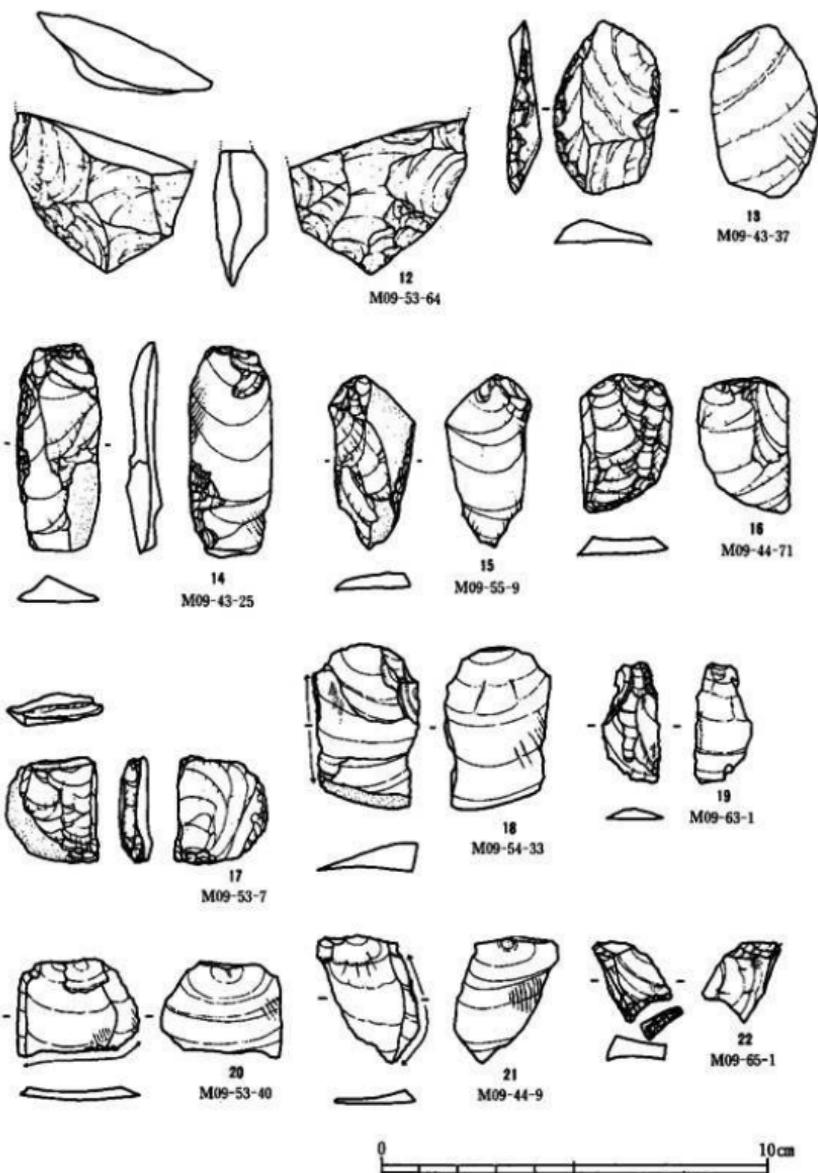
第2表 S39地点遺物集計表

母岩	礫	叩き石	小形石槍	削器	形器	R切片	石核	切片	砕片	合計	%
安山岩2			1 5.85	2 30.16				37 159.46	2 0.3	42 195.77	12.03 6.61
安山岩3			3 37.7	2 13.71			1 172.74	113 524.48		119 748.63	34.1 25.27
凝灰岩1			2 24.27					36 255.22		38 279.49	10.89 9.43
黒曜石2			1 2.38	2 7.82		1 1.28		24 35.76		28 47.24	8.02 1.59
流紋岩1						2 9.55		11 23.52	1 0.09	14 23.16	4.01 1.12
流紋岩2									7 2.08	7 2.08	2.01 0.07
流紋岩3				1 5.14		1 6.72		13 67.08		15 78.94	4.3 2.26
流紋岩4				1 4.97		1 1.94		18 58.63		20 65.54	5.73 2.21
未分類	47 1263.37	1 149.82	2 5.18	1 9.07	1 5.13			14 79.63		66 1512.2	18.91 51.04
合計	47 1263.37	1 149.82	9 75.38	9 70.87	1 5.13	5 19.49	1 172.74	266 1203.78	10 2.47	349 2963.05	
%	13.47 42.64	0.29 5.06	2.58 2.54	2.58 2.39	0.29 0.17	1.43 0.66	0.29 5.83	76.22 40.63	2.87 0.08		100.00 100.00

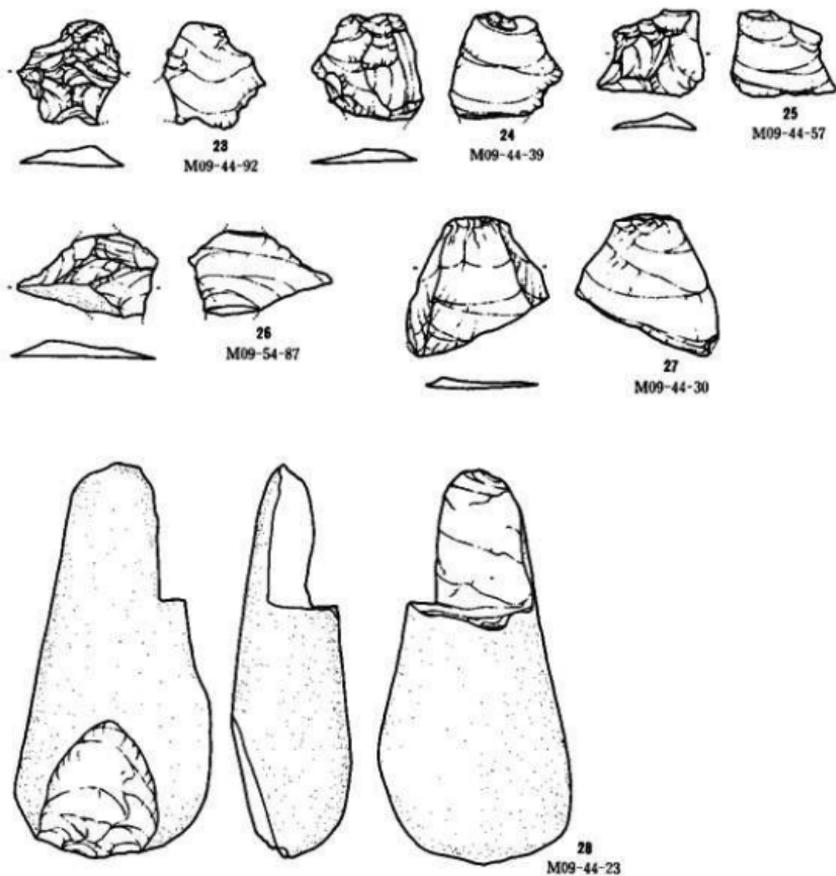
(上段は点数、下段は重量)



第10圖 S39地点石器実測圖 1



第11图 S39地点石器实测图 2



第12図 S39地点石器実測図 3

当かも知れない。剥片は不定形で、全体に肉薄である。礫面を残す剥片も多い。

凝灰岩1 礫面・剥離面とも著しく風化し、いわゆるトロトロの状態となっている。M09-53グリッド内の2m程度の範囲に集中しており、あまり接合しない。石槍2点が製作されている。剥片の形状は安山岩3に似るが、礫面を残すものは少なく、縦長に剥出された剥片を含んでいる。

黒曜石 2 黒漆色で若干透明感がある。遺物集中地点内に広く飛散するが、ブロック中心から外れたM09-55グリッドに目立つ。石槍が1点、使用痕あるいはリタッチが認められる剥片もある。剥片は不定形である。

流紋岩 1 淡緑色を呈し、他の石材と比較して整った剥片を剥出している。使用痕あるいはリタッチが認められる剥片が各1点ずつある。

流紋岩 2 他の流紋岩と比較して粒子が粗く、破片が7点ある。

流紋岩 3 剥片は縦長に剥出される。削器・使用痕のある剥片が各1点ずつある。

流紋岩 4 明黄色を呈し、やはり縦長に剥出された剥片が多い。礫面を残すものも多いが、石核は伴っていない。

図示した遺物の中には母岩として分類していないものもある。3・8・9の石槍は流紋岩製

第3表 S39地点遺物観察表

押図 番号	グリッド	遺物番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	母 岩
1	M09-54	2	石 槍	5.66	3.02	2.38	24.5	安山岩	安山岩 3
2	M09-54	27	削 器	6.49	2.76	2.27	23.75	安山岩	安山岩 2
3	M09-53	42	削 器	4.51	2.78	0.76	9.07	流紋岩	未分類
4	M09-54	42	削 器	3.85	2.23	0.81	6.41	安山岩	安山岩 2
5	M09-54	22	石 槍	4.61	1.86	0.93	7.1	安山岩	安山岩 3
6	M09-53	61	石 槍	4.27	1.89	0.74	6.1	安山岩	安山岩 3
7	M09-54	56	石 槍	4.35	1.85	0.81	5.85	安山岩	安山岩 2
8	P18	20	石 槍	4.17	1.46	0.34	2.44	流紋岩	未分類
9	M09-54	23	石 槍	3.77	1.24	0.59	2.74	流紋岩	未分類
10	M09-43	48	石 槍	3.35	1.62	0.69	2.82	凝灰岩	凝灰岩 1
11	M09-54	46	石 槍	2.27	1.52	0.65	2.38	黒曜石	黒曜石 2
12	M09-53	64	石 槍	3.18	4.65	1.31	21.45	凝灰岩	凝灰岩 1
13	M09-43	37	削 器	4.38	2.54	0.64	7.32	安山岩	安山岩 3
14	M09-43	25	R 剥片	5.25	2.06	0.81	7.93	流紋岩	流紋岩 1
15	M09-55	9	削 器	4.34	1.97	0.70	4.97	流紋岩	流紋岩 4
16	M09-44	71	削 器	3.26	2.26	0.52	5.14	流紋岩	流紋岩 3
17	M09-53	7	彫 器	2.3	2.63	0.62	5.13	メノウ	未分類
18	M09-54	33	U 剥片	4.09	2.5	0.62	6.72	流紋岩	流紋岩 3
19	M09-63	1	U 剥片	3.03	1.42	0.26	1.28	黒曜石	黒曜石 2
20	M09-53	40	U 剥片	3.02	2.22	0.18	1.62	流紋岩	流紋岩 1
21	M09-44	9	U 剥片	3.18	1.9	0.28	1.94	流紋岩	流紋岩 4
22	M09-65	1	削 器	1.24	1.79	0.54	1.66	黒曜石	黒曜石 2
23	M09-44	92	削 器	2.43	2.86	0.47	2.89	安山岩	安山岩 3
24	M09-44	39	削 器	2.67	2.66	0.40	2.98	安山岩	安山岩 3
25	M09-44	57	削 器	2.01	2.23	0.40	1.77	安山岩	安山岩 3
26	M09-54	87	削 器	3.59	1.94	0.42	3.13	安山岩	安山岩 3
27	M09-44	30	削 器	2.9	3.56	0.24	3.11	安山岩	安山岩 3
28	M09-44	23	叩 き 石	9.86	4.09	2.92	133.8	砂 岩	未分類

であるが、本ブロックでは他に同一母岩をもっていない。また、17の石器は唯一のメノウ製である。

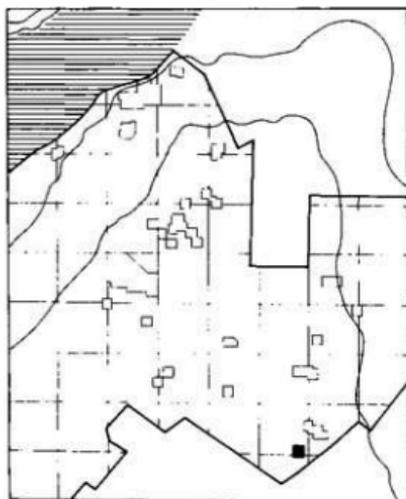
C) 特徴

第1文化層では最大規模の遺物集中地点で、集中地点の北西隅に礫群を伴っている。遺物総点数も349点と多く、石槍が特徴的である。石材は安山岩が卓越し、石材による分布の偏在は特に認められないが、凝灰岩だけは礫群の南側に集中している。石槍ないし削器は集中地点の外縁に多い傾向があるが、安山岩製の製品は多くの剥片を伴っている。しかしながら、安山岩を含めて石核は皆無に近く、流紋岩製の石槍の中には他に同一母岩の石器がまったく存在しないものもある。安山岩3の石核も連続した剥片剥離が行われたものではなく、そういう意味では礫群の構成と石核の欠如が大きな特徴となろう。

2 S53・S68地点 (第13~16図、第4・5表、図版4)

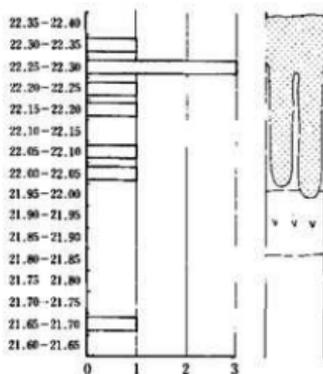
a) 分布

S53・S68地点は坊山遺跡の南端のP16-08からP16-18グリッドを中心に遺物が分布している。調査時に別々の遺物集中地点として調査されたが、一括して報告する。なお、遺物の出土層位はS68が若干下位になる。遺物の垂直分布は遺物点数が少ないため、きれいなグラフにならないが、標高22.3mに弱いピークがある。様相は以下のとおりである。

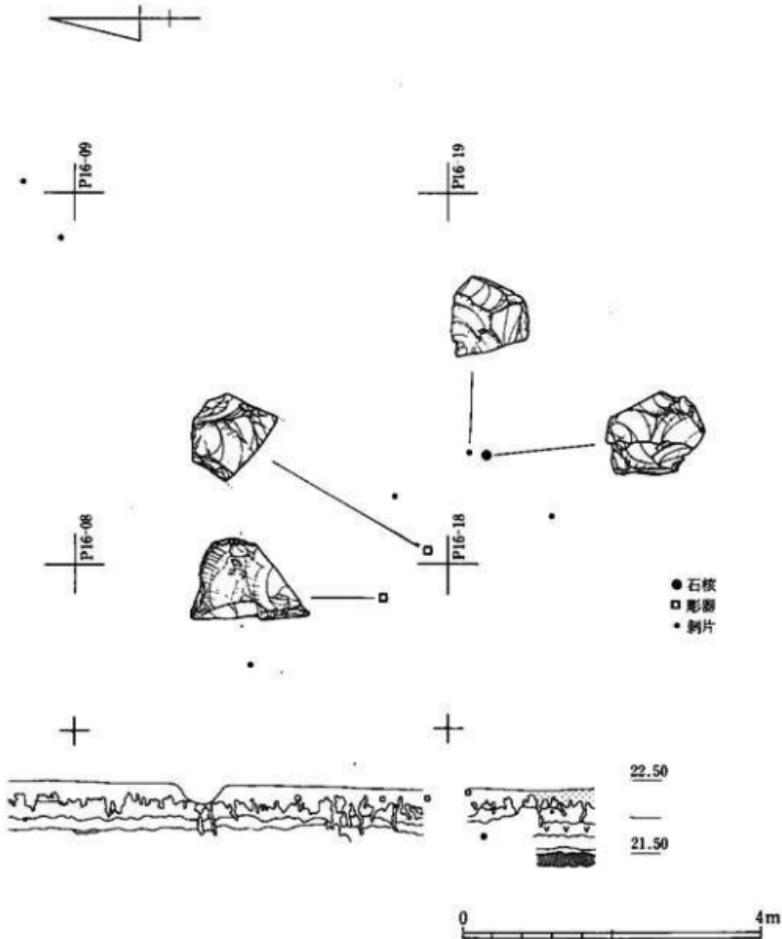


第13図 S53地点の位置

資料総数	9点
最大値	22.31m
最小値	21.69m
平均値	22.14m
標準偏差	0.1957



第14図 S53・S68地点遺物垂直分布



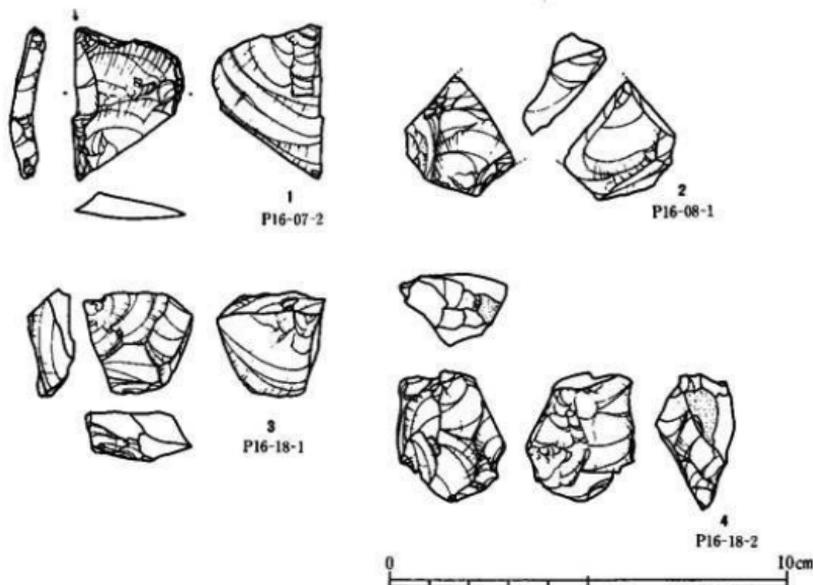
第15図 S53地点遺物分布状況

1点だけ21.69mという数値を示すが、この遺物は他の珩質頁岩製の剥片と同一母岩である。

b) 石器

石器総数は9点で、彫器1点、使用痕のある剥片1点、剥片利用石核1点がある。使用石材は珩質頁岩と安山岩で、それぞれ1個体ずつの母岩から剥出されたものである。

珩質頁岩23 緑灰色を呈する。6点が出土したが接合せず、2・4は礫面をわずかに残している。1は彫器で右側縁にもわずかに調整が認められる。



第16図 S53地点石器実測図

第4表 S53地点遺物集計表

母岩	彫器	剥片利用核	U剥片	剥片	合計	%
珪質頁岩23	1	1	1	3	6	66.67
	0.93	14.55	7.38	18.33	41.19	75.63
安山岩				3	3	33.33
				13.27	13.27	24.37
合計	1	1	1	6	9	100.00
	0.93	14.55	7.38	31.6	54.46	100.00
%	11.11	11.11	11.11	66.67	100.00	
	1.71	26.72	13.55	58.02	100.00	

(上段は点数、下段は重量)

安山岩 S53地点から1点、S68地点から2点出土している。比較的緻密な石材で、黒色及び白色の斑晶が見られる。

C) 特徴

石器総数9点で、母岩も2個体という小規模なブロックである。器種構成も明確な石核・碎片は伴わず、継起的な居住は想定できない。

第5表 S53地点遺物観察表

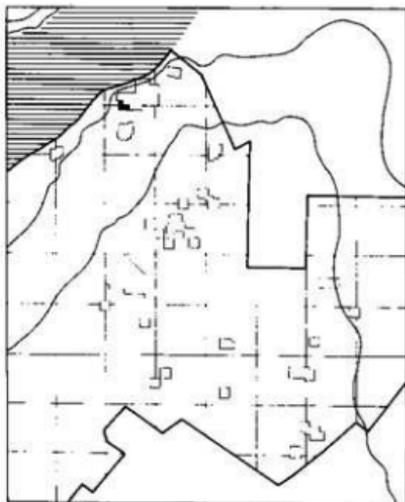
挿入番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	P16-07	1	彫器	2.08	0.94	0.58	0.93	珩質頁岩	珩質頁岩23
2	P16-08	1	U 剥片	2.67	2.24	1.05	7.38	珩質頁岩	珩質頁岩23
3	P16-18	1	剥片	2.73	2.73	1.01	8.00	珩質頁岩	珩質頁岩23
4	P16-18	2	剥片利用石核	2.72	3.25	1.96	14.55	珩質頁岩	珩質頁岩23

3 S105地点 (第17~20図、第6・7表、図版4)

a) 分布

S105地点はS103・S104地点と近接し、M09-04グリッドを中心に礫を主体とした遺物が分布している。出土層位はIII層の中位で、南北6m、東西2mの細長い範囲である。遺物のほとんどが礫で、拳大以下の大きさである。

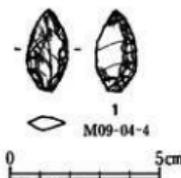
資料総数	9点
最大値	15.904m
最小値	15.327m
平均値	15.657m
標準偏差	0.1724



第17図 S105地点の位置

b) 石器

礫は2点が確実に被熱していない。珩質頁岩製の尖頭器が1点ある。基部を欠損している。

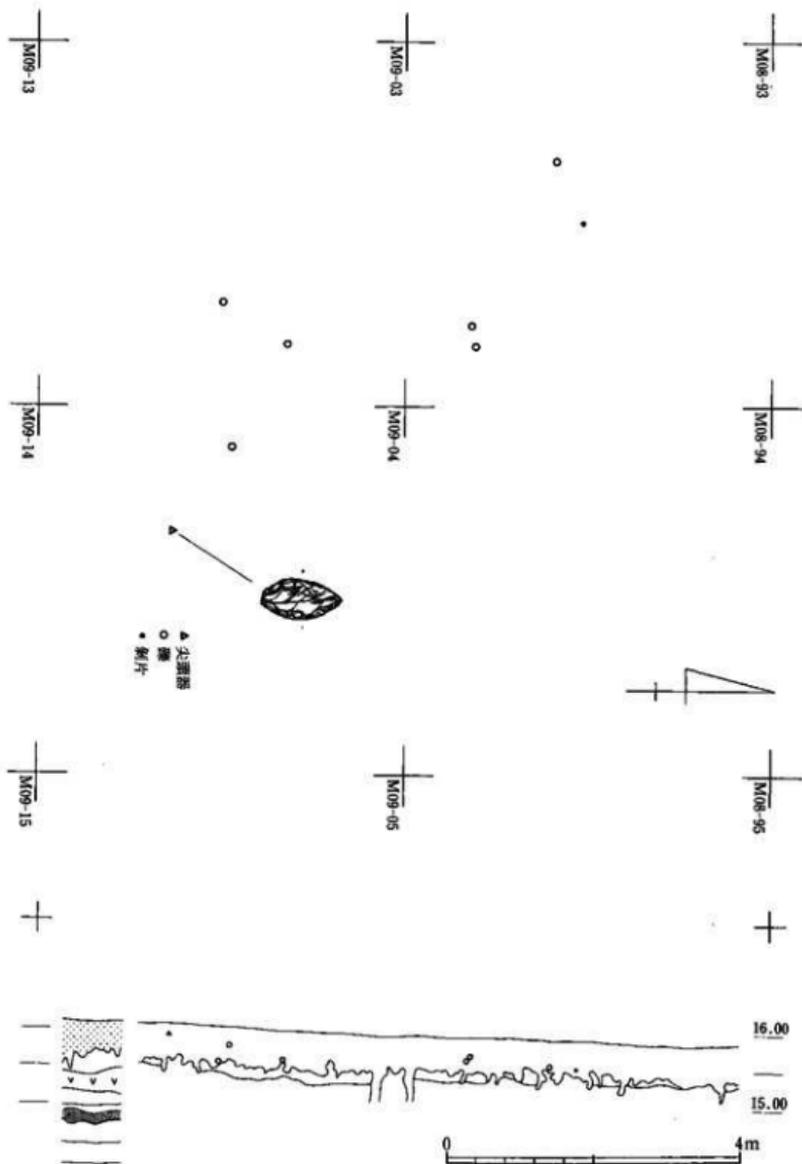


第18図 S105地点石器実測図

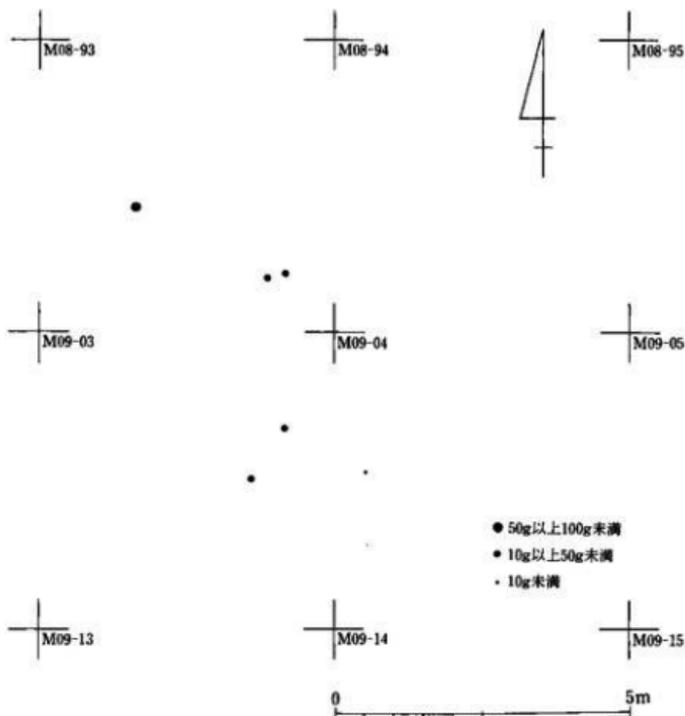
第6表 S105地点遺物集計表

母岩	礫	尖頭器	剥片	合計	%
チャート	2 65.1			2 65.1	22.22 30.62
珩質頁岩		1 1.71		1 1.71	11.11 0.80
安山岩	2 87.35			2 87.35	22.22 41.09
緑色片岩	1 16.15			1 16.15	11.11 7.60
砂岩	2 38.68		1 3.6	3 42.28	33.33 19.89
合計	7 207.28	1 1.71	1 3.6	9 212.59	100.00 100.00
%	77.78 97.50	11.11 0.80	11.11 1.69	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)



第19圖 S105地点遺物分布狀況



第20図 S105地点出土物の重量別分布

第7表 S105地点遺物観察表

押図 番号	グリッド	遺物番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	母 岩
1	M09-04	4	尖 頭 器	2.65	1.29	0.48	1.71	珩質頁岩	未 分 類

第3節 第2文化層

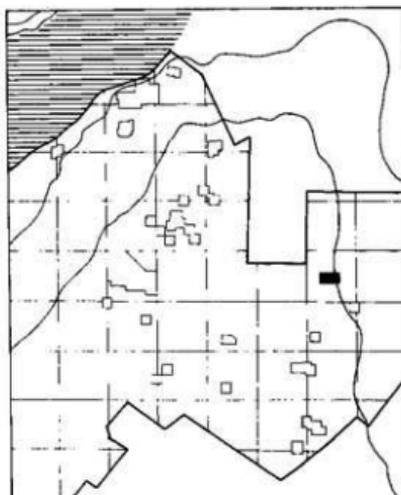
第2文化層はIV層からV層を産出層準とする遺物集中地点である。IV層のソフト化によりIII層から遺物が出土したものも含めてある。S30・S32・S35・S37・S40・S49・S58・S66・S72・S73・S78・S95・S96・S97・S103・S104の16地点があり、小規模な遺物集中地点が多い。その中で、礫群を伴うS40・S78・S95・S96地点は他の遺物集中地点を凌駕している。

1 S30地点 (第21~25図、第8・9表、図版5)

a) 分布

S30地点は寺谷津側の段丘面にかかるQ12-55グリッドを中心に遺物が分布している。遺物の分布範囲は南北6m、東西5mほどで、土層断面図が作成されていないために明確な層準への対比は出来ないが、遺物台帳の出土状況から本文化層のものと判断した。遺物の垂直分布は18.70~18.75mにピークがあり、様相は以下のとおりである。

資料総数	16点
最大値	19.435m
最小値	18.669m
平均値	18.907m
標準偏差	0.237



第21図 S30地点の位置

b) 石器

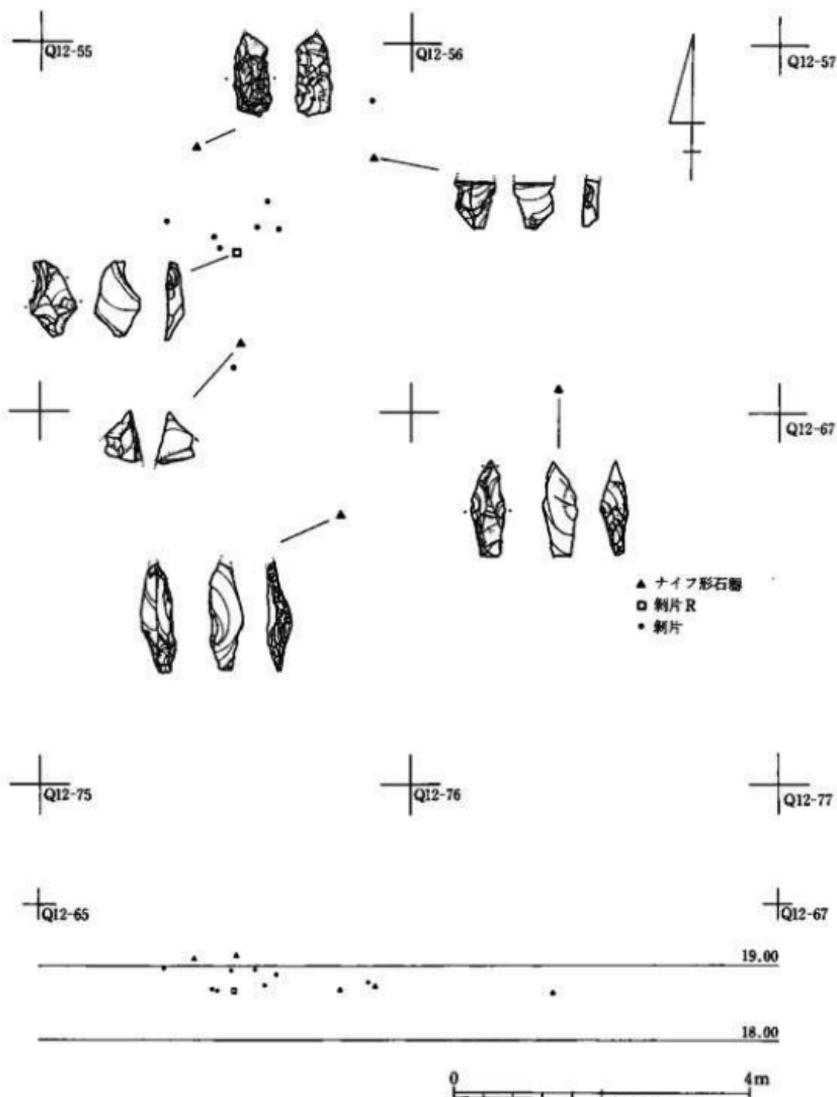
石器総数は16点で、黒曜石の1点を除くとすべて珪質頁岩である。珪質頁岩は2種に分類したが、黒曜石を含めてナイフ形石器が5点を占め、点数比で31.25%、重量比で29.13%という高率である。

珪質頁岩2 点数比で81.25%を占めるもので、3点のナイフ形石器とR剥片が製作されている。

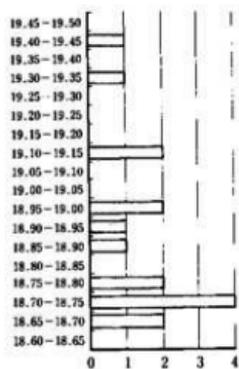
第8表 S30地点遺物集計表

母岩	ナイフ	R剥片	剥片	砕片	合計	%
珪質頁岩2	3	1	8	1	13	81.25
	4.56	1.49	10.39	0.22	16.66	16.66
珪質頁岩3	1		1		2	12.50
	2.55		11.21		13.76	41.84
黒曜石	1				1	6.25
	2.47				2.47	7.51
合計	5	1	9	1	16	100.00
	9.58	1.49	21.60	0.22	32.89	100.00
%	31.25	6.25	56.25	6.25	100.00	
	29.13	4.53	65.67	0.67	100.00	

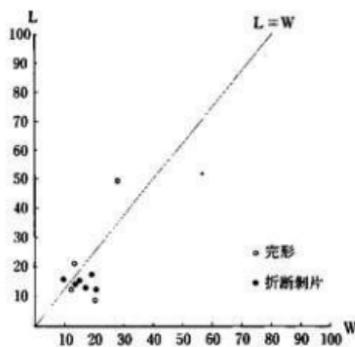
(上段は点数、下段は重量)



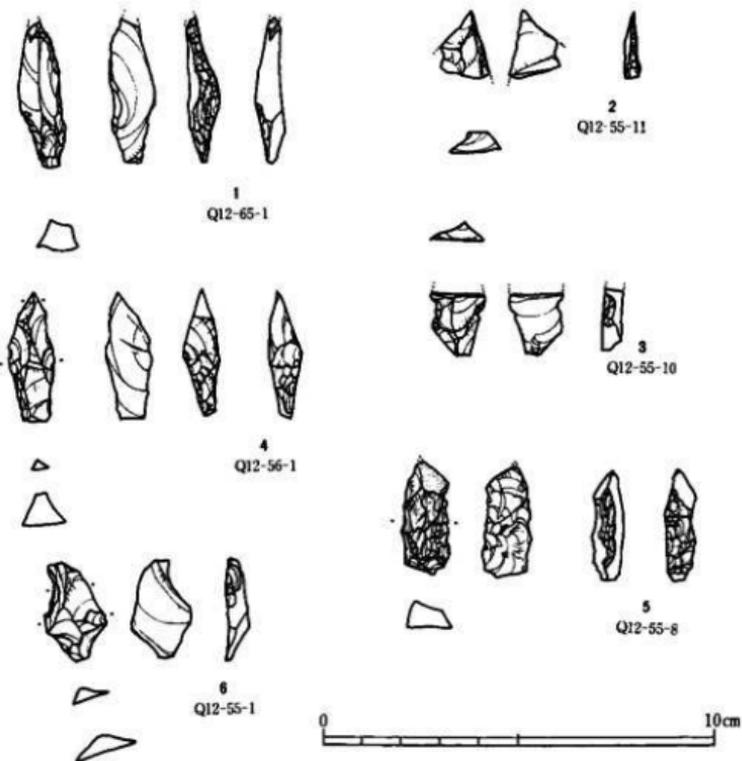
第22図 S30地点遺物分布状況



第23图 S30地点遺物垂直分布



第24图 S30地点刺片計測値



第25图 S30地点石器実測図

剥片は折断されたものが多く、肉厚である。なお、1は横長の剥片を素材とするが、剥片の中には横長に剥出されたものはない。打点側の側縁にブランティングを施し、打点に対する側縁も基部に調整を加えている。裏面の調整はない。

珪質頁岩3 点数は2点だが、重量比で41.84%を占める。ナイフ形石器1点が製作され、1と同様に横長の剥片を素材としている。打点に対する側縁を中心にブランティングを施し、打点側も基部を中心にブランティングを施している。裏面の基部調整はない。

黒曜石 ナイフ形石器1だけである。剥片を横方向に利用したもので、両側縁にブランティングを施している。

c) 特徴

小規模な石器集中地点で、使用石材も限定されている。ナイフ形石器の保有率が異常に高く、ナイフ形石器自体も小形のものである。小形のナイフ形石器を多く出土することも本文化層の特徴の一つである。

第9表 S30地点遺物観察表

押印番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	Q12-65	2	ナイフ形石器	3.66	1.07	0.67	2.80	珪質頁岩	珪質頁岩2
2	Q12-55	11	ナイフ形石器	1.64	1.19	0.47	0.67	珪質頁岩	珪質頁岩2
3	Q12-55	10	ナイフ形石器	1.55	1.19	0.52	1.09	珪質頁岩	珪質頁岩2
4	Q12-56	1	ナイフ形石器	3.24	1.18	0.78	2.55	珪質頁岩	珪質頁岩3
5	Q12-55	8	ナイフ形石器	2.85	1.08	0.74	2.47	黒曜石	未分類
6	Q12-55	1	R 剥片	2.58	1.56	0.52	1.49	珪質頁岩	珪質頁岩2

2 S32地点 (第26~30図、第10・11表、図版5)

a) 分布

S32・S33・S70地点が近接している。しかし、第28図に見るようにS33・S70地点は第5文化層に比定できる。遺物はP14-38グリッドの直径2m程度の範囲に集中し、1だけが約2.4m離れて出土した。遺物の出土層準はソフトローム層の下部からハードローム層にかかり、垂直分布は22.7m付近にピークがある。

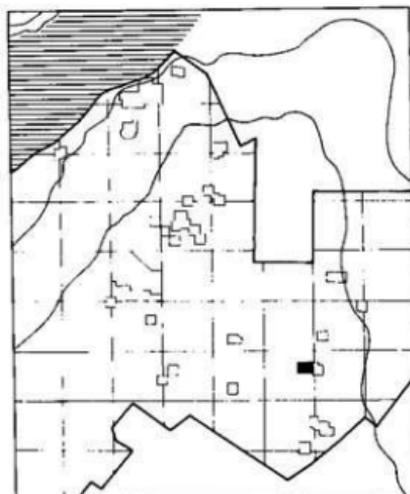
資料総数	31点
最大値	22.754m
最小値	21.844m
平均値	22.571m
標準偏差	0.194

b) 石器

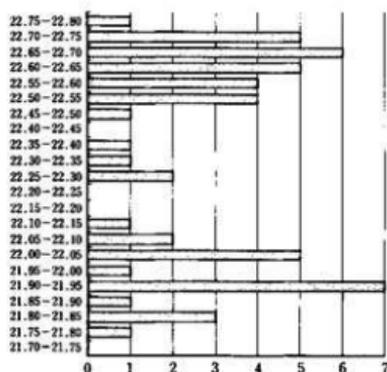
石器総数は31点で、使用石材は黒曜石を主体としている。点数比で93.55%となり、黒曜石はすべて同一母岩から剥出されている。また、珪質頁岩が2点あるが、珪質頁岩1はS30地点の珪質頁岩3と酷似している。

黒曜石1 黒漆色で若干透明感がある。削器はいずれも削削器で、2は素材両側縁の基部に近い位置に調整が認められ、3は素材を縦に折断し、右側縁に調整がある。剥片は縦長に剥出されるが、大形の剥片はほとんど折断されている。

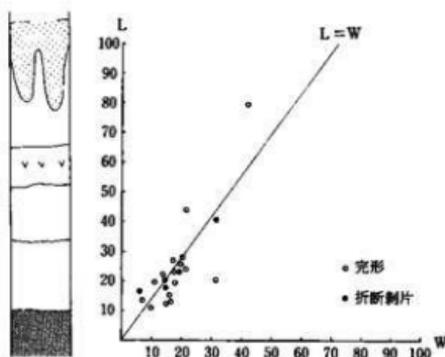
珪質頁岩 珪質頁岩は2種がある。各1点の剥片がある。



第26図 S32地点の位置



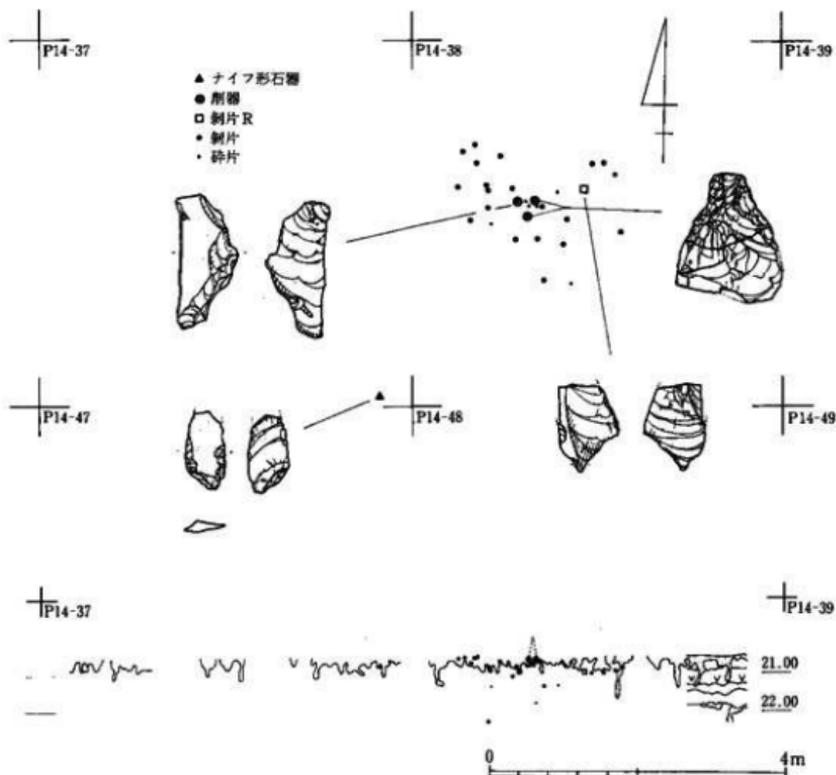
第27図 S32・S33・S70地点遺物垂直分布



第28図 S32地点剥片計測値

第10表 S32地点遺物観察表

標 本 号	グリッド	遺物番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	母 岩
1	P14-37	1	R 剥片	2.60	1.28	0.40	1.31	黒曜石	黒曜石1
2	P14-38	11+36	削器	4.25	3.50	0.70	8.44	黒曜石	黒曜石1
3	P14-38	34	削器	4.56	1.95	0.80	7.31	黒曜石	黒曜石1
4	P14-38	22	R 剥片	2.92	2.03	0.57	2.93	黒曜石	黒曜石1

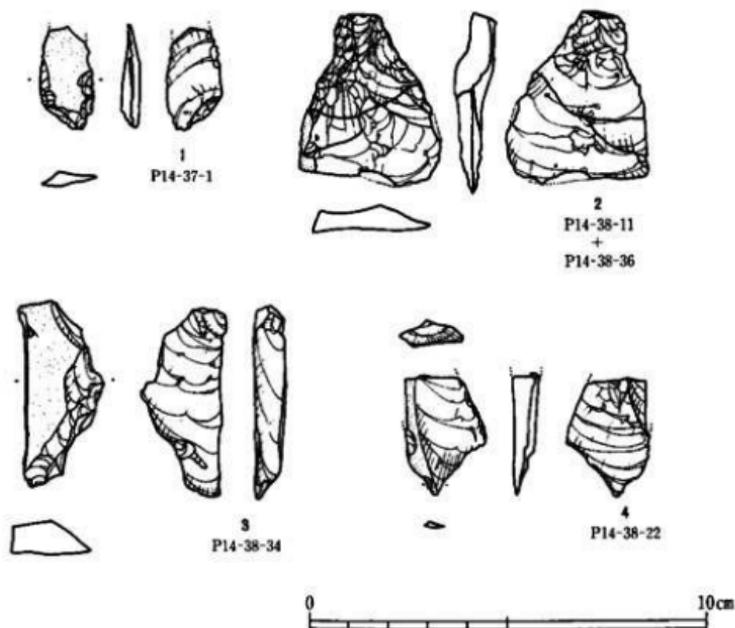


第29図 S32地点遺物分布状況

第11表 S32地点遺物集計表

母岩	削器	R剥片	剥片	碎片	合計	%
珪質頁岩1			1 56.23		1 56.23	3.23 38.75
珪質頁岩			1 3.98		1 3.98	3.23 2.74
黒曜石1	3 24.19	2 4.24	18 46.46	6 10.02	29 84.91	93.55 58.51
合計	3 24.19	2 4.24	20 106.67	6 10.02	31 145.12	100.01 100.00
%	9.68 16.67	6.45 2.92	64.52 73.50	19.35 6.90	100.00 99.99	

(上段は点数、下段は重量)



第30図 S32地点石器実測図

c) 特徴

遺物の分布範囲はかなり狭く、使用石材もほぼ母岩1種に限定できる。そういう意味では黒曜石1の消費地と解釈できる。

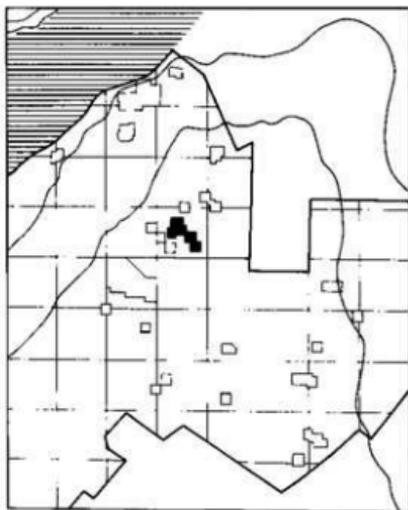
3 S37地点

(第31～36図、第12・13表、図版6)

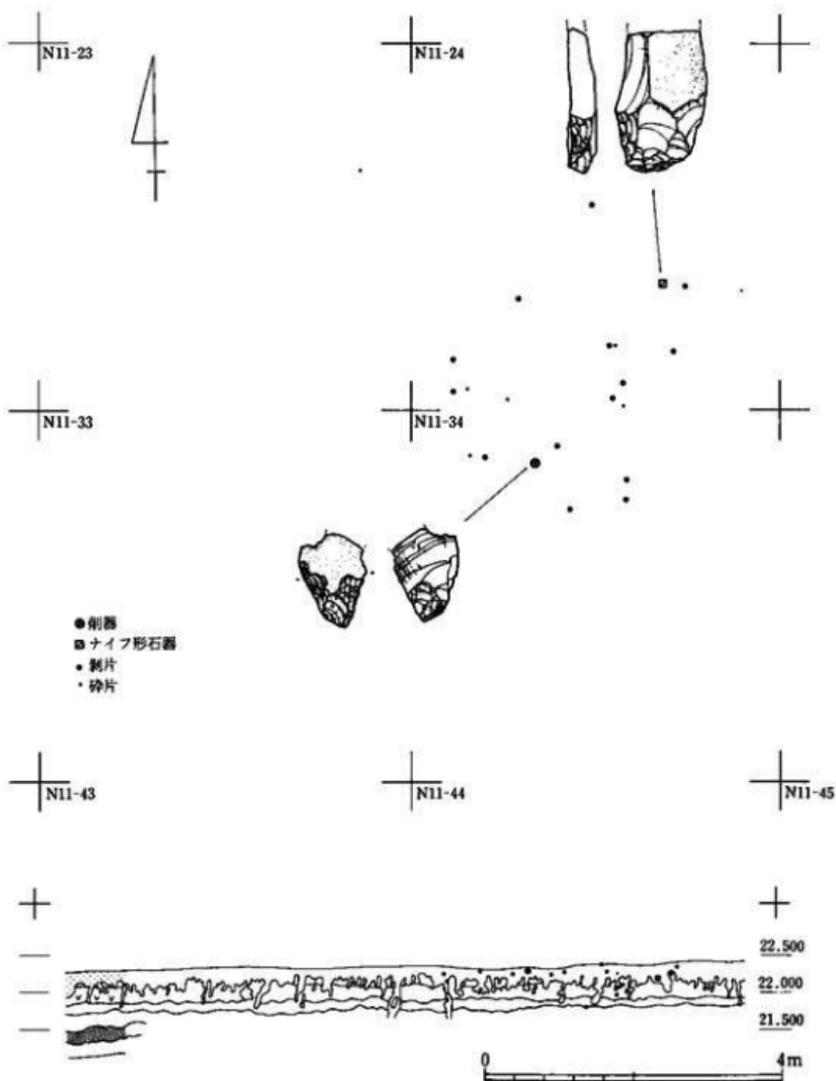
a) 分布

S37地点は須久茂谷津に面し、台地平坦面から緩斜面にかかる縁辺部に位置する。付近にはS58・S72・S73地点などの第2文化層に比定できる遺物集中地点がある。これらの遺物集中地点との対比は後述する。

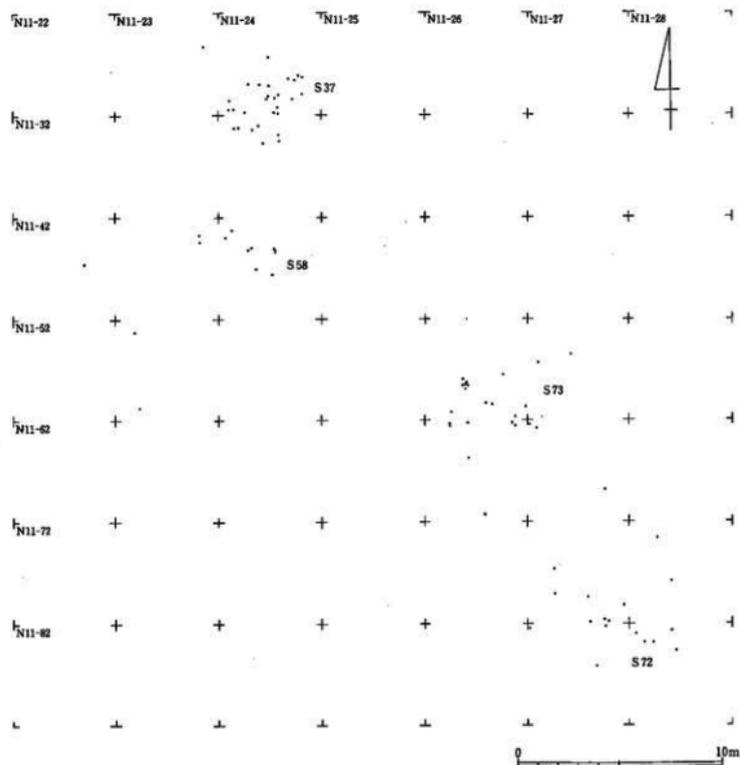
遺物はN11-34グリッドを中心に南北約6m、東西約5mの範囲に分布している。産出層準はⅢ層中であるが、Ⅳ・Ⅴ層のソフトロ



第31図 S37・S58・S72・S73地点の位置



第32図 S37地点遺物分布状況



第33圖 S 37・S 58・S 72・S 73地点遺物分布状況

ーム化が進んでおり、第2文化層に比定した。遺物の垂直分布は以下のとおりである。

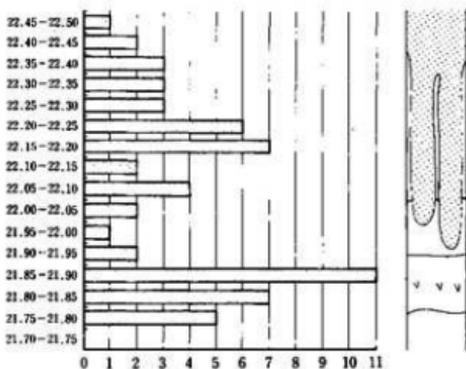
資料総数 23点
 最大値 22.454m
 最小値 21.783m
 平均値 22.134m
 標準偏差 0.191

第34図には22.2m付近に大きなピークがあり、さらに22.1m、21.8mにも弱いピークが看取できる。22.1mの弱いピークはS37地点の南側に

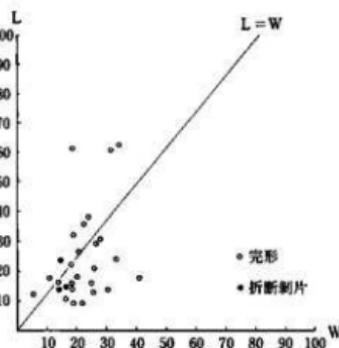
隣接するS58地点のもので、同じく第2文化層に比定してある。また、21.8mのピークは第5文化層に比定したS59地点のものである。

b) 石器

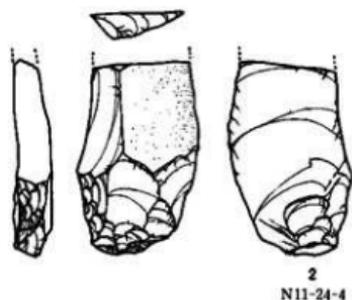
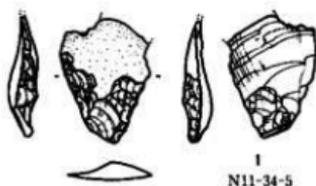
石器総数は23点で、点数比で82.61%が黒曜石である。黒曜石は4種に分類したが、黒曜石3はS32地点の黒曜石1と同一母岩の可能性が高い。石材の選択もS32地点ときわめて類似している。なお、遺物実測図2のナイフ形石器は石刃系のナイフであり、出土層位はハードローム層の上部であ



第34図 S37・S58地点遺物垂直分布



第35図 S37・S58地点断片計測値



第36図 S37地点石器実測図

るが、下位に存在するS59地点に伴うものと考えるのが妥当である。

黒曜石 3 黒漆色を呈し、良質の石材である。剥片2点と破片5点がある。剥片は不定形で肉厚である。

黒曜石 4 黒色を呈するが光沢のない石材である。剥片・破片が各1点ある。剥片は不定形な横長である。

黒曜石 5 不純物を多く含み、灰色を呈している。剥片・破片が各1点ある。

黒曜石 6 若干不純物を含むが、透明感はある。削器1点が製作されている。調整はS32地点の2と同様に、打点に近い両側縁に調整を施している。剥片は肉厚である。

安山岩 剥片1点がある。礫面を残し、縦長に剥出されている。形状からみて下位のS59地点に伴うものかもしれない。

凝灰岩 石刃素材のナイフ形石器が1点ある。先端部を欠損するが、基部左側縁にブランティ

第12表 S37地点遺物集計表

母岩	礫	削器	ナイフ	剥片	破片	合計	%
黒曜石 3				2 15.11	5 2.39	7 17.50	30.43 5.64
黒曜石 4				1 1.59	1 0.58	2 2.17	8.70 0.70
黒曜石 5				1 1.23	1 0.27	2 1.50	8.70 0.48
黒曜石 6		1 3.50		4 17.20	3 1.09	8 21.79	34.78 0.48
安山岩				1 27.28		1 27.28	4.35 8.80
凝灰岩			1 16.75			1 16.75	4.35 5.40
珪質頁岩				1 9.76		1 9.76	4.35 3.15
砂岩	1 213.37					1 213.37	4.35 68.80
合計	1 213.37	1 3.50	1 16.75	10 72.17	10 4.33	23 310.12	100.01 100.00
%	4.35 68.80	4.35 1.13	4.35 5.40	43.48 23.27	43.48 1.40	100.01 100.00	

(上段は点数、下段は重量)

第13表 S37地点遺物観察表

插图番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	N11-34	5	削器	3.08	2.28	0.71	3.50	黒曜石	黒曜石 6
2	N11-24	4	ナイフ形石器	4.81	2.88	0.95	16.75	凝灰岩	未分類

ングを施している。下位のS59地点に伴うものであろう。

珪質頁岩 剥片1点がある。

砂岩 礫1点がある。

4 S58地点 (第37・38図、第14・15表、図版6)

a) 分布

S58地点はS37地点の南側に隣接する遺物集中地点で、N11-44グリッドを中心にわずかに遺物が分布している。第34図からも分かるように、S37地点より10cm程度低い位置に垂直分布のピークがある。

資料総数	13点
最大値	22.423m
最小値	22.055m
平均値	22.238m
標準偏差	0.1219

b) 石器

S37地点同様使用石材は黒曜石が主体となる。黒曜石は3種に分類したが、黒曜石3・黒曜石6がS37地点と共通する母岩である。黒曜石7は本地点にしか見られないが、黒曜石6と酷

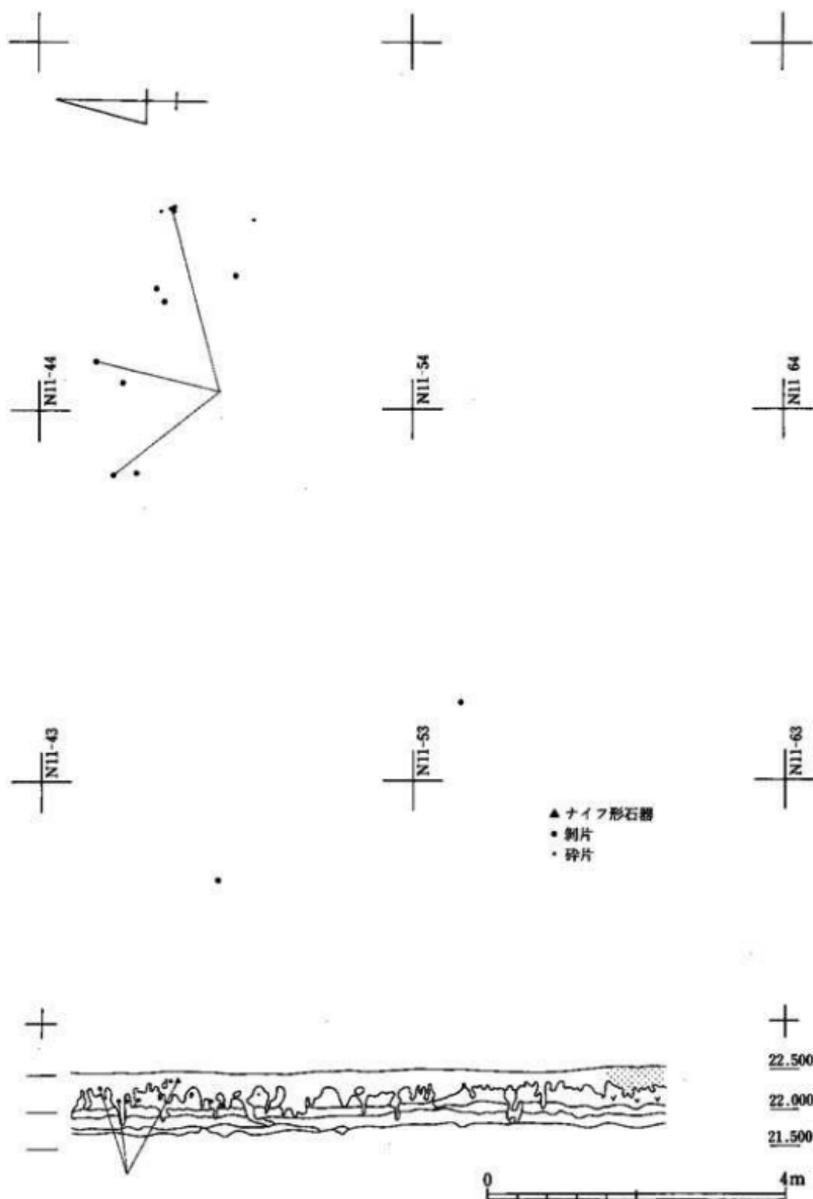
第14表 S58地点遺物集計表

母岩	ナイフ	剥片	砕片	合計	%
黒曜石3		3	1 0.36	4	30.77
		18.03		18.39	44.41
黒曜石5		1		1	7.69
		2.19		2.19	5.29
黒曜石6		1		1	7.69
		0.11		0.11	0.27
黒曜石7	1	3	1	5	38.46
	6.17	9.90	0.28	16.35	39.48
チャート		1		1	7.69
		2.86		2.86	6.91
メノウ		1		1	7.69
		1.51		1.51	3.65
合計	1	10	2	13	99.99
	6.17	34.60	0.64	41.41	100.01
%	7.69	76.92	15.38	99.99	
	14.9	83.55	1.55	100.00	

(上段は点数、下段は重量)

第15表 S58地点遺物観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	N11-44	8	ナイフ形石器	2.18	3.09	0.98	6.17	黒曜石	黒曜石7



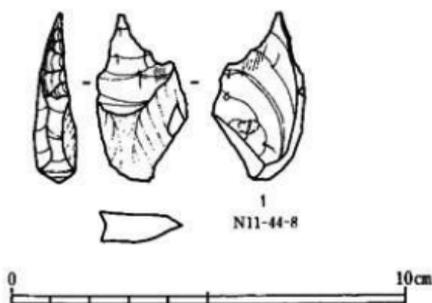
第37図 S58地点遺物分布状況

似しており、同一母岩の可能性も捨てきれない。

黒曜石 3 S37地点同様肉厚な剥片が剥出されている。

黒曜石 5・6 剥片が各1点ある。

黒曜石 7 第38図1は剥片の側縁にプランティング様の調整がみられるが、ナイフ形石器とするには疑問もある。剥片はいずれも不定形である。



第38図 S58地点石器実測図

この他にチャート・メノウ製の剥片が各1点ある。

5 S72地点 (第39~41図、第16・17表、図版6・7)

a) 分布

S73地点の南東側に隣接する遺物集中地点で、N11-87ポイントを中心に遺物が分布している。産出層準はIII層からハードローム層の上部に及び、垂直分布としては開きがある。ピークは平均値の22.3m前後に見られ、S37・S58地点とほぼ同レベルである。

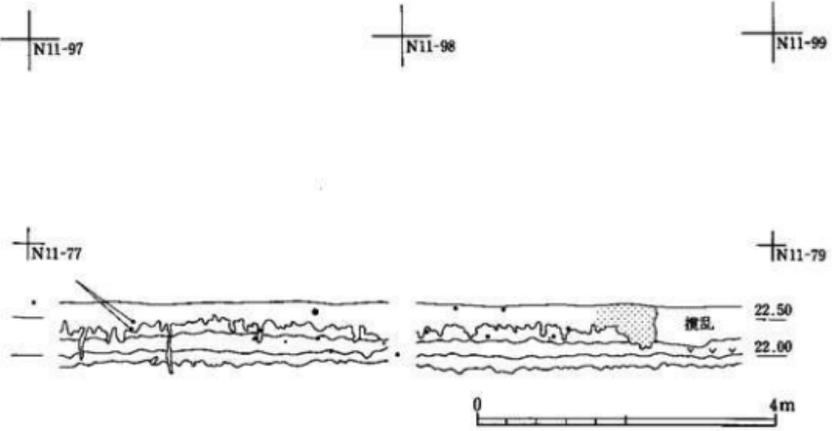
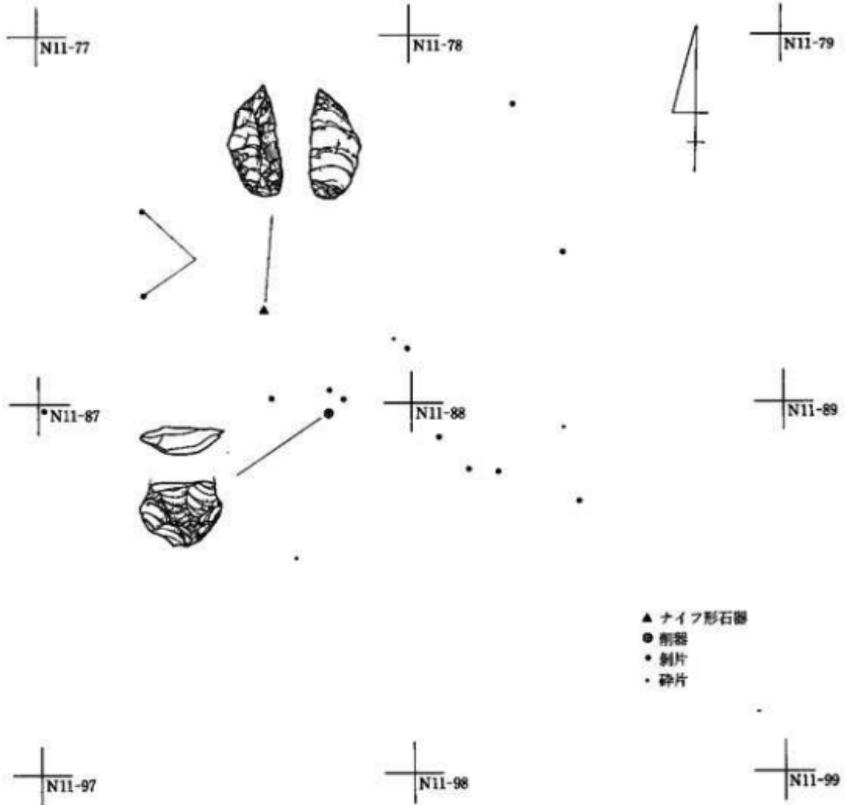
第16表 S72地点遺物集計表

母岩	削器	ナイフ	剥片	碎片	合計	%
黒曜石 3			3	3	6	33.33
			16.88	3.26	20.14	32.42
黒曜石 4			1		1	5.56
			2.86		2.86	4.60
黒曜石 6	1 4.69	1 5.02	3	4	9	50.00
			11.00	1.58	22.29	35.88
安山岩				1	1	5.56
				1.09	1.09	1.75
変成岩			1		1	5.56
			15.75		15.75	25.35
合計	1 4.69	1 5.02	8	8	18	100.01
			46.49	5.93	62.13	100.00
%	5.56	5.56	44.44	44.44	100.00	
	7.55	8.08	74.83	9.54	100.00	

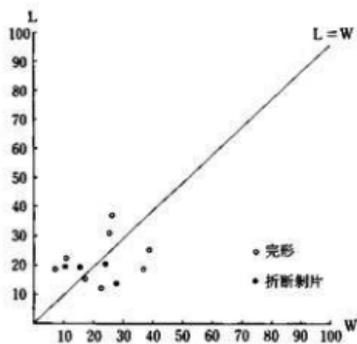
(上段は点数、下段は重量)

第17表 S72地点遺物観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	N11-77	5	ナイフ形石器	3.82	1.65	1.00	5.02	黒曜石	黒曜石 6
2	N11-87	2	削器	2.08	2.67	0.84	4.69	黒曜石	黒曜石 6



第39圖 S72地点遺物分布状況

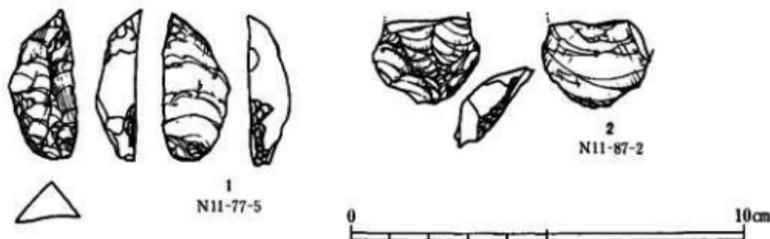


第40図 S72地点剥片計測値

資料総数	18点
最大値	22.707m
最小値	21.661m
平均値	22.316m
標準偏差	0.2412

b) 石器

やはり使用石材は点数比で全体の90%近くが黒曜石で占める。母岩は黒曜石3・黒曜石4・黒曜石6が認められ、黒曜石3・黒曜石6を多用している。



第41図 S72地点石器実測図

黒曜石3 剥片は不定形であるが、肉厚の剥片が剥出されている。

黒曜石4 剥片が1点ある。

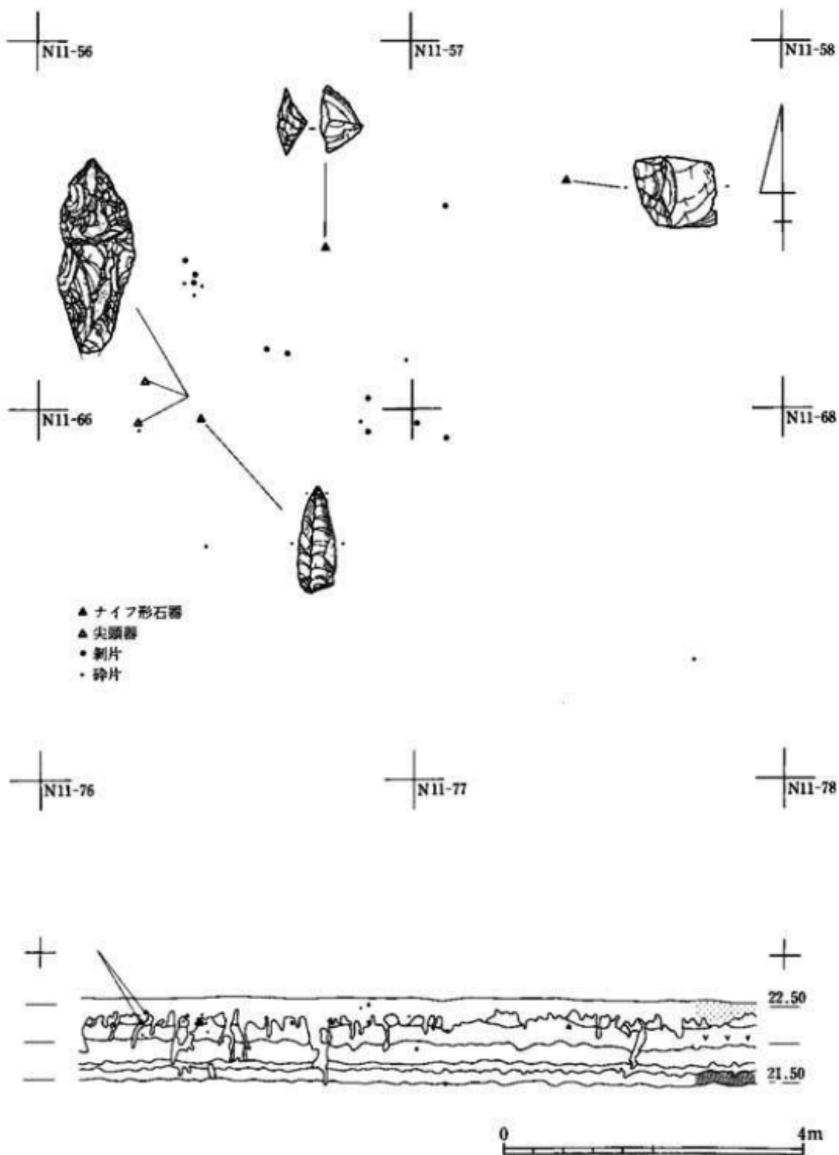
黒曜石6 削器・ナイフ形石器が各1点製作されている。削器は折断された剥片の端部に調整を施している。ナイフ形石器は素材とした剥片が肉厚で、基部の両側縁にプランティングを施している。

6 S73地点 (第42~44図、第18~20表、図版7)

a) 分布

S72地点の北東側に隣接する遺物集中地点で、N11-56グリッドを中心に東西約6m、南北約3mの範囲に遺物が分布している。遺物の産出層準はIII層下部からハードローム層上部に達し、S37・S58・S72地点とほぼ共通している。

資料総数	23点
最大値	22.527m
最小値	21.414m
平均値	22.173m
標準偏差	0.301



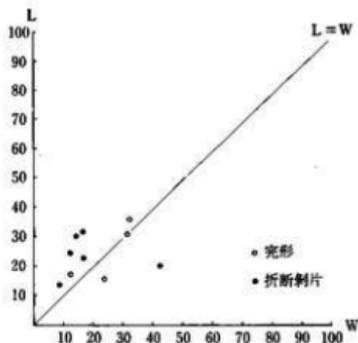
第42図 S73地点遺物分布状況

b) 石器

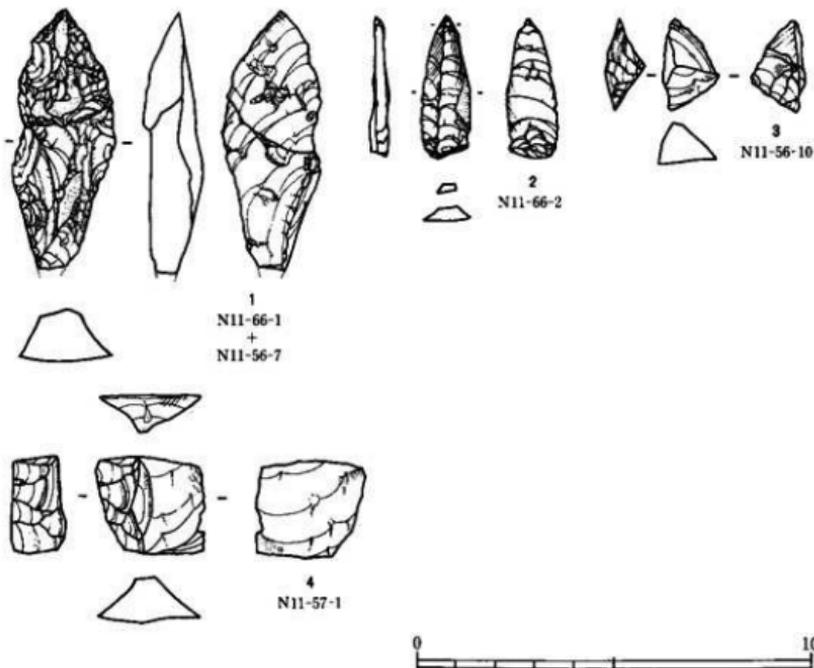
石器総数は23点で、使用石材はやはり黒曜石が主体となる。黒曜石3・黒曜石6の2種が確認できたが、量的には黒曜石6が多い。この他、チャート・流紋岩製の剥片・碎片が各1点ある。

黒曜石3 点数は4点だが、ナイフ形石器に分類した3とリタッチのある剥片が各1点あり、他の剥片も比較的整ったものである。黒曜石3はS37地点からS73地点の4地点すべてに見ることが出来るが、本地点では比較的整った剥片を選択的に持ち込んでいると理解できる。

黒曜石6 尖頭器とナイフ形石器に分類した4がある。1は厚手の剥片の打面を除去し、両側縁に片面から調整を行っている。4は欠損しているが、やはり厚手の剥片を素材とし、実測図



第43図 S73地点剥片計測図



第44図 S73地点石器実測図

第18表 S73地点遺物集計表

母岩	尖頭器	ナイフ	R剥片	剥片	砕片	合計	%
黒曜石 3		1 1.44	1 1.77	2 10.44		4 13.65	17.39 18.52
黒曜石 6	2(1) 18.92	1 7.88		5 23.66	9 2.42	17 52.88	73.91 71.75
チャート					1 1.19	1 5.98	4.35 8.11
流紋岩				1 5.98		1 1.19	4.35 1.61
合計	2(1) 18.92	2 9.32	1 1.77	8 40.08	10 3.61	23 73.7	100.00 99.99
%	8.7 25.67	8.7 12.65	4.35 2.40	34.78 54.38	43.48 4.90	100.01 100.00	

(上段は点数、下段は重量)

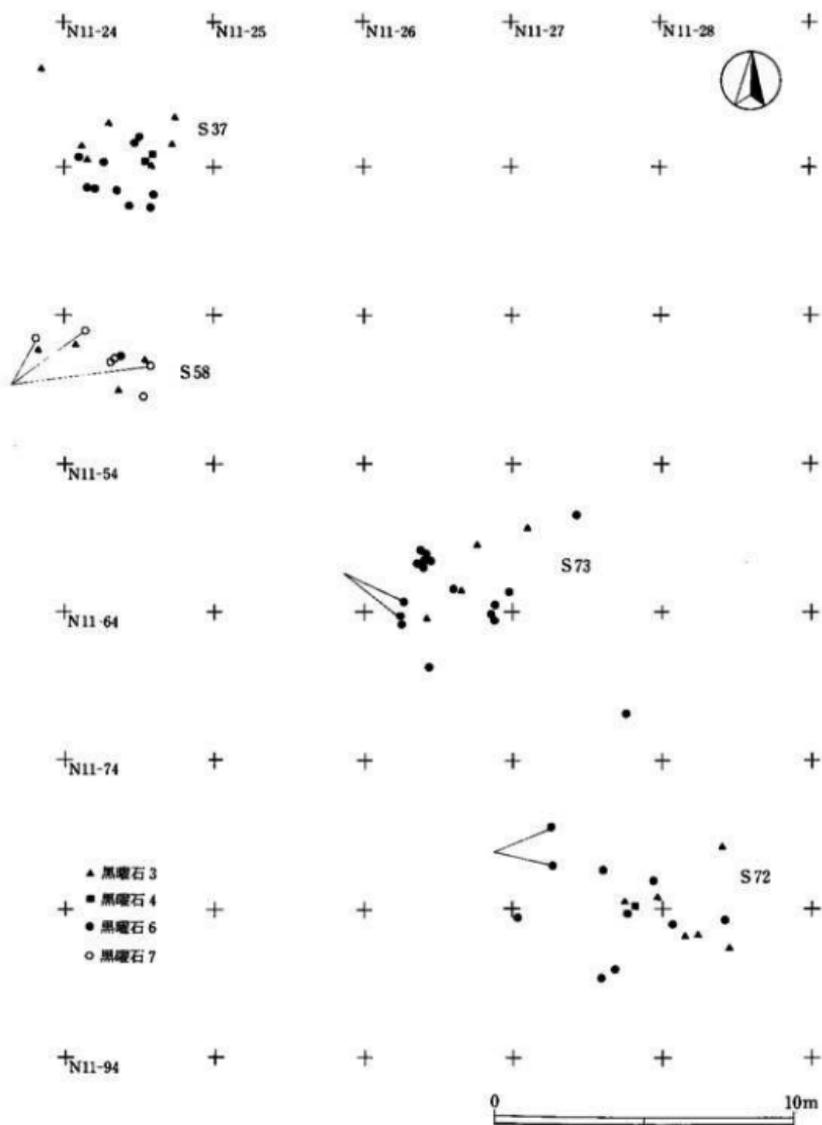
第19表 S73地点遺物観察表

検出番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	N11-56	7	尖頭器	6.50	2.30	1.29	18.92	黒曜石	黒曜石 6
	N11-66	1							
2	N11-66	2	R剥片	3.44	1.21	0.39	1.77	黒曜石	黒曜石 3
3	N11-56	10	ナイフ形石器	1.20	1.93	0.90	1.44	黒曜石	黒曜石 3
4	N11-57	1	ナイフ形石器	2.31	2.53	1.29	7.88	黒曜石	黒曜石 6

左側縁に片面からプランティング様の調整を行っている。剥片は不定型なものが多く、砕片の点数も多い。

C) 特徴

北からS37・S58・S73・S72地点とほぼ直線的に遺物集集中地点が並んでいる。これら4箇所の遺物集集中地点は遺物の産出層準を同じくし、使用石材も黒曜石が中心的である。さらに、遺物集集中地点間の石器の接合は認められないが、共通する母岩を保有している。母岩別の遺物分布状況は第45図に示したが、黒曜石3と黒曜石6が各地点に共通する母岩である。また、同時にこの二種の母岩から剥出された遺物の量は、他の母岩から剥出された量を凌駕し、点数比・重量比とも全体の80%を越えている。この二種の母岩から製作された遺物は尖頭器・削器・ナイフ形石器等があり、製品が特定の地点に偏ることもない。剥片・砕片も同様に大きな偏りなく分布し、各地点での母岩別の器種組成率もほぼ同程度と理解することが出来る。ただ、地点別にみた器種の組成比はS58地点で剥片の組成率が高いことが注目できる。同時にこれと相対するようにS58地点では砕片の組成率が著しく低いことも指摘できる。剥片・砕片以外の製品の組成は総体としての点数が少なく、直接比較の対象とはなしえないが、おおむね20%以下の組成率であり、突出した地点はない。さらに、5種の母岩の石核はどの地点にもみられないこ



第45图 S37·S58·S72·S73地点母岩别遺物分布状况

第20表 S37・S58・S72・S73地点黒曜石の母岩別構成表

母 岩	尖頭器	削 器	ナイフ	R剥片	剥 片	碎 片	ブロック
黒曜石 3					2 15.11	5 2.39	S37
					3 18.03	1 0.36	S58
					3 16.88	3 3.26	S72
			1 1.44	1 1.77	2 10.44		S73
黒曜石 4					1 1.59	1 0.58	S37
							S58
					1 2.86		S72 S73
黒曜石 5					1 1.23	1 0.27	S37
					1 2.19		S58
							S72 S73
黒曜石 6		1 3.50			4 17.2	3 1.09	S37
					1 0.11		S58
		1 4.69	1 5.02		3 11.00	4 1.58	S72
	2 18.92		1 7.88		5 23.66	9 2.42	S73
黒曜石 7			1 6.17		3 9.90	1 0.28	S37
							S58
							S72 S73
合 計	2 18.92	2 8.18	4 20.51	1 1.77	30 130.20	28 12.23	

(上段は点数、下段は重量)

とも指摘しておきたい。

7 S40地点

(第46～51図、第21・22表、図版7・8)

a) 分布

S40地点は須久茂谷津に面するL09-90グリッドを中心に南北約8m、東西約10mの範囲に遺物が分布している。産出層準はハードローム層上部で、第2文化層の遺物集中地点のなかではやや深い位置に当たる。地形的には須久茂谷津に臨む緩斜面で、標高は表土層上面で14～15mを測り、台地最高所と約8mの比高がある。遺物の分布は視覚的に4ないし5箇所のクラスター状の集中がみられ、それぞれ礫群を伴っている。礫群の構成礫は最大でも10cm程度に復元され、多くに被熱の痕跡



第46図 S40地点の位置

が観察できる。礫の最小個体数は23個体で、ほとんどが細かく破碎されている。礫の分布はおまかに5ないし6箇所に集中し、相互に接合関係が存在する。

遺物の垂直分布は標高13.75m付近にピークが出るが、斜面に位置するためその下位にも小さなピークが現出している。

資料総数	143点
最大値	14.279m
最小値	13.273m
平均値	13.647m
標準偏差	0.1756

b) 石器

石器総数は143点でこのうち礫片が81点ある。全資料に対する礫の構成比は点数比で56.64%、重量比が88.36%という高率である。第2文化層全体の傾向として、礫群は離散的な遺物集中地点では例外なく伴わず、遺物点数が多く、クラスター状の集中分布が見られる地点に限って見ることができる。

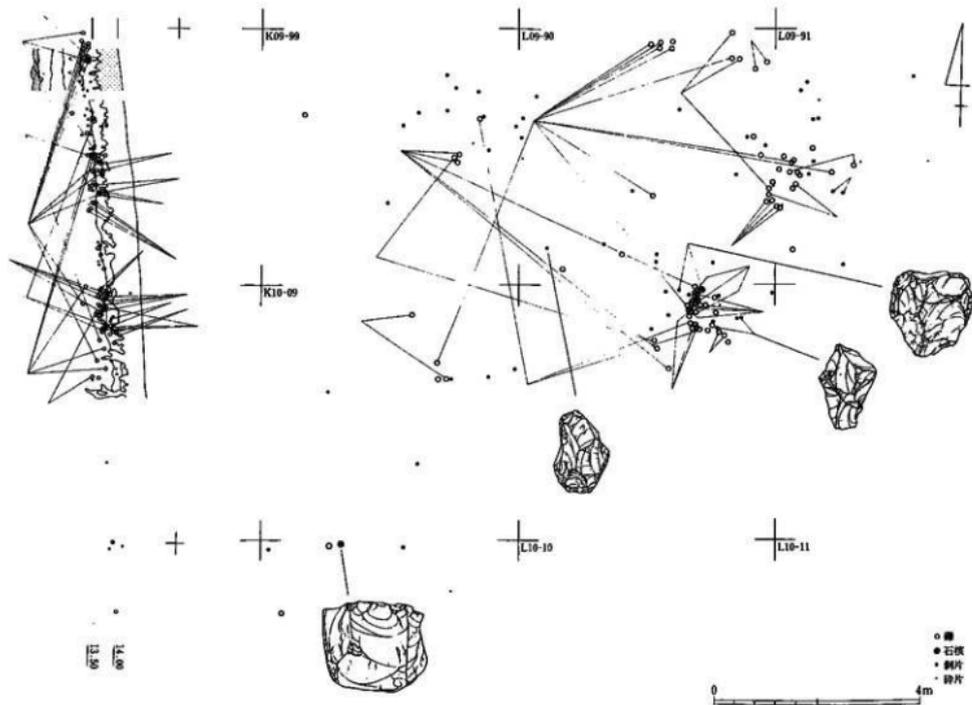
礫を除く遺物は安山岩が全体の点数比で45%、重量比で43%を占め母岩数も多い。また、母岩数は少ないが、チャートも点数比で44%、重量比で46%がある。

安山岩10 わずかに斑晶を含むが緻密な石材で、礫面も比較的滑らかである。3は石核に分類したが、一部に細かい調整が見られ、あるいは削器として機能したかもしれない。この他に剝

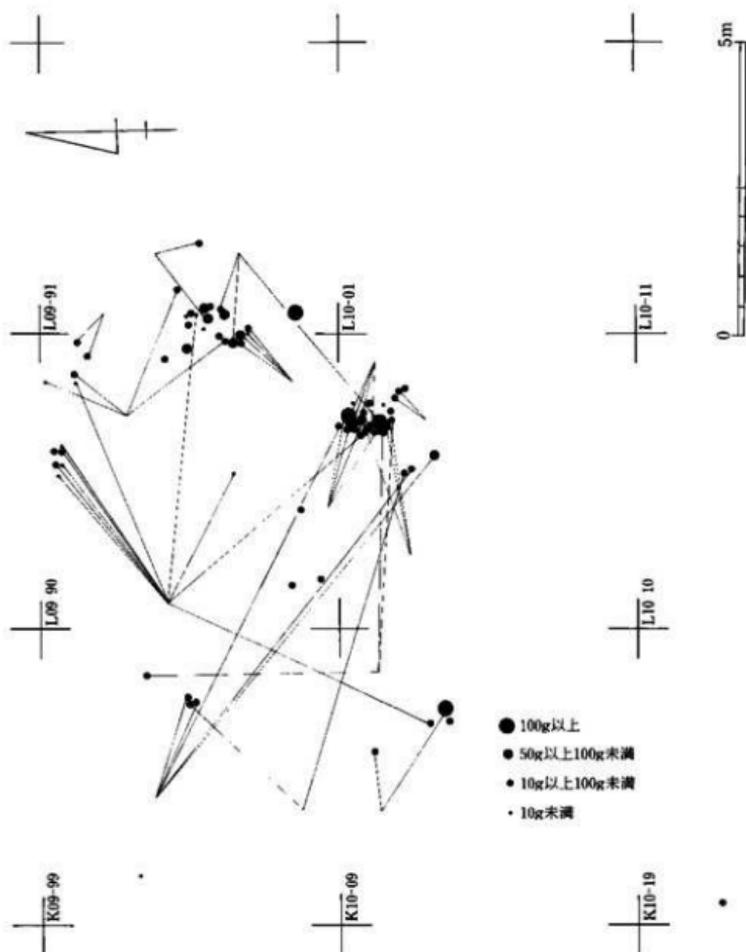
第21表 S40地点遺物集計表

母岩	礫	石核	削器	剝片	砕片	合計	%
安山岩10		1 29.71		3 31.48		4 61.19	2.80 1.71
安山岩11				3 39.46		3 39.46	2.10 1.10
安山岩12				3 15.05	2 1.72	5 16.77	3.50 0.47
安山岩13				4 12.16	1 0.22	5 12.38	3.50 0.34
安山岩14				5 28.27	3 1.89	8 30.16	5.59 0.84
安山岩15	5 157.77					5 157.77	3.50 4.40
安山岩16	11 167.06					11 167.06	7.69 4.66
安山岩17	4 256.14					4 256.14	2.80 7.14
安山岩18	9 168.98					9 168.98	6.29 4.71
安山岩19	5 314.46					5 314.46	3.50 8.76
安山岩20	8 260.60					8 260.60	5.59 7.26
安山岩21	2 92.14					2 92.14	1.40 2.57
安山岩22	6 66.41					6 66.41	4.20 1.85
安山岩	6 295.16			3 20.77		9 315.93	6.29 8.80
チャート3			1 17.46	7 32.39	7 7.41	15 57.26	10.49 1.60
チャート4				5 16.17	4 3.39	9 19.56	6.29 0.55
チャート		1 102.26		2 13.95		3 116.21	2.10 3.24
凝灰岩				1 14.36	1 0.29	2 14.65	1.40 0.41
珪質頁岩				2 7.28		2 7.28	1.40 0.20
黒曜石				1 1.98		1 1.98	0.70 0.06
流紋岩				1 17.99		1 17.99	0.70 0.50
砂岩	2 109.29					2 109.29	1.40 3.05
変成岩				1 1.93		1 1.93	0.70 0.05
礫 26	5 178.25					5 178.25	3.50 4.97
礫 27	4 123.20					4 123.20	2.80 3.43
礫 30	4 108.64					4 108.64	2.80 3.03
礫 40	2 60.06					2 60.06	1.40 1.67
礫 244	2 76.10					2 76.10	1.40 2.12
未分類	6 736.79					6 736.79	4.20 20.53
合計	81 3171.05	2 131.97	1 17.46	41 253.24	18 14.92	143 3588.64	100.03 100.02
%	56.64 88.36	1.40 3.68	0.70 0.49	28.67 7.06	12.59 0.42	100.00 100.01	

(上段は点数、下段は重量)



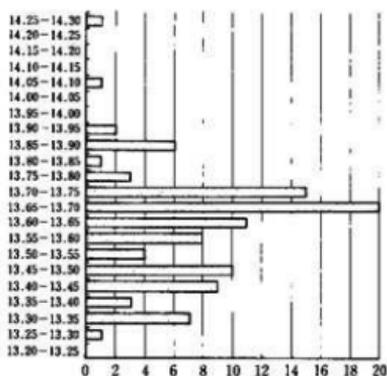
第47图 S40地点遗物分布状况



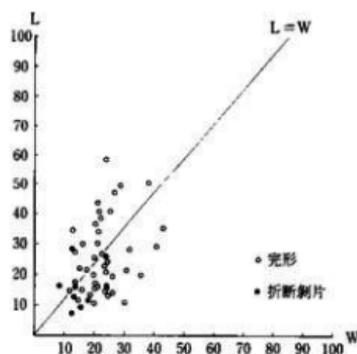
第48図 S40地点出土土器の重量別分布

第22表 S40地点遺物観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	L09-90	32	削器	4.01	2.52	1.70	17.46	チャート	チャート3
2	L10-00	4	剥片	1.36	2.60	1.12	3.54	チャート	チャート3
	L10-00	6	剥片	2.06	2.40	1.44	10.21	チャート	チャート3
3	L10-00	10	石核	4.00	3.91	1.88	29.71	安山岩	安山岩10
	L10-00	16	剥片	2.97	2.13	1.07	6.37	安山岩	安山岩10
4	K10-19	4	石核	4.40	4.83	3.19	102.26	チャート	未分類



第49図 S40地点遺物垂直分布



第50図 S40地点剥片計測値

片が2点ある。

安山岩11 斑晶は少ないが、剥離面を含めて風化が進行している。安山岩13と酷似しエラーが懸念される。

安山岩12 斑晶を含むが礫面を含めて風化が軽微である。5点の剥片のうち3点に礫面が残されている。

安山岩13 斑晶は少ないが剥離面を含めて風化が進行し、礫面はツメ石状となる。小形の剥片と碎片がある。

安山岩14 斑晶はほとんどみられず、風化の度合いも顕著でない。礫面を残すものは1点だけで、他の母岩と比較して薄い剥片が剥出されている。

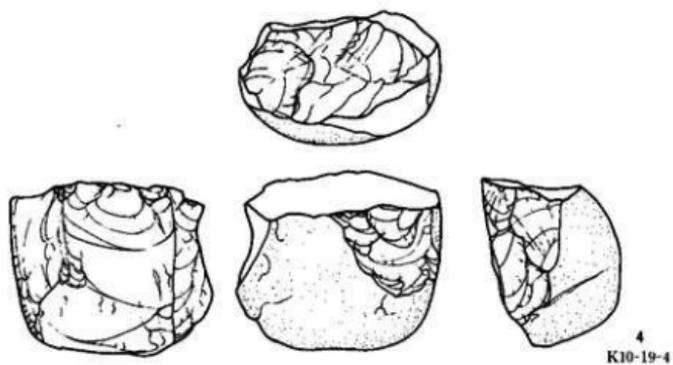
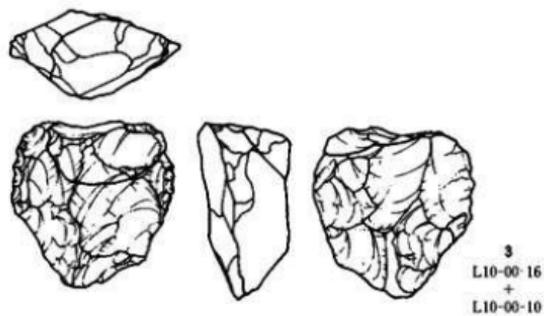
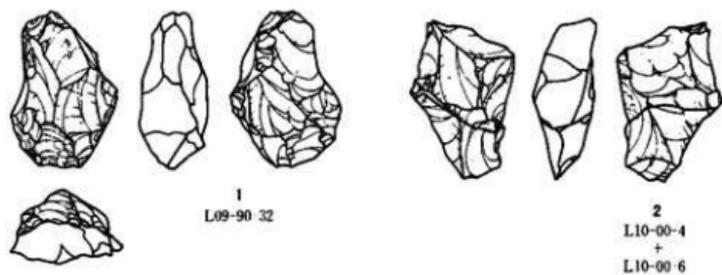
チャート3 緑灰色を呈する石材で、削器が製作されている。1の素材はかなり肉厚で、残核を転用したものである。

チャート4 濃灰色を呈する石材で、白色の嵌入鉱物がある。剥片は不定形である。

この他にチャート製の石核を図示した。拳大の原礫を半截し、数回の剥片剥離を行っている。しかし、本石核から剥出された剥片は当地点から出土していない。

c) 特徴

比較的良好な礫群を伴い、礫群相互の接合関係を有している。剥片類の素材となった石材は安山岩・チャートが多用され、前述までの地点と石材の選択を明確に画することができる。また、出土層準にしても本地点が遡ることは確実で、同じく安山岩を多用するS95・S96地点等と比較する必要がある。さらに、占地条件からみても前者が段丘上位面の縁辺に形成されているのに対し、後者は段丘斜面に形成され、現沖積層面との比高もあまりない。



第51圖 S40地点石器実測図

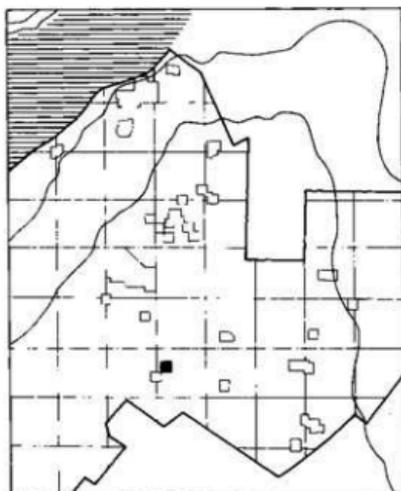
8 S49地点

(第52～56図、第23・24表、図版8)

a) 分布

台地のほぼ中央に位置し、N11-42グリッド周辺にわずかに遺物が分布している。遺物の産出層準は土層断面図が作成されていないために明確ではないが、遺物台帳の記載から本文化層に含めた。出土遺物は合計7点で、平面的にもレベル的にもまとまりがない。

資料総数	7点
最大値	22.908m
最小値	22.455m
平均値	22.631m
標準偏差	0.166



第52図 S49地点の位置

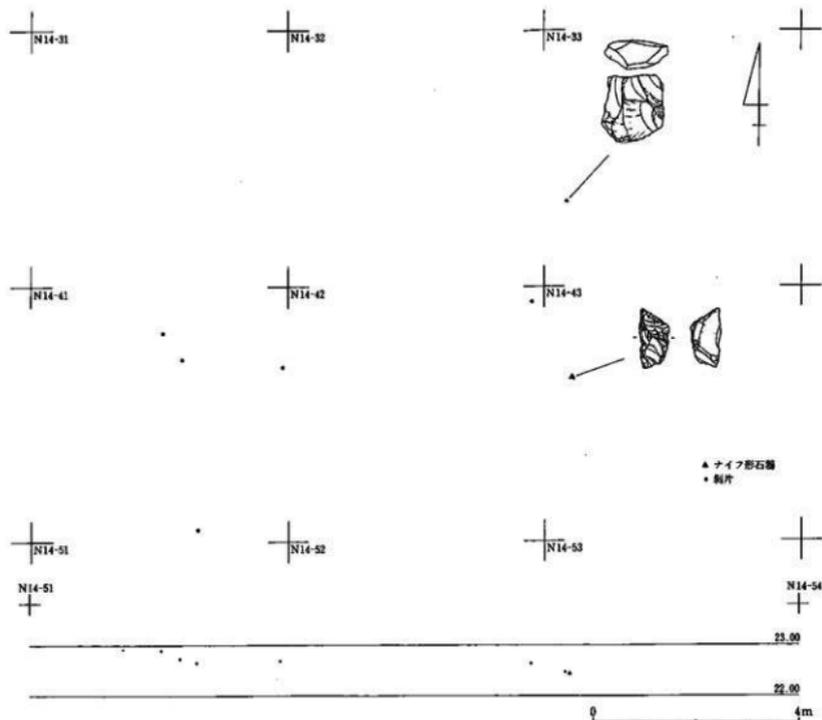
第23表 S49地点遺物集計表

母岩	削器	ナイフ	剝片	砕片	合計	%
安山岩 A			1 6.47	1 0.72	2 7.19	28.57 22.48
安山岩 B			1 3.30		1 3.30	14.29 10.32
安山岩 C	1 14.72				1 14.72	14.29 46.01
珩質頁岩 A		1 2.93			1 2.93	14.29 9.16
珩質頁岩 B			1 2.72		1 2.72	14.29 8.50
珩質頁岩 C			1 1.13		1 1.13	14.29 3.53
合計	1 14.72	1 2.93	4 13.62	1 0.72	7 31.99	100.02 100.00
%	14.29 46.01	14.29 9.16	57.14 42.58	14.29 2.25	100.01 100.00	

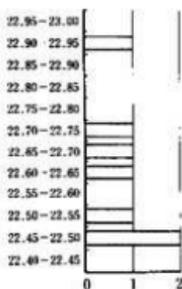
(上段は点数、下段は重量)

第24表 S49地点遺物観察表

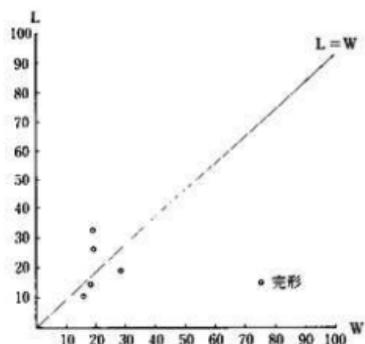
挿図番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	N14-43	1	ナイフ形石器	2.89	1.45	0.85	2.93	珩質頁岩	珩質頁岩A
2	N14-33	1	削器	3.18	2.88	1.46	14.72	安山岩	安山岩C



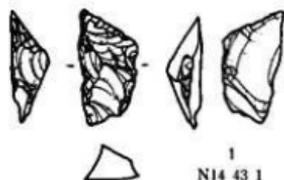
第53図 S 49地点遺物分布状況



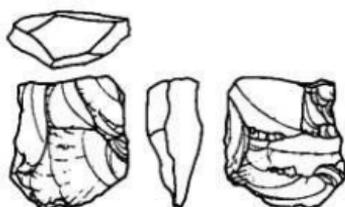
第54図 S49・S50地点遺物垂直分布



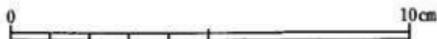
第55図 S49地点剥片計測値



1
N14-43-1



2
N14-33-1



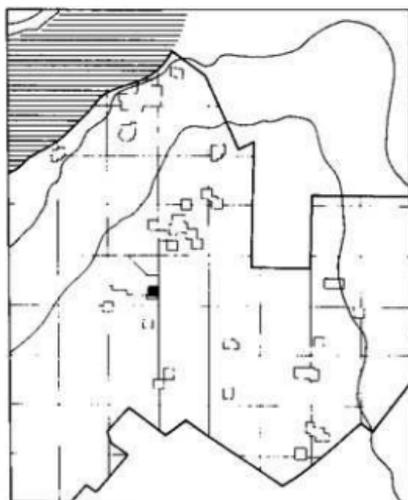
第56図 S49地点石器実測図

b) 石器

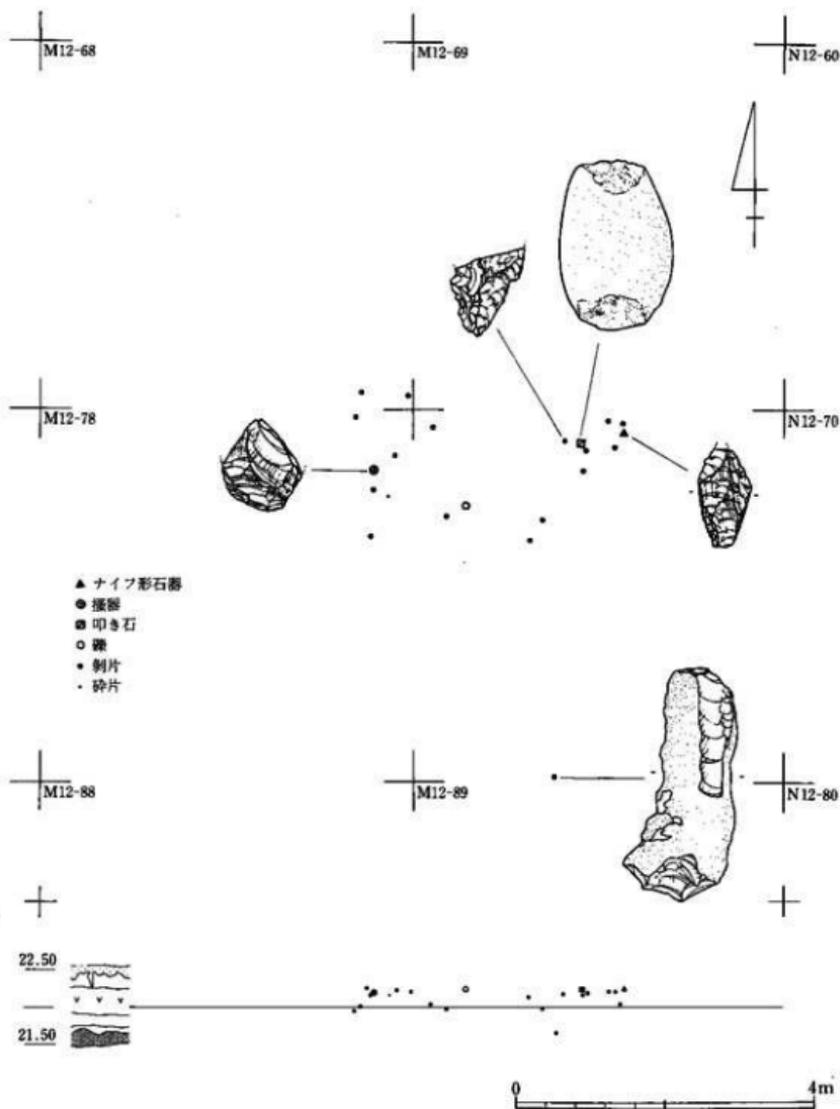
使用石材は安山岩と珪質頁岩であるが、7点のうち安山岩Aとしたものが2点ある以外は単独の石材である。1はナイフ形石器に分類したが、実測図右側縁にプランティング様の調整がある。2は折断した素材の側縁にわずかに調整が認められる。

c) 特徴

離散的な遺物集中地点で、立地条件も台地の中央部にあたる。台地縁辺からの距離も約100mを測り、旧地形からも埋没谷の存在は窺えない。



第57図 S66地点の位置

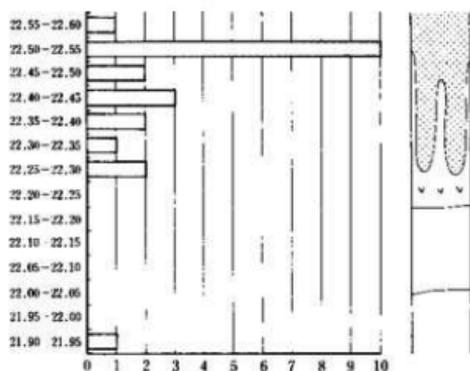


第58図 S66地点遺物分布状況

9 S 66地点 (第57~61図、第25・26表、図版9)

a) 分布

M12-79グリッドを中心に南北約2m、東西約4mの範囲に遺物が分布している。産出層準はハードローム層中で第2文化層に比定することに躊躇した。遺物は狭い範囲に集中し、遺物実測図4は少し離れているが、これは出土層もIX層であり、付近に位置する第4・第5文化層の遺物である。遺物の垂直分布は標高22.5~22.55mに集中し、上下への拡散はあまり大きくない。



第59図 S66地点遺物垂直分布

資料総数	22点
最大値	22.553m
最小値	21.946m
平均値	22.441m
標準偏差	0.139

第25表 S66地点遺物集計表

母岩	礫	叩き石	削器	ナイフ	石刃	剝片	砕片	合計	%
黒曜石	25		1	2		9	2	14	63.64
			12.69	8.87		26.84	0.61	49.01	6.41
珪質頁岩	26					1		1	4.55
						20.99		20.99	2.75
凝灰岩	5					3		3	13.64
						28.75		28.75	3.76
凝灰岩						1		1	4.55
						3.12		3.12	0.41
安山岩		1						1	4.55
		87.20						87.20	11.41
流紋岩	1				1			2	9.09
	550.50				24.45			574.95	75.25
合計	1	1	1	2	1	14	2	22	100.02
	550.50	87.20	12.69	8.87	24.45	79.70	0.61	764.02	99.99
%	4.55	4.55	4.55	9.09	4.55	64.64	9.09	100.02	
	72.05	11.41	1.66	1.16	3.20	10.43	0.08	99.99	

(上段は点数、下段は重量)

b) 石器

遺物の総数は22点で、使用石材は黒曜石が主体となる。黒曜石はすべて単一の母岩から剥出されたもので、斑晶が多いもの前出の黒曜石3と似ている。黒曜石25 斑晶を含むが比較的良質の石材である。本地点から出土した黒曜石製の製品はすべて黒曜石25である。製品はナイフ形石器・削器がある。1は縦長の剥片を素材とし、基部の両側縁にプランティングを施している。3は刃部を欠損するが、基部の右側縁にプランティングを施している。3は削器で厚手の剥片を素材とし、打面は取り除かれ、端部に刃部をもっている。剥片は比較的整い、打面を残していないものが目立つ。

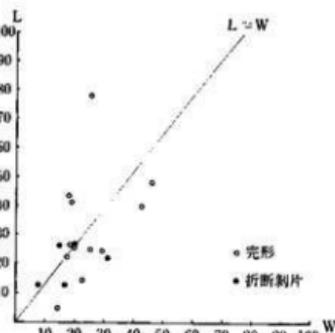
凝灰岩5 トロトロ石で、不定形な剥片が3点ある。

珪質頁岩26 明褐色を呈する石材で、剥片1点がある。

このほかに石刃と叩き石を各1点図示した。石刃は前述したように第4もしくは第5文化層の遺物で、出土層準もIXa層である。5は叩き石で、小形の礫の両端部に敲打痕が観察できる。

c) 特徴

使用石材に黒曜石を多用する地点で、黒曜石はすべて単一の母岩から剥出されたものである。剥片は打面を除去したものが多く、なお、石核は伴っていない。



第60図 S66地点剥片計測値

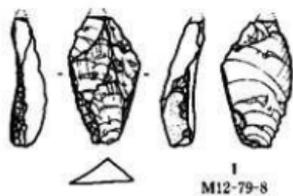
第26表 S66地点遺物観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	M12-79	8	ナイフ形石器	3.29	1.78	0.77	3.81	黒曜石	黒曜石25
2	M12-78	3	搔器	2.55	2.66	1.49	12.69	黒曜石	黒曜石25
3	M12-79	10	ナイフ形石器	2.60	1.98	1.06	5.06	黒曜石	黒曜石25
4	M12-79	1	石刃	7.84	2.53	1.18	24.45	流紋岩	未分類
5	M12-79	7	叩き石	5.75	3.82	2.96	87.20	安山岩	未分類

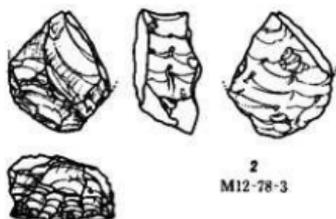
10 S78地点 (第62~68図、第27・28表、図版9)

a) 分布

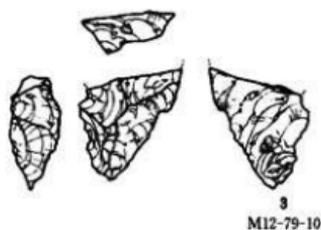
須久茂谷津に面する段丘斜面に位置し、第2文化層最大のS95・S96地点の北東約25mに位置している。III層上面の標高は約16mであり、台地上面との比高は7mを測る。遺物はN08-24グリッドを中心に分布し、その範囲は直径約7mを測る。また、礫群を伴い、礫の分布は大きく2箇所に集約される。この2箇所には礫の接合関係があり、ほぼ同時に形成されたことを物語



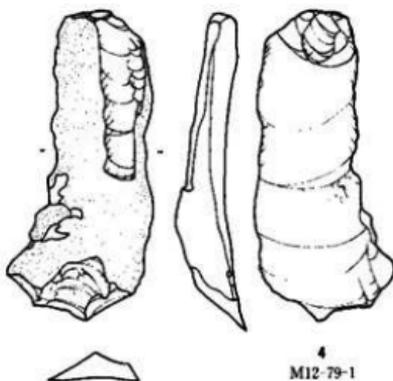
1
M12-79-8



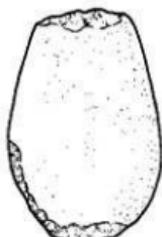
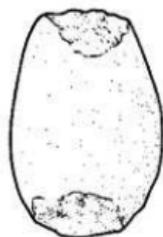
2
M12-78-3



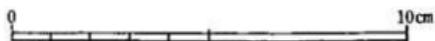
3
M12-79-10



4
M12-79-1



5
M12-79-7



第61图 S66地点石器实测图

っている。産出層準はハードローム層の上部で、垂直分布は標高15.2m前後にピークがある。

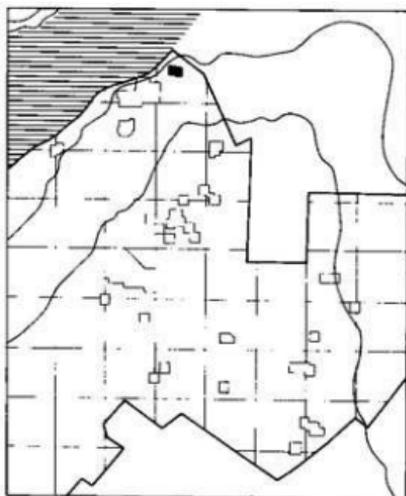
資料総数	132点
最大値	16.092m
最小値	14.867m
平均値	15.219m
標準偏差	0.1716

b) 石器

石器総数は132点で、このうち礫が全体の50%の66点を占める。礫の分布状況はやや散漫で、大きく2箇所に分けることができる。点数的に主体となるのは北西の一群であるが、重量別分布状況から、内部に2箇所の核が存在することがわかる。ただし、相互に接合関係が認められ、時間的な空間をおかず形成されたものと理解できる。礫群の構成礫は多くが拳大程度のもので推定できるが、ほとんどの個体は細かく破砕されており、被熱したものも多い。礫の最小個体数は18である。

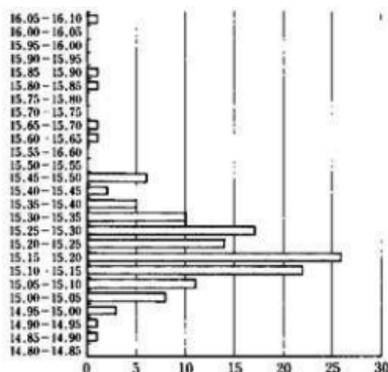
剥片類は黒曜石と安山岩で構成される。黒曜石は3種、安山岩は6種に分類した。

黒曜石22 斑品も少なく良質の石材であるが、剥離面の光沢が鈍い。ナイフ形石器2点が製作されている。2・3ともに背側全体にブランティングを施し、2は刃部側の基部にもブランテ

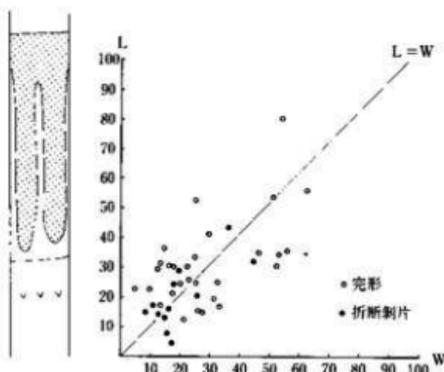


第62図 S78地点の位置

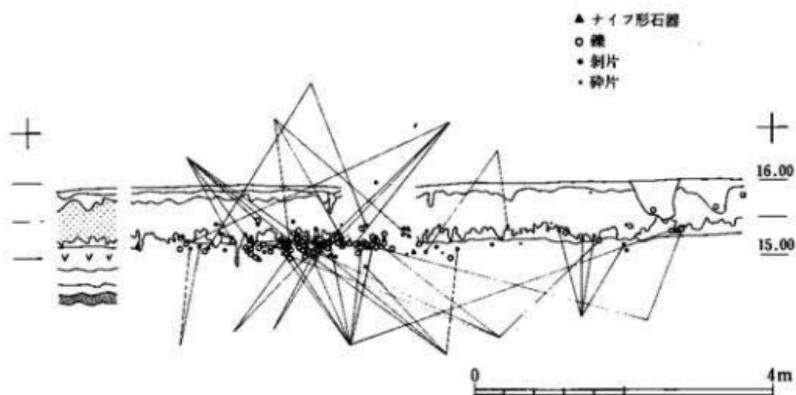
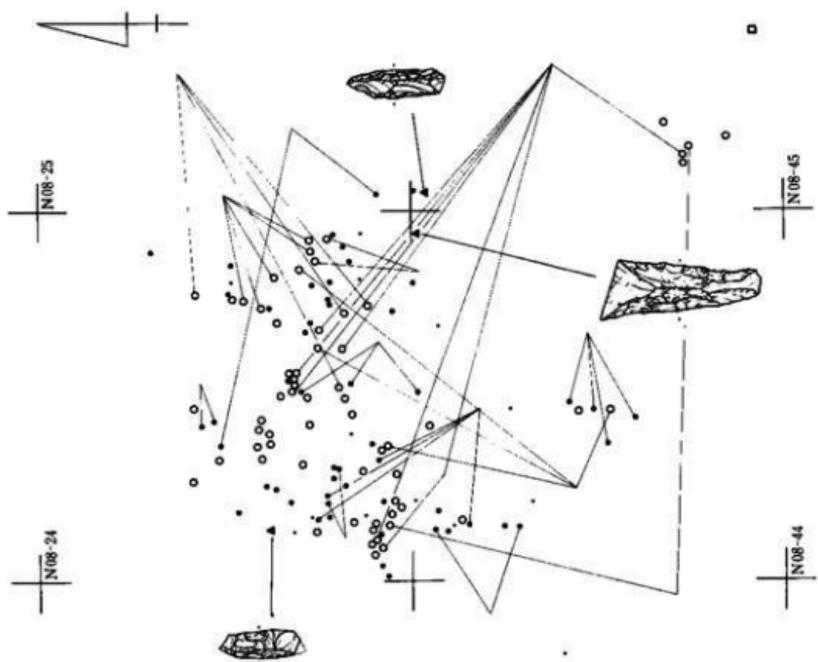
係が認められ、時間的な空間をおかず形成されたものと理解できる。礫群の構成礫は多くが拳大程度のもので推定できるが、ほとんどの個体は細かく破砕されており、被熱したものも多い。礫の最小個体数は18である。



第63図 S78地点遺物垂直分布



第64図 S78地点剥片計測値



第65図 S78地点遺物分布状況

イングを施している。

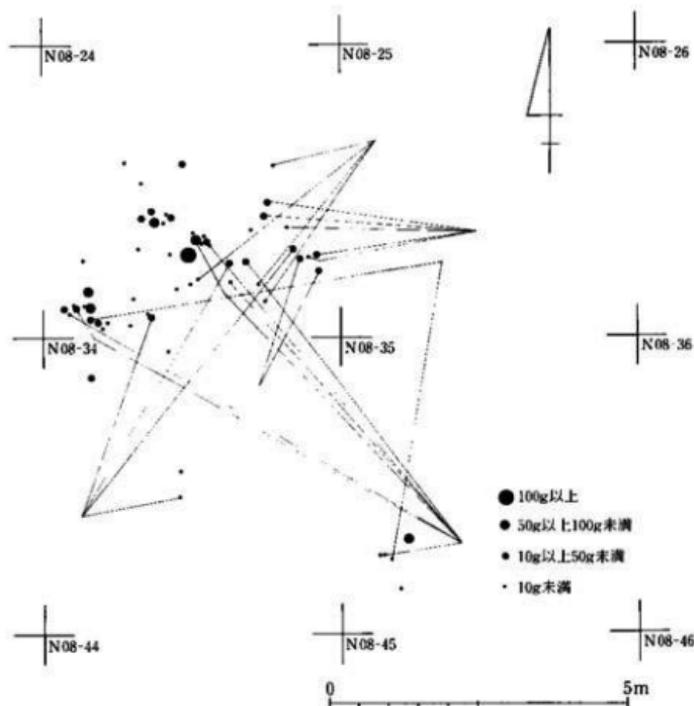
黒曜石23 細かい斑晶と気泡を多く含む石材で、2点の剥片と1点の破片がある。

黒曜石24 細かい斑晶を少し含み、あまり透明感のない石材である。リタッチのある剥片が1

第27表 S78地点遺物集計表

母岩	礫	ナイフ	U剥片	石核	剥片	破片	合計	%
黒曜石 22		2 4.49		1 6.06	7 17.71	5 2.60	15 30.86	11.36 1.76
黒曜石 23					2 10.14	1 0.59	3 10.73	2.27 0.61
黒曜石 24			1 3.7				1 3.7	0.76 0.21
安山岩 54					18 268.13	12 10.01	30 278.14	22.73 15.85
安山岩 55					2 44.14		2 44.14	1.52 2.52
安山岩 56		1 11.09			5 64.67	8 4.47	14 80.23	10.61 4.57
安山岩 58	8 84.57						8 84.57	6.06 4.82
安山岩 59	5 28.82						5 28.82	3.79 1.64
安山岩 60	8 37.07						8 37.07	6.06 2.11
安山岩					1 1.73		1 1.73	0.76 0.10
砂岩 4	4 95.45						4 95.45	3.03 5.44
礫 143	6 113.44						6 113.44	4.55 6.47
礫 144	7 177.30						7 177.30	5.30 10.11
礫 145	2 52.27						2 52.27	1.52 2.98
礫 146	8 37.92						8 37.92	6.06 2.16
礫 147	4 116.95						4 116.95	3.03 6.67
礫 148	4 79.73						4 79.73	3.03 4.54
未分類	10 481.28						10 481.28	7.58 27.43
合計	66 1304.80	3 15.58	1 3.7	1 6.06	35 406.52	26 17.67	132 1754.33	100.02 100.02
%	50.00 74.38	2.27 0.89	0.76 0.21	0.76 0.35	26.52 23.17	19.70 1.01	100.02 100.02	

(上段は点数、下段は重量)



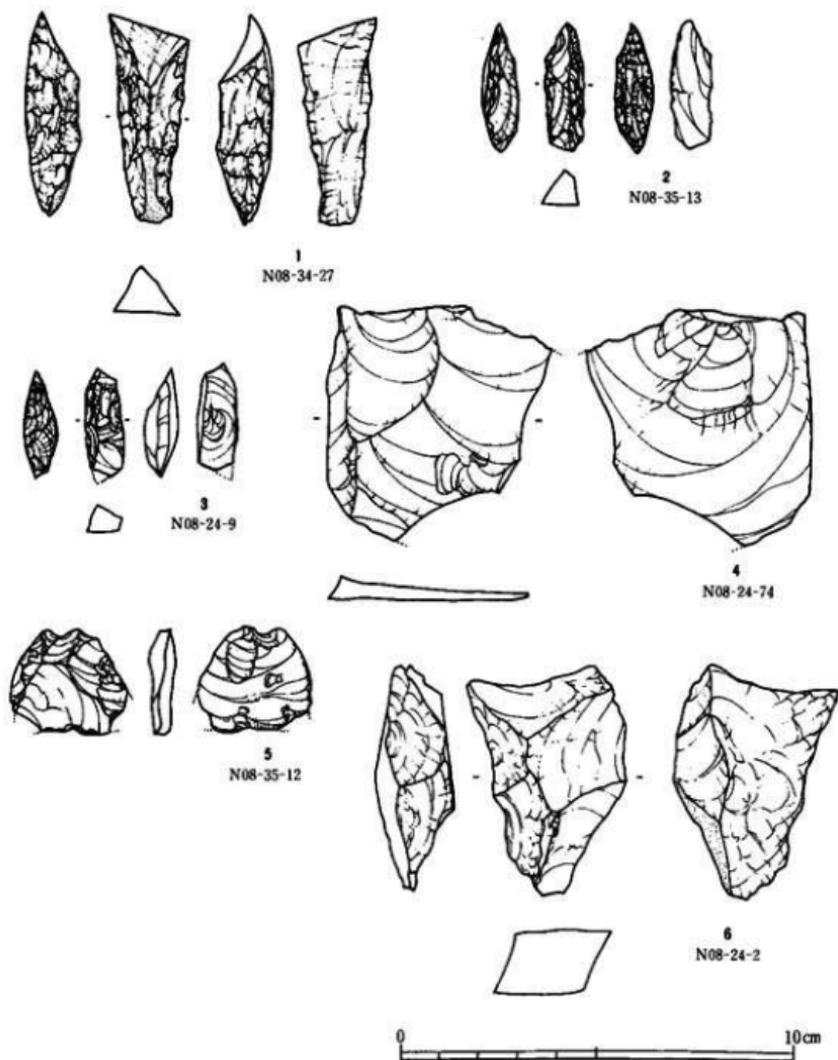
第66図 S78地点出土礫の重量別分布

第28表 S78地点遺物観察表

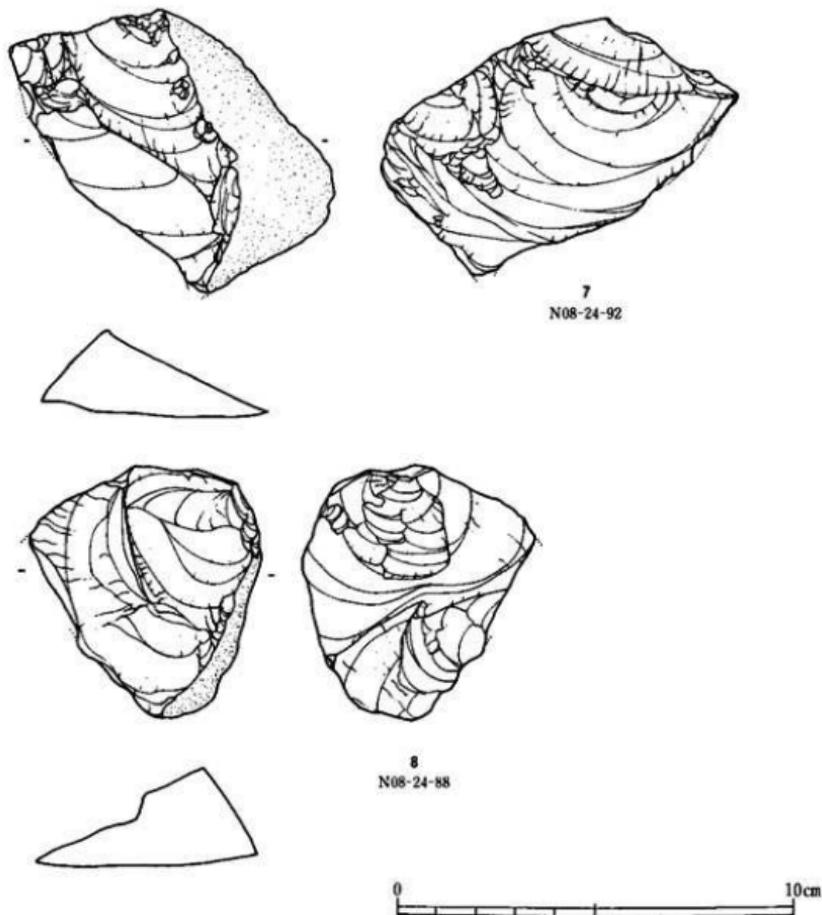
挿図番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	N08-34	27	ナイフ形石器	5.13	1.66	1.35	11.09	安山岩	安山岩56
2	N08-35	13	ナイフ形石器	1.00	3.30	0.93	2.64	黒曜石	黒曜石22
3	N08-24	9	ナイフ形石器	0.86	2.70	0.83	1.85	黒曜石	黒曜石22
4	N08-24	74	剥片	5.38	5.11	0.78	27.33	安山岩	安山岩54
5	N08-35	12	U剥片	2.88	2.34	0.56	3.70	黒曜石	黒曜石24
6	N08-24	2	剥片	3.43	5.36	2.02	37.75	安山岩	安山岩55
7	N08-24	92	剥片	8.06	5.41	2.26	94.84	安山岩	安山岩54
8	N08-24	88	剥片	5.61	6.28	2.60	73.85	安山岩	安山岩54

点ある。打面は上部からの一撃で除去され、端部及び左側縁に調整が認められる。

安山岩54 きめの細かい石材で、風化もあまり進行していない。安山岩の中では点数・重量ともに最大のもので、数点の接合関係もある。また、遺物実測図4・7・8のような大きな剥片



第67图 S78地点石器实测图 1



第68図 S78地点石器実測図 2

も剥出されているが、石核は伴っていない。

安山岩55 細かい斑晶を含み、風化も進行している。剥片2点があるが、遺物実測図6は剥片利用石核の可能性ある。

安山岩56 比較的緻密な石材で、ナイフ形石器が製作されている。1は横長の剥片を素材とし、両側縁にブランティングを施している。なお、基部近くに礫面を残している。剥片は少なく、碎片の点数が多い。

c) 特徴

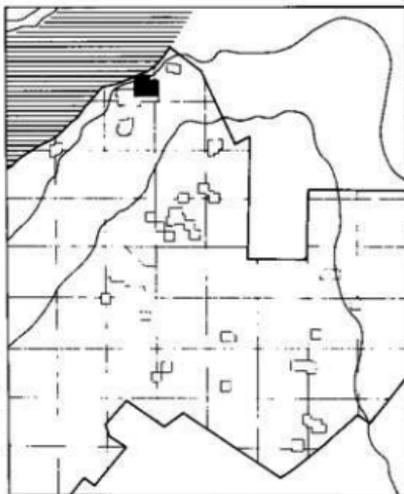
短期間に形成された礫群を伴い、使用石材も黒曜石と安山岩に限定される地点である。黒曜石3種と安山岩3種を分離したが、個々の母岩を構成する遺物点数は多くなく、しいて言うならば、安山岩54が重量的にも中心的な石材と言える。

11 S95・S96地点

(第69～94図、第29～32表、図版10・11)

a) 分布

須久茂谷津に面する段丘斜面に位置し、III層上面の標高は15.5～15.0mを測る。この地点は第2文化層最大の石器集中地点で、遺物総数1,181点を数え、遺物の分布範囲も外郭で約130m²を有する。さらに、南側に隣接してS97地点が、西側にはS103・S104地点が位置



第69図 S95・S96地点の位置

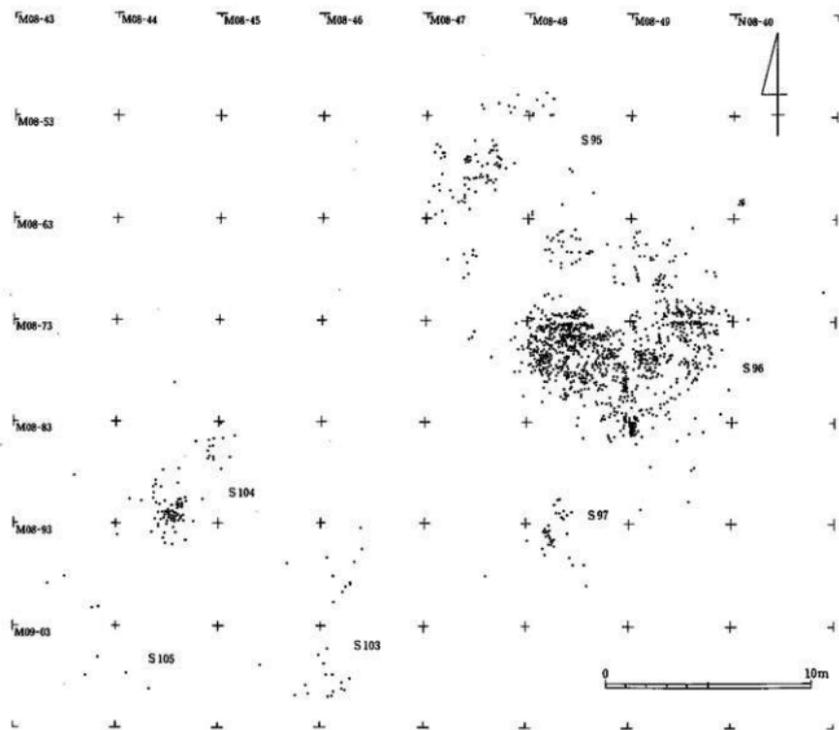
し、第2文化層に帰属する石器集中地点が大きく展開している。遺物の分布は平面的にみていくつかのクラスターから構成され、調査時においてS95とS96の二つの番号が与えられていた。ここでは便宜的にAからGまでの7箇所のクラスターとして捉えたが、クラスターGが最大規模で、クラスターD・E・Gが弧状に分布している。クラスター間には使用石材に共通点が見いだせるが、接合関係は多く認められず、クラスターGと西側に離れたS104地点に剥片の接合関係がある。

また、クラスターA・B・F・Gには礫群が伴い、クラスターAとBの間で礫片が接合する。産出層準はIII層からハードローム層上部にわたり、現地形が傾斜しているため、標高での比較は出来ないが、数値は以下のとおりである。

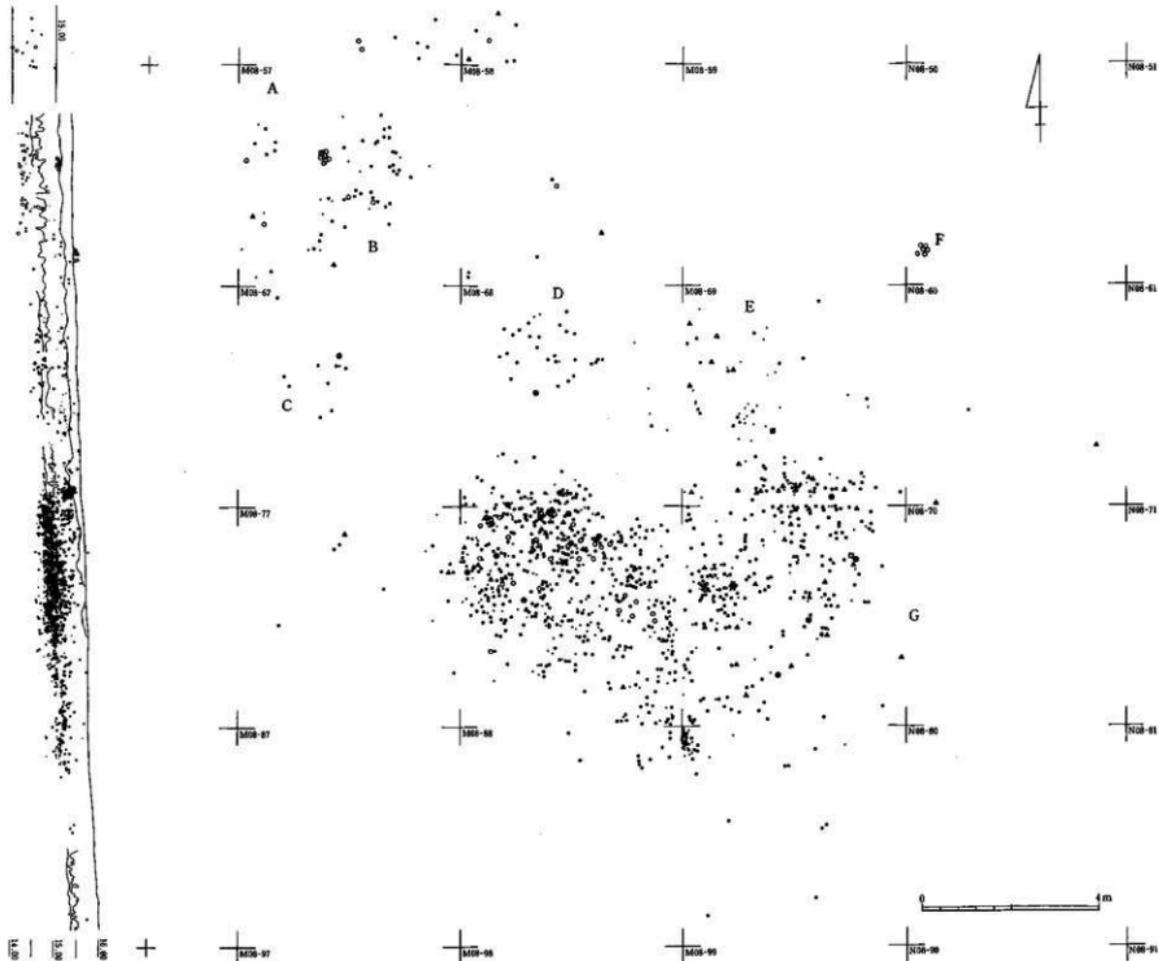
資料総数	1,181点
最大値	15.811m
最小値	14.498m
平均値	14.988m
標準偏差	0.2647

b) 石器

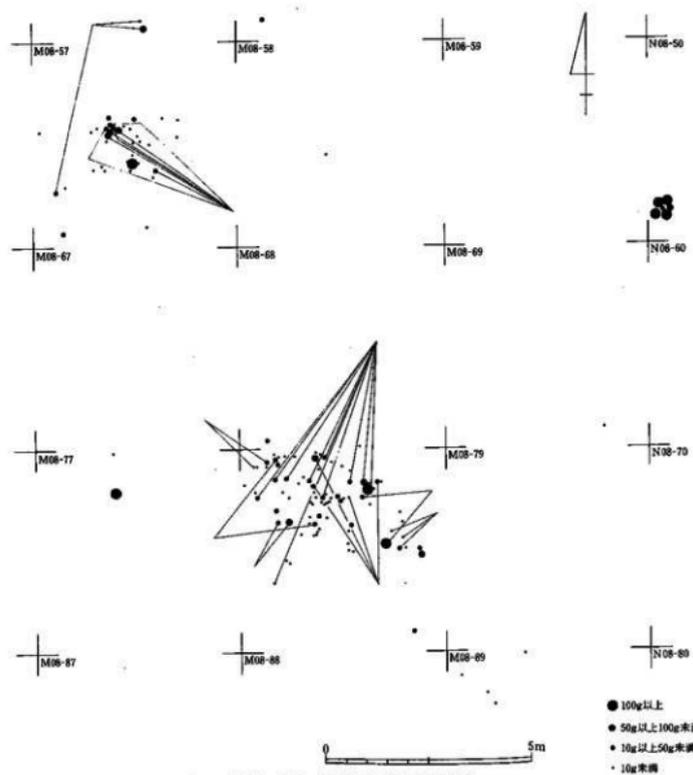
石器総数は1,181点でこのうち礫が50点ある。礫の占める割合は点数比で4.23%、重量比で34.2%となる。出土した礫のほとんどは拳大ほどの原礫と考えられるが、5cm以下の大きさに破砕されている。また、本地点では54点ものナイフ形石器が出土し、他の第2文化層の集中地点と



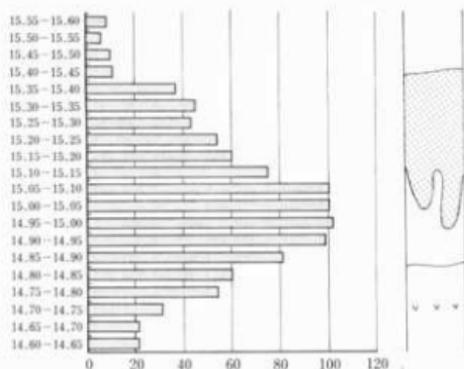
第70图 S95·S96·S97·S103·S104·S105地点遗物分布状况



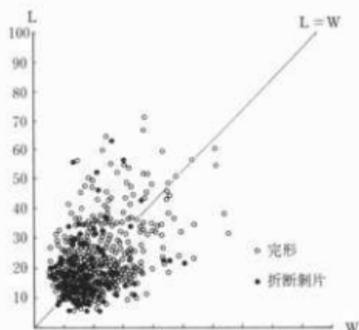
第71圖 S95・S96地点遺物分布状況



第72図 S 95・S 96地点出土土量の重量別分布



第73図 S95・S96地点遺物垂直分布



第74図 S95・S96地点剥片計測値

比較してナイフ形石器の点数が突出している。しかしながら、石器全体に対するナイフ形石器の組成率は4.57%でしかなく、決して特異な存在でない事が理解できる。

使用石材は安山岩が主体となり点数比で礫を除いた石器の66.81%を占め、16母岩を判別した。他の石材はいずれも点数比10%以下であるが、凝灰岩・珪質頁岩・黒曜石・頁岩・チャート等が使用されている。

安山岩31 白色の斑晶を若干含むが緻密な石材である。S95地点ではクラスターFを除いたクラスターに見られ、S97・S103・S104の集中地点でも使用されている。さらに、S104地点との間に1点だが接合関係がある。削器・角錐状石器が製作されている。

安山岩32 僅かに斑晶を含むが緻密な石材で、原礫面を残すものは少ない。ほとんどが破片であるが、ナイフ形石器が1点含まれている。クラスターG及びS97・S103・S104地点から出土している。

安山岩34 かなり風化の進行が早い石材で、原礫面を残すものが11点含まれる。クラスターGを中心に分布し、僅かにS103地点からも出土している。接合する剥片も5組10点あるが、破片は少ない。ナイフ形石器が1点含まれている。

安山岩37 青灰色を呈する独特の色調で判別は用意である。クラスターB・G及びS103・S104地点から出土し、クラスターGとS104及びS103とS104の間に接合資料がある。大部分が剥片と破片である。

安山岩39 緻密な石材ではあるが、風化が進行している。クラスターGを中心に分布し、クラスターA・B・D及びS104地点から出土している。原礫面を残すものも多く、削器・ナイフ形石器が製作されるが、破片が圧倒的に多い。

安山岩40 白色で大粒の斑晶を含む石材で、クラスターGに分布している。剥片・破片があり、

第29表 S95・S96地点遺物集計表

母岩	礫	削器	ナイフ	尖頭器	角 錐	くさび	石 核	叩き石	R剥片	剥片	砕片	合計	%
安山岩 31		1 30.00			1 6.1		3 191.82			10 218.69		15 446.61	1.27 6.09
安山岩 32			1 5.25							9 37.66	26 15.49	36 58.4	3.05 0.79
安山岩 34			1 5.46							23 86.15	3 2.84	27 94.45	2.29 1.27
安山岩 37							1 81.54			70 381.41	71 57.67	142 520.62	12.02 7.03
安山岩 39		1 26.46	5 11.12							70 187.54	105 60.5	181 285.62	15.33 3.85
安山岩 40										25 222.91	58 31.34	83 254.25	7.03 3.43
安山岩 41							1 27.97			3 13.71		4 41.69	0.34 0.56
安山岩 42										4 43.83		4 43.83	0.34 0.59
安山岩 43		1 20.96					6 138.59			36 522.77		43 682.32	3.64 9.21
安山岩 44		1 10.78	1 1.78						1 0.3	34 92.77	48 25.27	85 130.90	7.20 1.77
安山岩 45			7 20.76							20 57.40	11 12.18	38 90.34	3.22 1.22
安山岩 46			3 12.29							17 65.82	12 6.61	32 84.72	2.71 1.14
安山岩 47			2 6.25							2 18.24		4 24.76	0.34 0.33
安山岩 48		1 5.67	1 4.66							7 34.69	3 3.22	12 48.24	1.02 0.65
安山岩 49			1 2.31							8 23.94	9 8.46	18 34.71	1.52 0.47
安山岩 187										1 5.40	1 0.90	2 6.3	0.17 0.09
安山岩	8 603.57						2 59.11			19 133.19	7 2.25	36 798.12	3.05 10.77
チャート 5										1 2.60	5 1.66	6 4.26	0.51 0.06
チャート 6										4 22.40	4 1.40	8 23.80	0.68 0.32
チャート 7		2 5.80					1 15.35		1 3.61	4 20.14	1 0.36	9 45.26	0.76 0.61
チャート 8			1 2.12							4 11.76	8 5.21	13 19.09	1.10 0.26
チャート 9										1 0.39	2 0.47	3 0.86	0.25 0.01
チャート	1 132.25									5 34.28	2 0.4	8 166.93	0.68 2.25
凝灰岩 4			1 16.68				1 37.33			46 315.16	62 38.26	110 407.43	9.31 5.50
凝灰岩				1 2.06				1 104.21		4 32.07	1 0.40	7 138.74	0.59 1.87
珪質頁岩 13			1 1.30			1 1.84				1 1.12		3 4.26	0.25 0.06
珪質頁岩 14										3 9.05	2 1.25	5 10.30	0.42 0.14
珪質頁岩 15										3 4.50	2 1.47	5 5.97	0.42 0.08
珪質頁岩 16										2 8.67		2 8.67	0.17 0.12

母岩	測	削器	ナイフ	尖頭器	角鋸	くさび	石核	叩き石	R削片	剥片	砕片	合計	%
珪質頁岩17			1 0.72							5 10.67	6 2.08	12 13.47	1.02 0.18
珪質頁岩18			2 4.06									2 4.06	0.17 0.05
珪質頁岩19			2 11.34							8 18.91	4 0.58	14 30.83	1.19 0.42
珪質頁岩20			4 4.26				1 56.72			20 59.63	11 3.84	36 124.45	3.05 1.68
珪質頁岩21			1 0.94							2 0.92		3 1.86	0.25 0.03
珪質頁岩22			2 2.29									2 2.29	0.17 0.03
珪質頁岩			2 4.35							2 32.63	5 1.02	9 38.00	0.76 0.51
黒曜石15										3 8.27	2 0.87	5 9.14	0.42 0.12
黒曜石16			2 2.30									2 2.30	0.17 0.03
黒曜石17			2 4.99							1 9.64	3 0.99	6 15.62	0.51 0.21
黒曜石18				1 1.07							1 0.80	2 1.87	0.17 0.03
黒曜石19										3 9.68		3 9.68	0.25 0.13
黒曜石20			5 2.65							4 3.07	20 7.21	29 12.93	2.46 0.17
黒曜石21			4 5.75							1 2.70		5 8.45	0.42 0.11
黒曜石			1 0.55							1 20.55		9 21.10	0.76 0.28
花崗岩								1 148.53				1 148.53	0.08 2.00
頁岩1						1 261.37				8 111.97	9 10.33	18 383.67	1.52 5.18
頁岩2										12 99.86	4 1.62	16 101.48	1.35 1.37
頁岩3										8 100.19	2 0.57	10 100.76	0.85 1.36
頁岩4								1 1.68		2 2.51		3 6.99	0.25 0.09
頁岩										3 23.65		3 23.65	0.25 0.32
砂岩3	7 341.89											7 341.89	0.59 4.61
砂岩39											1 0.32	1 0.32	0.08 0.00
砂岩	3 202.69											3 202.69	0.25 2.65
泥岩	1 142.73											1 142.73	0.08 1.86
変成岩										1 41.49		1 41.49	0.08 0.54
流紋岩10										3 15.81	1 0.37	4 16.18	0.34 0.21
流紋岩			1 2.75							1 0.98		2 3.73	0.17 0.05
礫162	2 39.80											2 39.80	0.17 0.52

母岩	種	形器	ナイフ	尖頭器	角錐	くさび	石核	叩き石	剥片	剥片	碎片	合計	%	
礫	163	4 100.81										4 100.81	0.34 1.32	
礫	164	3 151.11										3 151.11	0.25 1.97	
礫	186	2 40.93										2 40.93	0.17 0.53	
礫	216	3 114.25										3 114.25	0.25 1.49	
礫	217	2 284.80										2 284.80	0.17 3.72	
礫	218	2 211.40										2 211.40	0.17 2.76	
礫	219	10 399.91										10 399.91	0.85 5.22	
礫	243	2 16.15										2 16.15	0.17 0.21	
不	明									1 6.93		1 6.93	0.08 0.09	
合計		50 2782.29	7 99.67	54 136.93	2 3.13	1 6.10	1 1.84	17 869.80	2 252.74	3 5.59	532 3191.12	512 308.21	1181 7657.42	
%		4.23 36.33	0.59 1.30	4.57 1.79	0.17 0.04	0.08 0.08	0.08 0.02	1.44 11.36	0.17 3.30	0.25 0.07	45.05 41.67	43.35 4.02	99.98 100.00	

(上段は点数、下段は重量)

点数は碎片が圧倒的に多い。

安山岩43 白色の斑晶を多く含むが、比較的緻密な石材である。部分的に青灰色を呈し、安山岩37と類似する。クラスターB・Gを中心に分布し、原礫面を残すものが23点ある。削器が1点あり、石核も多いが、碎片はカウントできなかった。剥片は不定形であるが大きい。

安山岩44 非常に緻密な石材で、クラスターG及びS97地点を中心に分布している。削器・ナイフ形石器が製作されるが、多くは小さい剥片と碎片である。

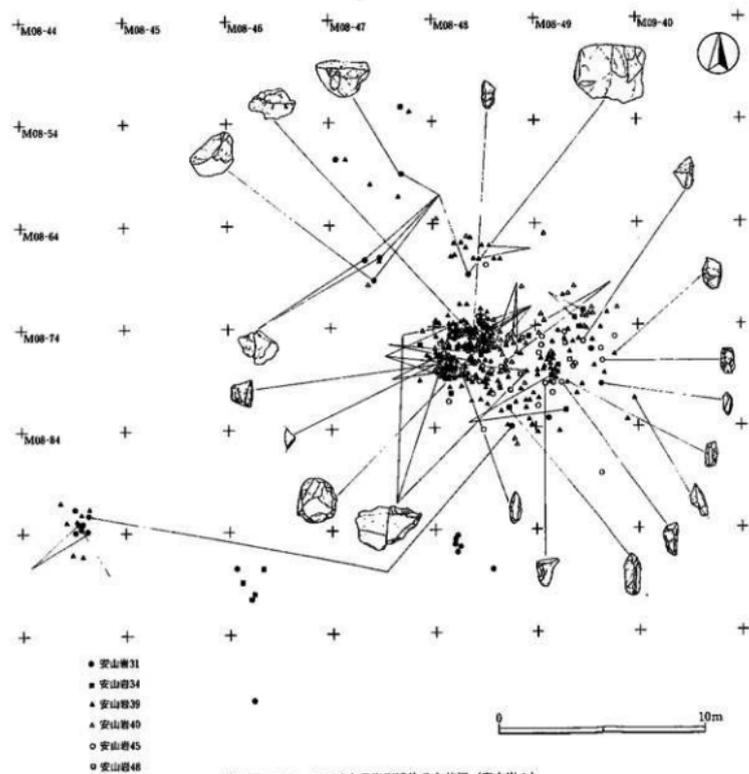
安山岩45 青灰色を呈し、斑晶はほとんど見られない。クラスターGを中心に分布し、ナイフ形石器が多く製作されている。剥片は全体に小さい。

チャート チャートは5種の母岩を判別したが、点数的に少ない。また、クラスターごとに母岩が限定され、クラスターGにおいても分布が二分される。チャート7は削器が製作されているが、出土したすべてが接合した。

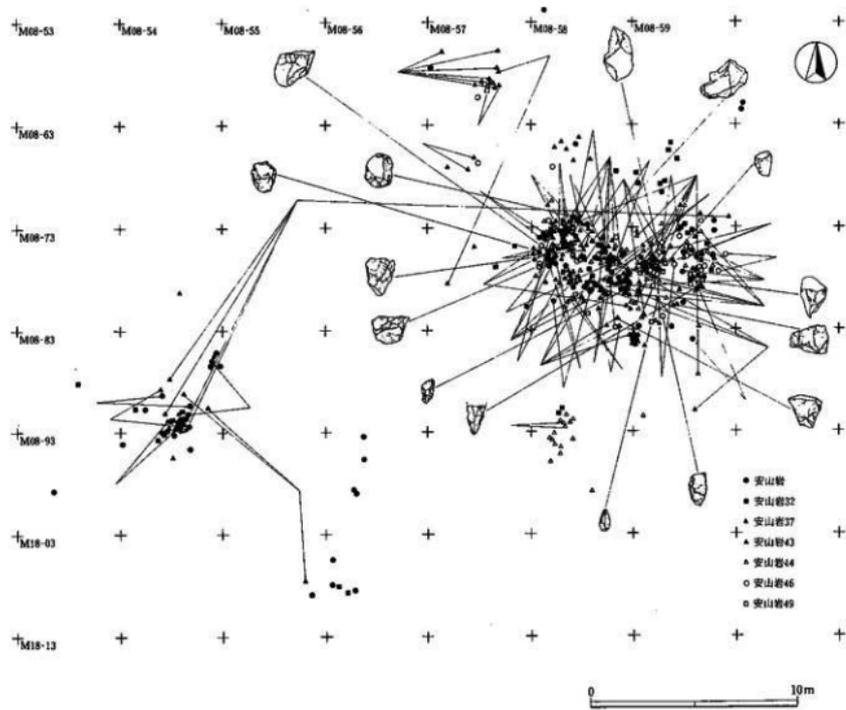
凝灰岩 ほとんどが凝灰岩4である。凝灰岩4は青灰色を呈し、所謂“トロトロ”石である。ほとんどがクラスターGから出土し、接合する資料も多い。

珪質頁岩 10種類の母岩を判別したが、判別できた点数が5点以下の母岩が多い。しかしながら、多くの母岩からナイフ形石器が製作されており、珪質頁岩全体で14点のナイフ形石器がある。

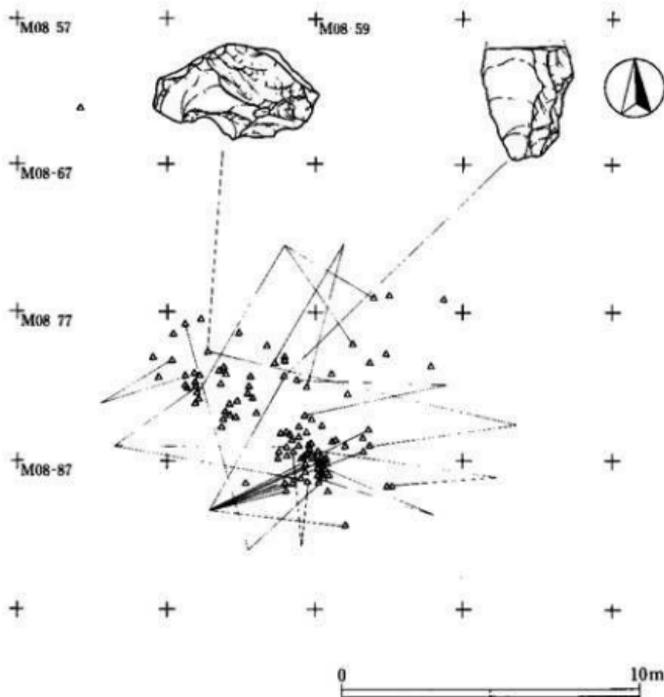
黒曜石 全体の点数は61点と少ないが、7種の母岩が判別できた。剥片・碎片が主体となるが、珪質頁岩同様ナイフ形石器が多く製作され、全体で15点がある。



第75图 S95·S96地点母岩别遗物分布状况(安山岩1)



第76图 S95·S96地点母岩别遗物分布状况 (安山岩2)

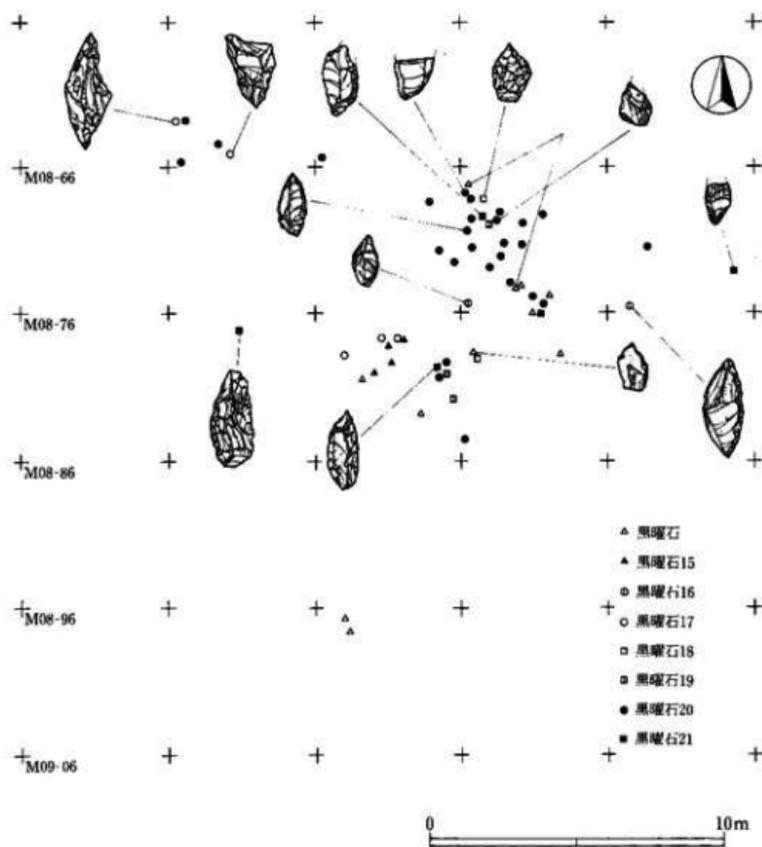


第77図 S95・S96地点母岩別遺物分布状況（凝灰岩）

頁岩 4種の母岩が判別できた。クラスターB・D・Gに見られ、頁岩3がクラスターDとGの間に接合資料がある。また、頁岩1及び頁岩2は出土した資料のほとんどが接合した。

流紋岩 流紋岩はS95地点よりS97・S103・S104地点から多く出土している。S95地点では1種の母岩が判別できたが、他の地点も含めてクラスター間の共通母岩はほとんど認められない。流紋岩7だけはS103地点とS104地点の間に接合資料がある。

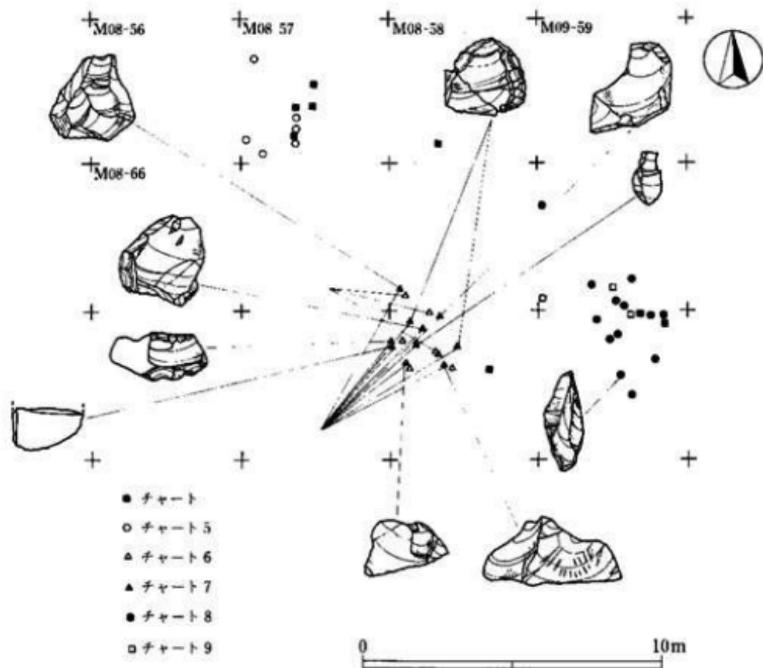
ナイフ形石器 本地点からは54点のナイフ形石器が出土している。この点数は多いように思うが、出土遺物全体に占める割合は4.57%であり、組成率としては決して突出したのではなく、第2文化層の他の集中地点と比較して極めて標準的な数値である。石材別にみると珩質頁岩・黒曜石・流紋岩の組成率が高く、黒曜石は全体の約23%がナイフ形石器である。さらに母岩別に観察すると、珩質頁岩18・22・黒曜石16は出土資料すべてがナイフ形石器であり、他の地点で製作されたナイフ形石器が搬入されたものと理解できる。また、珩質頁岩13・21や安山岩47・黒曜石21も碎片がまったく出土していないことから、切片を含めた搬入と理解できよう。即ち、



第78図 S95・S96地点母岩別遺物分布状況（黒曜石）

54点のナイフ形石器のうち11点が搬入品である可能性を有している。これに対して、ナイフ形石器の組成率がS95地点の平均値を上回り、かつ砕片の組成率が平均値に近い数値を示す母岩も安山岩49・チャート8・珪質頁岩17・黒曜石20・黒曜石17がある。この中で黒曜石20と黒曜石17は剥片の組成率がともに10%代であり、剥片剥離からナイフ形石器製作への連続した工程が行われていたと考えるのには疑問がある。

さて、ナイフ形石器は全体の形状や刃部の形状においてバラエティーが認められ、いくつかのタイプに分類することが可能と思われる。素材の選択から見ると、素材を縦に使用するものと横に使用するものがあり、素材を縦に利用した製品が縦／横比が高い傾向が窺われる。ちな



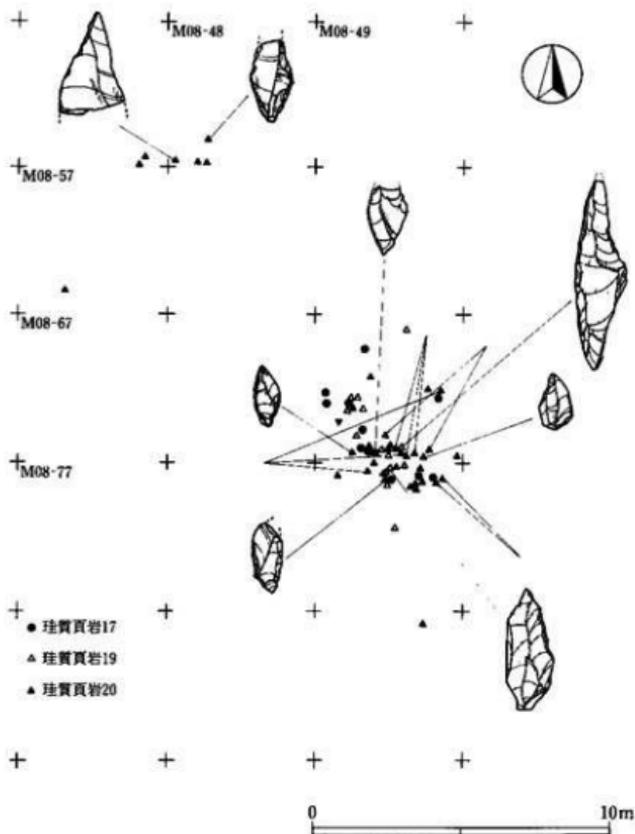
第79図 S95・S96地点母岩別遺物分布状況(チャート)

みに完形である31点のナイフ形石器の縦／横比の平均値は素材縦が2.31、素材横が1.42となるが、Welch's Methodによる平均値の差の検定結果は有意水準5%でも平均値は異なるとは言えないという結果である。

全体的な形状から観察すると、ナイフ形石器の長さのヒストグラムに明確な変化は認められないが、視覚的に大形・中形・小形の分類が可能なようで、長さ・幅・厚さ・刃部長の実寸法を特徴量として捉えたクラスター分析の結果からも同様の結果が得られる。

大形の製品として捉えられるのは1で、2は欠損しているが大形に含めて問題ないと思う。ともに縦長の剥片を素材とし、1は両側縁にブランティングを施している。また、1は基部裏面に調整を施している。

中形の製品として捉えられるものは多く、3～10・22～26・33・37～46がある。3～10は縦長の偏平な剥片を素材とし、比較的長い刃部を作り出している。また、ブランティングは両側縁に施され、3・6・7は基部裏面に基部調整が認められる。使用石材は珪質頁岩が圧倒的に優位である。22は横長の剥片を素材とするが、23～25は縦長のやや厚みのある剥片を素材とし

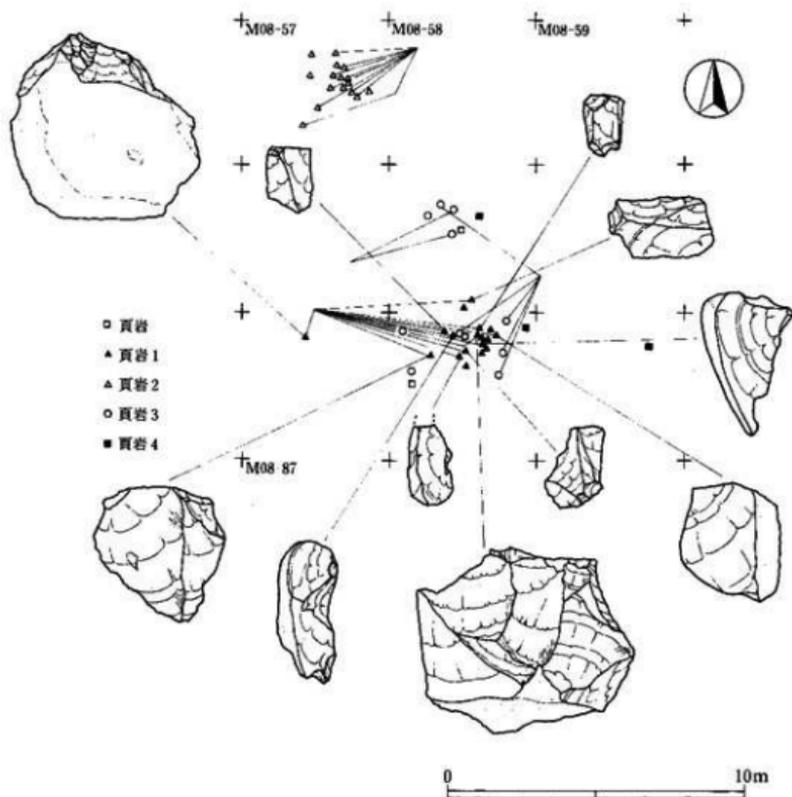


第80図 S95・S96母岩別遺物分布状況（珪質頁岩）

ている。刃部は比較的長く、作り出されている。37・38は横長の刮片を素材とし、切り出し様の短い刃部が特徴である。ともに両側縁に調整を行う。39以下は不定形な製品で、クラスター分析の結果からも、他の製品との類似度は低い一群である。37・38を含め、使用石材はすべて安山岩である。

小形の製品として捉えられるのは12・21・29・32・35・36で、大きさは小さいが、基本的に中形の製品と同じ様な特徴を備えている。即ち、特徴量を実寸法ではなく比率に変換した場合、小形の製品の14～17は中形の製品の4～6と相似形に近い特徴を有している。

このように、54点を数えるナイフ形石器は大きさから3分類され、中形と小形は実寸法の大小はあるものの、形状だけを考えた場合、いくつかの特徴を抽出することができた。また、



第81図 S95・S96地点母岩別遺物分布状況（頁岩）

この特徴は使用する石材が強く作用しているものである。

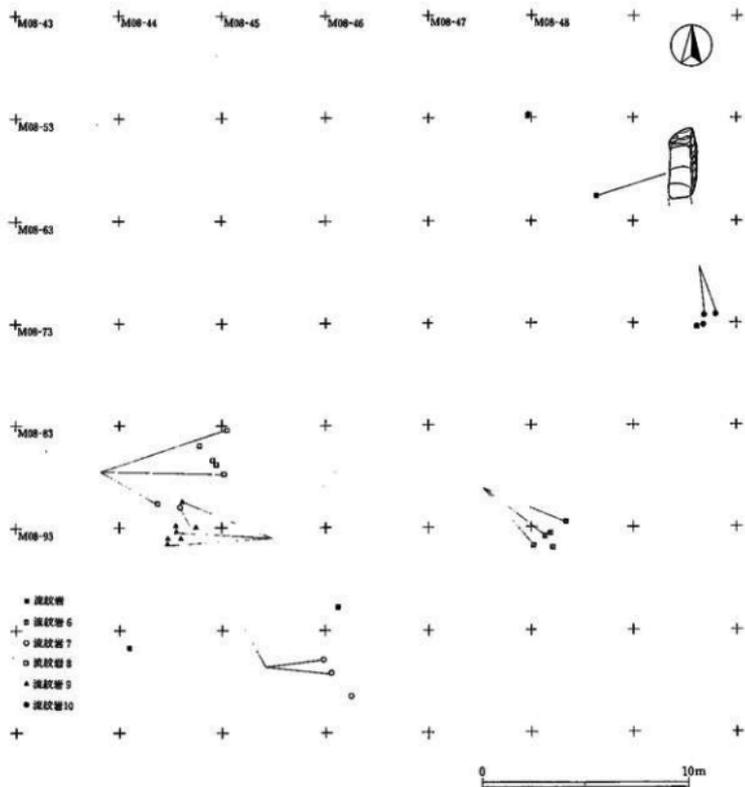
c) 特徴

S95地点は遺物の出土点数において坊山遺跡最大の遺物集中地点である。また、隣接してS97・S103・S104地点等の有機的関係が示唆される地点がある。これらの地点との間には少ないながら接合資料が存在し、時間的にも大きく隔たらない時期の所産であることがわかる。石器組成の面からみると、S95・S97地点が剥片・碎片がほぼ同率で卓越するのに対し、S103・S104地点は剥片が80%で卓越し、碎片は10%代と少ない。第2文化層の他の石器集中地点を含めて考えたとき、特に両者を明確に区分するのは碎片の組成率の違いに集約される。

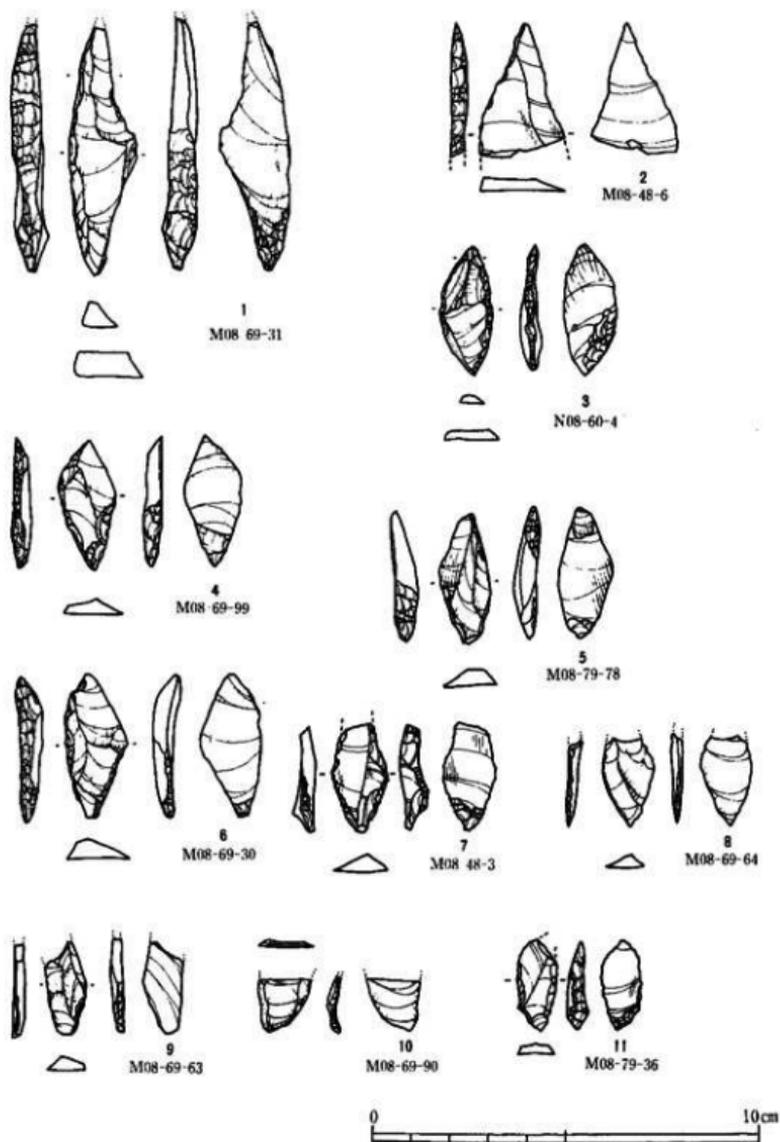
S95地点は全体として便宜的な5箇所のカスタムから構成されるが、隣接の構成や母岩の

第30表 S95・S96地点遺物観察表 1

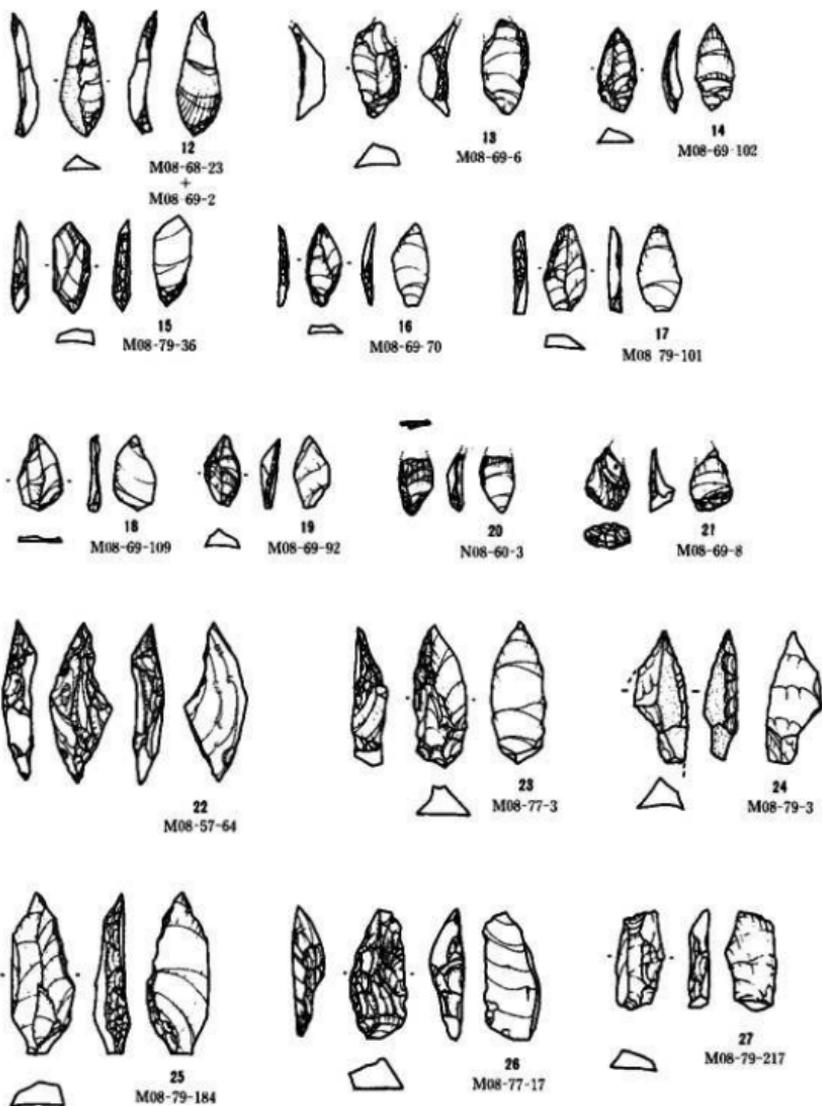
種別 番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	M08-69	31	ナイフ形石器	6.40	1.74	0.82	6.93	珩質頁岩	珩質頁岩19
2	M08-48	6	ナイフ形石器	3.44	2.12	0.38	2.42	珩質頁岩	珩質頁岩20
3	N08-60	4	ナイフ形石器	3.30	1.38	0.48	1.82	黒曜石	黒曜石16
4	M08-69	99	ナイフ形石器	3.34	1.42	0.47	1.77	珩質頁岩	珩質頁岩18
5	M08-79	78	ナイフ形石器	3.32	1.22	0.54	2.12	チャート	チャート8
6	M08-69	30	ナイフ形石器	3.68	1.52	0.55	2.29	珩質頁岩	珩質頁岩18
7	M08-48	3	ナイフ形石器	2.67	1.38	0.40	1.51	珩質頁岩	珩質頁岩22
8	M08-69	64	ナイフ形石器	2.32	1.30	0.27	0.72	珩質頁岩	珩質頁岩17
9	M08-69	63	ナイフ形石器	2.40	0.96	0.31	0.78	珩質頁岩	珩質頁岩22
10	M08-69	90	ナイフ形石器	1.22	1.26	0.18	0.37	黒曜石	黒曜石20
11	M08-79	36	ナイフ形石器	2.30	0.93	0.46	0.96	珩質頁岩	珩質頁岩20
12	M08-69	2	ナイフ形石器	3.18	1.05	0.41	1.06	黒曜石	黒曜石20
	M08-68	23							
13	M08-69	6	ナイフ形石器	2.42	1.19	0.55	1.50	黒曜石	黒曜石21
14	M08-69	102	ナイフ形石器	2.16	0.94	0.42	0.66	黒曜石	黒曜石20
15	M08-79	36	ナイフ形石器	2.30	0.93	0.46	0.96	珩質頁岩	珩質頁岩20
16	M08-69	70	ナイフ形石器	2.05	0.86	0.21	0.44	珩質頁岩	珩質頁岩20
17	M08-79	101	ナイフ形石器	2.12	1.05	0.29	0.76	珩質頁岩	未分類
18	M08-69	109	ナイフ形石器	1.86	1.06	0.26	0.44	珩質頁岩	珩質頁岩20
19	M08-69	92	ナイフ形石器	1.75	0.82	0.35	0.48	黒曜石	黒曜石16
20	N08-60	3	ナイフ形石器	1.37	0.78	0.40	0.44	黒曜石	黒曜石21
21	M08-69	8	ナイフ形石器	1.60	1.06	0.56	0.56	黒曜石	黒曜石20
22	M08-57	64	ナイフ形石器	3.95	1.52	0.65	2.93	黒曜石	黒曜石17
23	M08-77	3	ナイフ形石器	3.53	1.41	0.76	3.59	珩質頁岩	未分類
24	M08-79	3	ナイフ形石器	3.22	1.20	0.80	2.53	安山岩	安山岩39
25	M08-79	184	ナイフ形石器	4.06	1.46	0.89	4.41	珩質頁岩	珩質頁岩19
26	M08-77	17	ナイフ形石器	3.27	1.29	0.80	2.88	黒曜石	黒曜石21
27	M08-79	217	ナイフ形石器	2.46	1.17	0.56	1.85	安山岩	安山岩39
28	M08-78	13	ナイフ形石器	4.01	1.43	0.96	5.46	安山岩	安山岩34
29	M08-79	249	ナイフ形石器	2.44	1.24	0.72	2.72	安山岩	安山岩45
30	M08-79	259	ナイフ形石器	1.18	2.87	0.69	1.98	安山岩	安山岩47
31	M08-78	632	ナイフ形石器	2.76	1.18	0.86	3.04	安山岩	安山岩45
32	M08-78	549	ナイフ形石器	0.74	1.61	0.69	0.64	安山岩	安山岩46
33	M08-58	4	ナイフ形石器	3.39	1.25	0.53	2.75	流紋岩	未分類
34	M08-79	215	ナイフ形石器	3.22	1.21	0.57	2.77	安山岩	安山岩45
35	M08-79	31	ナイフ形石器	2.13	1.35	0.48	1.30	珩質頁岩	珩質頁岩13
36	M08-69	113	ナイフ形石器	2.00	1.30	0.40	0.94	珩質頁岩	珩質頁岩21
37	M08-79	94	ナイフ形石器	3.05	1.71	0.74	4.26	安山岩	安山岩46
38	M08-79	8	ナイフ形石器	2.91	1.85	0.71	3.48	安山岩	安山岩39
39	M08-79	220	ナイフ形石器	1.98	1.63	0.68	2.31	安山岩	安山岩49
40	M08-69	299	ナイフ形石器	2.38	1.40	1.16	3.73	安山岩	安山岩45
41	M08-69	116	ナイフ形石器	2.39	3.27	0.90	7.39	安山岩	安山岩46
42	M08-78	121	ナイフ形石器	2.35	2.88	0.65	5.25	安山岩	安山岩32
43	M08-79	90	ナイフ形石器	1.70	3.25	0.85	4.54	安山岩	安山岩47



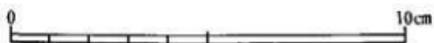
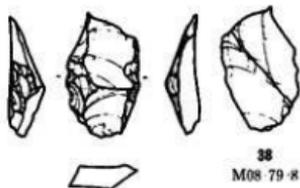
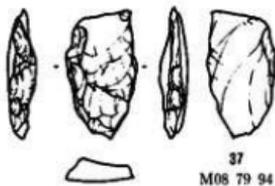
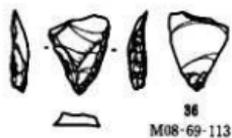
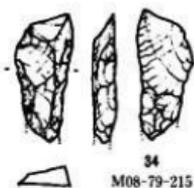
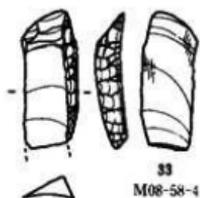
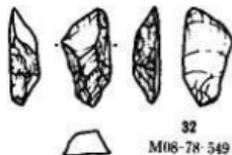
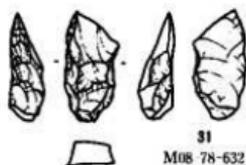
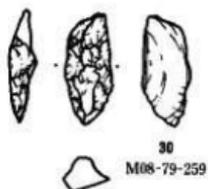
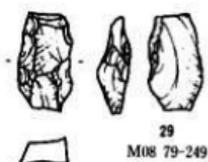
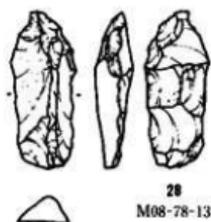
第82图 S 95 · S 96地点母岩别遗物分布状况 (流纹岩)



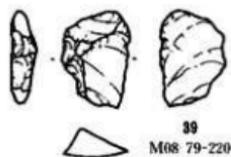
第83图 S95·S96地点石器类器图 1



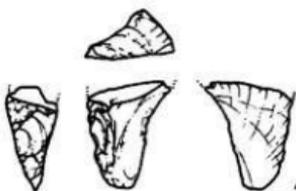
第84图 S95·S96地点石器实测图 2



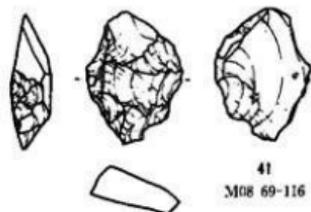
第85图 S95·S96地点石器夹测图 3



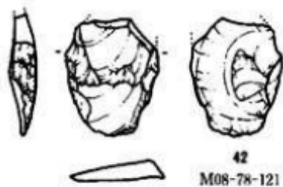
39
M08-79-220



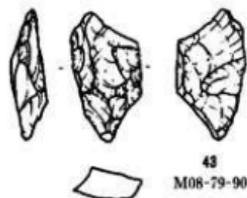
40
M08-79-299



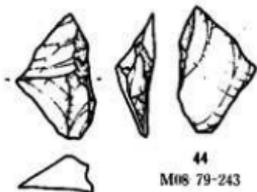
41
M08-69-116



42
M08-78-121



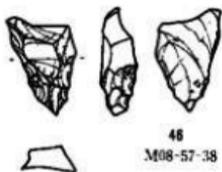
43
M08-79-90



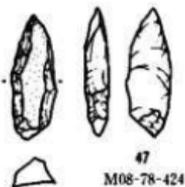
44
M08-79-243



45
M08-78-125



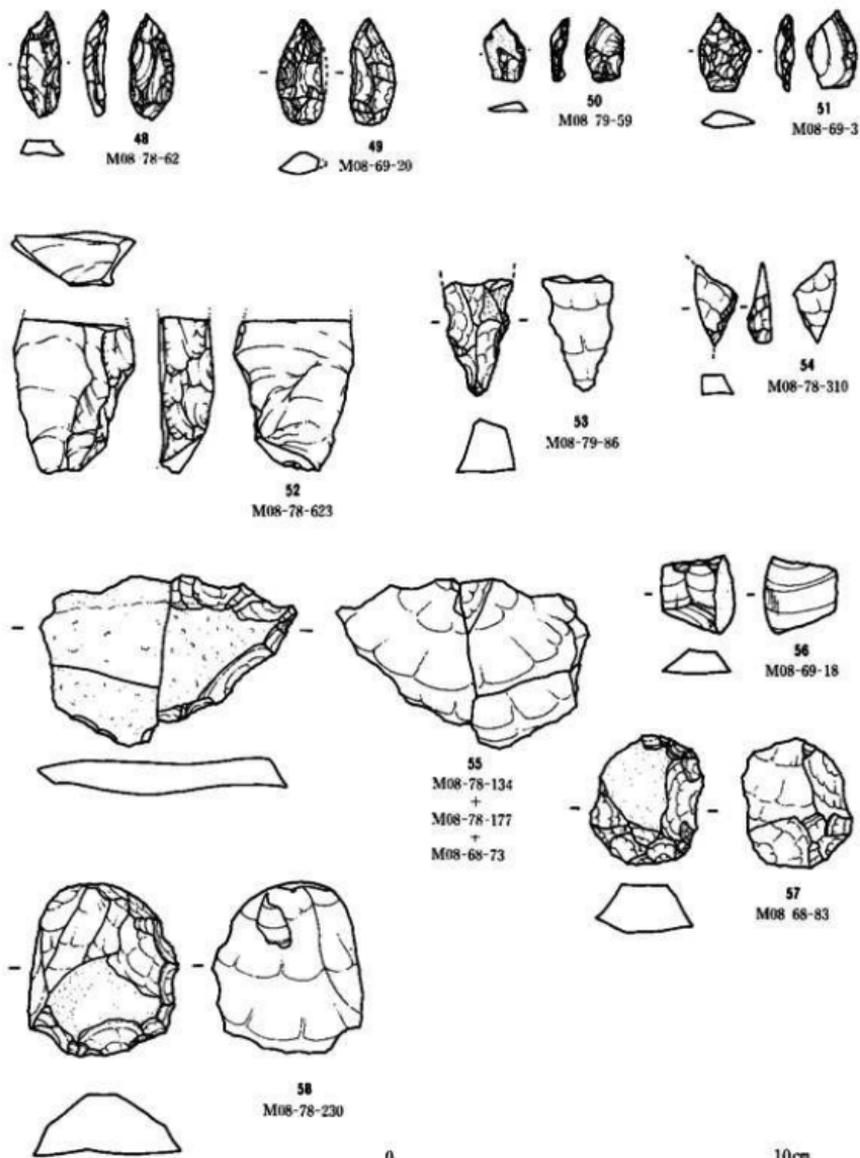
46
M08-57-38



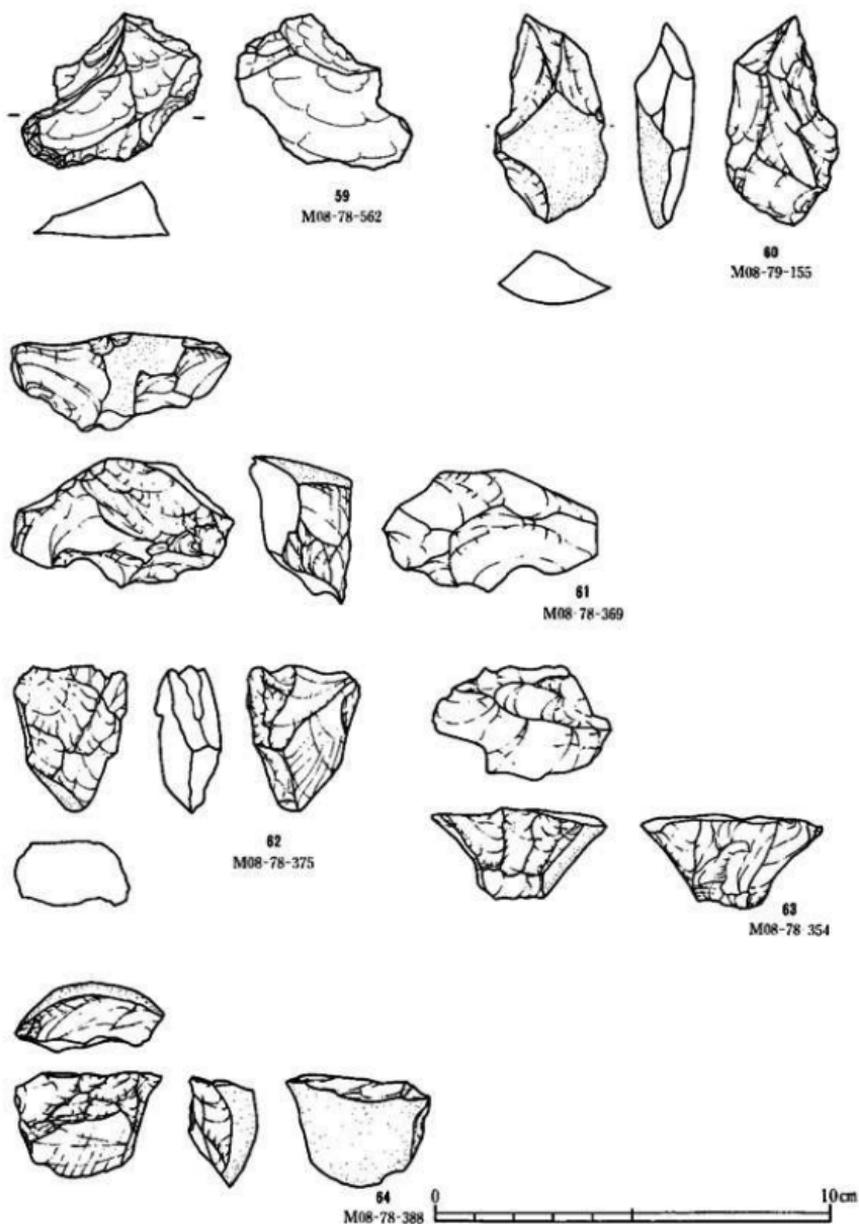
47
M08-78-424



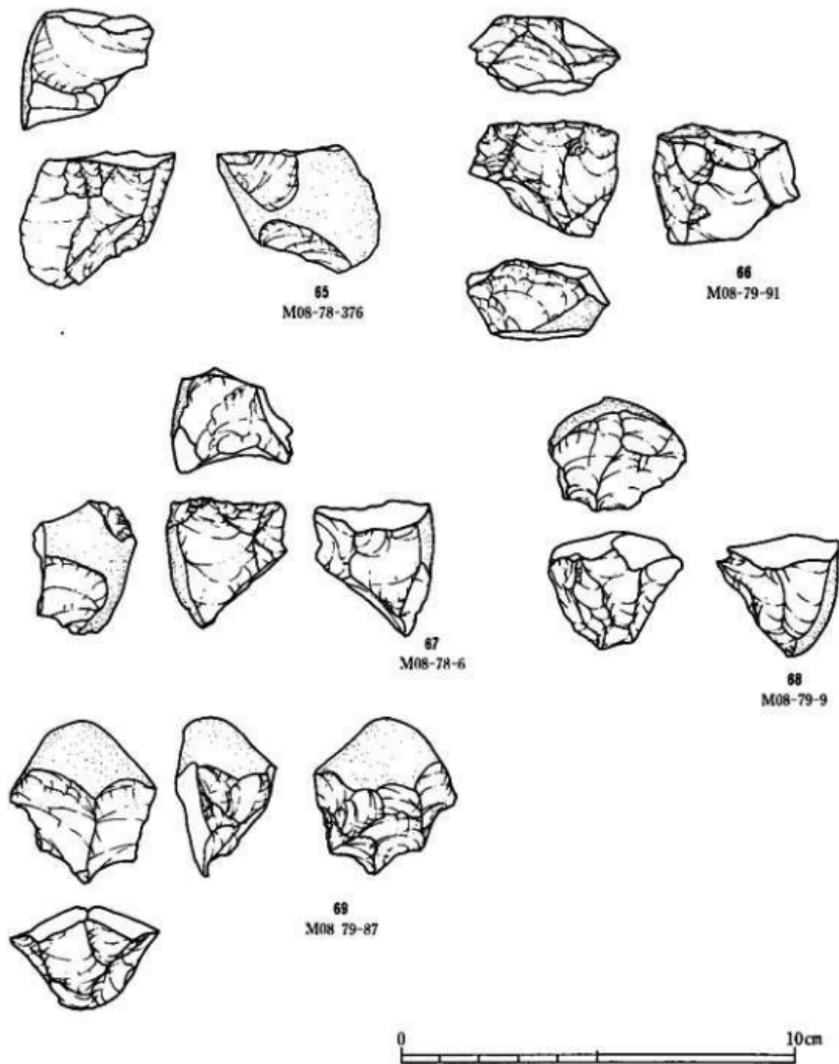
第86图 S95·S96地点石器实测图 4



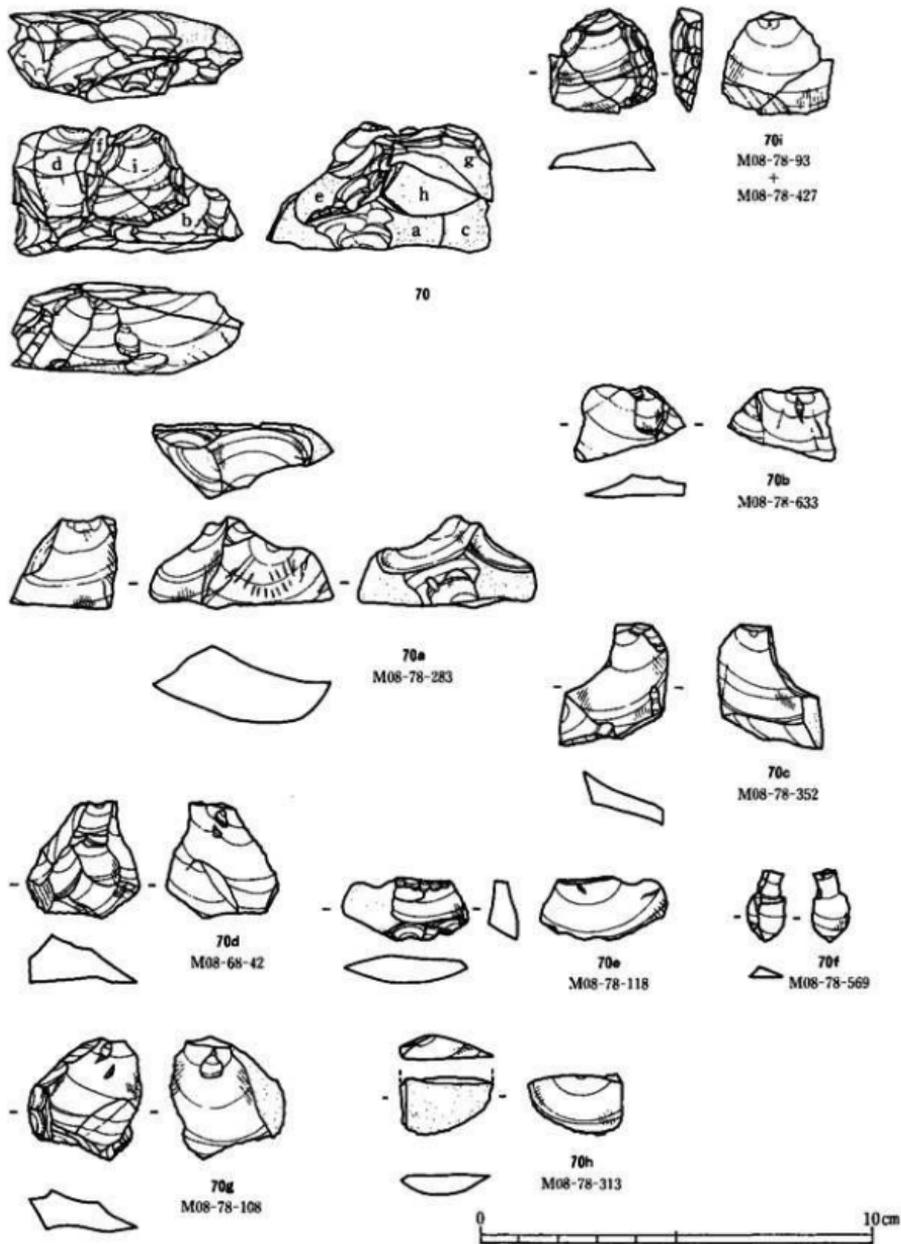
第87图 S95·S96地点石器夹测图 5



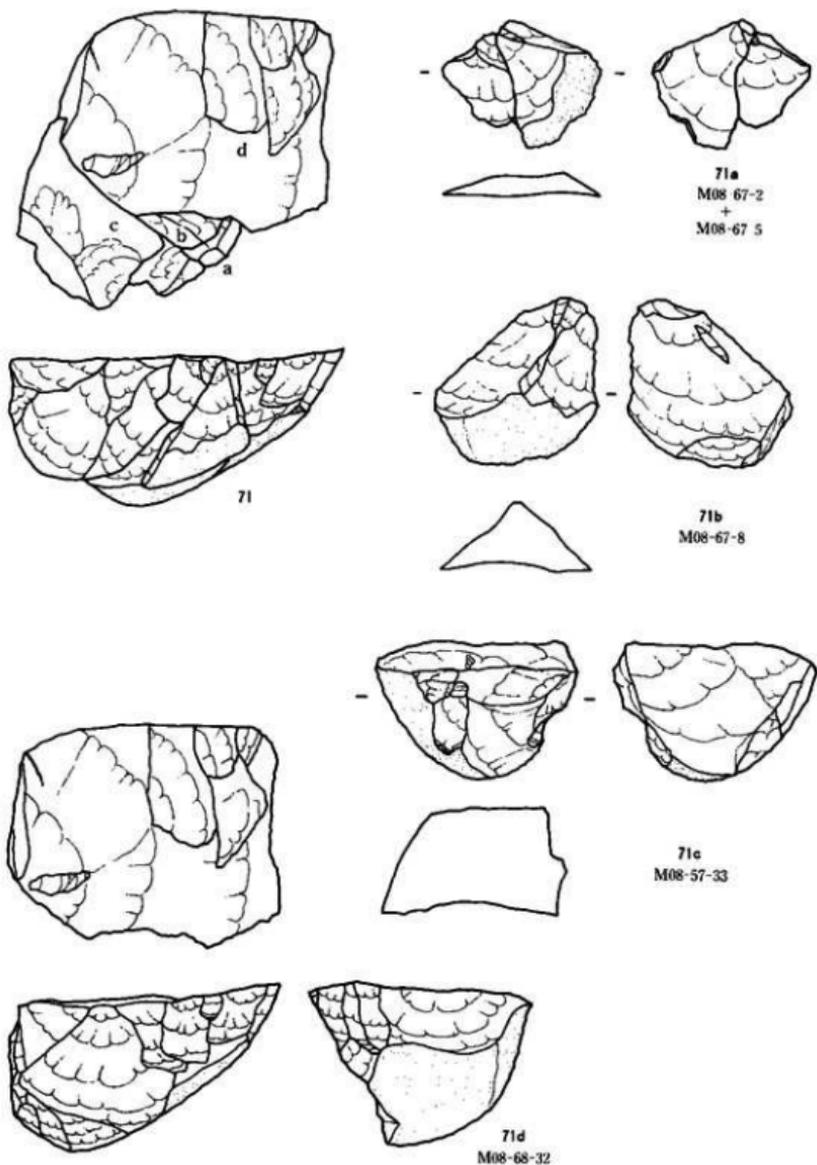
第88图 S95·S96地点石器实测图 6



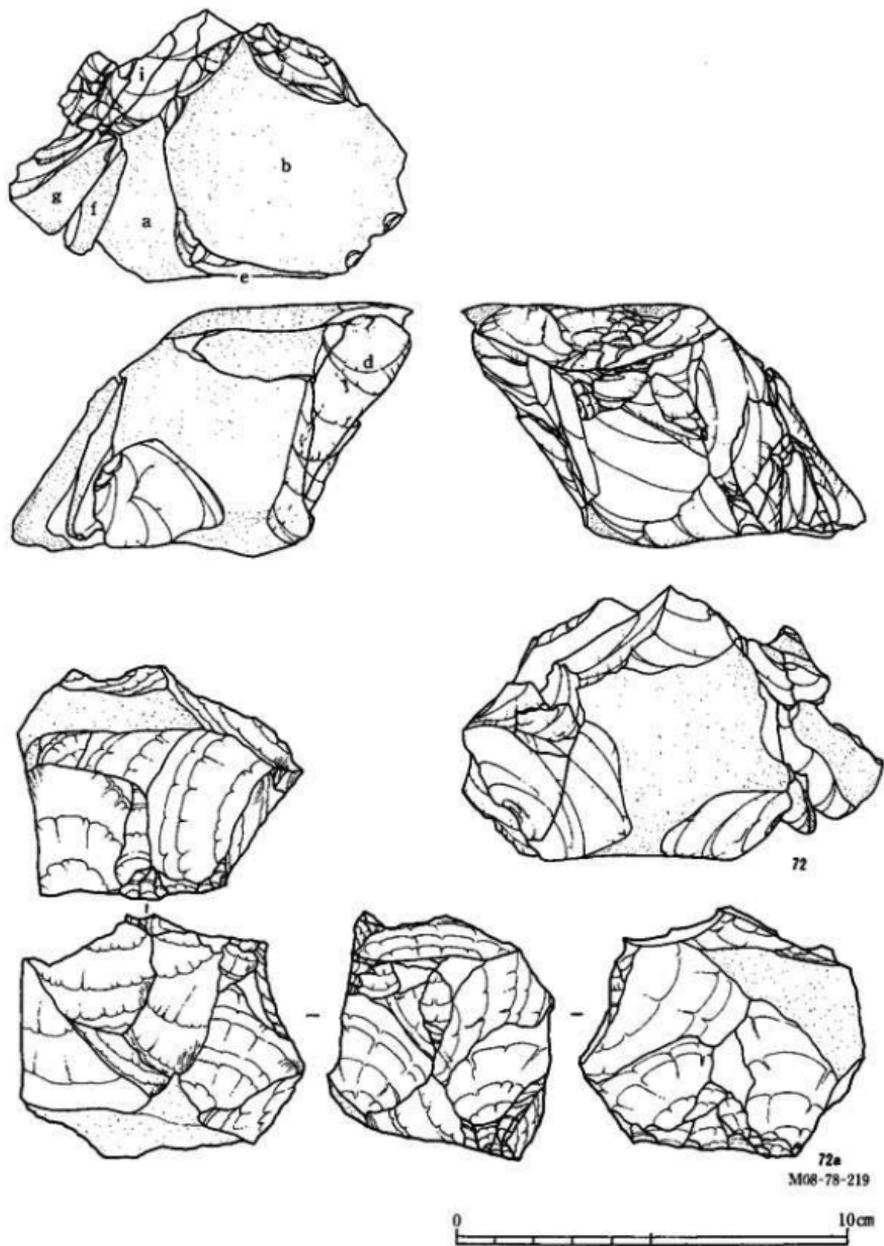
第89图 S95·S96地点石器实测图 7



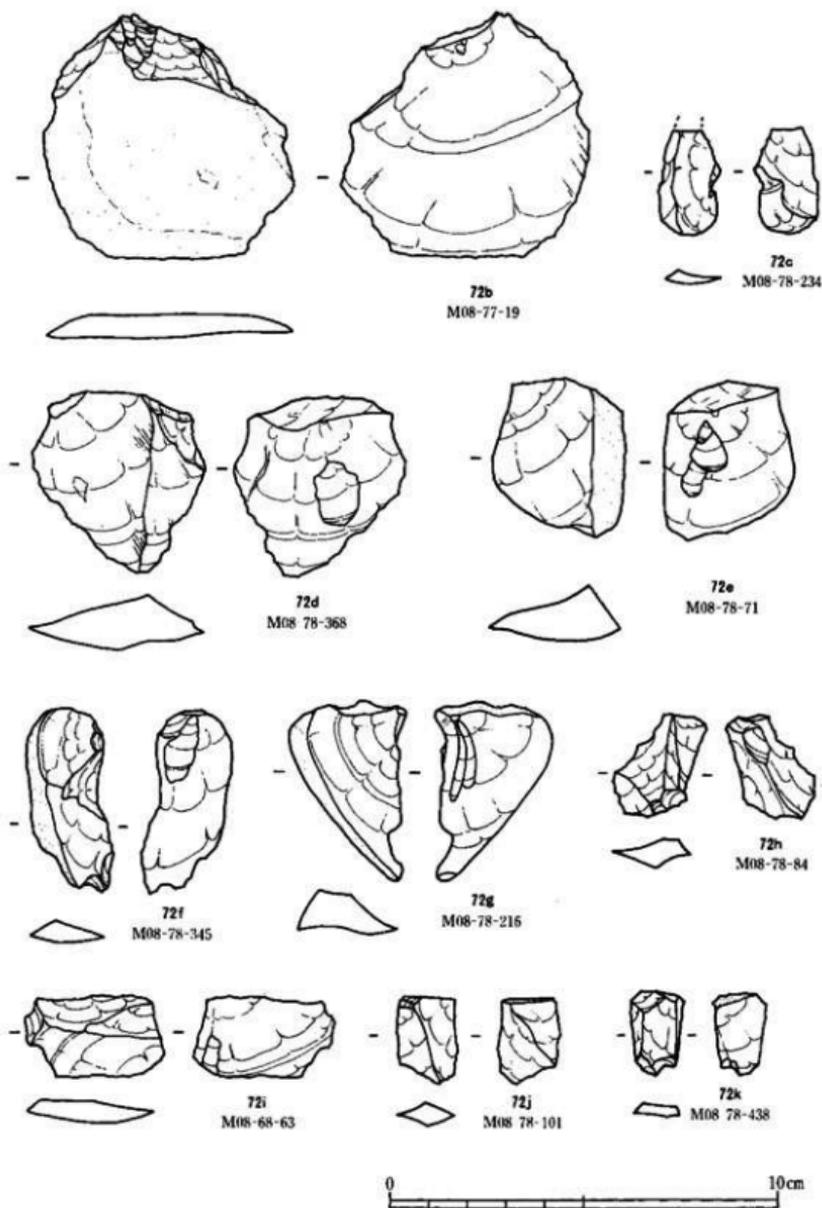
第90图 S95·S96地点石器实测图 8



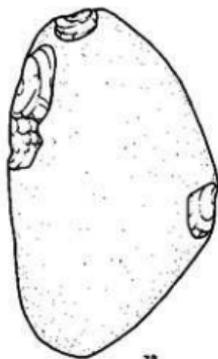
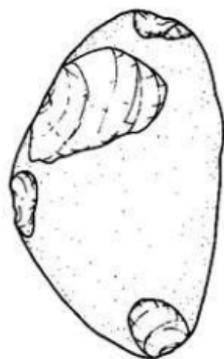
第91图 S95·S96地点石器实物图 9



第92图 S95·S96地点石器实测图 10

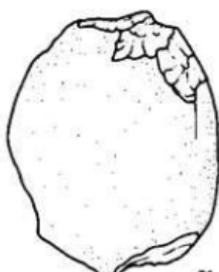
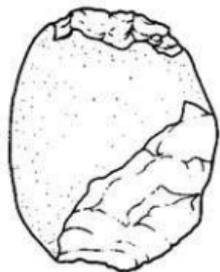
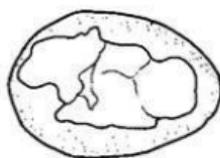


第93圖 S95・S96地点石器実測圖 11



73

M08-79-236



74

M08-57-16



第94图 S95·S96地点石器实测图 12

第31表 S95・S96地点遺物観察表 2

押 番 号	グリッド	遺物番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	母 岩
44	M08-79	243	ナイフ形石器	3.12	1.88	1.06	3.69	安山岩	安山岩45
45	M08-78	125	ナイフ形石器	2.06	2.64	0.81	4.66	安山岩	安山岩48
46	M08-57	38	ナイフ形石器	2.00	1.24	0.71	2.06	黒曜石	黒曜石17
47	M08-78	424	ナイフ形石器	3.15	1.15	0.63	2.48	安山岩	安山岩39
48	M08-78	62	ナイフ形石器	2.68	1.05	0.48	1.37	黒曜石	黒曜石21
49	M08-69	20	尖頭器	2.62	1.14	0.66	2.06	凝灰岩	未分類
50	M08-79	59	ナイフ形石器	1.64	1.96	0.34	0.55	黒曜石	未分類
51	M08-69	3	尖頭器	1.92	1.27	0.46	1.07	黒曜石	黒曜石18
52	M08-78	623	ナイフ形石器	3.70	2.49	1.30	16.68	凝灰岩	凝灰岩4
53	M08-79	86	角錐状石器	2.93	1.44	1.30	6.10	安山岩	安山岩31
54	M08-78	310	ナイフ形石器	1.99	1.00	0.63	0.78	安山岩	安山岩39
	M08-68	73	削器	4.08	6.27	1.07	26.46	安山岩	安山岩39
55	M08-78	134							
	M08-78	177							
56	M08-78	18	楔形石器	1.68	1.77	0.53	1.84	珪質頁岩	珪質頁岩13
57	M08-68	83	削器	2.58	3.34	1.12	10.78	安山岩	安山岩44
58	M08-78	230	削器	4.29	3.57	1.59	30.00	安山岩	安山岩31
59	M08-78	562	削器	2.77	1.84	1.42	20.96	安山岩	安山岩43
60	M08-79	155	削片	2.30	5.34	1.49	20.59	安山岩	安山岩46
61	M08-78	369	石核	5.53	3.06	2.44	37.33	凝灰岩	凝灰岩4
62	M08-78	375	石核	3.02	3.05	1.57	14.23	安山岩	安山岩43
63	M08-78	354	石核	2.25	4.38	2.83	24.01	安山岩	安山岩31
64	M08-78	388	削片	2.63	3.16	2.90	17.47	安山岩	未分類
65	M08-78	376	石核	3.74	3.13	2.63	31.17	安山岩	未分類
66	M08-79	91	石核	2.20	3.58	1.84	21.36	安山岩	安山岩43
67	M08-78	6	石核	2.98	2.92	2.20	23.35	安山岩	安山岩43
68	M08-79	9	石核	2.94	3.27	2.72	27.98	安山岩	安山岩41
69	M08-79	87	石核	4.07	3.60	2.34	27.94	安山岩	未分類
70 a	M08-78	283	石核	2.27	3.23	1.90	15.35	チャート	チャート7
70 b	M08-68	633	削片	1.52	2.39	0.73	2.82	チャート	チャート7
70 c			削片	2.55	2.64	1.35			
70 d	M08-68	42	削片	2.46	3.20	1.12	8.10	チャート	チャート7
70 e	M08-78	118	R 削片	3.22	1.43	0.72	3.61	チャート	チャート7
70 f	M08-78	569	削片	1.75	0.95	0.22	0.36	チャート	チャート7
70 g	M08-78	108	削片	2.67	2.40	1.05	7.35	チャート	チャート7
70 h	M08-78	313	削片	1.33	2.21	0.54	1.87	チャート	チャート7
70 i	M08-78	93+427	削器	2.85	2.47	0.74	5.80	チャート	チャート7
71 a	M08-67	2+5	削片	3.27	3.95	0.69	7.49	安山岩	安山岩31
71 b	M08-67	8	削片	4.74	3.22	1.90	28.77	安山岩	安山岩31
71 c	M08-57	33	削片	3.26	4.91	2.80	48.30	安山岩	安山岩31
71 d	M08-68	32	石核	6.56	5.06	5.38	151.60	安山岩	安山岩31
72 a	M08-78	219	石核	6.43	5.61	5.28	264.40	頁岩	頁岩1
72 b	M08-77	19	削片	6.04	6.12	1.52	47.31	頁岩	頁岩1
72 c	M08-78	234	砕片	2.68	1.27	0.33	1.08	頁岩	頁岩1

第32表 S95・S96地点遺物観察表 3

標記番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
72 d	M08-78	368	剥片	4.90	4.48	1.50	20.30	頁岩	頁岩 1
72 e	M08-78	71	剥片	4.17	3.27	1.36	18.63	頁岩	頁岩 1
72 f	M08-78	345	剥片	4.76	1.70	0.76	6.06	頁岩	頁岩 1
72 g	M08-78	216	剥片	2.43	4.83	1.32	11.91	頁岩	頁岩 1
72 h	M08-78	84	剥片	1.82	3.00	0.60	2.80	頁岩	頁岩 1
72 i	M08-68	63	剥片	1.98	3.39	0.56	3.88	頁岩	頁岩 1
72 j	M08-78	101	砕片	2.04	1.42	0.59	1.57	頁岩	頁岩 1
72 k	M08-78	438	砕片	1.89	1.19	0.62	1.37	頁岩	頁岩 1
73	M08-78	236	叩き石	9.60	5.28	1.98	104.20	凝灰岩	未分類
74	M08-57	16	叩き石	6.53	5.37	3.57	148.50	花崗岩	未分類

共有状況から見て、これらがすべて同時期に形成されたものでない事は明かであり、近接した時間ではあるかも知れないが、繰り返しこの地点が使用された結果に形成された遺物集地点であろう。

12 S97地点 (第95～97図、第33表、図版12)

a) 分布

S97地点はS95・S96地点の南

第33表 S97地点遺物集計表

側に位置する遺物集地点で、S

95・S96地点との間に約4mの遺物空白域がある。遺物の出土層はIV層下部と考えられ、標高15.4～15.5mに集中する。

母岩の所有状況からS95・S96地点と密接な関係にあったことが窺われる。

資料総数 36点

最大値 15.607m

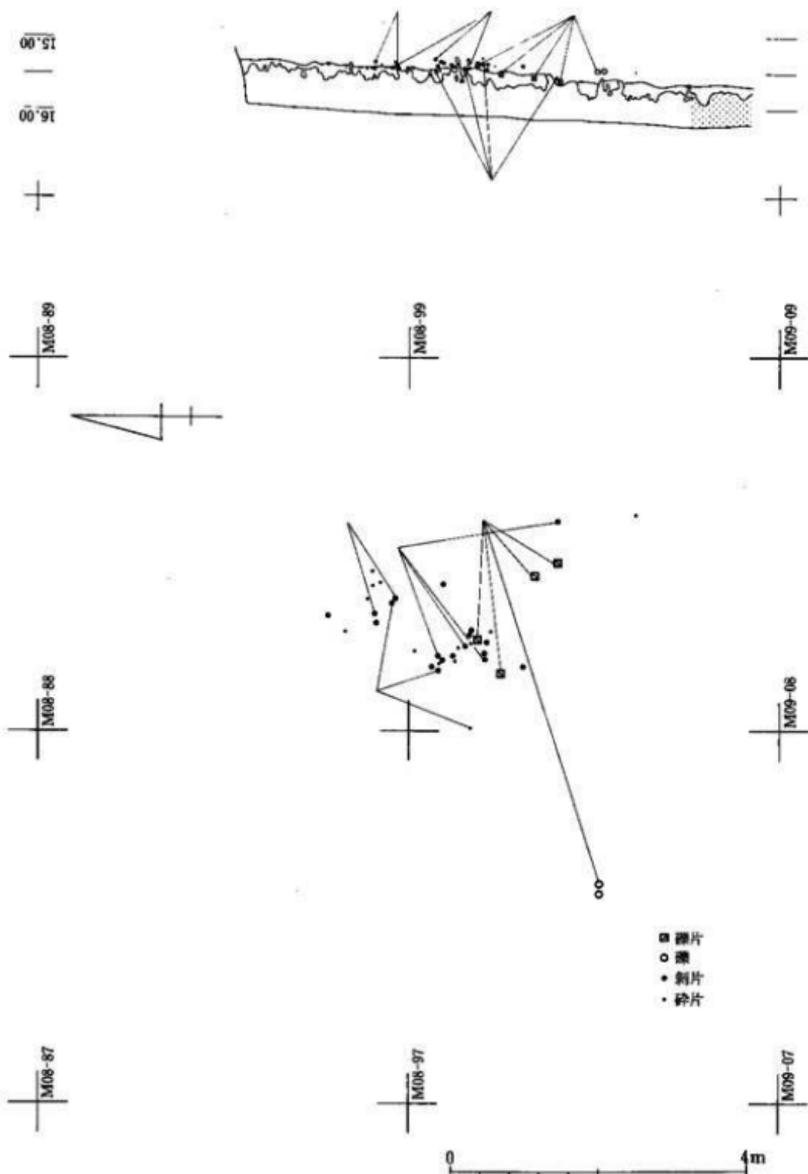
最小値 15.084m

平均値 15.406m

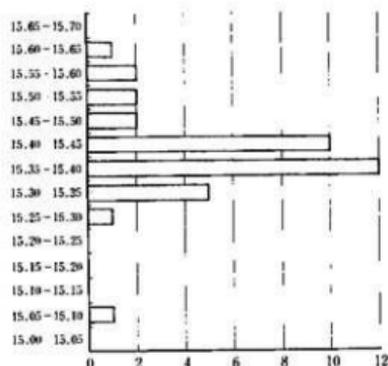
標準偏差 0.092

母岩	礫	剥片	砕片	合計	%
安山岩 31		4 53.70	1 0.28	5 53.98	13.89 8.44
安山岩 32			2 0.89	2 0.89	5.56 0.14
安山岩 34		1 3.70		1 3.70	2.78 0.58
安山岩 44		1 3.21	14 9.24	15 12.45	41.67 1.95
黒曜石		1 2.14	1 0.37	2 2.51	5.56 0.39
流紋岩 6		4 19.30	1 0.19	5 19.49	13.89 3.05
砂岩		1 14.96		1 14.96	2.78 2.34
礫 226	4 455.67			4 455.67	11.11 71.23
礫 300	1 76.08			1 76.08	2.78 11.89
合計	5 531.75	12 97.01	19 10.97	36 639.73	100.02 100.01
%	13.89 83.12	52.78 15.16	33.33 1.71	100.00 99.99	

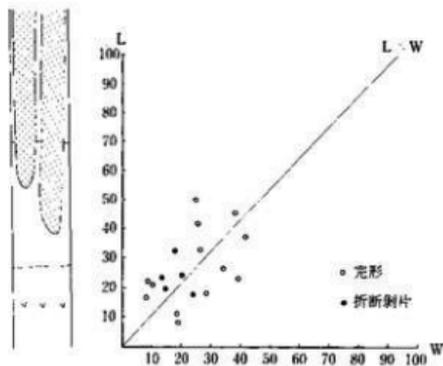
(上段は点数、下段は重量)



第96圖 S97地点遺物分布狀況



第96図 S97地点遺物垂直分布



第97図 S97地点剥片計測値

b) 石器

石器総数は36点で、やはり安山岩が主体となる。製品は含まれておらず、剥片と碎片が卓越する。安山岩は4種の母岩が判別でき、すべてS95・S96地点と共通するものである。

13 S103地点

(第98~101図、第34・35表、図版12)

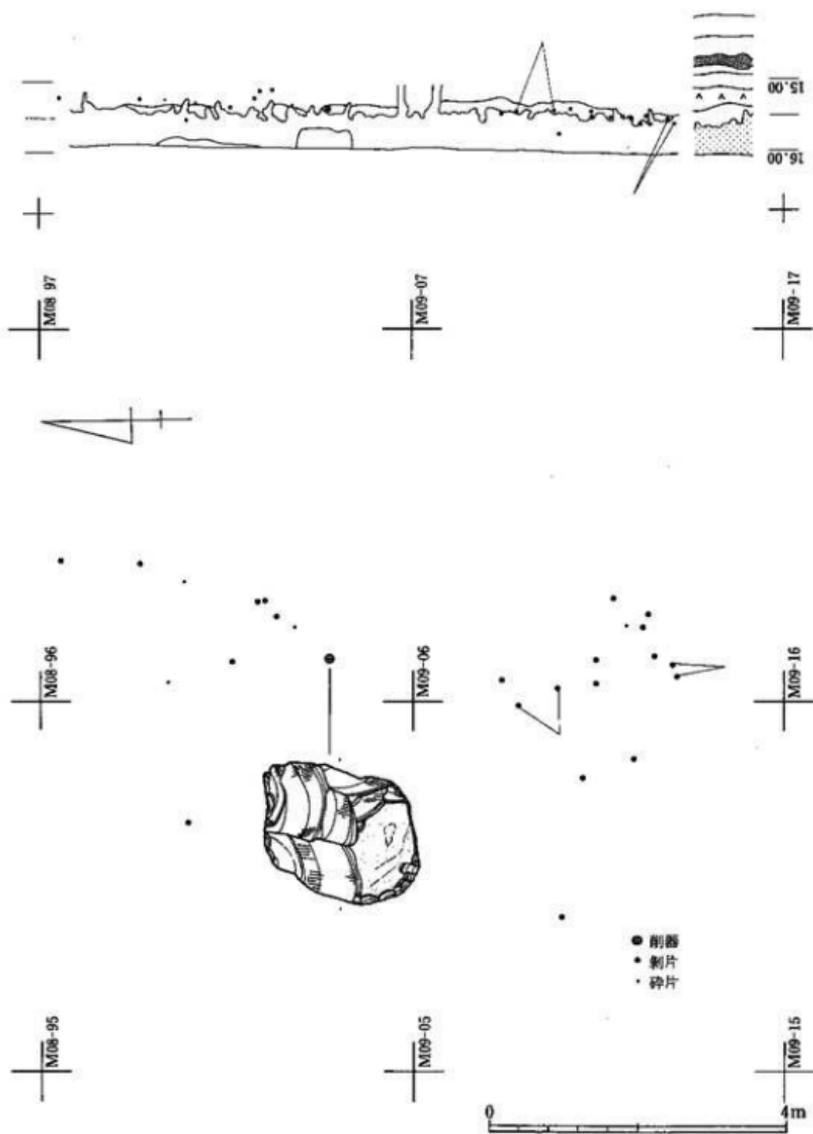
a) 分布

S103地点はS95・S96地点の西側に位置する遺物集中地点で、位置的には第1文化層のS105地点と隣接している。遺物の出土層準はハードローム層最上部であり、遺物の分布状況から南北に二

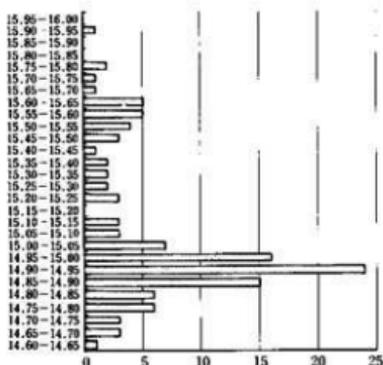
第34表 S103地点遺物集計表

母岩	石核	削器	剥片	碎片	合計	%
安山岩 31			1 30.71	1 0.31	2 31.02	8.00 15.75
安山岩 32				2 1.32	2 1.32	8.00 0.67
安山岩 34			2 4.37	2 0.69	4 5.06	16.00 2.57
安山岩 35			2 15.09	2 1.30	4 16.39	16.00 8.32
安山岩 36			3 53.54		3 53.54	12.00 27.19
安山岩			1 22.02		1 22.02	4.00 11.18
チャート				1 0.87	1 0.87	4.00 0.44
珪質頁岩 10			2 8.31	1 1.06	3 9.37	12.00 4.76
黒曜石				1 0.67	1 0.67	4.00 0.34
流紋岩 7	1 18.68			2 3.33	3 22.01	12.00 11.18
流紋岩		1 34.64			1 34.64	4.00 17.59
合計	1 16.68	1 34.64	11 134.04	12 9.55	25 196.91	100.00 99.99
%	4.00 9.49	4.00 17.59	44.00 68.07	48.00 4.85	100.00 100.00	

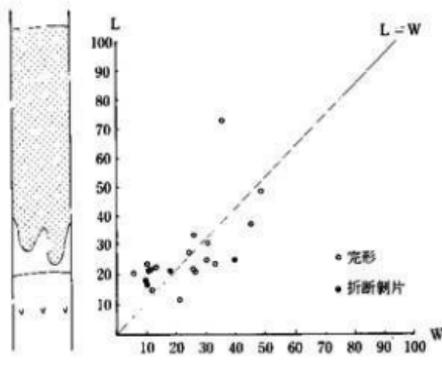
(上段は点数、下段は重量)



第98图 S103地点遗物分布状况



第99図 S103・S104・S105地点遺物垂直分布



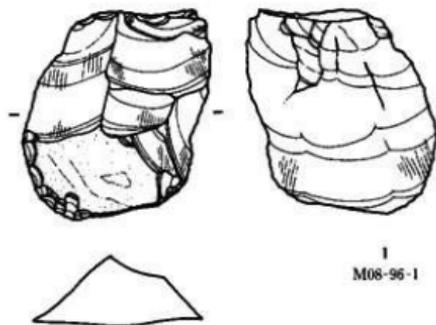
第100図 S103地点削片計測値

分できる。両者に出土レベルの違いはなく、使用石材も差があるとは言えない。

資料総数	25点
最大値	15.795m
最小値	15.112m
平均値	15.435m
標準偏差	0.1718

b) 石器

石器総数は25点で、使用石材はやはり安山岩が主体的である。安山岩は5種の母岩を判別したが、安山岩36を除いた4母岩はS95・S96地点やS104地点と共有している。



第101図 S103地点石器実測図

削片は全体に大きく、原礫面を残すものは少ない。製品は流紋岩製の削器が1点ある。

c) 特徴

器種別の組成率は点数比で削片と碎片がほぼ同数含まれており、S95・S96地点の器種構成

第35表 S103地点遺物観察表

種目番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	M08-96	1	削器	5.31	4.00	1.56	34.64	流紋岩	未分類

の特徴と差はない。安山岩製の剥片は比較的大形のものが目立ち、形も整っている。これらの剥片と同一母岩と判別できる碎片はなく、S95・S96地点で剥出された剥片の中から選択して搬入したものと思われる。

14 S104地点 (第102・103図、第36表、図版12)

a) 分布

S103地点の北西に約5mの無遺物域をおいて位置する遺物集中地点で、M08-84グリッドを中心に遺物が分布している。遺物の産出層準はハードローム層上部であり、標高14.7m付近に集中する。平面的には南北に二つの極があり、南側がより大きい集中地点である。両者の間には少ないながら接合資料があり、ほぼ同時期に形成されたものと考えられる。

資料総数	87点
最大値	15.727m
最小値	14.612m
平均値	14.915m
標準偏差	0.1322

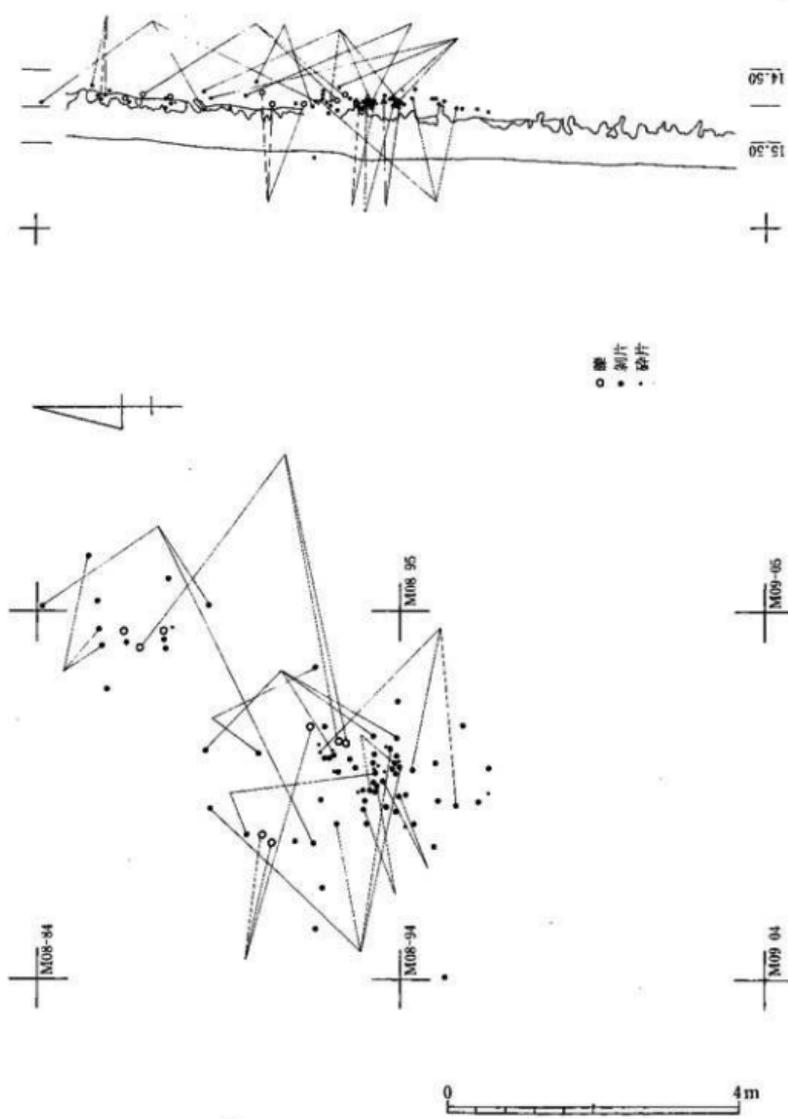
b) 石器

石器総数は87点で、この中に礫片が8点含まれている。礫はすべて破碎されているが、原礫は直径10cm以上のものと復元できる。他はすべて剥片と碎片で、剥片は点数比で全体の67.82%を占めるのに対し、碎片は22.99%しかない。石器組成率の特徴としてS95・S96地点とは区別出来るもので、本地点では若干

第36表 S104地点遺物集計表

母岩	礫	剥片	碎片	合計	%
安山岩 31		7 185.77		7 185.77	8.05 13.13
安山岩 32		2 8.80	1 0.94	3 9.74	8.05 0.69
安山岩 35		3 30.20		3 30.20	8.05 2.13
安山岩 37		14 320.90	9 5.14	23 326.04	26.44 23.05
安山岩 38		3 15.70	3 1.75	6 17.45	6.90 1.23
安山岩 39		6 26.82	1 1.10	7 27.92	8.05 1.97
安山岩	2 332.21	4 59.34	1 0.42	7 391.97	8.05 27.71
凝灰岩		1 6.74		1 6.74	1.15 0.48
チャート		1 31.24		1 31.24	1.15 2.21
珪質頁岩11		3 17.21	1 0.67	4 17.88	4.60 1.26
珪質頁岩12		2 8.90	2 1.10	4 10.00	4.60 0.71
珪質頁岩		1 2.04		1 2.04	1.15 0.14
流紋岩 7		1 10.92		1 10.92	1.15 0.77
流紋岩 8		6 12.97		6 12.97	6.90 0.92
流紋岩 9		5 35.59	2 1.69	7 37.28	8.05 2.64
礫 228	3 143.30			3 143.30	3.45 10.13
礫 234	3 153.26			3 153.26	3.45 10.83
合計	8 628.77	59 773.14	20 12.81	87 1414.72	100.04 100.00
%	9.20 44.44	67.82 54.65	22.99 0.91	100.01 100.00	

(上段は点数、下段は重量)



第102圖 S104地点遺物分布状況

の礫を伴っているが、数値の上からはS32地点に近い様相を呈している。使用石材は安山岩が主体となり、安山岩6種、珪質頁岩2種、流紋岩3種を判別した。

安山岩 安山岩は安山岩38が本地点に限られる母岩で、安山岩31に近いようにみえるが、白色の珪晶を含み、風化も進んでいる。安山岩全体では比較的大きな剥片が目立つが、形状は不定形で原礫面を残すものが26点含まれている。即ち、安山岩製の剥片の実に67%が原礫面を残すものとなる。

このことは本地点が剥片剥離の第1段階を行った

場として理解でき、本格的な剥片剥離作業は他の地点へ石核を搬出してから行ったという工程が想像できる。

珪質頁岩 珪質頁岩は2種とも本地点に限られる母岩である。

流紋岩 流紋岩7は赤色を呈する石材で、S103地点の遺物と接合する。他の2種は本地点に限られる。流紋岩8は緑灰色を呈し、比較的精った剥片が含まれている。このうち3点が接合する。流紋岩9は青灰色に白色の細かい縞が入るもので、原礫面を残す剥片が2点ある。

c) 特徴

遺物の分布は南北に二分されるが、両地点に僅かな礫を伴っている。石器の使用石材は安山岩が主体となり、剥片は原礫面を残すものが非常に多い。

第4節 第3文化層

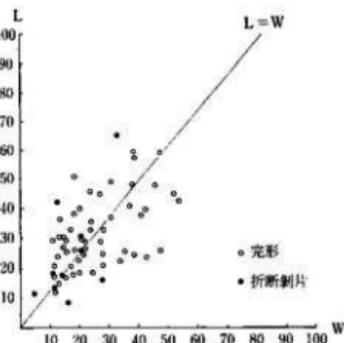
第3文化層はVI層を中心とした遺物集中地点であるが、本遺跡からは良好な資料は得られていない。VI層を産出層準とする遺物集中地点はS101地点があるが、この地点は単独で1点の遺物が出土しただけである。

1 S101地点

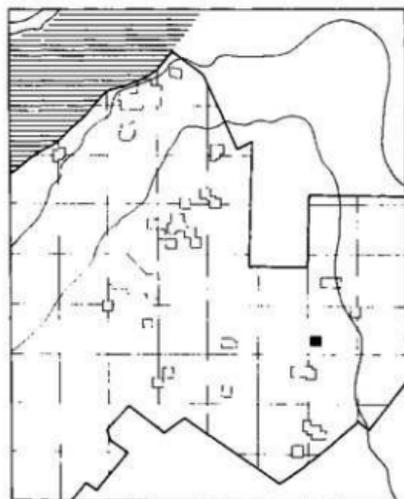
(第104・105図、第37・38表、図版13)

a) 分布

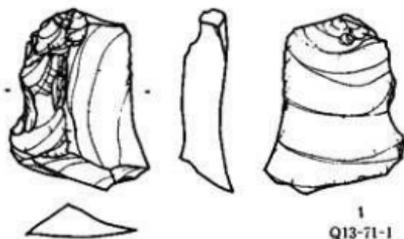
Q13-71グリッドから遺物が単独で1点出土



第103図 S104地点剥片計測値



第104図 S101地点の位置



第105図 S101地点石器実測図

第37表 S101地点遺物集計表

母岩	R剥片	合計	%
珪質頁岩	1 14.57	1 14.57	1 14.57
合計	1 14.57	1 14.57	100.00 100.00
%	100.00 100.00	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)

第38表 S101地点遺物観察表

種目番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	Q13-71	1	剥片	4.74	3.14	1.14	14.57	珪質頁岩	未分類

した。1は珪質頁岩製の剥片で、左側縁に僅かに調整が、右側縁に使用痕が観察できる。

第5節 第4文化層

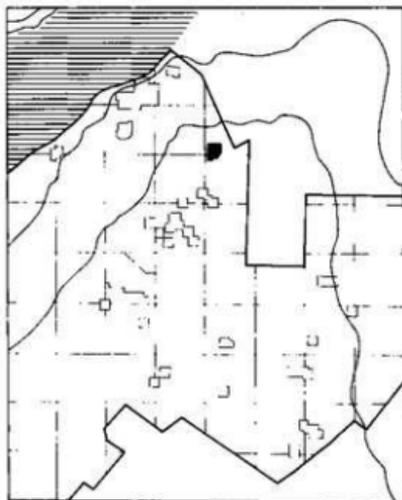
第4文化層は第2黒色帯上部の文化層で、Ⅶ層からⅨa層を産出層準としている。S38・S47・S63・S67・S69・S71・S74・S75・S76・S77・S106・S107地点の12地点があり、大きな遺物集中地点はない。

1 S38地点

(第106～111図、第39・40表、図版13)

a) 分布

S38地点は須久茂谷津に面する台地上部の平坦面の縁辺に位置し、O09-92からO10-02グリッドを中心に遺物が分布している。垂直分布の状況は幅が広く、Ⅲ層からⅦ層に及び、産出層準の決定の根拠が薄弱な面があるのも事実である。また、第108図の遺物垂直分布のヒストグラムからⅢ層中に別のピークが見られ、これらは明らかに第2文化層に帰属するものである。



第106図 S38地点の位置

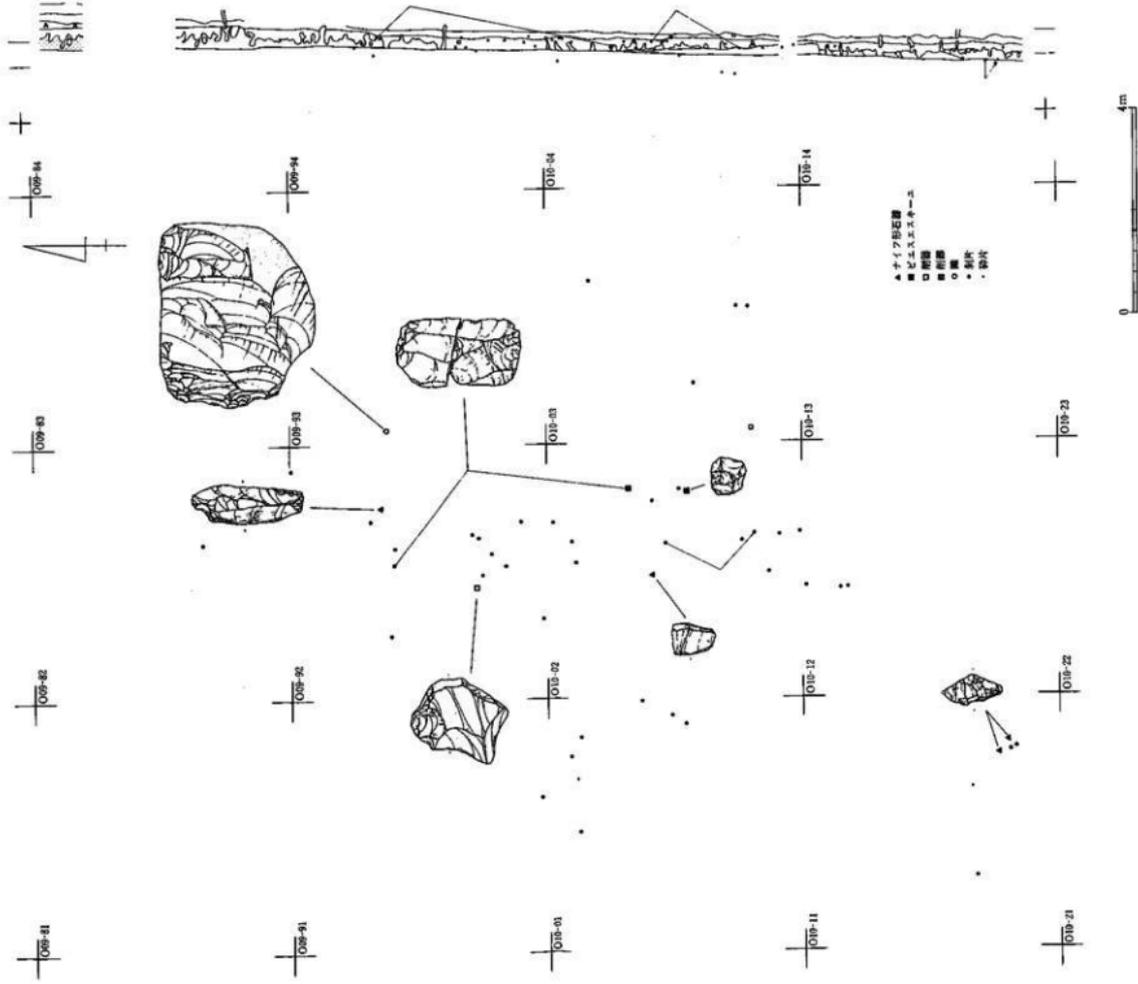


圖 107 圖 S 38 地点遺物分布状況

資料総数	51点
最大値	21.815m
最小値	21.005m
平均値	21.260m
標準偏差	0.2112

b) 石器

石器総数は51点で、使用石材は安山岩・チャート・凝灰岩等が目立つ。個々の母岩の資料数は少なく、最大でチャート2の8点で、1点しかない石材も7種認められる。

安山岩 安山岩は3種の母岩を判別

した。安山岩8は黒色の珪晶を僅かに含むが緻密な石材で、安山岩では最多の4点があるが、すべて不定形な厚手の剥片である。安山岩7にはピエスエスキューが1点ある。第110図3は安山岩製のナイフ形石器で、未分類の母岩であるが、S38地点出土遺物の中に同一母岩の資料はない。刃部を欠損するが、基部両側縁に調整がある。

チャート チャートは2種の母岩を判別した。

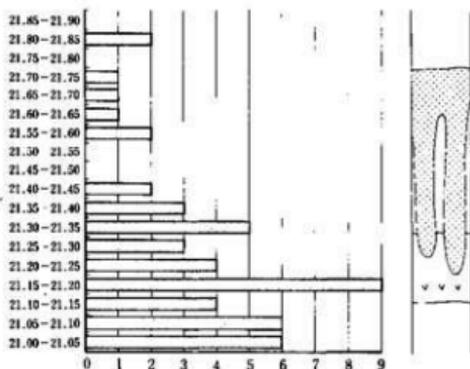
チャート2は深緑色の良質の石材で点数も多く、

ピエスエスキューが1点含まれている。剥片は不定形でやや厚手である。チャート38は黒色で質感の粗い石材で、第110図1のナイフ形石器が製作されている。1は石刃様の剥片を使用したナイフ形石器で、左側縁のほぼ全面と右側縁の基部寄りに調整が行われている。左側縁の調整は表面から裏面に向けて行われている。このほか未分類としたものが1点ある。緑色を呈した良質の石材で、第110図3に図示した。剥片の端部及び左側縁に僅かに使用痕が観察できる。

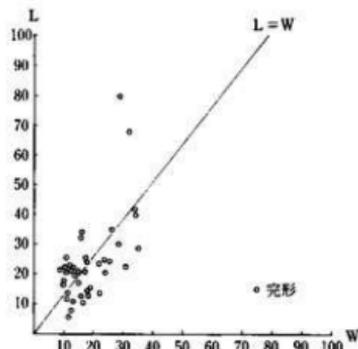
ホルンフェルス 合計5点が出土した。すべて礫片とも見える剥片である。

凝灰岩 凝灰岩3と母岩未分類としたものがある。凝灰岩3所謂トロトロ石で小形の剥片と碎片がある。未分類としたものは第110図7に示した1点だけである。

黒曜石 黒曜石8と未分類のナイフ形石器がある。黒曜石8はすべて碎片であり、第110図2のナイフ形石器は第2文化層に帰属するものである。ナイフ形石器は横長の剥片を素材とし、打点を基部右側に設定し、その部分にブランティングを施している。



第108図 S38地点遺物垂直分布

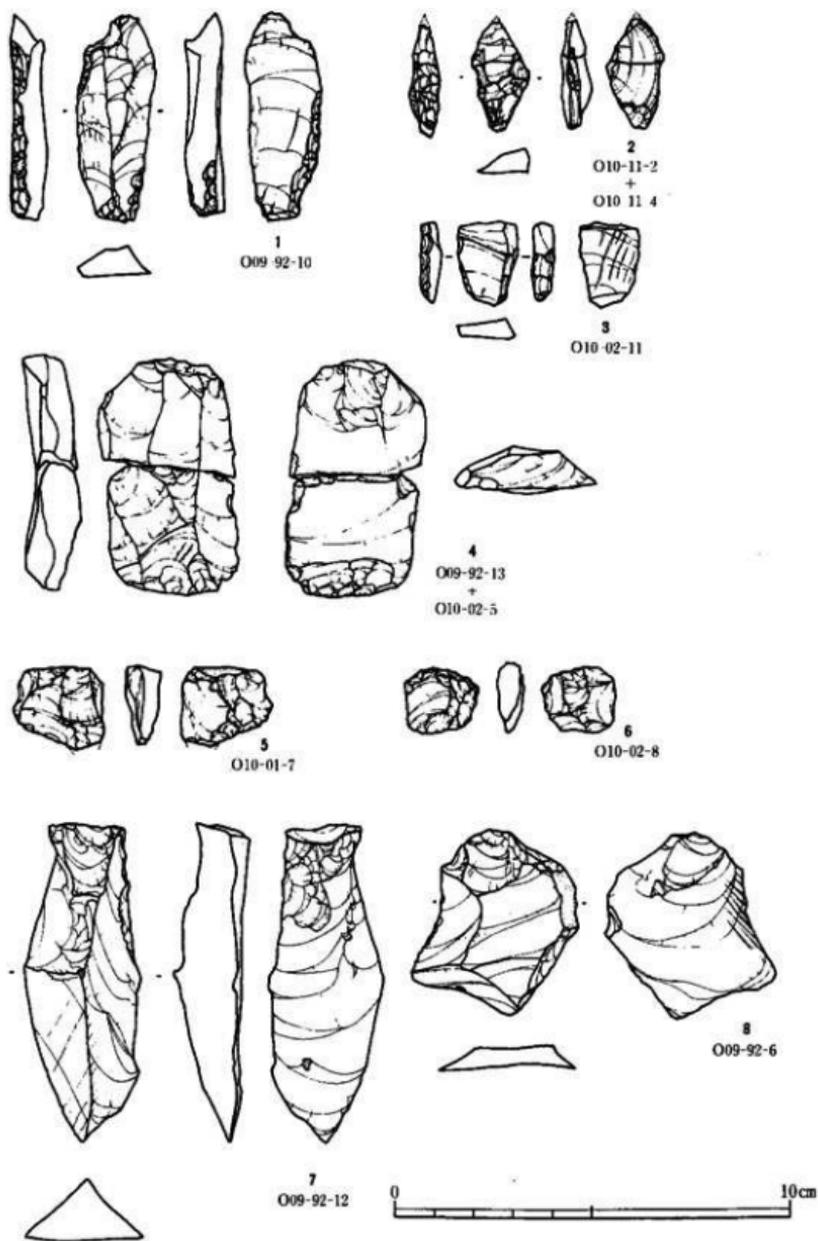


第109図 S38地点剥片計測値

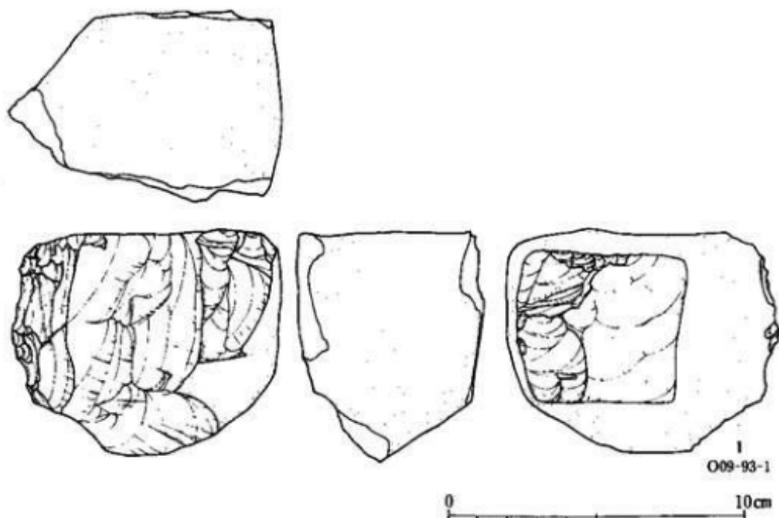
第39表 S38地点遺物集計表

母 岩	礫	台 石	ナイフ	削 器	P, S	剝 片	碎 片	合 計	%
安山岩 7					1 4.18	1 2.02		2 6.20	3.92 0.53
安山岩 8						4 18.64		4 18.64	7.84 1.59
安山岩 9						1 15.11	1 0.86	2 15.97	3.92 1.36
安山岩			1 1.67			3 26.28	3 2.48	7 30.43	13.73 2.60
チャート 2					1 2.18	3 17.51	4 3.91	8 23.60	15.69 2.02
チャート 38			1 10.58			1 1.40		2 11.98	3.92 1.02
チャート				1 15.68				2 17.14	3.92 1.46
フォルンフェルス1						3 199.84		3 199.84	5.88 17.08
フォルンフェルス				2 31.22				2 31.22	3.92 2.67
凝灰岩 3						3 6.98	3 2.29	6 9.27	11.76 0.79
凝灰岩						1 34.84		1 34.84	1.96 2.98
変成岩	1 128.05	1 634.74						2 762.79	3.92 65.19
珪質頁岩							2 1.55	2 1.55	3.92 0.13
メノウ							1 0.55	1 0.55	1.96 0.05
黒曜石 8							3 1.37	3 1.37	5.88 0.12
黒曜石			2 2.56					2 2.56	3.92 0.22
流紋岩							1 0.65	1 0.65	1.96 0.06
砂 岩							1 1.49	1 1.49	1.96 0.13
合 計	1 128.05	1 634.74	4 14.81	3 46.90	2 6.36	20 322.62	20 16.61	51 1170.09	99.98 100.00
%	1.96 10.91	1.96 54.25	7.84 1.27	5.88 4.01	3.92 0.54	39.22 27.57	39.22 1.42	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)



第110图 S38地点石器夹测图 1



第111図 S38地点石器実測図 2

第40表 S38地点遺物観察表

挿図 番号	グリッド	遺物番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	母 岩
1	O09-92	10	ナイフ形石器	5.38	1.77	0.96	10.58	チャート	チャート38
2	O10-11	4	ナイフ形石器	2.83	1.37	0.71	2.56	黒曜石	未分類
	O10-11	2							
3	O10-02	11	ナイフ形石器	2.03	1.45	0.50	1.67	安山岩	未分類
4	O10-02	5	削 器	5.97	3.36	1.15	31.22	ホルンフェルス	未分類
	O09-92	13	削 器						
5	O10-01	7	P, S	2.06	2.34	0.99	4.18	安山岩	安山岩7
6	O10-02	8	P, S	1.59	1.79	0.63	2.18	チャート	チャート2
7	O09-92	12	剥 片	7.97	2.93	1.78	34.84	凝灰岩	未分類
8	O09-92	6	削 器	4.30	3.63	0.75	15.68	チャート	未分類
9	O09-93	1	台 石	6.31	8.99	6.39	634.74	変成岩	未分類

c) 特 徴

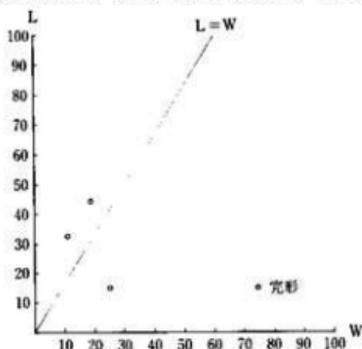
あまりまとまりのない遺物集地点で、使用石材も遺物点数の割に多い。チャート38はナイフ形石器を製作しているが、この石材から製作された石器はナイフ形石器の他に小さな剥片が1点あるだけで、この地点で製作されたものかどうか判断できない。点数として多いのはチャート2や凝灰岩3を挙げることが出来るが、それでも10点以下である。ただ、この2種の石材に限ってみれば、剥片と碎片がほぼ同数存在し、短期間にせよこの地点でこれらの石材の剥片剥離工程が行われたと考えてよいと思う。

2 S47地点

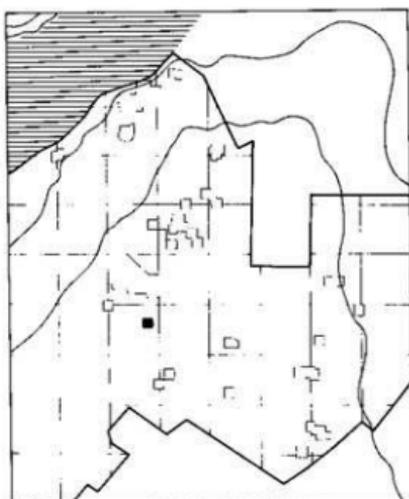
(第113～115図、第41・42表、図版14・15)

a) 分布

S47地点は台地のほぼ中央に位置し、5点の遺物が出土しているが、集中地点と呼ぶのにふさわしくない分布状況である。平面的にはM13-37グリッドからM13-58グリッドにお



第113図 S47地点剥片計測値



第112図 S47地点の位置

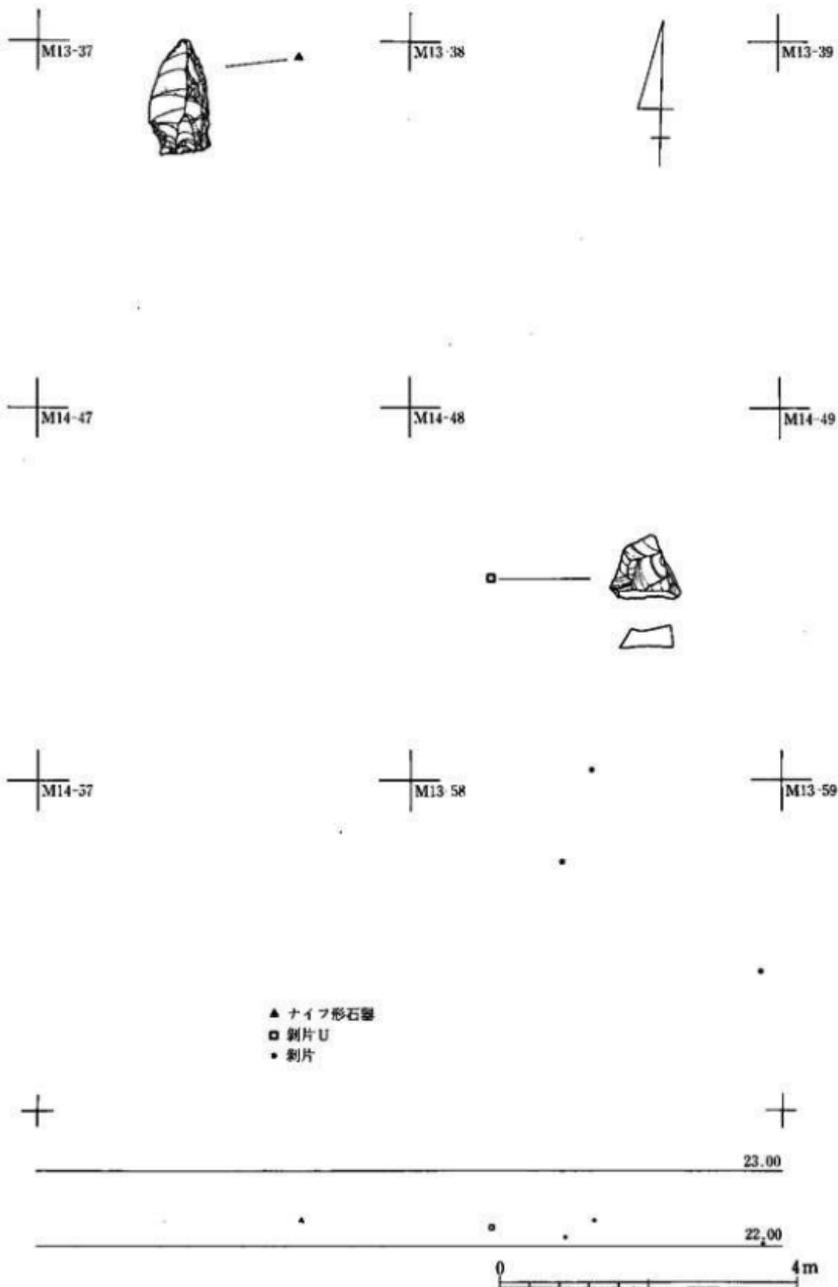
第41表 S47地点遺物集計表

母岩	ナイフ	U剥片	剥片	合計	%
珧質頁岩4			2 9.10	2 9.10	40.00 44.39
珧質頁岩371	1 7.17			1 7.17	20.00 34.98
珧質頁岩481		1 3.04		1 3.04	20.00 14.83
黒曜石			1 1.19	1 1.19	20.00 5.80
合計	1 7.17	1 3.04	3 10.29	5 20.50	100.00 100.00
%	20.00 34.98	20.00 14.83	60.00 50.20	100.00 100.01	

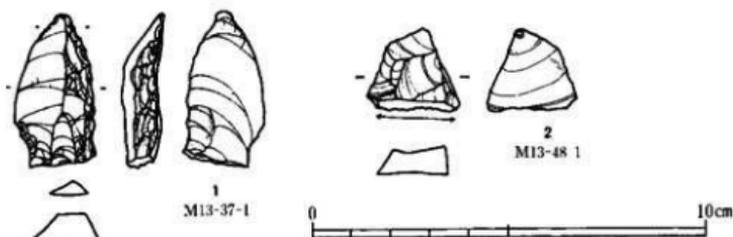
(上段は点数、下段は重量)

第42表 S47地点遺物観察表

押図番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	M13-37	1	ナイフ形石器	4.00	2.01	0.90	7.17	珧質頁岩	珧質頁岩371
2	M13-48	1	使用痕剥片	2.26	2.14	0.74	3.04	珧質頁岩	珧質頁岩481



第114図 S47地点遺物分布状況



第115図 S47地点石器実測図

よび、各遺物間の最短距離の平均は3.6mを測る。遺物の出土層準は明確に記録されていないが、おおよそVII層からIX層上部にかけて出土したようである。

b) 石器

出土した石器は総数5点で、使用石材は黒曜石が1点あるほかはすべて珪質頁岩である。珪質頁岩は3種の母岩を判別したが、珪質頁岩4が2点で、珪質頁岩371・481はともに1点である。珪質頁岩371は第115図1に示したナイフ形石器であり、比較的厚みのある縦長の剝片を素材とし、左側縁にプランティングを施している。打面は削除しているようである。珪質頁岩481は同図2に示した使用痕のある剝片で、縦長の剝片を折断し周縁に使用痕が認められる。

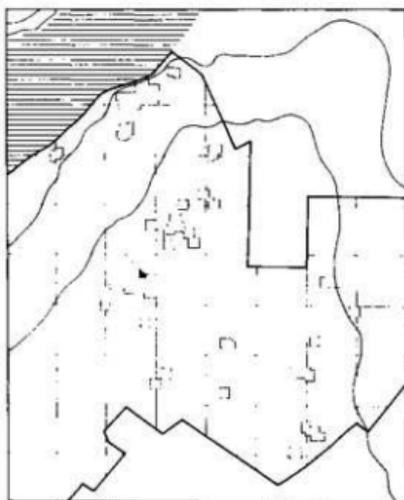
3 S69地点 (第116～118図、第43・44表、図版15)

a) 分布

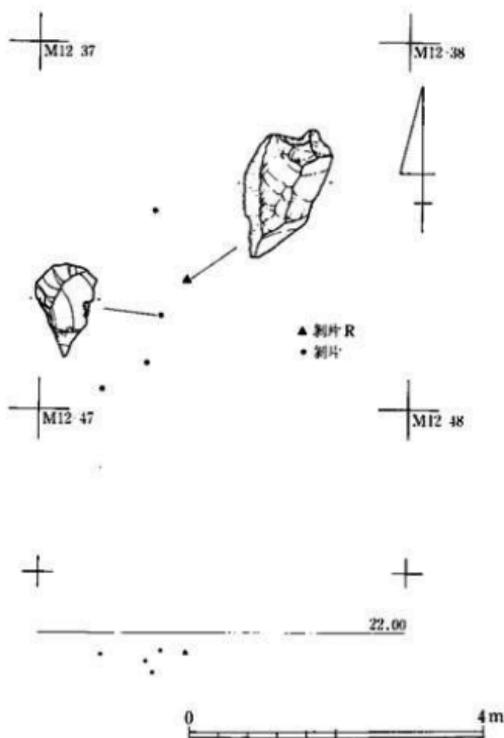
S69地点は須久茂谷津に面する台地縁辺に位置し、M12-37グリッドに遺物が分布している。遺物の産出層準は明確に記録されていないが、出土レベルからIX層上部を産出層準と捉えた。

b) 石器

出土した石器は総数5点である。使用石材は安山岩3点、珪質頁岩・メノウが各1点である。安山岩は3点あるが、すべて異なった母岩から剝出されたものである。第118図には2点の石器を図示した。1は縦長の剝片を素材とし、打面側に調整を加えている。ナイフ形石器に似た特徴を持つが、背は原礫面を残している。2はメノウ製で縦長の剝片の縁辺に使用痕が観察できる。



第116図 S69地点の位置

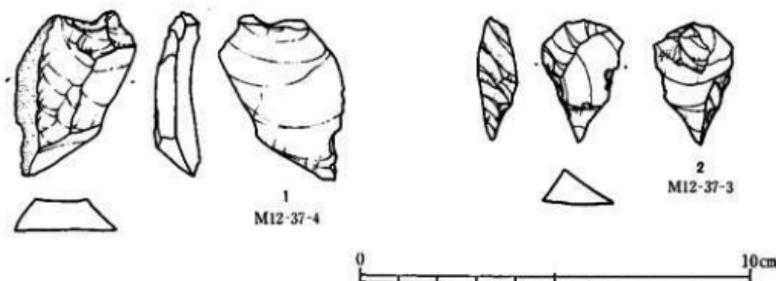


第117図 S69地点遺物分布状況

第43表 S69地点遺物集計表

母岩	R剥片	剥片	碎片	合計	%
安山岩	1 12.95	1 5.61	1 0.69	3 19.25	60.00 71.24
珉質頁岩		1 3.44		1 3.44	20.00 12.73
メノウ		1 4.33		1 4.33	20.00 16.03
合計	1 12.95	3 13.38	1 0.69	5 27.02	100.00 100.00
%	20.00 47.93	60.00 49.52	20.00 2.55	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)



第118図 S 69地点石器実測図

第44表 S 69地点遺物観察表

挿入 番号	グリッド	遺物番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	母 岩
1	M12-37	4	R 剥 片	4.78	2.51	0.99	12.95	安山岩	未分類
2	M12-37	3	剥 片	3.10	1.89	0.92	4.33	メノウ	未分類

c) 特 徴

出土した石器が5点しかなく、すべて異なった母岩から剥出されたものである。

4 S 52・S 71・S 107地点 (第119～123図、第45～47表、図版16)

a) 分 布

比較的近接して3箇所の遺物集中地点が位置している。この地点は寺谷津に臨む台地縁辺にあたり、遺物はQ15-40・Q15-60・Q15-61に3箇所のクラスター状の分布をする。クラスター間の遺物の接合資料は得られていないが、使用石材は安山岩を主体とし、珪質頁岩5・珪質頁岩8が各クラスターに共通している。遺物の産出層準は概ねVII層からIXa層を中心とし、各クラスターとも大きくはずれることはない。ただ、遺物の出土レベルの平均値はS52地点としたクラスターが他と比較して若干低く、垂直分布のヒストグラムにも明らかに別のピークを見いだすことができる。



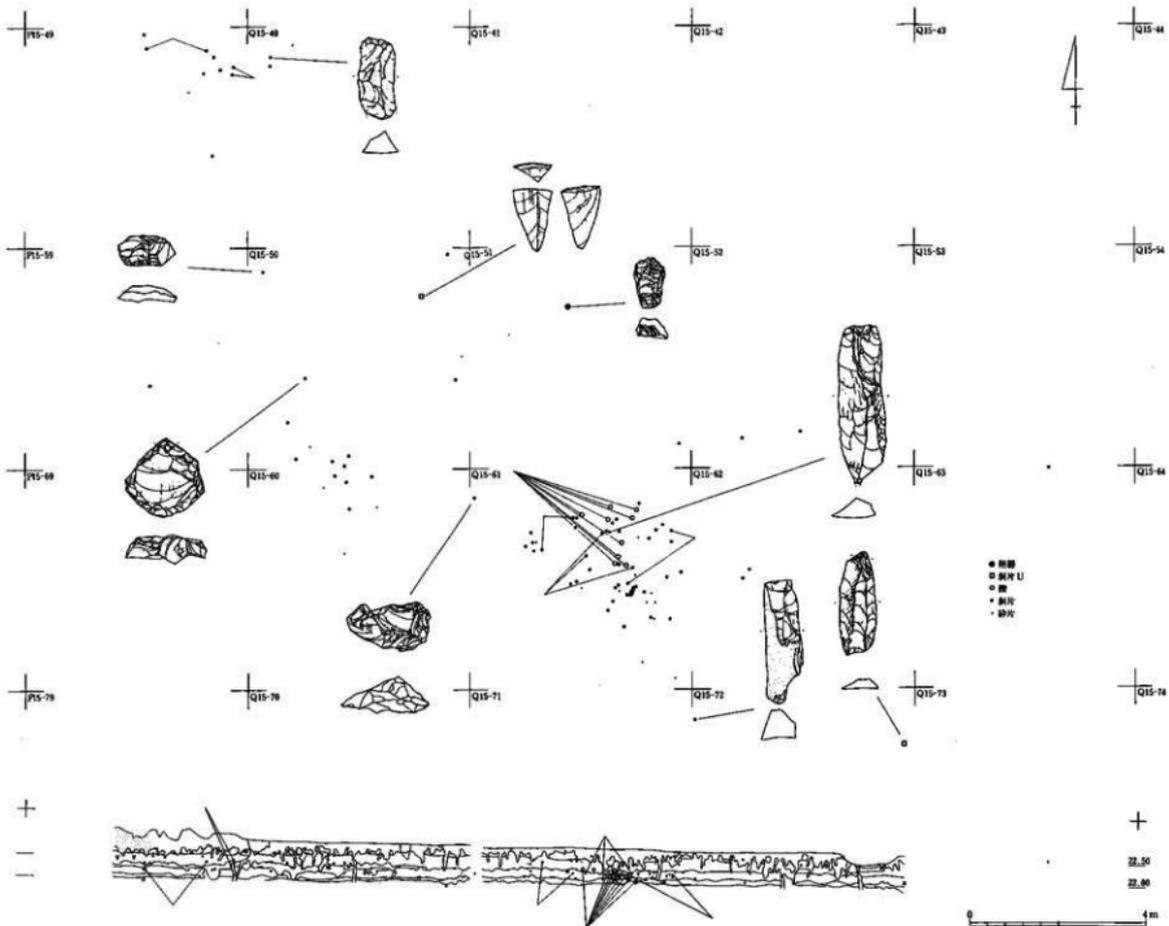
第119図 S 71・S 107地点の位置

	S52	S71	S107		S52	S71	S107
資料総数	13	70	20	安山岩	4	51	4
最大値	22.591	22.590	22.442	凝灰岩	1	0	0
最小値	21.652	21.957	21.885	珪質頁岩	5	3	14
平均値	21.928	22.217	22.226	メノウ	0	0	1
標準偏差	0.256	0.149	0.124	チャート	0	1	0
				黒曜石	0	9	1
				流紋岩	1	6	0
				砂岩	2	0	0

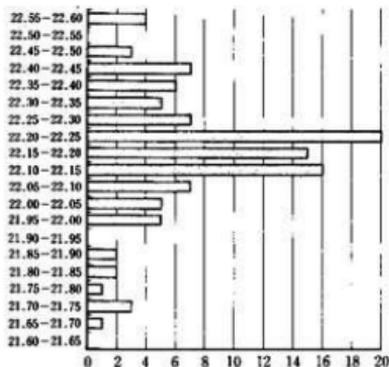
第45表 S71地点遺物集計表

母岩	礫	石核	削器	剥片	碎片	合計	%
安山岩 25				6 12.76	14 6.13	20 18.89	28.57 3.96
安山岩 26				4 22.95	1 0.80	5 23.75	7.14 4.98
安山岩 27				4 16.07	3 3.29	7 19.36	10.00 4.06
安山岩 28				3 55.61		3 55.61	4.29 11.66
安山岩 29				3 23.05		3 23.05	4.29 4.83
安山岩 109	9 115.47					9 115.47	12.86 24.21
安山岩				3 38.51	1 1.20	4 39.71	5.71 8.33
チャート				1 27.78		1 27.78	1.43 5.83
珪質頁岩 6				1 3.39		1 3.39	1.43 0.71
珪質頁岩 8		1 21.36			1 0.87	2 22.23	2.86 4.66
黒曜石 14			1 4.39	3 7.60	5 2.22	9 14.21	12.86 2.98
流紋岩 5	3 104.91			2 7.81	1 0.71	6 113.43	8.57 23.79
合計	12 220.38	1 21.36	1 4.39	30 215.53	26 15.22	70 476.88	100.01 100.00
%	17.14 46.21	1.43 4.48	1.43 0.92	42.86 45.20	37.14 3.19	100.00 100.00	

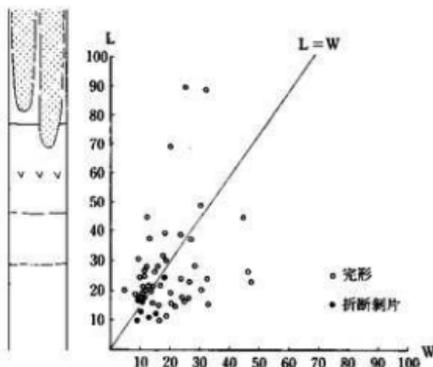
(上段は点数、下段は重量)



第120图 S71·S107遗物分布状况



第121図 S52・S71・S107地点遺物垂直分布



第122図 S71・S107地点剥片計測値

b) 石器

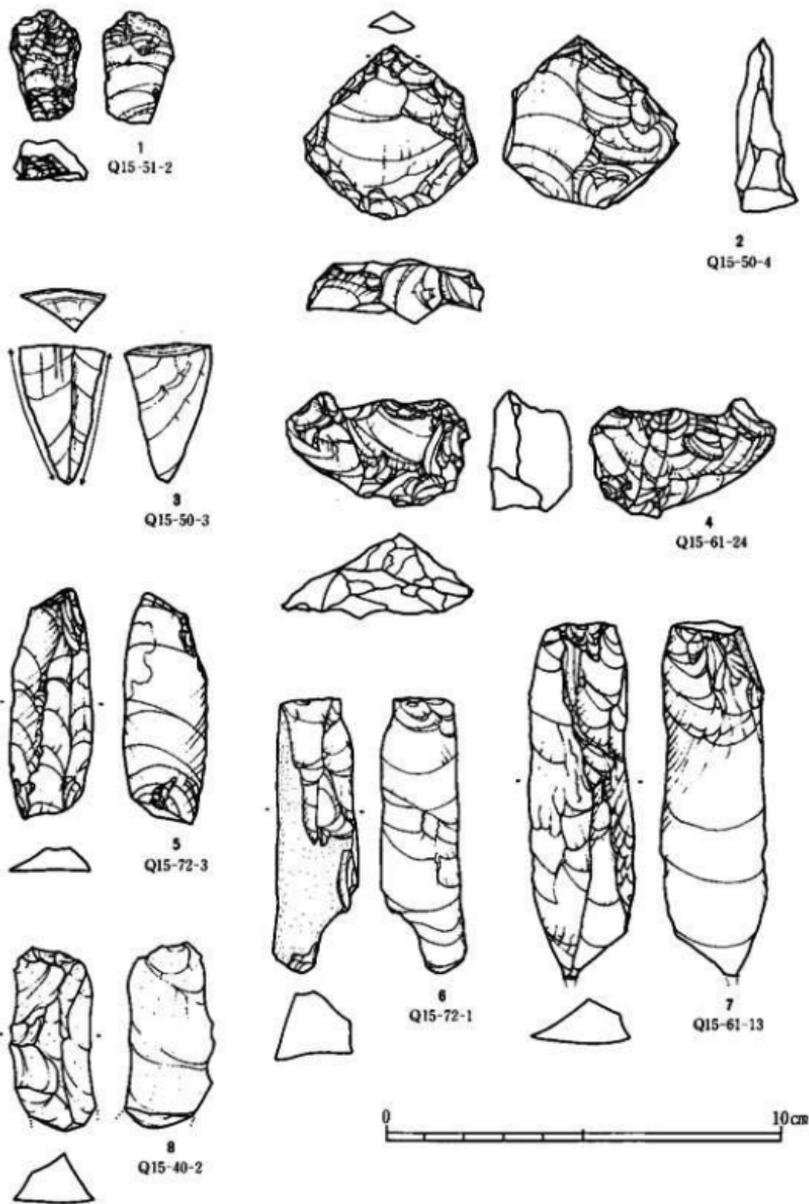
第46表 S52・S107地点遺物集計表

石器総数は全体で103点あり、各クラスターの内訳は表のとおりである。使用石材は安山岩が多く、珩質頁岩・黒曜石なども若干使用されている。しかし、明らかに安山岩を多用するのはS71地点だけであり、S52・S107地点では珩質頁岩の占める割合が高い。

安山岩 安山岩は5種の母岩を判別した。いずれもよく似た質感で、エラーも懸念される。すべて緻密な石材で疵品も少なく、風化の度合いもさほど進んでいない。原礫面を残すものはなく、第123図7のような石刃様の剥片を3点含んでいる。この内の第123図5は剥片の周縁に僅かに調整が認められる。しかし、大形の剥片と同一母岩と判別できる

母岩	U剥片	剥片	碎片	合計	%
安山岩 26	1			1	3.03
	4.80			4.80	2.60
安山岩 106		2		2	6.06
		23.71		23.71	12.85
安山岩	3		2	5	15.15
	29.65		0.87	30.52	16.54
凝灰岩	1			1	3.03
	11.40			11.40	6.18
珩質頁岩 5	2		5	7	21.21
	2.43		2.21	4.64	2.51
珩質頁岩 6	2		3	5	15.15
	5.47		1.44	6.91	3.75
珩質頁岩 7	2		1	3	9.09
	4.88		0.70	5.58	3.02
珩質頁岩 8	1		2	3	9.09
	5.07		0.93	6.00	3.25
珩質頁岩 9	1		1	2	6.06
	2.12		0.27	2.39	1.30
メノウ			1	1	3.03
			3.70	3.70	2.01
流紋岩	1			1	3.03
	2.49			2.49	1.35
砂岩	2			2	6.06
	82.37			82.37	44.64
合計	1	17	15	33	99.99
	4.80	169.59	10.12	184.51	100.00
%	3.03	51.52	45.45	100.00	
	2.60	91.91	5.48	99.99	

(上段は点数、下段は重量)



第123图 S71·S107地点石器实测图

第47表 S71・S107地点遺物観察表

押 番号	グリッド	遺物番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	母 岩
1	Q15-51	2	削 器	2.86	1.83	0.99	4.39	黒曜石	黒曜石14
2	Q15-50	4	剥 片	4.46	4.42	1.33	22.54	安山岩	未分類
3	Q15-50	3	使用痕剥片	3.51	1.72	1.09	4.80	安山岩	安山岩26
4	Q15-61	24	石 核	2.32	4.68	1.79	21.36	珪質頁岩	珪質頁岩8
5	Q15-72	3	剥 片	5.69	2.05	0.85	11.17	安山岩	未分類
6	Q15-72	1	剥 片	6.90	2.00	1.68	27.78	チャート	未分類
7	Q15-61	13	剥 片	8.94	2.53	1.08	26.80	安山岩	未分類
8	Q15-40	2	剥 片	4.74	2.05	1.49	11.40	凝灰岩	未分類

剥片はなく、基本的にこの場で剥出された可能性は低い。これに反して判別できた点数が多い安山岩25や安山岩26は小形の不定形な剥片や碎片が多い。第123図3は折断された縦長の剥片の周縁に使用痕が観察できる。

珪質頁岩 珪質頁岩は5種の母岩を判別した。点数の組成比はS107地点で高く、安山岩が主体を占めるS71地点では非常に少ない。

珪質頁岩5 各クラスターから出土している。あまり良質な石材でなく、色調は緑灰色を呈し、小形の不定形な剥片と碎片からなる。

珪質頁岩6 S71とS107としたクラスターから出土している。明褐色を呈する良質の石材で、縦に短い剥片と碎片がある。

珪質頁岩7 3点しかなく、すべてS107としたクラスターから出土した。色調は暗褐色を呈し、不定形な剥片と碎片からなる。

珪質頁岩8 灰褐色を呈する極めて良質の石材で、各クラスターから出土している。縦に短い剥片と碎片があり、第123図4は石核である。

珪質頁岩9 S107としたクラスターから剥片・碎片が各1点出土した。

黒曜石 2種の母岩を判別した。黒曜石の使用はS71としたクラスターに集約される。小形の不定形な剥片と碎片があり、第123図1は削器である。厚みのある縦長の剥片を素材とし、打点側に刃部を作り出している。なお、縦に半截されている。

c) 特 徴

VII層からIXa層にかけて近接して3箇所の遺物集中心地点が存在している。ここでは全体を一つの遺物集中心地点とし、個々の地点をクラスターとして扱った。クラスター間の遺物の接合は確認できなかったが、珪質頁岩5や珪質頁岩8といった共通する母岩も認められる。しかしながら、使用石材の組成はクラスターごとに違いを見せ、必ずしも同時存在したと断言することはできない。さらに、S52地点の遺物の出土レベル平均値はS71・S107地点より下位に位置し、ヒストグラムからも分離できる可能性を指摘することができる。

5 S74地点

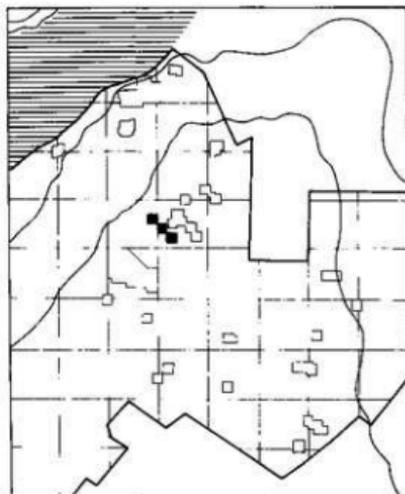
(第124～128図、第48・49表、図版16)

a) 分布

S74地点は須久茂谷津に面する台地縁辺に位置し、N11-83グリッドに遺物が分布している。遺物の産出層準は明確に記録されていないが、出土レベルは後述するS75・S76地点と大きく変わらない。遺物は3点で、第128図1に示した1点は他の2点から6m以上離れ、位置的にはS74地点とS75地点の中間にあたる。また、この遺物はS75地点の遺物と接合する。

b) 石器

出土した遺物は総数3点で、第128図1に1点を図示した。安山岩製の石刃様の縦長剥片を素材とし、折断された剥片の縁辺に使用痕が観察できる。



第124図 S74・S75・S76地点の位置

6 S75地点 (第124～132図、第50・51表、図版16・17)

a) 分布

S74地点の北西側に約16m離れて位置し、N11-61グリッドを中心に遺物が分布している。遺物の分布範囲は直径約3.6mの範囲で、産出層準はVI層下部からVII層に及んでいる。遺物の点数が少ないこともあるが、垂直分布のヒストグラムはきれいな放物線は描かない。

資料総数	28点
最大値	22.367m
最小値	21.472m
平均値	21.707m
標準偏差	0.168

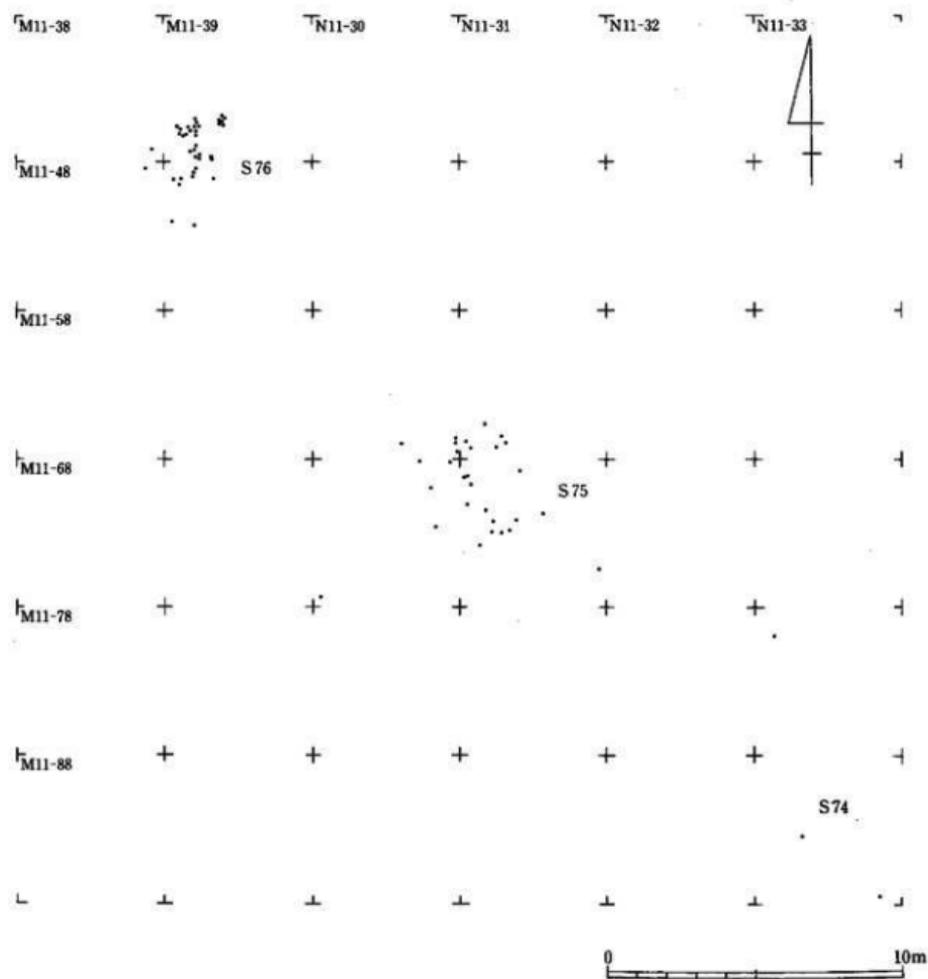
第48表 S74地点遺物集計表

母岩	U剥片	砕片	合計	%
安山岩 51	1 16.05		1 16.05	33.33 90.88
チャート 11		2 1.61	2 1.61	66.67 9.12
合計	1 16.05	2 1.61	3 17.66	100.00 100.00
%	33.33 90.88	66.67 9.12	100.00 100.00	

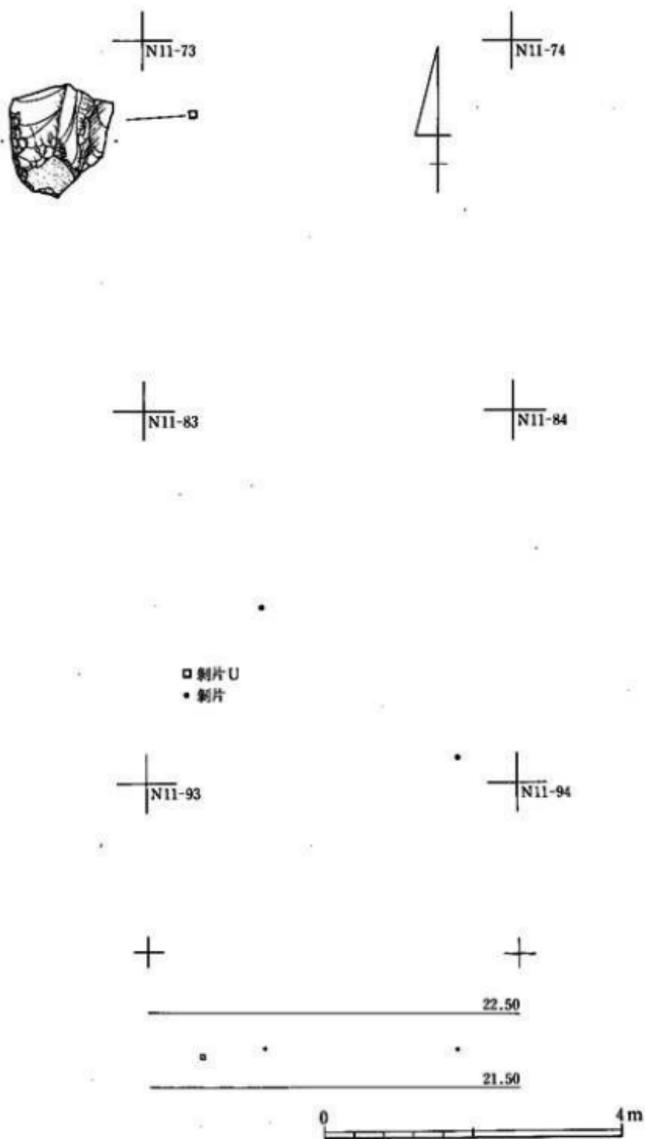
(上段は点数、下段は重量)

第49表 S74地点遺物観察表

探図番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	N11-73	1	使用痕剥片	3.94	3.23	1.18	16.05	安山岩	安山岩 51



第125図 S74・S75・S76遺物分布状況

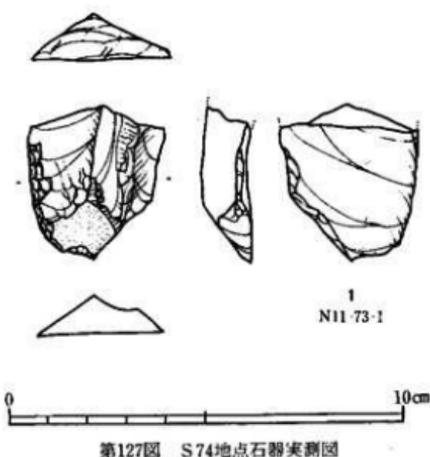


第126圖 S74地点遺物分布狀況

b) 石 器

遺物総数は28点で、使用石材は安山岩・チャートが主体となる。製品はほとんどなく、点数では剥片と碎片がほぼ同数で、ともに5割近い組成比である。

安山岩 安山岩は3種の母岩を判別した。安山岩50は欠損したナイフ形石器があり、接合した。厚みのある縦長の剥片を素材とし、刃部を欠損するが基部両側縁に調整を施している。安山岩51は石刃様の縦長剥片があり、3つに折断されている。この内の1点はS74地点で紹介した。安山岩52は不定形な剥片と碎片があり、ことごとく接合した。



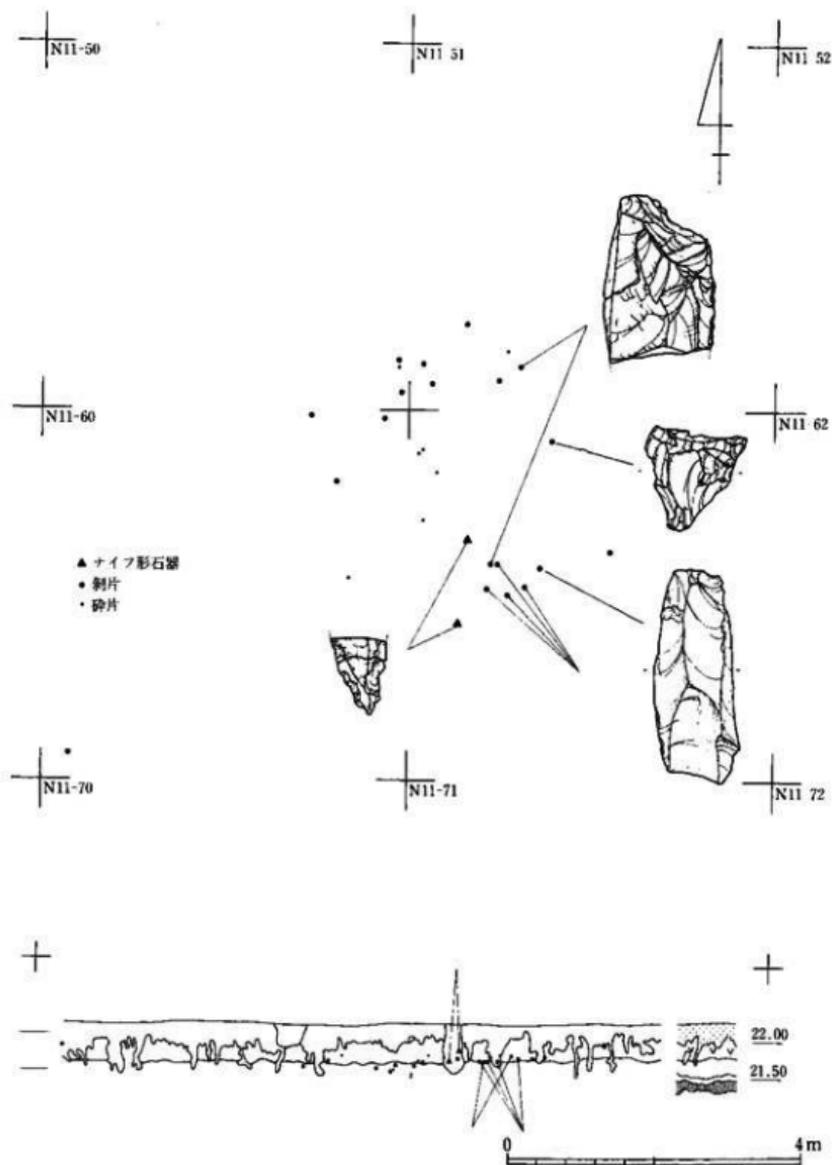
第127図 S74地点石器実測図

チャート10 青灰色の石材で、点数的には碎片が多い。剥片はいずれも不定形なものである。この他、第132図には頁岩製の剥片を図示した。

第50表 S75地点遺物集計表

母 岩	ナイフ	剥 片	碎 片	合 計	%
安 山 岩 50	2 3.48			2 3.48	7.14 2.57
安 山 岩 51		2 32.54		2 32.54	7.14 26.23
安 山 岩 52		3 11.50	2 2.15	5 13.65	17.86 10.07
安 山 岩		1 8.01		1 8.01	3.57 5.91
チャート10		4 23.30	10 6.82	14 30.12	50.00 22.23
チャート		2 11.22		2 11.22	7.14 8.28
頁 岩		1 23.40		1 23.40	3.57 17.27
流 紋 岩		1 10.07		1 10.07	3.57 7.43
合 計	2 3.48	14 120.04	12 8.97	28 132.49	99.99 99.99
%	7.14 2.57	50.00 90.81	42.86 6.62	100.00 100.00	

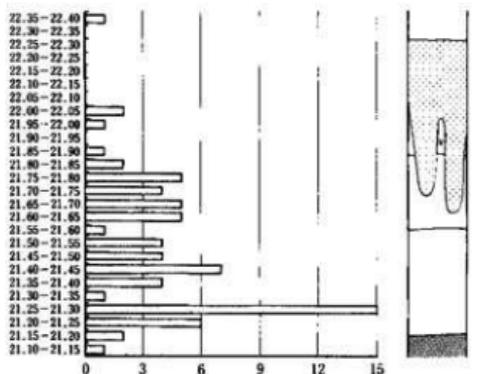
(上段は点数、下段は重量)



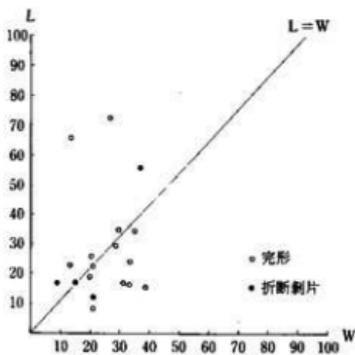
第128図 S75地点遺物分布状況

第51表 S75地点遺物観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	N11-61	5+12	ナイフ形石器	2.65	1.78	0.71	3.48	安山岩	安山岩50
2	N11-61	14	剝片	3.46	3.47	0.89	10.12	チャート	チャート10
3	N11-51	2+6	剝片	5.54	3.69	1.49	32.54	安山岩	安山岩51
4	N11-61	11	剝片	7.22	2.69	1.10	23.40	頁岩	未分類



第129図 S74・S75・S76地点遺物垂直分布



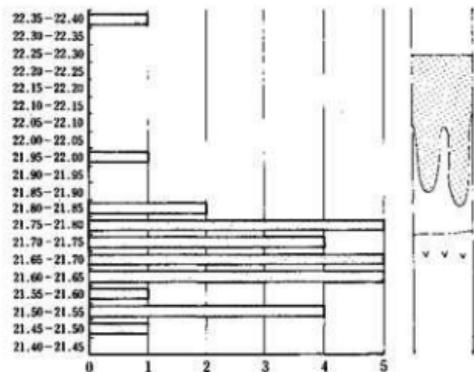
第130図 S75地点剝片計測値

7 S76地点

(第133～137図、第52・53表、図版17)

a) 分布

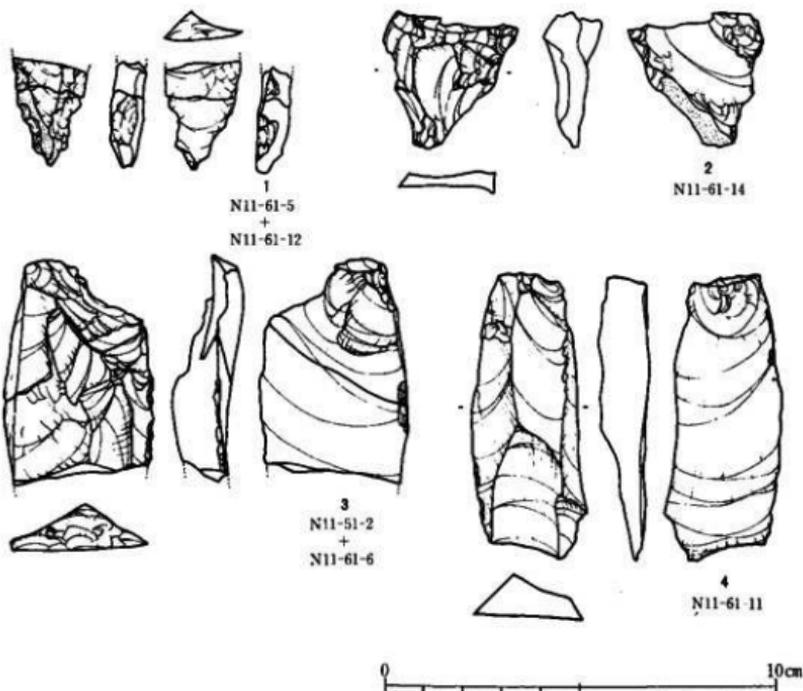
S76地点はS75地点の北西約14mに位置し、N11-39グリッドに遺物が分布している。遺物の産出層準はVII層で、標高21.25～21.30mに大きなピークがある。レベル的にはS75地点より若干下位になるが、台地が緩く西へ低くなっているため、出土層準は変わらない。遺物の分布範囲は



第131図 S75地点遺物垂直分布

南北約3.6m、東西約1.8mの細長い範囲であり、狭い範囲にまとまっている。

資料総数 40点
 最大値 22.367m
 最小値 21.144m



第132図 S75地点石器実測図

平均値 21.337m

標準偏差 0.190

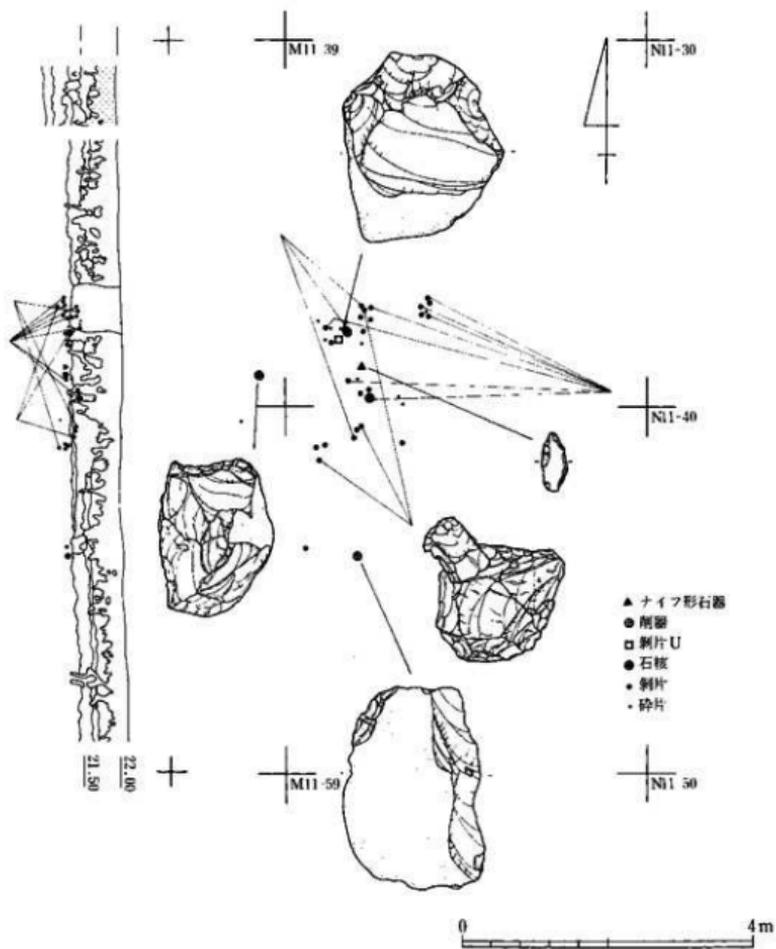
b) 石器

遺物総数は40点で、使用石材はチャートが主体となり、安山岩が少し含まれる。石核が3点と多いが、第136図5から剥出されたと考えられる剥片・破片は出土していない。

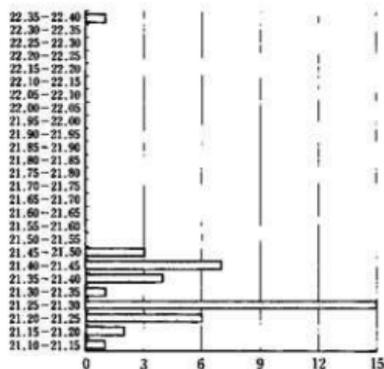
チャート11 チャートは3種の母岩を判別した。チャート11は青灰色を呈するもので、節理が多く、接合資料も2点あるが剥片は厚く不定形である。なお、第136図1に示したナイフ形石器が製作されている。縦長の剥片を素材とし、両側縁に調整を加えている。

チャート12 4cは石核とすべきか削器とすべきか悩むところであるが、4cとそこから剥出された剥片が2点ある。剥片は短い縦長のもので、4cは原礫面を残している。

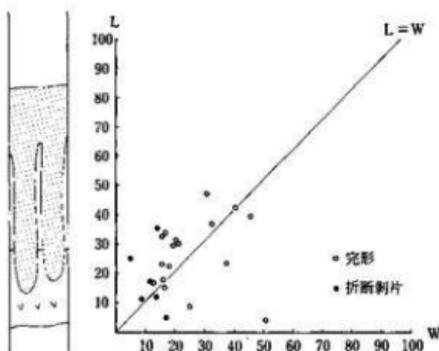
チャート13 黒色に近い色調で、節理が非常に多い。石核と6点の剥片があるが、剥片はいずれも不定形で、節理面で割れたものがほとんどである。なお、すべて接合した。



第133図 S76地点遺物分布状況



第134図 S76地点遺物垂直分布



第135図 S76地点切片計測値

第52表 S76地点遺物集計表

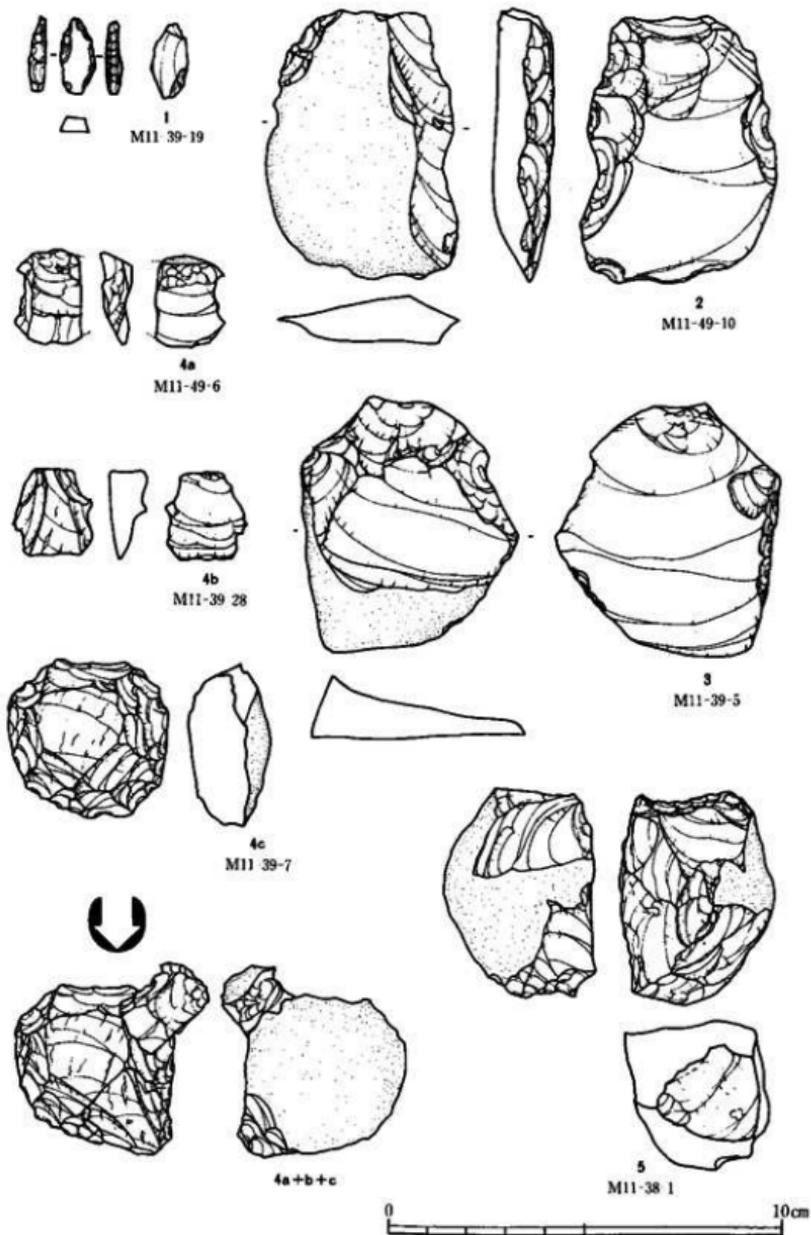
母岩	石核	ナイフ	削器	U切片	切片	碎片	合計	%
安山岩 53					2 36.02		2 36.02	5.00 6.86
安山岩 54			1 64.64		2 36.84	5 4.89	8 106.37	20.00 20.25
チャート11		1 0.69			7 26.02	9 3.56	17 30.27	42.50 5.76
チャート12	1 38.64				2 6.16		3 44.80	7.50 8.53
チャート13	1 84.87				6 72.64		7 157.51	17.50 29.98
チャート	1 89.01						1 89.01	2.50 16.94
変成岩				1 60.62		1 0.76	2 61.38	5.00 11.68
合計	3 212.52	1 0.69	1 64.64	1 60.62	19 177.68	15 9.21	40 525.36	100.00 100.00
%	7.50 40.45	2.50 0.13	2.50 12.30	2.50 11.54	47.50 33.82	37.50 1.75	100.00 99.99	

(上段は点数、下段は重量)

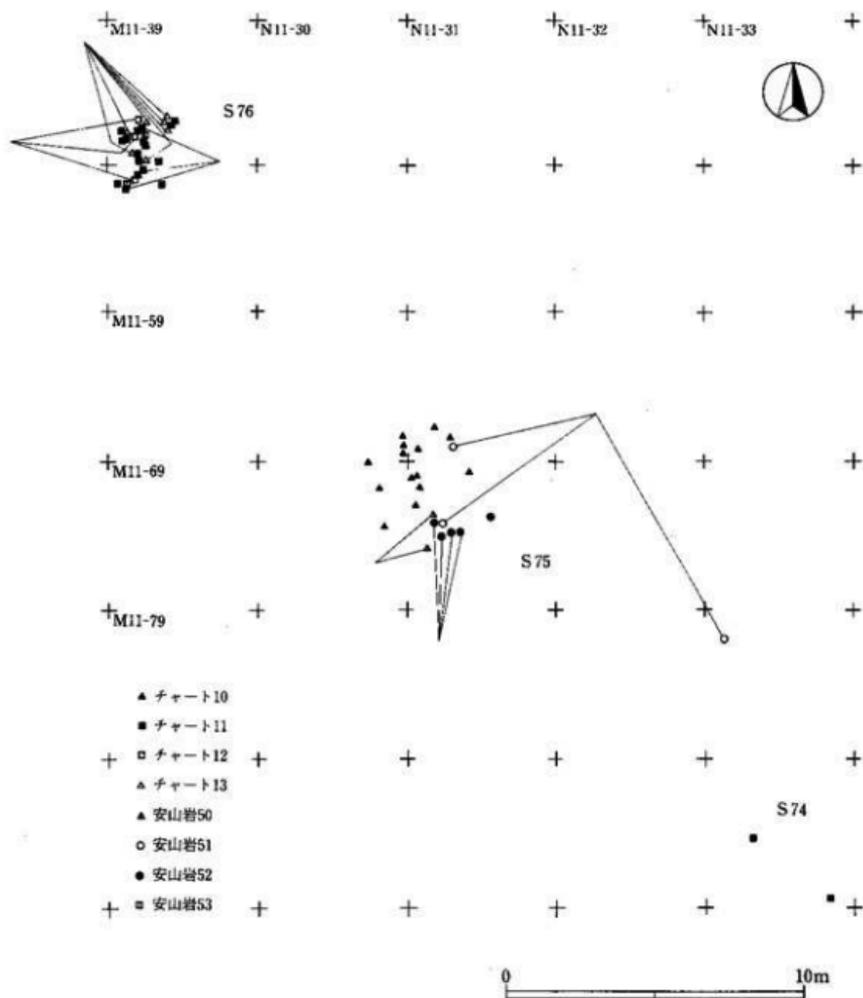
安山岩 安山岩は2種の母岩を判別した。安山岩53は大きめの不定形な切片が2点あり、安山岩54は第136図2の削器がある。これは原礫面を残す大形の切片の側縁に調整を施したものである。この他不定形な切片と碎片がある。

c) 特徴

S74地点は遺物の点数も少なく、一概に比較できないが、S75地点とS76地点は約14mの距



第136图 S76地点石器实测图



第137図 S74・S75・S76地点母岩別分布状況

離において位置する。使用石材を母岩別にみると、共通する母岩は見られないが、チャートを主体とし安山岩が若干含まれる。

第53表 S76地点遺物観察表

標 号	グリッド	遺物番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	母 岩
1	M11-39	19	ナイフ形石器	1.91	0.86	0.39	0.69	チャート	チャート11
2	M11-49	10	削 器	6.95	4.76	1.62	64.64	安山岩	安山岩54
3	M11-39	5	使用痕剥片	6.39	5.09	1.71	60.62	変成岩	未分類
4 a	M11-39	28	剥 片	2.21	1.80	0.94	3.38	チャート	チャート12
4 b	M11-39	7	石 核	3.92	4.34	1.73	38.64	チャート	チャート12
4 c	M11-49	6	剥 片	2.33	1.51	0.71	2.78	チャート	チャート12
5	M11-38	1	石 核	4.82	3.69	3.30	89.01	チャート	未分類

8 S35・S77地点

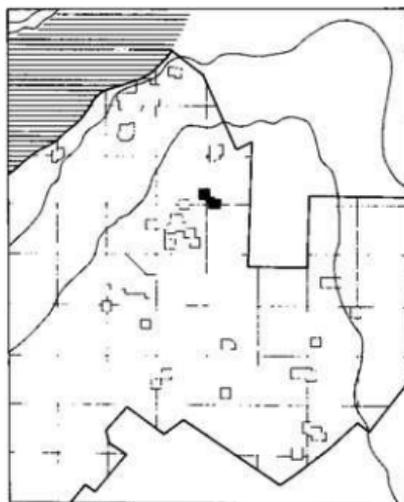
(第138・139図、第54表)

a) 分布

本地点は須久茂谷津に面する台地縁辺に位置し、O10-91グリッドを中心に遺物が分布している。調査時にS35地点とS77地点の2地点として調査しているが、遺物点数が少なく、出土レベルからみても両者に分ける根拠はないため同一扱った。

b) 石器

遺物は総数4点で、礫が1点含まれている。他の3点は珪質頁岩の剥片と破片で、同一母岩と認定できる。



第138図 S35・S77地点の位置

9 S106地点

(第140～143図、第55・56表、図版18)

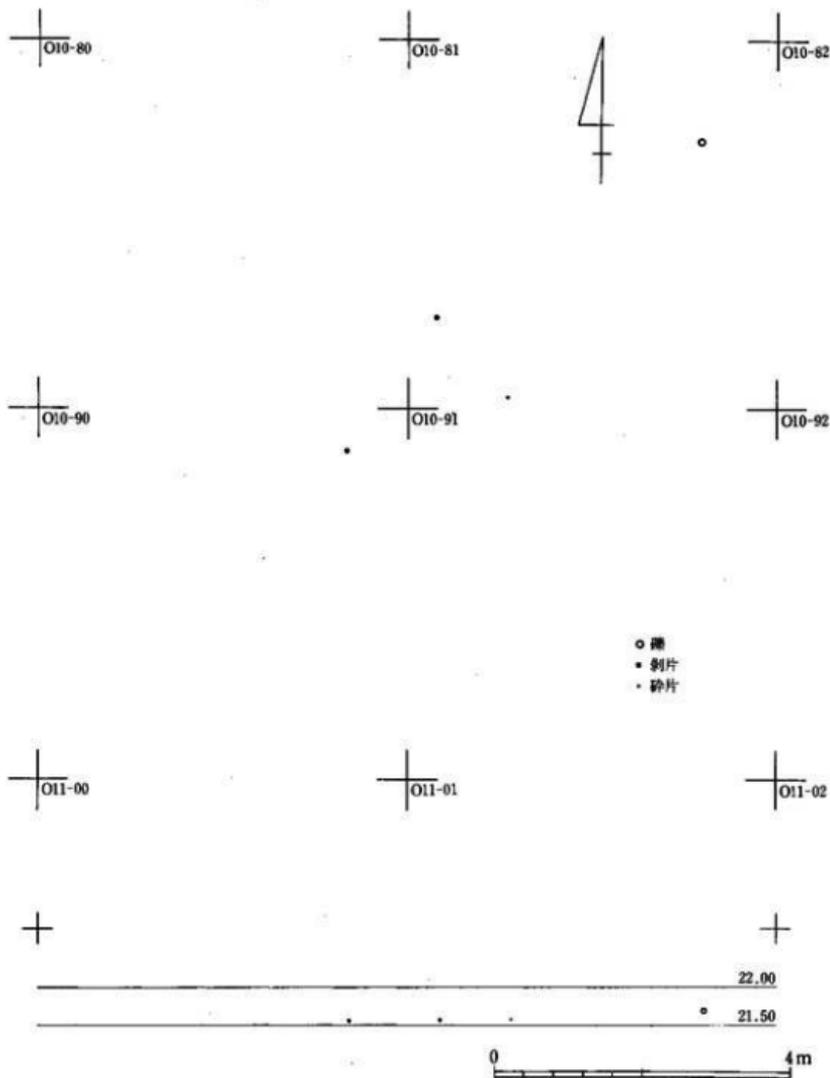
a) 分布

本地点は須久茂谷津に面する台地縁辺に位置し、M13-10グリッドを中心に遺物が分布している。遺物の分布は略南北に長く、最遠距離にある遺物間の距離は約4.8mを測る。遺物の産出層準はVIII層で、標高22.2m付近をピークとする。

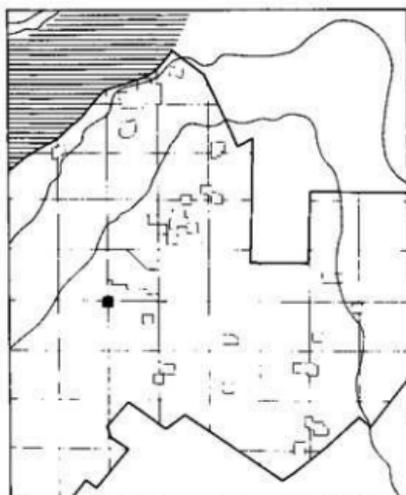
第54表 S35・S77地点遺物集計表

母 岩	礫	剥 片	破 片	合 計	%
珪質頁岩		1 3.29	2 1.04	3 4.33	75.00 7.60
流紋岩	1 52.66			1 52.66	25.00 92.40
合 計	1 52.66	1 3.29	2 1.04	4 56.99	100.00 100.00
%	25.00 94.40	25.00 5.77	50.00 1.82	100.00 99.99	

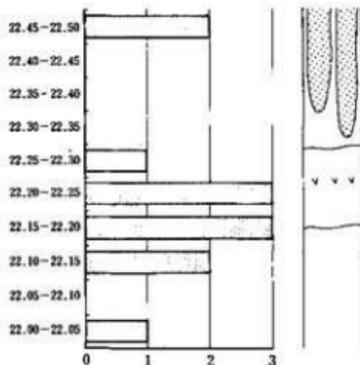
(上段は点数、下段は重量)



第139圖 S35・S77地点遺物分布狀況



第140図 S106地点の位置



第141図 S106地点遺物垂直分布

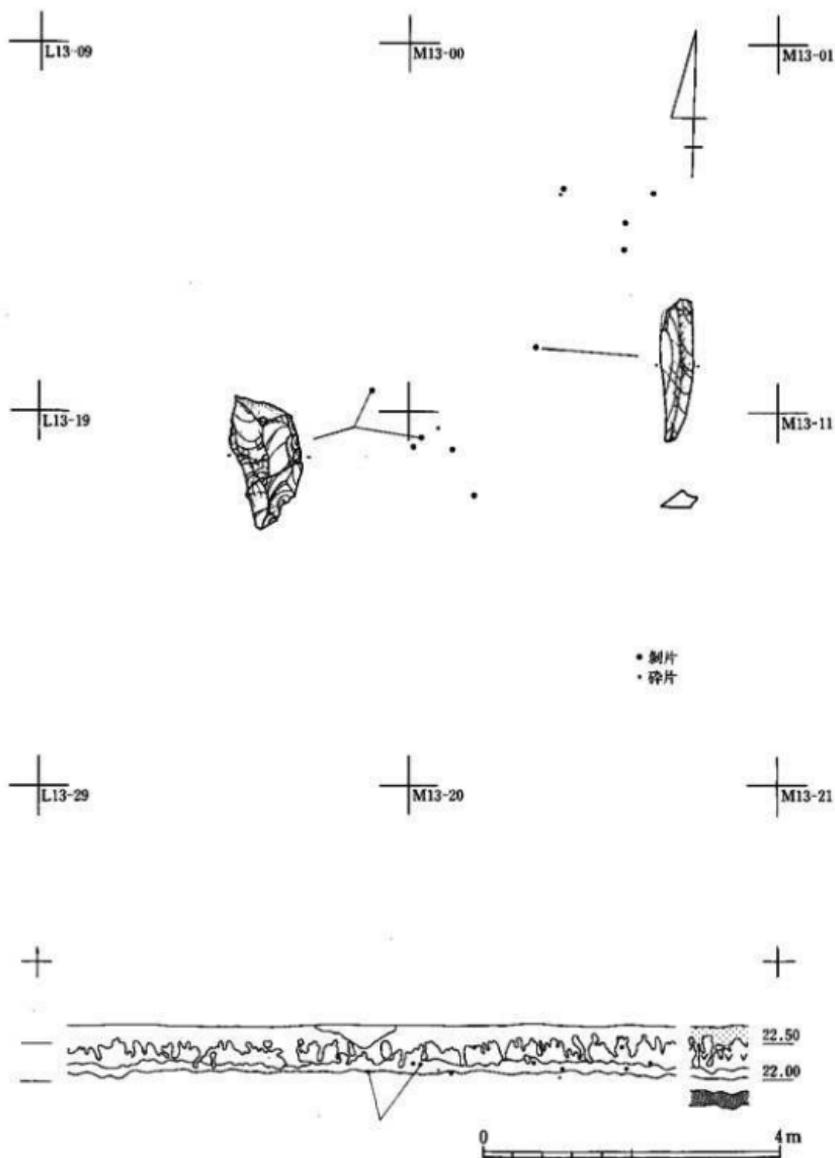
第55表 S106地点遺物集計表

母岩	礫	剥片	碎片	合計	%
安山岩		1 2.64	5 4.35	6 6.99	46.15 4.39
チャート		1 3.54		1 3.54	7.69 2.22
メノウ		4 18.32	1 1.57	5 19.89	38.46 12.49
砂岩	1 128.84			1 128.84	7.69 80.90
合計	1 128.84	6 24.50	6 5.92	13 159.26	99.99 100.00
%	7.69 80.90	46.15 15.38	46.15 3.72	99.99 100.00	

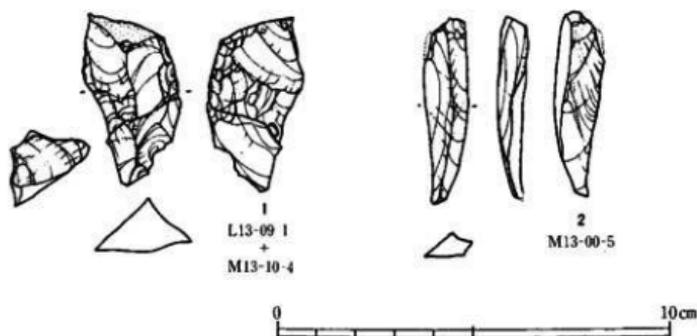
(上段は点数、下段は重量)

第56表 S106地点遺物観察表

探洞番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	L13-09	1	剥片	4.23	2.43	1.34	12.70	メノウ	未分類
	M13-10	4							
2	M13-00	5	剥片	4.81	0.53	0.66	3.54	チャート	未分類



第142图 S106地点遺物分布狀況



第143図 S106地点石器実測図

資料総数	13点
最大値	22.499m
最小値	22.016m
平均値	22.226m
標準偏差	0.137

b) 石器

出土遺物は総数13点である。使用石材は安山岩とメノウが主体となり、それぞれ同一母岩から剥出されたものである。この2母岩に帰属しないものは2点で、砂岩の礫と第143図2のチャート製の剥片があるだけである。極めて限定された母岩を選択して使用している。安山岩はほとんどが碎片であり、6点のうち2点に原礫面を残している。メノウは第143図1に剥片を図示した。2点が接合しているが、打面に原礫面を残している。図示しなかった2点の剥片も打面に原礫面を残している。

第6節 第5文化層

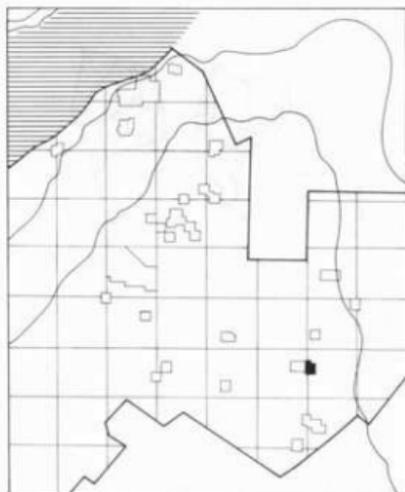
第5文化層は第2黒色帯下部の文化層で、IXb層からIXc層を産出層準としている。坊山遺跡では第2文化層とともに遺物集中地点が多く検出されている文化層でもあり、S33・S36・S41・S42・S43・S44・S45・S46・S52・S59・S60・S61・S62・S64・S65・S70地点の16地点がある。また、これらのうち、S41～S46・S60～S65地点は須久茂谷津に面する台地縁辺に形成された環状ブロック群であり、石斧やチャートを主体とした石刃等の良好な資料を提供している。

1 S33・S70地点

(第144～148図、第57・58表、図版18)

a) 分布

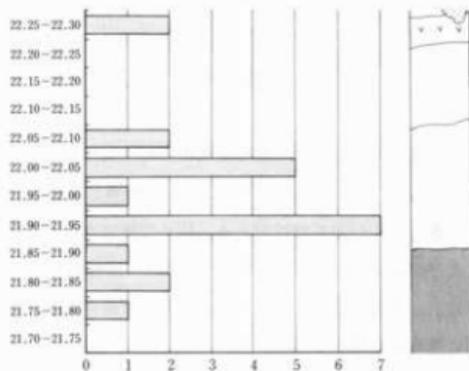
本地点は寺谷津に面する台地縁辺に位置し、Q14-30からQ14-31グリッドを中心に遺物が分布している。調査時にS33とS70地点という2箇所の遺物集中地点として調査され、実際に遺物の分布状況も2箇所に分かれている。グリッドはS33地点がQ14-30に、S70地点がQ14-31グリッドにあたる。それぞれの遺物の分布範囲はおよそ3m以下の範囲にしばられ、遺物の産出層準はIXbからIXc層である。2箇所の遺物集中地点は最短遺物間の距離が3.2mを測り、接合資料はないものの、使用石材に共通



第144図 S33・S70地点の位置

する母岩がある。

資料総数	21点
最大値	22.274m
最小値	21.794m
平均値	21.983m
標準偏差	0.121



第145図 S33・S70地点遺物垂直分布

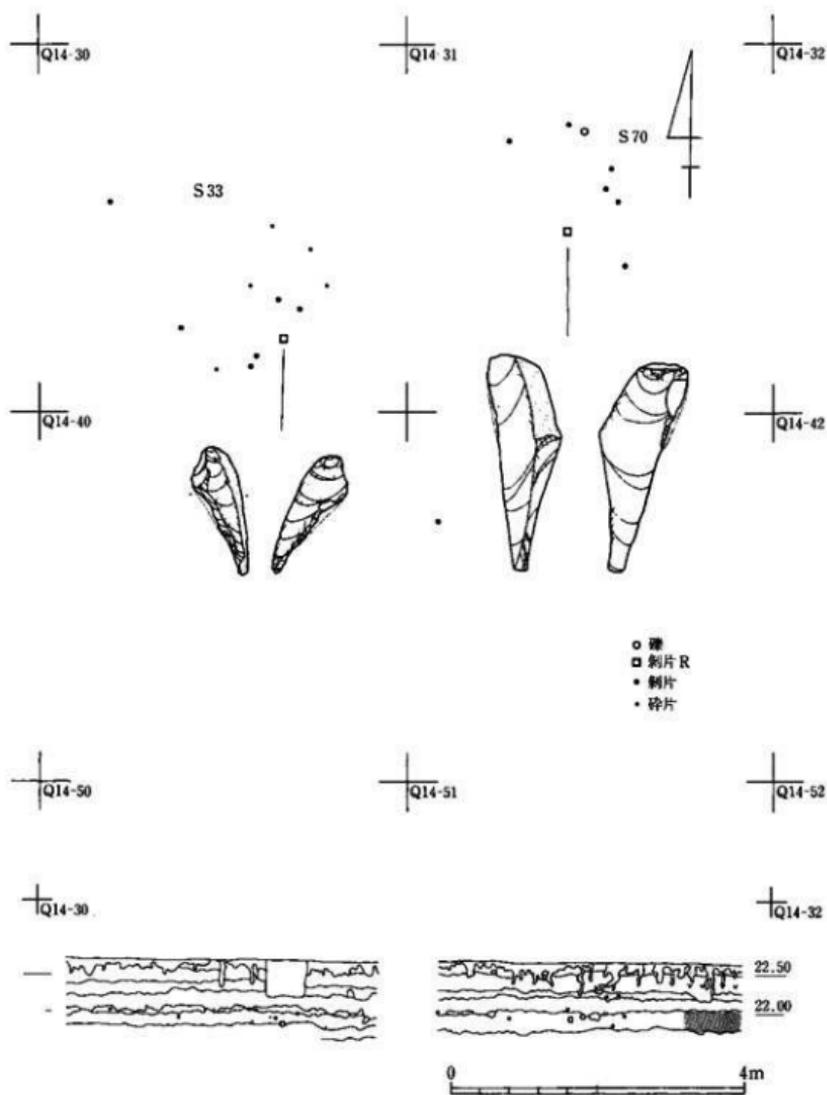
b) 石器

遺物総数は21点で、使用石材は珪質頁岩が最も多い。また、砂岩の礫が1点ある。

珪質頁岩 珪質頁岩1とした母岩が4点あり、その他の5点はそれぞれ

別母岩から剥出されたものである。珪質頁岩1は緑灰色を呈する石材で、比較的大形の剥片が剥出されている。第148図2～5がこれにあたるが、接合する資料はない。他の母岩の剥片も縦長の剥片で、1・6は使用痕が観察できる。なお、珪質頁岩はすべて剥片で、碎片は出土していない。

安山岩 安山岩1は緻密で斑晶の少ない石材で、碎片が3点あるだけである。第148図8に安山岩製の剥片を図示した。



第146图 S33·S70地点遗物分布状况

第57表 S33・S70地点遺物集計表

母岩	礫	U剥片	剥片	碎片	合計	%
安山岩 1				3 2.27	3 2.27	14.29 1.18
安山岩			2 10.85		2 10.85	9.52 5.64
凝灰岩			1 10.41		1 10.41	4.76 5.41
珩質頁岩 1			4 67.35		4 67.35	19.05 35.02
珩質頁岩		2 19.00	2 6.87	1 1.13	5 27.00	23.81 14.04
砂岩 1				5 2.55	5 2.55	23.81 1.33
砂岩	1 71.87				1 71.87	4.76 37.37
合計	1 71.87	2 19.00	9 95.48	9 5.95	21 192.30	100.00 99.00
%	4.76 37.37	9.52 9.88	42.86 49.65	42.86 3.09	100.00 99.99	

(上段は点数、下段は重量)

第58表 S33・S70地点遺物観察表

種別 番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	Q14-30	8	使用痕剥片	4.43	1.54	0.62	3.22	珩質頁岩	未分類
2	Q14-30	9	剥片	4.29	6.04	1.59	32.62	珩質頁岩	珩質頁岩 1
3	Q14-30	5	剥片	5.60	2.83	1.39	21.32	珩質頁岩	珩質頁岩 1
4	Q14-30	1	剥片	3.06	2.00	0.64	3.60	珩質頁岩	珩質頁岩 1
5	Q14-30	2	剥片	2.83	2.60	1.14	9.81	珩質頁岩	珩質頁岩 1
6	Q14-31	7	使用痕剥片	7.40	2.19	1.29	15.78	珩質頁岩	未分類
7	Q14-31	9	剥片	6.23	1.86	0.89	10.41	凝灰岩	未分類
8	Q14-31	1	剥片	4.41	1.61	1.02	5.89	安山岩	未分類

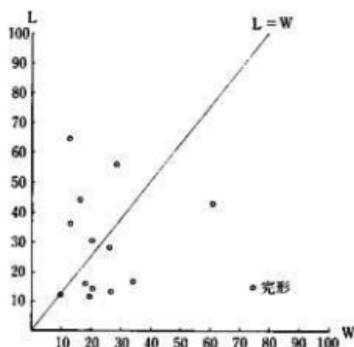
この他、砂岩1という母岩を判別したが、すべて碎片である。

2 S59地点

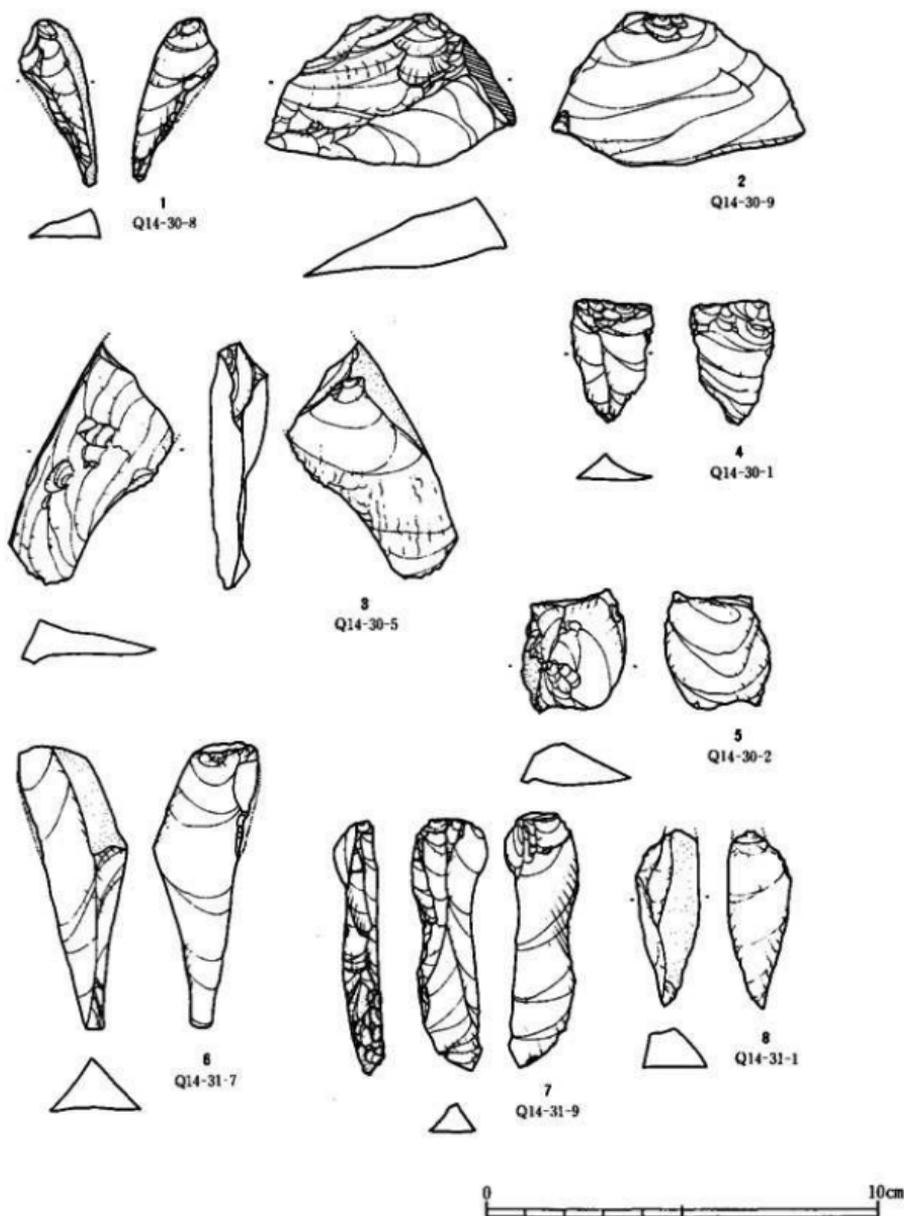
(第149～155図、第59・60表)

a) 分布

本地点は須久茂谷津に面した台地縁辺に位置し、N11-44グリッドを中心に遺物が分布している。また、第2文化層に帰属するS58地点と重複した位置にある。遺物の分布範囲はN11-43グリッドに僅



第147図 S33・S70地点剥片計測値



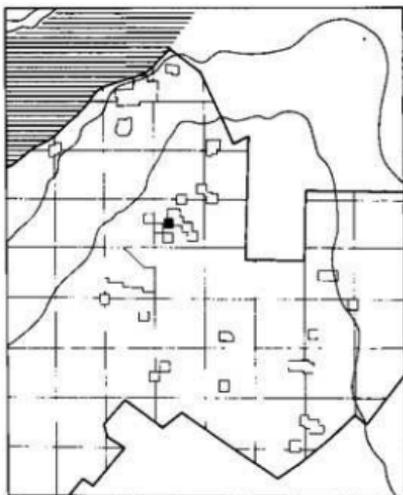
第148图 S33·S70地点石器实测图

かな集中箇所が見られ、これとは離れてN11-44グリッドに集中箇所がある。どちらも遺物の産出層準はIXc層にあり、一括して扱った。また、本地点から約25m離れたN11-06には単独で遺物が出土したS36地点があり、この遺物と接合する資料が得られている。

資料総数	31点
最大値	22.454m
最小値	21.761m
平均値	22.060m
標準偏差	0.211

b) 石器

遺物総数は31点で、使用石材は安山岩・凝灰岩・チャート等がある。また、石刃が多くあり、安山岩・凝灰岩を多用している。

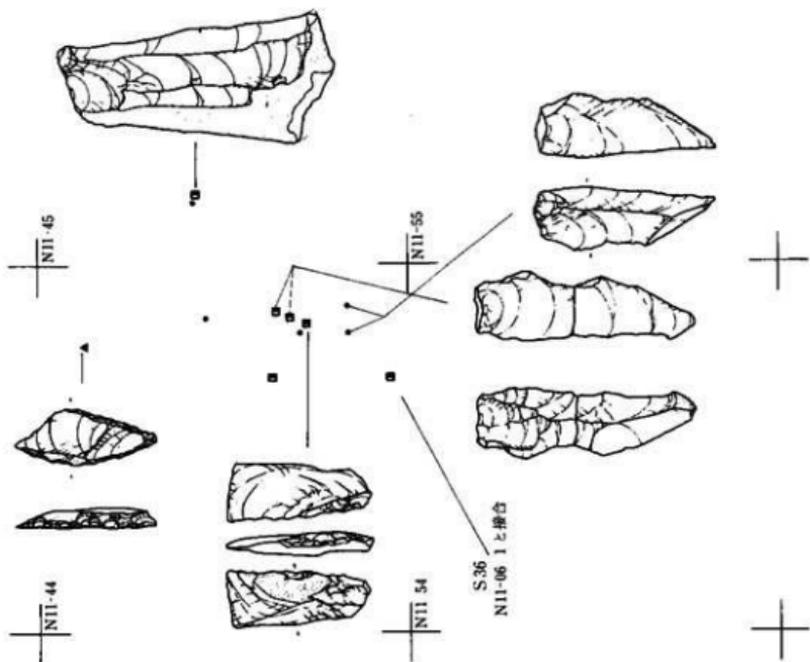


第149図 S36・S59地点の位置

第59表 S59地点遺物集計表

母岩	ナイフ	石刃	剥片	碎片	合計	%
安山岩 5	1		2		3	9.68
	7.16		20.43		27.59	5.38
安山岩 6		4		1	5	16.13
		44.76		2.65	47.41	9.25
安山岩	1	3	3		7	22.58
	5.77	50.67	90.45		146.89	28.65
チャート		2	1		3	9.68
		10.14	8.13		18.27	3.56
凝灰岩 2	1	2		5	8	25.81
	9.26	50.76		2.99	63.01	12.29
凝灰岩		2	1		3	9.68
		107.56	18.53		126.09	24.59
頁岩			1		1	3.23
			34.70		34.70	6.77
流紋岩			1		1	3.23
			48.71		48.71	9.50
合計	3	13	9	6	31	100.02
	22.19	263.89	220.95	5.64	512.67	99.99
%	9.68	41.94	29.03	19.35	100.00	
	4.33	51.47	43.10	1.10	100.00	

(上段は点数、下段は重量)



S 36
N11-06 1 と接合

- ▲ ナイフ形石器
- 石刃
- 剥片

22.50
22.00

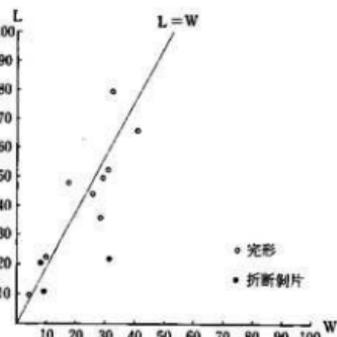
0 4 m

第150図 S59地点遺物出土状況図

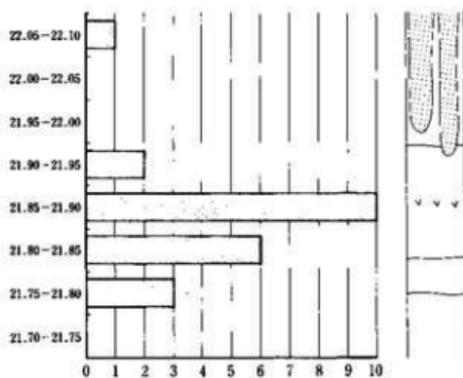
製品はナイフ形石器が3点あり、第5文化層の他の集中地点と比較して突出している。なお、破片は点数比で約20%しかない。

安山岩5 比較的緻密で斑晶をほとんど含まない石材である。ナイフ形石器1点と剥片2点がある。ナイフ形石器は第154図5に図示したもので、ナイフ形石器とするのに若干疑問も残る。横長の剥片を素材とし、打面を中心に調整を加えている。

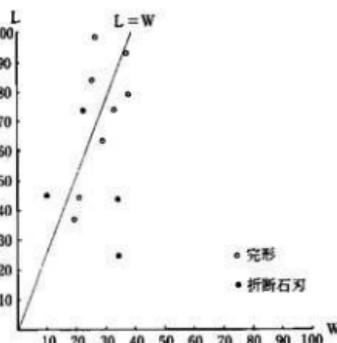
安山岩6 破片が1点あるが、他はすべて石刃である。



第152図 S36・S59地点剥片計測値



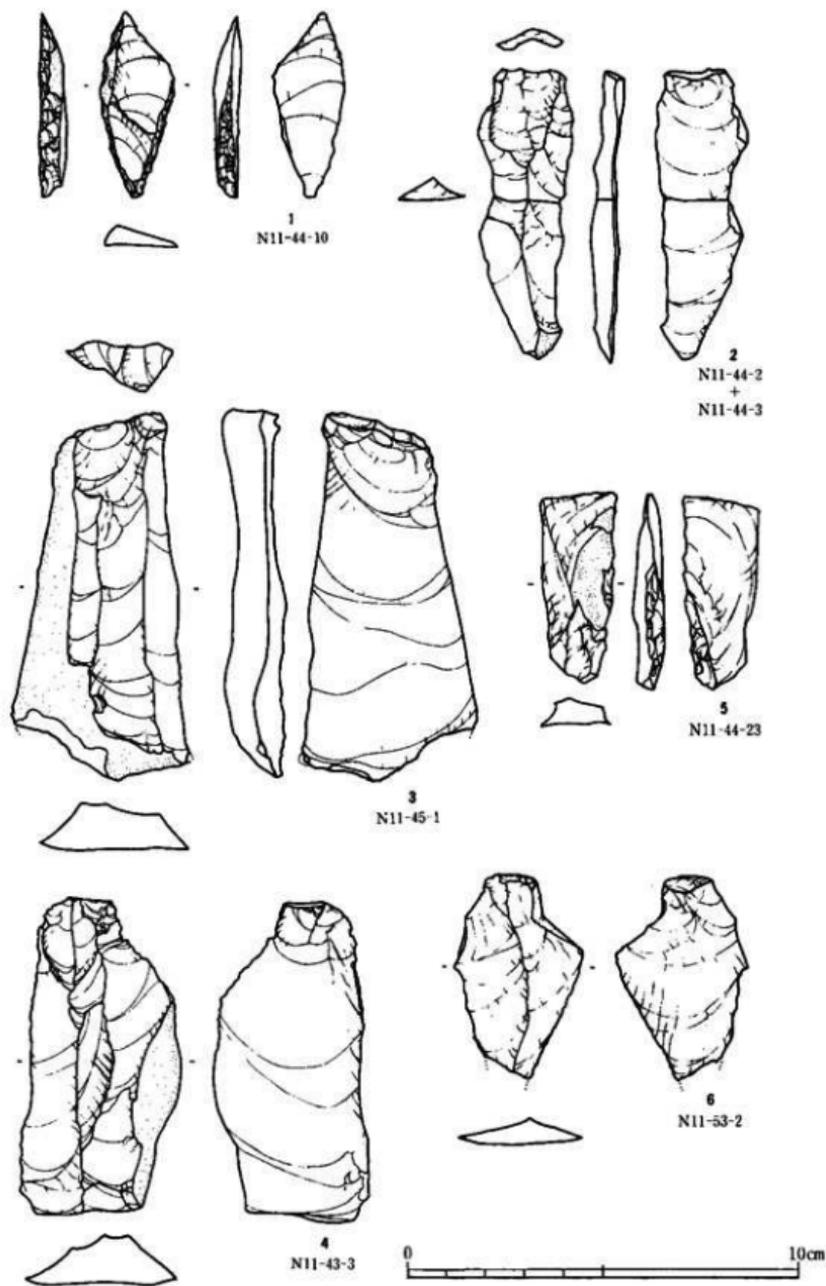
第151図 S36・S59地点遺物垂直分布



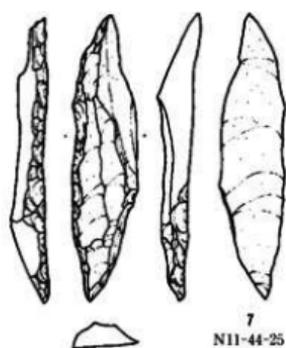
第153図 S36・S59地点石刃計測値

第60表 S59地点遺物観察表

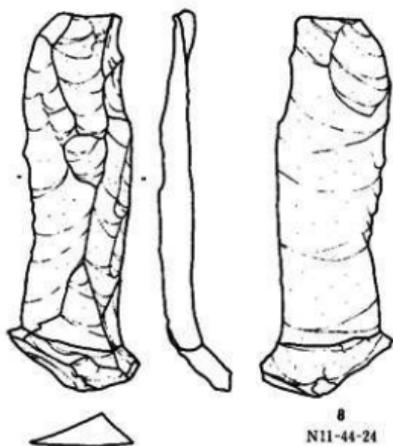
標号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	N11-44	10	ナイフ形石器	4.81	1.76	0.66	5.77	安山岩	未分類
2	N11-44	3	石刃	7.32	2.23	0.55	9.74	安山岩	安山岩6
2	N11-44	2	石刃	7.32	2.23	0.69	9.74	安山岩	安山岩6
3	N11-45	1	石刃	9.26	3.78	1.30	60.10	凝灰岩	未分類
4	N11-43	3	石刃	7.92	3.79	0.75	47.46	凝灰岩	未分類
5	N11-44	23	ナイフ形石器	4.74	1.71	1.62	7.16	安山岩	安山岩5
6	N11-53	2	剥片	5.19	3.06	0.77	9.71	安山岩	安山岩5
7	N11-44	25	ナイフ形石器	7.43	1.63	0.89	9.26	凝灰岩	凝灰岩2
8	N11-44	24	石刃	9.82	2.69	1.01	26.60	凝灰岩	凝灰岩2
9	N11-44	26	石刃	8.37	2.58	1.25	24.16	凝灰岩	凝灰岩2
10	N11-44	28	石刃	7.34	3.34	1.20	22.63	安山岩	安山岩6
11	N11-44	21	剥片	6.10	1.87	1.10	10.72	安山岩	安山岩5



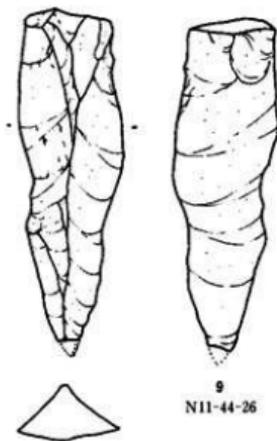
第154图 S59地点石器实测图 1



7
N11-44-25



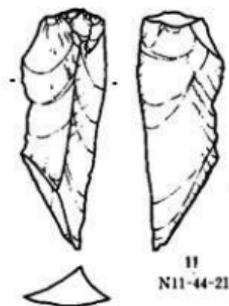
8
N11-44-24



9
N11-44-26



10
N11-44-28



11
N11-44-21



第155图 S59地点石器夹湖图 2

石刃は長さ7cmを超えるもので、遺物実測図2・10を図示した。

凝灰岩2 所謂トトロ石で、ナイフ形石器・石刃・砕片がある。第155図7に示したナイフ形石器は石刃様の長い剥片を素材とし、刃部に対して左側の側縁の全面と右側縁の基部に調整を施している。石刃は8・9の2点で、いずれも8cmを超えるものである。

3 S41地点

(第156～164図、第61・62表、図版19)

a) 分布

本地点はM11区に展開する環状ブロック群を構成する遺物集中地点のうちのひとつである。環状ブロック内部における本地点の



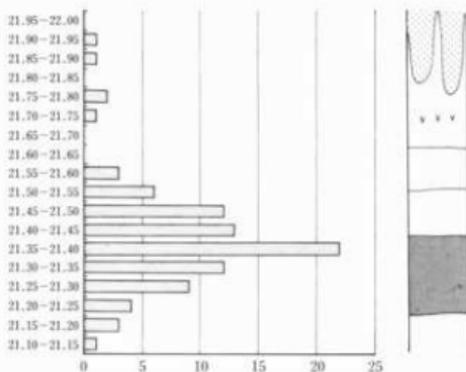
第156図 S41～S44・S60～S62地点の位置

位置は、環状にめぐるブロック群の輪の内側に位置し、S61地点とS62地点を結ぶ線上に沿うように遺物が細長く分布している。最遠距離にある遺物間の距離は10.4mを測り、幅約2mの帯状に遺物が分布している。遺物の産出層準はIXb～IXc層にあり、標高21.4m前後にピークが認められる。環状ブロックが展開する場所は、台地全体がゆゆやかに北西に向かって下がっており、各集中地点間の標高を直接比較することは出来ない。

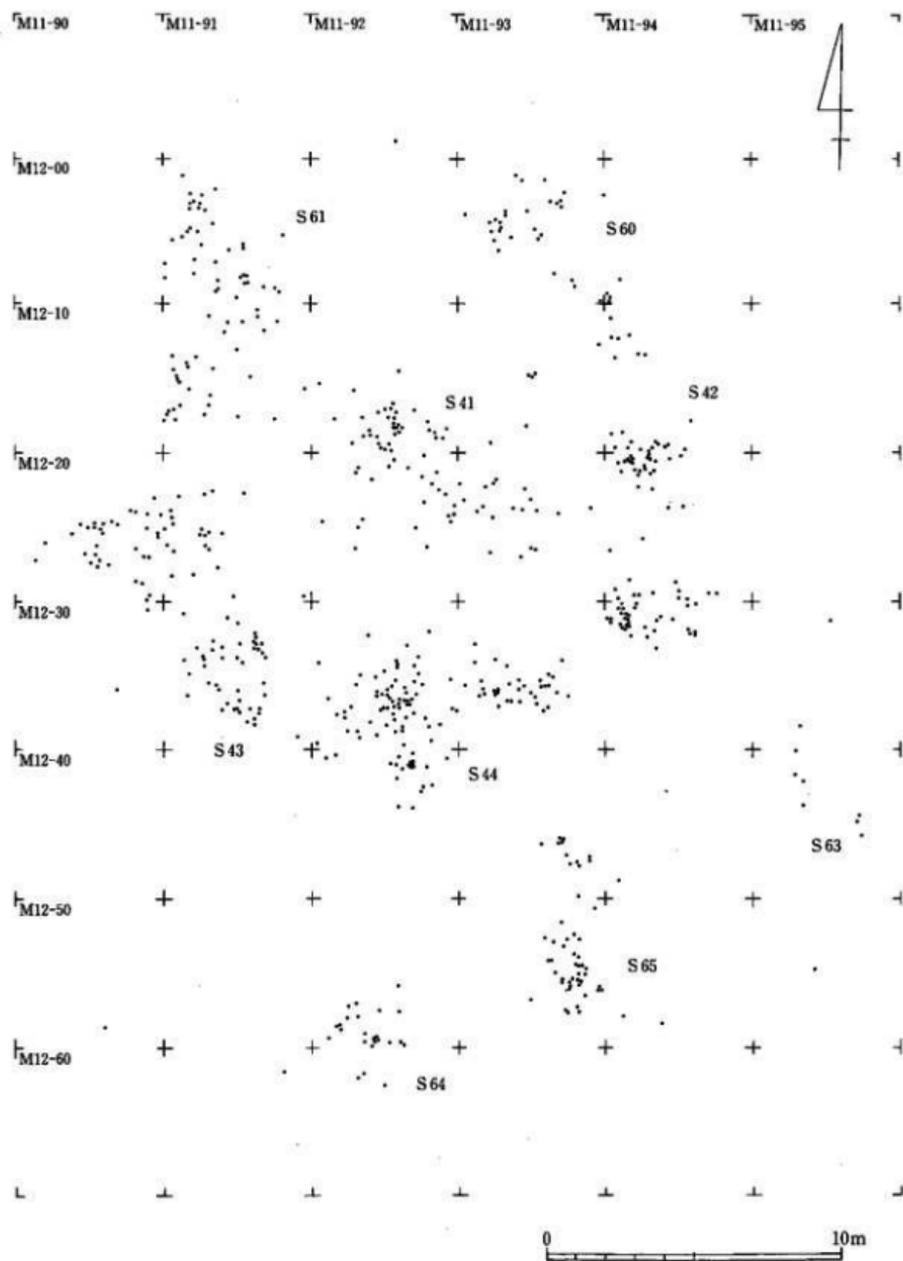
資料総数	86点
最大値	21.911m
最小値	21.148m
平均値	21.402m
標準偏差	0.138

b) 石器

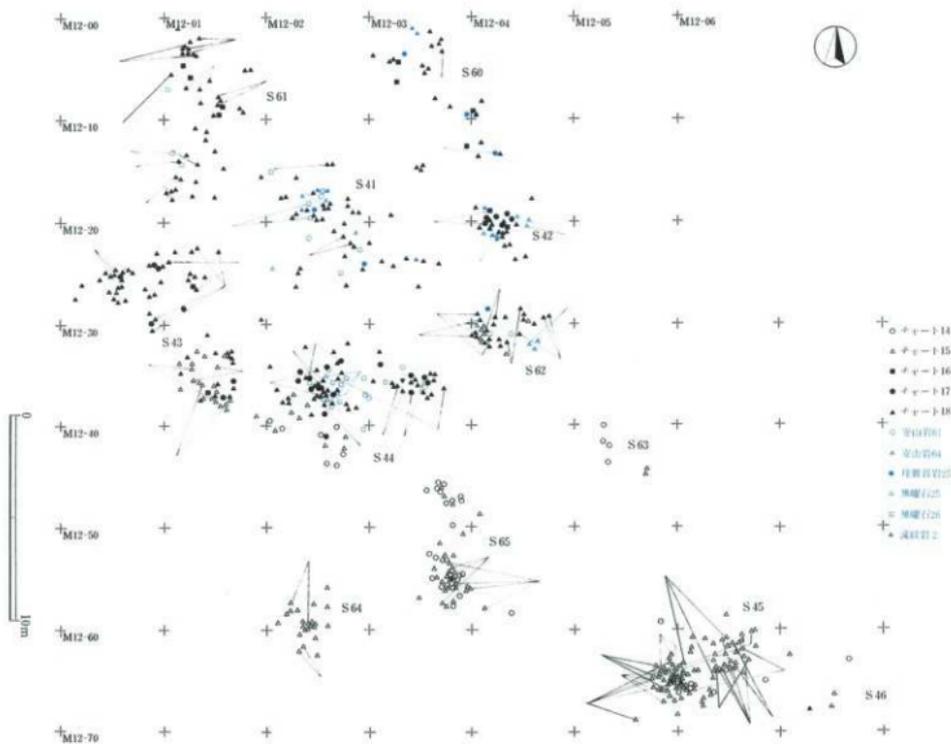
遺物総数は86点で、多くの石刃が出土している。使用石材はチャートが圧倒的に多く、僅かに珪質頁岩・安山岩・黒曜石が使用されている。チャートは多くの母岩が選択されるが、そのほとんどをチャート18が占めている。チャート18は環状ブロッ



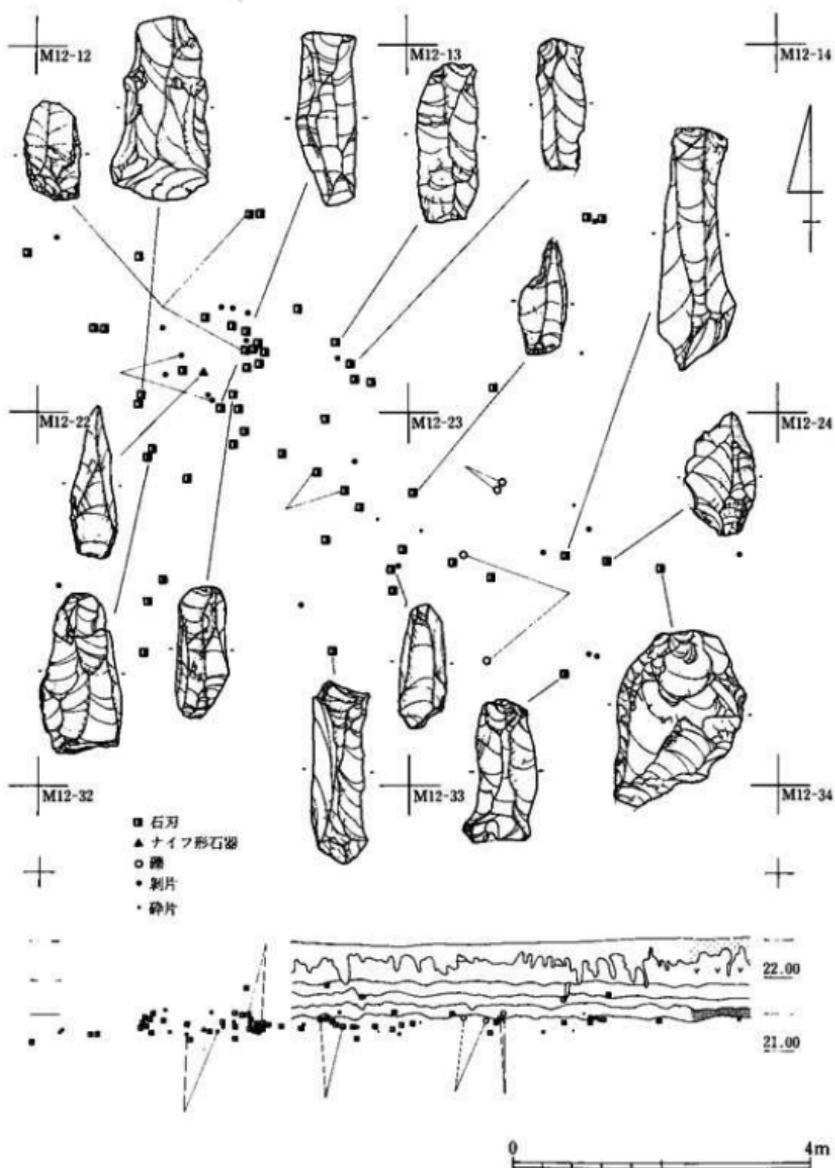
第157図 S41地点遺物垂直分布



第158图 S41~S44・S60~S65地点遺物分布状況



第159图 S40~S44·S60~S65地点母岩别道物分布状况

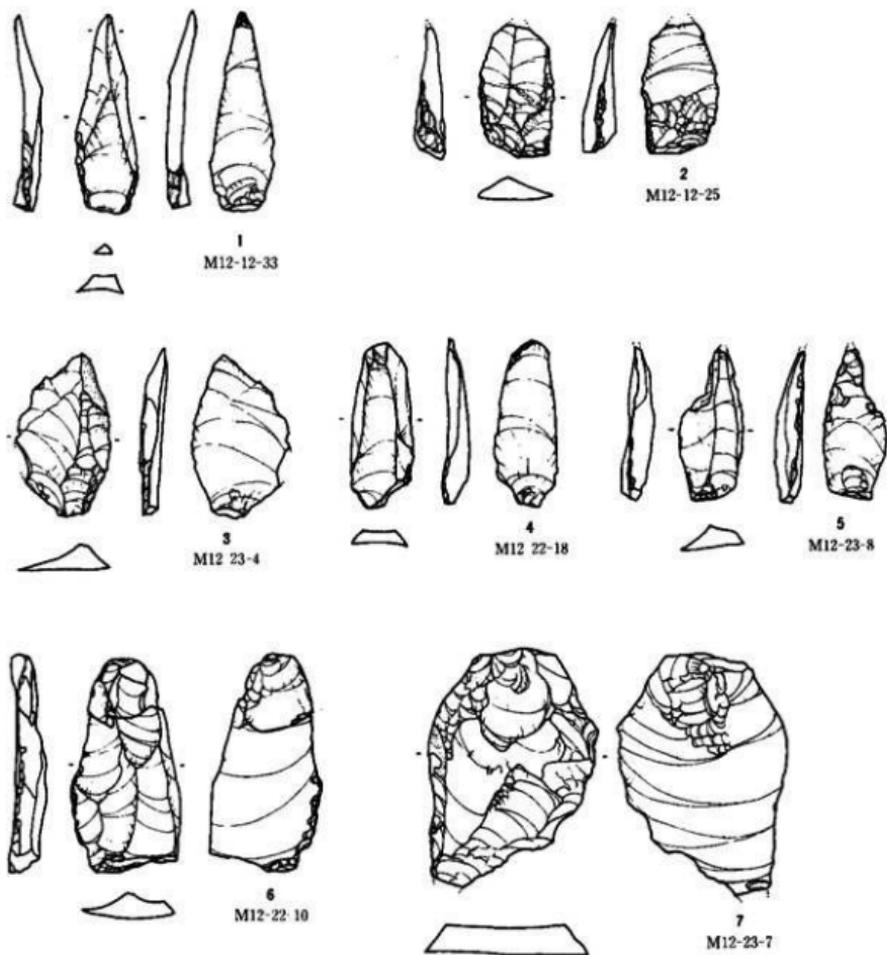


第160図 S41地点遺物分布状況

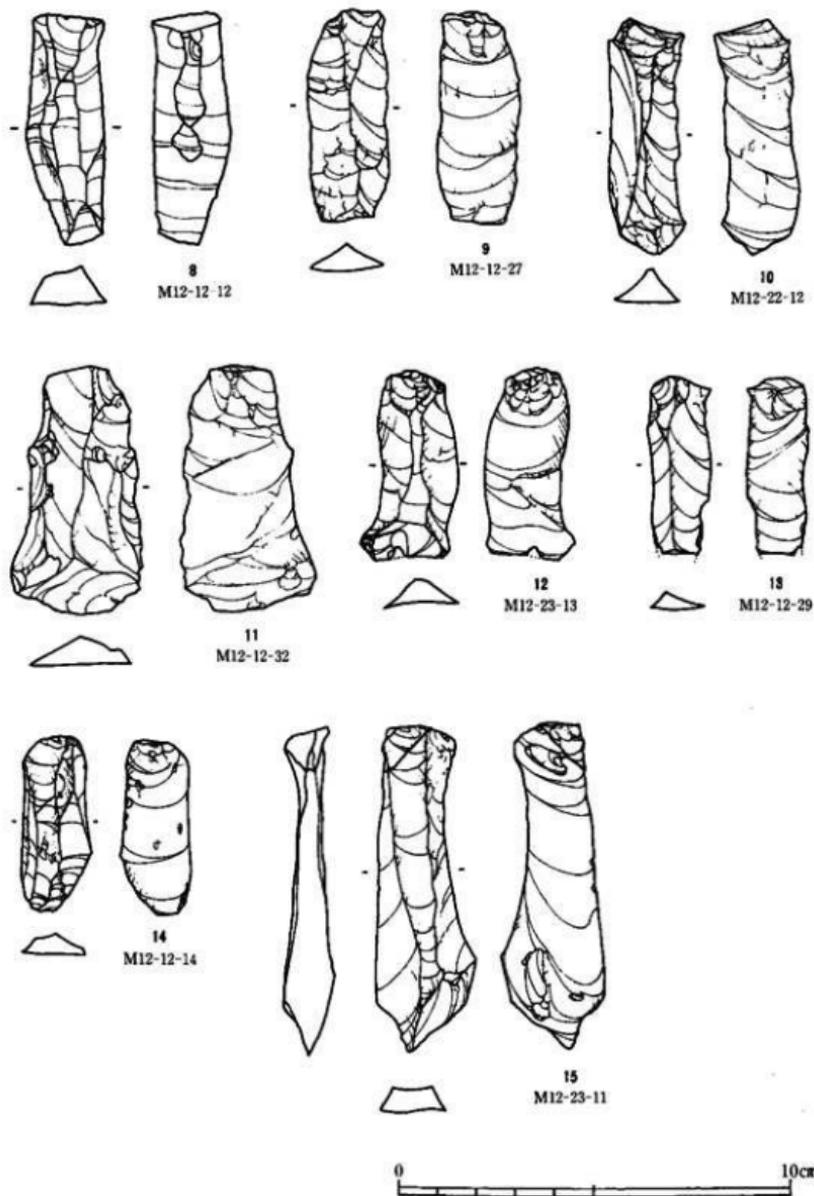
第61表 S41地点遺物集計表

母 岩	ナイフ	石 刃	割 片	碎 片	合 計	%
チャート18	1 4.29	39 228.06	5 24.36		45 256.71	52.33 53.93
チャート19		2 18.45			2 18.45	2.33 3.88
チャート22		1 2.43			1 2.43	1.16 0.51
チャート30		1 15.72			1 15.72	1.16 3.30
チャート31		1 8.67			1 8.67	1.16 1.82
チャート32		1 11.32			1 11.32	1.16 2.38
チャート33		1 4.06			1 4.06	1.16 0.85
チャート35		1 2.36			1 2.36	1.16 0.50
チャート36			1 7.01		1 7.01	1.16 1.47
チャート37			1 26.19		1 26.19	1.16 5.50
チャート			1 0.35		1 0.35	1.16 0.07
珪質頁岩25	2 6.62				2 6.62	2.33 1.39
珪質頁岩33		1 4.53			1 4.53	1.16 0.95
珪質頁岩34		1 3.68			1 3.68	1.16 0.77
黒曜石26		1 1.86	3 2.65	2 0.82	6 5.33	6.98 1.12
流紋岩12		1 17.89	3 9.65		4 27.54	4.65 5.79
流紋岩		1 5.79			1 5.79	1.16 1.22
安山岩61		2 4.73			2 4.73	2.33 0.99
安山岩64			4 19.03		4 19.03	4.65 4.00
安山岩		1 1.37		1 0.09	2 1.46	2.33 0.31
凝灰岩6				2 2.77	2 2.77	2.33 0.58
砂岩45				4 5.25	4 5.25	4.65 1.10
粘板岩			1 36.05		1 36.05	1.16 7.57
合 計	3 10.91	55 330.92	19 125.29	9 8.93	86 476.05	99.98 100.00
%	3.49 2.29	63.95 69.51	22.09 26.32	10.47 1.88	100.00 100.00	

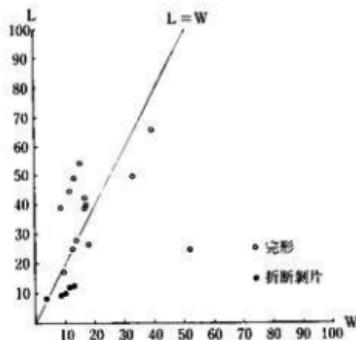
(上段は点数、下段は重量)



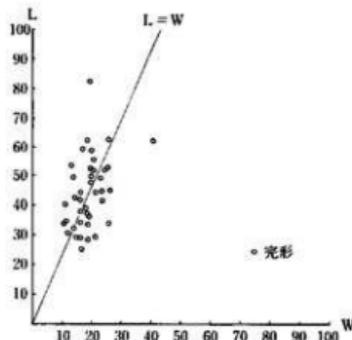
第161图 S41地点遺物実測図 1



第162图 S41地点石器实测图 2



第163図 S41地点剥片計測値



第164図 S41地点石刃計測値

第62表 S41地点遺物観察表

插图番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	M12-12	33	ナイフ形石器	5.08	1.60	0.48	3.30	珪質頁岩	珪質頁岩25
2	M12-12	25	ナイフ形石器	2.27	1.84	0.76	4.29	チャート	チャート18
3	M12-23	4	石 刃	4.13	2.37	0.52	4.15	チャート	チャート18
4	M12-22	18	ナイフ形石器	4.19	1.45	0.43	3.32	珪質頁岩	珪質頁岩25
5	M12-23	8	石 刃	3.79	1.60	0.62	3.68	チャート	チャート18
6	M12-22	10	石 刃	5.26	2.50	0.72	11.32	チャート	チャート32
7	M12-23	7	石 刃	6.23	4.12	0.98	24.38	チャート	チャート18
8	M12-12	12	石 刃	5.86	1.98	1.22	15.16	チャート	チャート18
9	M12-12	27	石 刃	5.53	2.05	0.82	10.53	チャート	チャート18
10	M12-22	12	石 刃	5.92	1.69	0.74	10.02	チャート	チャート18
11	M12-12	32	石 刃	6.27	2.58	0.99	18.00	チャート	チャート18
12	M12-23	13	石 刃	4.75	1.97	0.77	8.67	チャート	チャート32
13	M12-12	29	石 刃	4.46	1.45	0.59	3.68	珪質頁岩	珪質頁岩34
14	M12-12	14	石 刃	4.38	1.62	0.58	4.53	珪質頁岩	珪質頁岩32
15	M12-23	11	石 刃	8.23	1.88	0.90	17.89	流紋岩	流紋岩12

クを構成する各集中地点で圧倒的に優位に立つ石材であるが、個体数としてはかなりの量があったものと考えられる。但し、肉眼の観察ではこれらを識別することは不可能である。

チャート18 緑灰色から黒色に近い色調のものまでであるが、黒色の縞が多く見られる。石刃が圧倒的に多く、接合する資料も僅かにある。第162図に7点の石刃を図示した。2は基部の両側縁に調整を施していることからナイフ形石器とした。なお、石刃の長さは以下のとおりである。

資料総数 55点

最大値 8.23cm

最小値 1.22cm

標準偏差 1.359

チャートはこれ以外にも9種の母岩が認められたが、それぞれ1点ないし2点しか出土していない。

珪質頁岩 珪質頁岩は3種の母岩を判別したが、全体で4点しか出土していない。このうち珪質頁岩25のナイフ形石器を2点図示した。明褐色を呈する石材で、ともに打面寄りの石刃両側縁に調整を施している。

流紋岩12 本地点では4点が出土し、環状ブロック群全体の点数は11点と多くはないが、S41地点以外にS42・S60地点からも出土している。

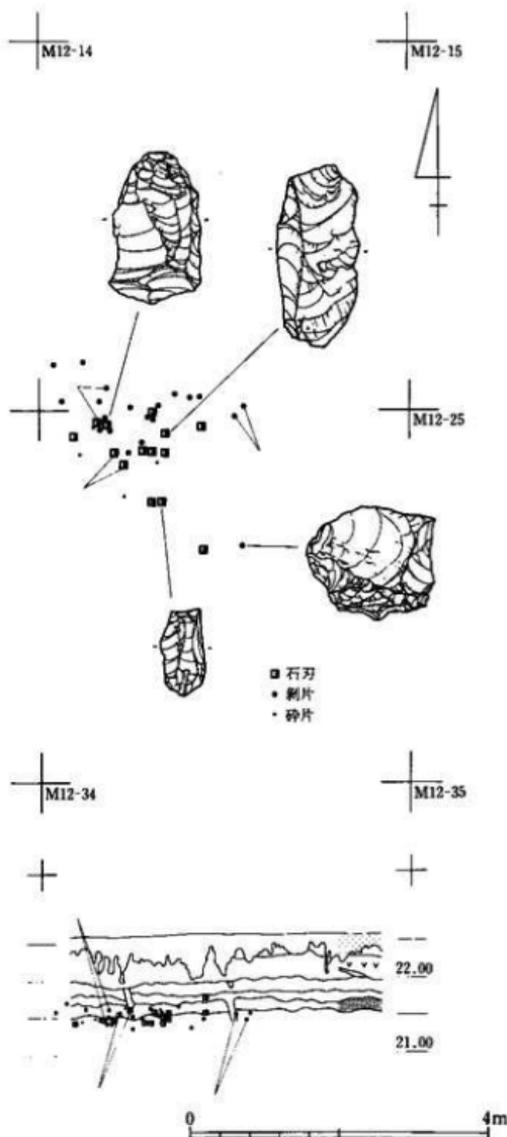
4 S42地点

(第165～169図、第63・64表、図版20)

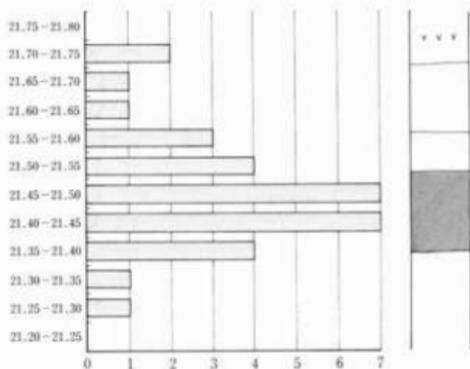
a) 分布

本地点は環状ブロック群の西側の円周を構成する集中地点である。北側はS61地点に、南側はS62地点に隣接している。遺物はM12-24グリッドの中に納まり、直径2.5m程度の狭い範囲に集中している。垂直分布は21.4m前後にピークがあるが、前述したS41地点より西側に位置し、遺物の出土レベルの平均値は若干高くなっている。

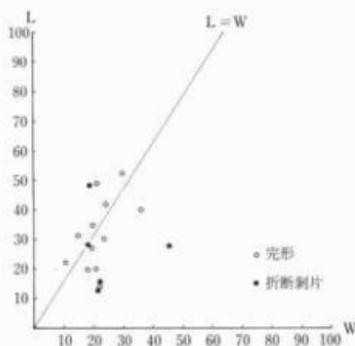
資料総数	37点
最大値	21.701m
最小値	21.294m
平均値	21.479m



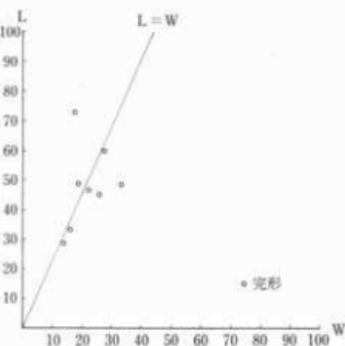
第165図 S42地点遺物分布状況



第166図 S42地点遺物垂直分布



第167図 S42地点剥片計測値



第168図 S42地点石刃計測値

標準偏差 0.098

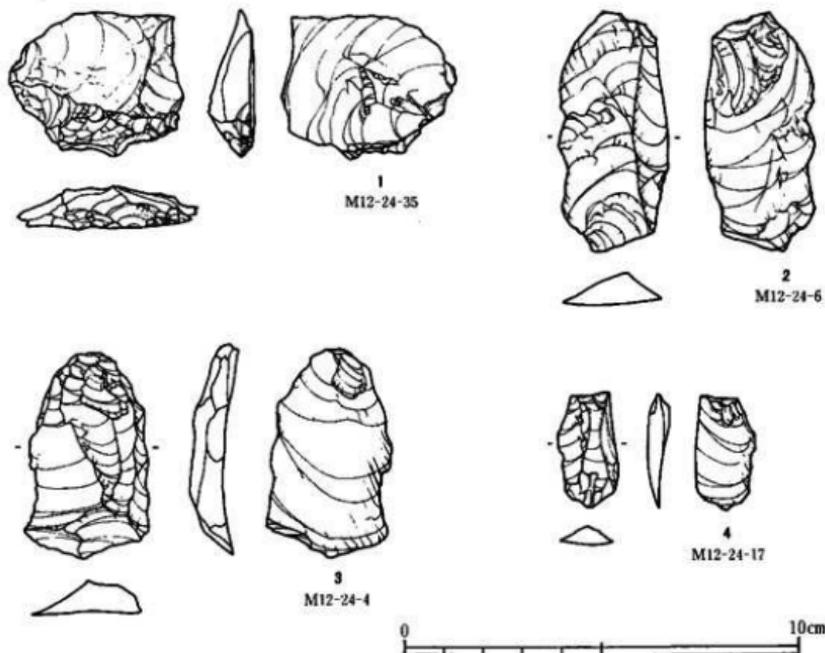
b) 石器

遺物総数は37点で、このうち石刃が13点、剥片が14点ある。使用石材は点数比でチャートが全体の約60%を占め、S41地点同様にチャート18が圧倒的に多い。チャート以外に安山岩・流紋岩が僅かにある。

チャート 3種の母岩を判別したが、チャート16・チャート17は少ない。チャート16は黒色を呈し光沢の少ない石材である。石刃2点と破片がある。石刃は第169図2に図示した。チャート17は灰白色を呈し、黒色の縞が多く入る。剥片と破片があり、剥片はいずれも不定形である。

チャート18は石刃が主体となり、第169図1は削器で、縦長の剥片の側縁に調整を施している。

安山岩 2種の母岩を判別し、不定形な剥片と破片がある。



第169図 S42地点石器実測図

第63表 S42地点遺物観察表

標記 番号	グリッド	遺物番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	母 岩
1	M12-24	35	削 器	4.02	3.57	1.06	17.95	チャート	チャート18
2	M12-24	6	石 刃	6.03	2.76	0.92	14.53	チャート	チャート16
3	M12-24	4	剥 片	5.25	2.99	0.90	14.46	チャート	チャート18
4	M12-24	17	石 刃	2.84	1.39	0.51	2.02	チャート	チャート18

流紋岩 S41地点と共通する流紋岩12がある。石刃2点は接合する。

5 S43a地点 (第170～173図、第65・66表、図版20)

a) 分 布

本地点は環状ブロック群を構成するする弧の南西側を形成する集中地点である。北側はS61地点が、南側にはS43b点が隣接している。調査時はS43地点として一括して扱われていたが、第157図の遺物分布図からも明らかなように、遺物の分布は二分することができる。遺物はM12-20からM12-21グリッドにかけて分布し、長軸約8m、短軸約4mを測り東西に長く分布して

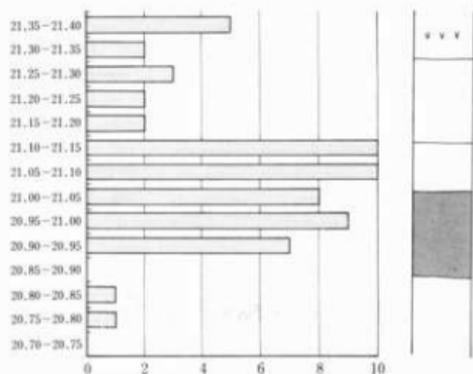
第64表 S42地点遺物集計表

母 岩	削 器	石 刃	剥 片	碎 片	合 計	%
チャート16		2 20.48		1 0.93	3 21.41	8.11 9.67
チャート17			4 12.07	1 1.19	5 13.26	13.51 5.99
チャート18	1 17.95	9 97.21	3 28.90	1 0.22	14 144.28	37.84 65.17
安山岩64			3 12.21	2 0.18	5 12.39	13.51 5.60
安山岩71			1 3.47	2 0.63	3 4.10	8.11 1.85
流紋岩12		2 12.20	1 1.97	1 1.21	4 15.38	10.81 6.95
流紋岩13			1 6.00		1 6.00	2.70 2.71
頁 岩 6			1 3.90		1 3.90	2.70 1.76
粘 板 岩				1 0.68	1 0.68	2.70 0.31
合 計	1 17.95	13 129.89	14 68.52	9 5.04	37 221.4	99.99 100.01
%	2.70 8.11	35.14 58.67	37.87 30.95	24.32 2.28	100.03 100.01	

(上段は点数、下段は重量)

いる。第171・175図の遺物の垂直分布のヒストグラムにはS43aとS43b地点を合わせて図化したが、ローム層自体の標高に差があるため、遺物点数のピークにも差が現れている。

資料総数 61点
 最大値 21.396m
 最小値 20.759m
 平均値 21.086m
 標準偏差 0.144

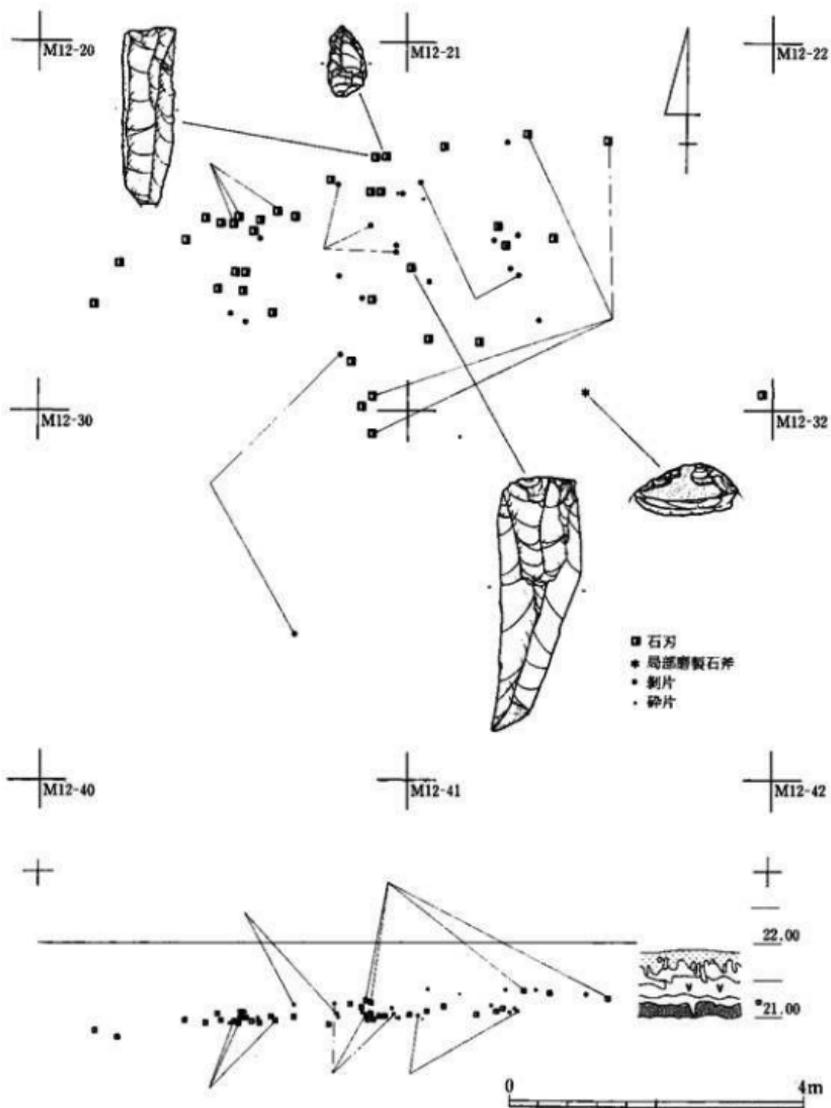


第170図 S43a地点遺物垂直分布

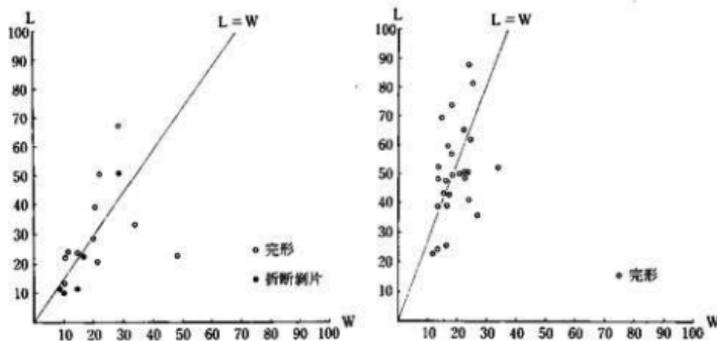
b) 石器

遺物総数は61点で、石刃が約60%

を占める。使用石材はチャートが圧倒的に多く、チャート18としたものがほとんどである。第178図にはS43b地点出土の遺物も合わせて掲載してある。1～4までがS43a地点の遺物である。



第171回 S 43 a 地点遺物分布狀況



第172図 S 43 a 地点剥片計測値

第173図 S 43 a 地点石刃計測値

第65表 S 43 a 地点遺物集計表

母岩	石斧	石刃	剥片	碎片	合計	%
チャート16			1 4.99		1 4.99	1.64 1.14
チャート17		4 30.57		1 0.59	5 31.16	8.20 7.10
チャート18		29 205.93	7 40.66	4 1.38	40 247.97	65.57 56.52
チャート24		1 5.35			1 5.35	1.64 1.22
チャート25		1 24.01			1 24.01	1.64 5.47
珪質頁岩28			1 11.85		1 11.85	1.64 2.70
珪質頁岩29		1 7.15			1 7.15	1.64 1.63
頁岩 5			2 24.01		2 24.01	3.28 5.47
安山岩 63			1 13.35		1 13.35	1.64 3.04
安山岩 66			3 51.92		3 51.92	4.92 17.83
安山岩 67		2 10.74			2 10.74	3.28 2.45
安山岩 69				1 0.12	1 0.12	1.64 0.03
砂岩 5				1 1.14	1 1.14	1.64 0.26
砂岩 7	1 4.95				1 4.95	1.64 1.13
合計	1 4.95	38 283.75	15 146.78	7 3.23	61 438.71	100.01 99.99
%	1.64 1.13	62.30 64.68	24.59 33.46	11.48 0.74	100.01 100.01	

(上段は点数、下段は重量)

チャート 5種の母岩を判別したが、チャート18を除くとチャート17が5点で、他の石材はすべて1点しかない。チャート18についてみれば、40点中の29点が石刃である。チャート17はチャート18に酷似しており、エラーが懸念される。

安山岩 4種の母岩を判別したが、全体で8点である。

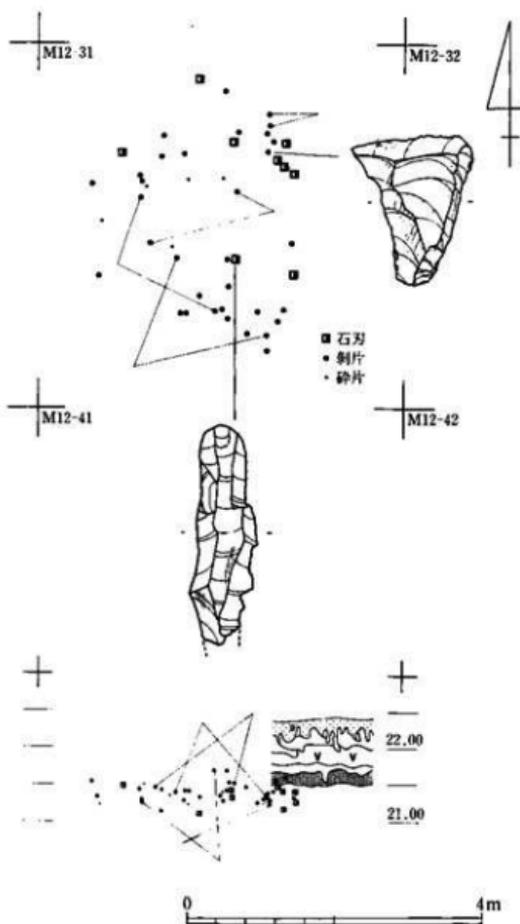
このほか本地点では第178図1に示した石斧の破片が出土している。砂岩製の製品で、刃部の破片である。両面とも研磨されている。なお、この石斧はS61地点出土の石斧と同一母岩である。

6 S43b地点

(第174～178図、第67表、図版20)

a) 分布

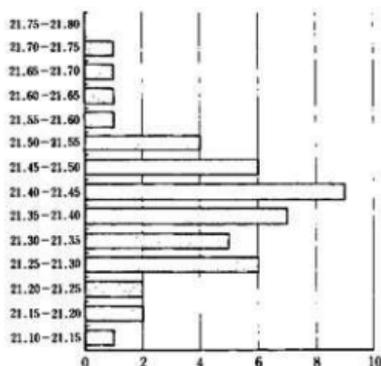
S43a地点に隣接し、M12-31グリッドに遺物が分布している。遺物の分布する範囲はS43a地点より若干狭く、およ



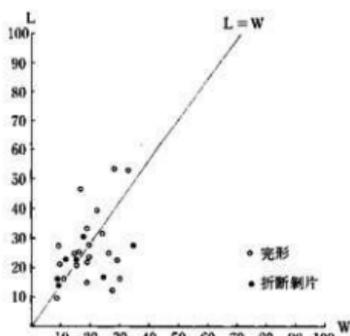
第174図 S43b地点遺物分布状況

第66表 S43a地点遺物観察表

標号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	M12-21	2	石斧	1.80	3.50	0.72	4.95	砂岩	砂岩7
2	M12-20	1	石刃	2.41	1.30	0.44	1.51	チャート	チャート18
3	M12-21	22	石刃	8.78	2.34	1.02	24.01	チャート	チャート25
4	M12-20	1	石刃	5.94	1.64	0.67	8.67	安山岩	安山岩67
5	M12-31	21	石刃	7.36	1.98	0.66	9.96	チャート	チャート18
6	M12-31	13	R, 剥片	5.36	2.77	0.71	13.84	チャート	チャート18



第175図 S43b地点遺物垂直分布



第176図 S43b地点剥片計測値

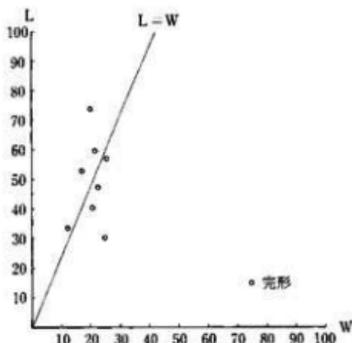
そ直径4m程度のなかに集中している。遺物分布は明らかにS43a地点とS43b地点に二分されるが、その状況はS43b地点とS44地点ほど明確に分けることはできず、中間となる地域からも僅かに遺物が出土している。レベル的には明らかにS43b地点が高い位置にあり、ローム層の傾斜以上の標高差が平均値に現れている。

資料総数	46点
最大値	21.701m
最小値	21.106m
平均値	21.395m
標準偏差	0.127

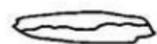
b) 石器

遺物総数は46点で、使用石材はチャートが圧倒的に多い。そのなかでも環状ブロック群の南側の弧を形成するS44地点や環状ブロック群の外側に位置するS64・S65地点で多く出土しているチャート15が目立っている。チャート15から石刃は製作されず、不定形な剥片が主体となる。また、チャート18もチャート15に続いて多く、チャート18は石刃を多く製作している。第178図6はチャート18の石刃を素材としたもので、両側縁に調整が施されている。

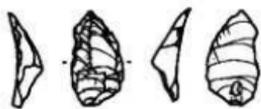
チャート以外に珪質頁岩・安山岩・変成岩等が使用されているが、全体量が少なく、剥片・断片から構成される。



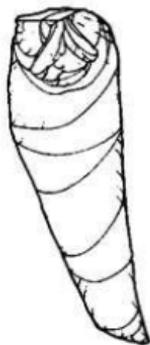
第177図 S43b地点石刃計測値



1
M12-21-2



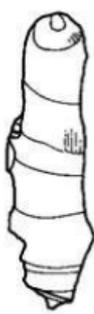
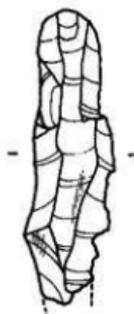
2
M12-20-1



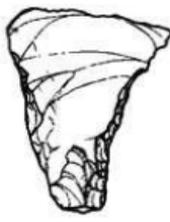
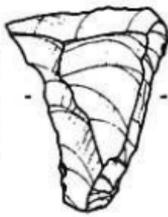
3
M12-21-22



4
M12-20-1



5
M12-31-21



6
M12-31-13



第178图 S43地点石器实测图

第67表 S43b地点遺物集計表

母 岩	R剝片	石 刃	剝 片	碎 片	合 計	%
チャート15			19 59.43	1 0.29	20 59.72	43.48 27.88
チャート17				3 2.05	3 2.05	6.52 0.96
チャート18	1 13.84	9 74.34	3 13.07	1 0.20	14 101.45	30.43 47.36
チャート26			1 3.62		1 3.62	2.17 1.69
珪質頁岩30			2 26.45		2 26.45	4.35 12.35
安山岩65				4 1.91	4 1.91	8.70 0.89
安山岩71			1 5.62		1 5.62	2.17 2.62
変成岩2			1 13.38		1 13.38	2.17 6.25
合 計	1 13.84	9 74.34	27 121.57	9 4.45	46 214.20	99.99 100.00
%	2.17 6.46	19.57 34.71	58.70 56.76	19.57 2.08	100.01 100.01	

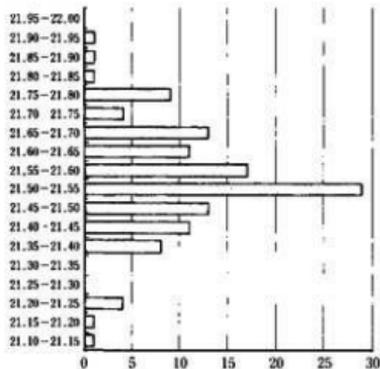
(上段は点数、下段は重量)

7 S44地点

(第179~185図、第68・69表、図版21)

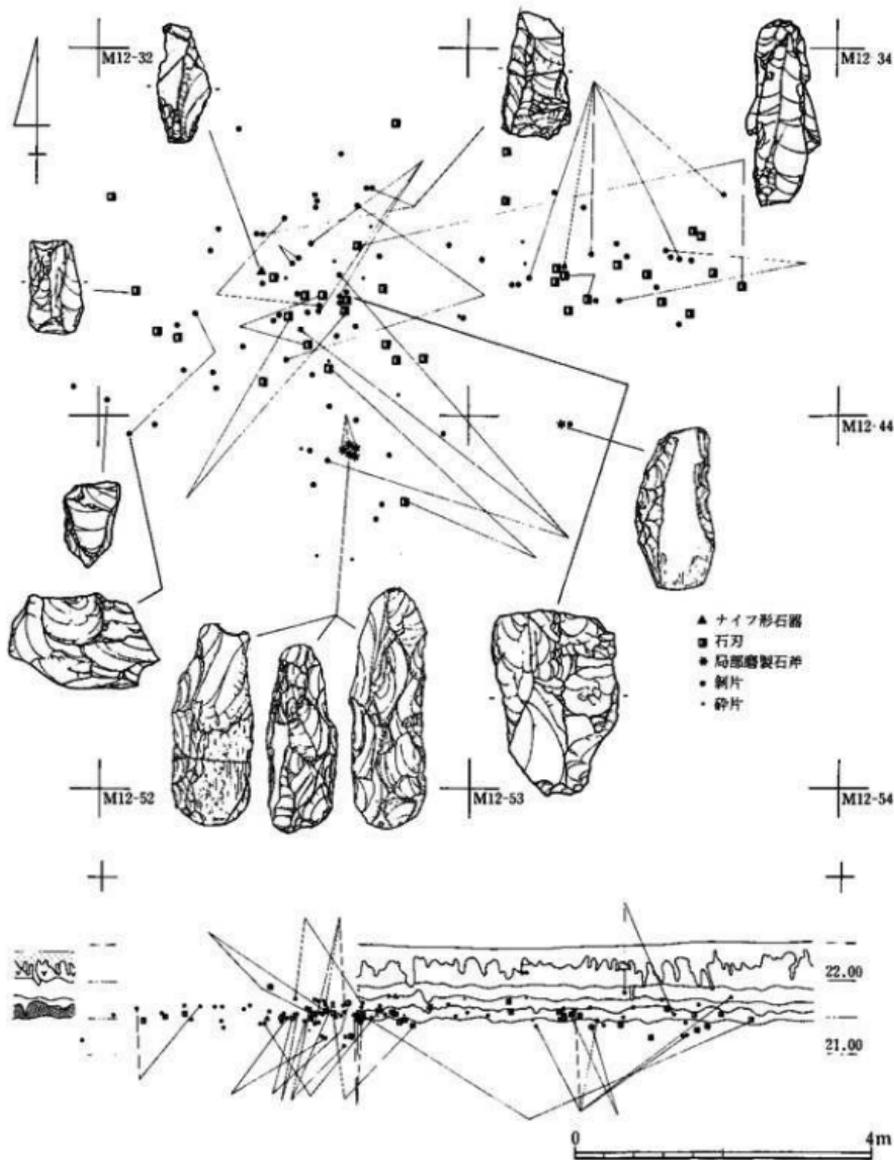
a) 分布

S43地点とS62地点の中間に位置し、環状ブロック群の南端にあたる。遺物はM12-32からM12-33グリッドを中心に出土し、濃密な部分が2箇所ある。分布範囲は東西に長く、東西約9m、南北約6mを測る。また、この地点からは石斧が4点出土しており、第183・184図1・3・4は近接して出土した。遺物はIXc層に包含され、遺物の出土レベルは平均値でS43bやS62地点とほぼ同レベルである。



第179図 S44地点遺物垂直分布

資料総数 130点
 最大値 21.903m
 最小値 21.341m

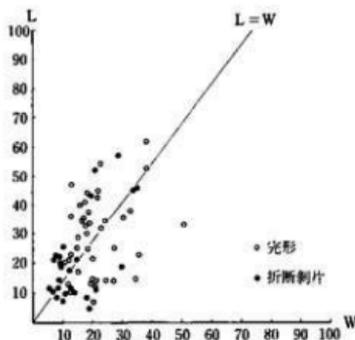


第180図 S44地点遺物分布状況

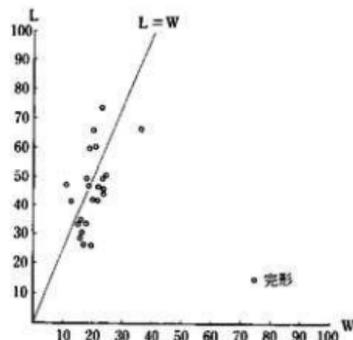
第68表 S44地点遺物集計表

母岩	石斧	ナイフ	石刃	剝片	碎片	合計	%
チャート14				2 5.18	6 1.50	8 6.68	6.15 0.46
チャート15				7 54.39	2 1.69	9 56.08	6.92 3.86
チャート17		2 9.27	1 7.82	4 28.72	9 6.48	16 52.29	12.31 3.60
チャート18		1 7.90	24 133.68	13 136.56	9 5.06	47 281.20	36.15 19.35
チャート20			1 20.90			1 20.90	0.77 1.44
チャート28				1 1.43		1 1.43	0.77 0.10
チャート37				1 7.06		1 7.06	0.77 0.49
安山岩61			3 14.32			3 14.32	2.31 0.99
安山岩68			2 5.74	1 2.86		3 8.60	2.31 0.59
安山岩72					1 0.76	1 0.76	0.77 0.05
安山岩73				1 4.52		1 4.52	0.77 0.31
安山岩74					1 0.31	1 0.31	0.77 0.02
安山岩75				1 2.22		1 2.22	0.77 0.15
安山岩77				1 3.33		1 3.33	0.77 0.23
凝灰岩7			1 9.46			1 9.46	0.77 0.65
頁岩7			1 4.82			1 4.82	0.77 0.33
頁岩8			1 6.79			1 6.79	0.77 0.47
黒曜石25			3 17.12			3 17.12	2.31 1.18
黒曜石26		1 4.33	1 5.88	2 4.99	8 4.58	12 19.78	9.23 1.36
流紋岩11				5 41.41		5 41.41	3.85 2.85
流紋岩64				3 12.86	2 1.21	5 14.07	3.85 0.97
流紋岩				1 1.16		1 1.16	0.77 0.08
砂岩6	5 364.05					5 364.05	3.85 25.05
砂岩8	1 218.57					1 218.57	0.77 15.04
砂岩9	1 296.36					1 296.36	0.77 20.39
合計	7 878.98	4 21.50	38 214.53	43 306.69	38 21.59	130 1453.29	100.02 100.01
%	5.38 60.48	2.31 0.94	30.00 15.99	33.08 21.10	29.23 1.49	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)



第181図 S44地点剥片計測値



第182図 S44地点石刃計測値

第69表 S44地点遺物観察表

種目番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	M12-42	6	石 斧	16.10	4.72	3.65	296.36	砂岩	砂岩 9
2	M12-43	1	石 斧	10.88	5.08	2.57	152.08	砂岩	砂岩 6
3	M12-42	4	石 斧	12.82	4.77	3.14	218.57	砂岩	砂岩 8
4	M12-42	1+2+3+5	石 斧	13.30	5.42	2.91	211.97	砂岩	砂岩 6
5	M12-32	6+60	ナイフ形石器	4.35	1.97	0.86	9.27	チャート	チャート17
6	M12-32	56	ナイフ形石器	3.95	1.73	0.72	4.33	黒曜石	黒曜石 26
7	M12-32	71	剥片	3.00	1.79	0.72	3.90	チャート	チャート14
8	M12-33	23	石 刃	4.70	1.83	0.75	8.62	チャート	チャート18
9	M12-32	45	ナイフ形石器	5.98	1.89	0.82	7.90	チャート	チャート18
10	M12-32	47	石 刃	3.04	1.64	0.60	3.86	チャート	チャート18
11	M12-32	31	剥片	6.17	3.83	1.42	36.13	チャート	チャート18
12	M12-42	19	剥片	3.31	5.07	1.45	26.64	チャート	チャート15

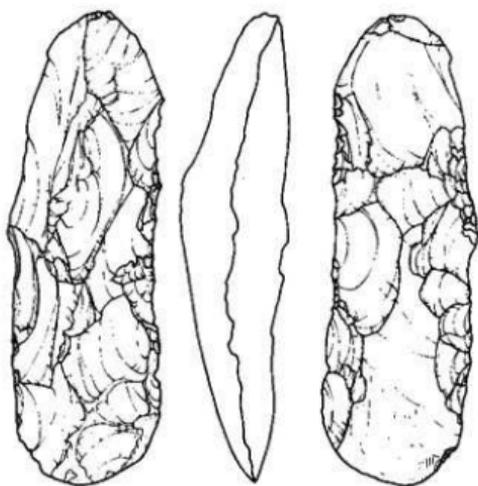
平均値 21.537m

標準偏差 0.176

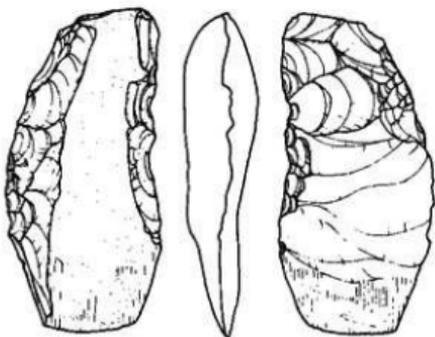
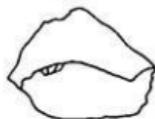
b) 石器

遺物総数は130点で、使用石材はやはりチャートが主体となる。この他にも安山岩・黒曜石・流紋岩等が使用されているが、点数的にはごく僅かなもので、各母岩を構成する資料数も1点という例が多い。石斧はすべて砂岩で、砂岩6からは2点の石斧が製作されている。

チャート チャートは7種の母岩を判別した。この中でチャート20・28・37は各1点しかない。チャートのなかで最も多く出土しているのはチャート18で、チャート17も非常によく似た石材である。この2種の母岩だけでS44地点の出土遺物の50%近くを占めている。チャート18は半数以上が石刃で構成されるが、チャート17は石刃が少なく、剥片・破片の組成率が高い。チャ



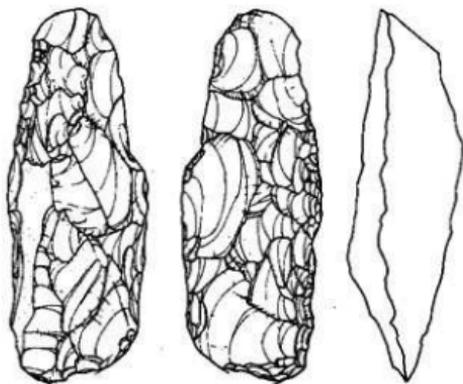
1
M12-42.6



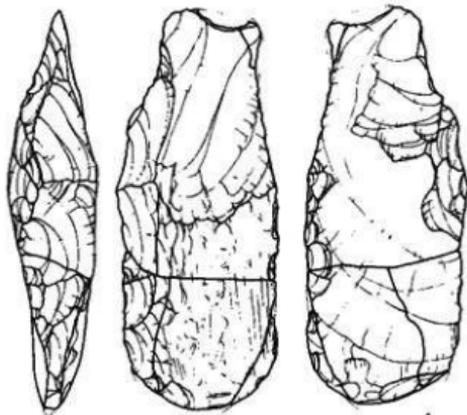
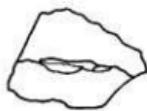
2
M12-43.1



第183图 S44地点石器实测图 1



3
M12-42-4

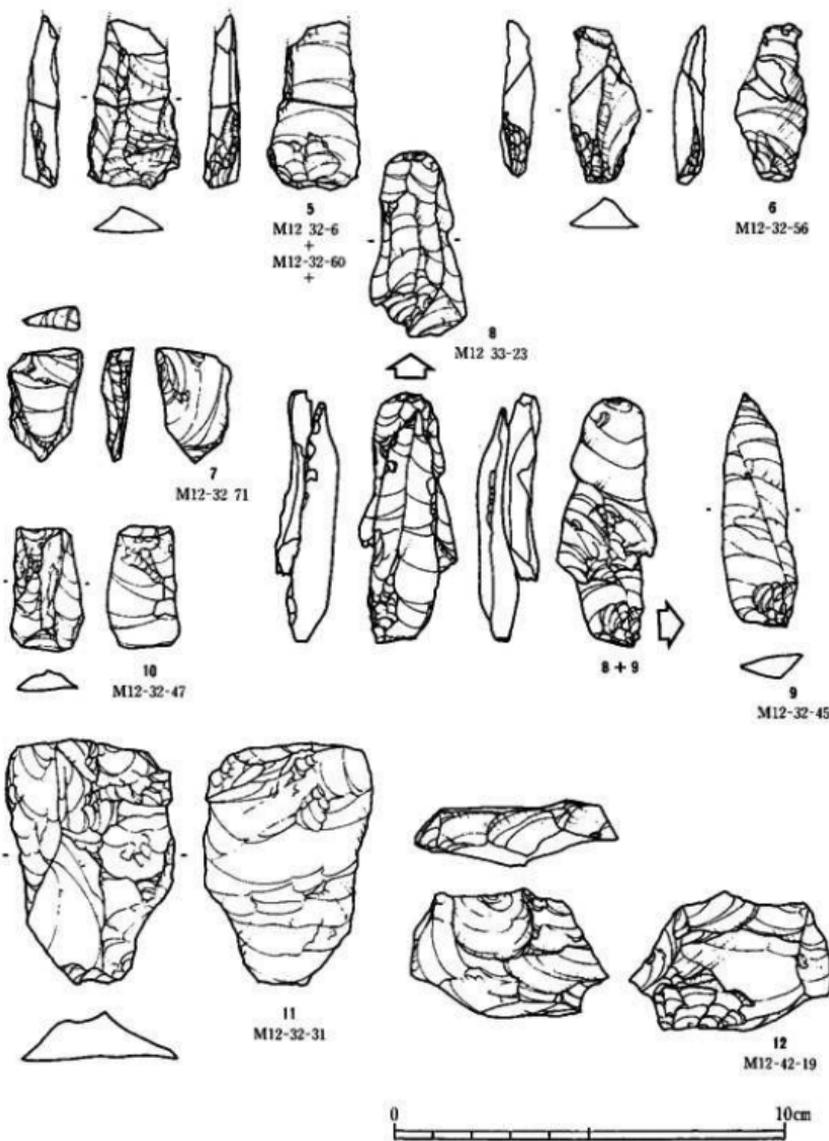


4
M12-42-1
+
M12-42-2
+
M12-42-3
+
M12-42-5



0 10cm

第184图 S44地点石器实测图 2



第185圖 S44地点石器実測図 3

ート17から第185図5のナイフ形石器が製作されている。石刃を素材とし、打面に近い両側縁に調整を施した簡単なものである。チャート14・15も互いに似た石材で、環状ブロックの両側の弧を形成するS43地点からS62地点、さらに環状ブロック群の両側のS64・S65地点から出土している。この石材から製作された石刃はなく、不定形な剥片と破片で構成される。

安山岩 安山岩も7種の母岩を判別したが、同一母岩と判定したものは最大でも3点で、安山岩72から安山岩77までの5種の母岩は1点の剥片もしくは破片が出土したものである。比較的良好な安山岩61・安山岩68からは石刃が製作されている。

黒曜石 黒曜石は2種の母岩を判別した。黒曜石25は透明感のある良質の石材で、石刃が単独である。黒曜石26は不定形な剥片が多いが、第185図6のナイフ形石器がある。縦長の剥片を素材とし、打面に近い両側縁に調整を施している。

砂岩 砂岩は3種の母岩を判別した。すべて石斧であり、砂岩6からは2点の石斧が製作されている。この内の1点(第184図4)は4点に破損していた。石斧は縦長の大型の剥片を素材とし、第184図2だけが原礫面を残した剥片を素材としている。また3は刃部を欠損している。なお、本地点からこれらの石斧の調整剥片はまったく出土していない。

8 S45地点(第186~191図、第70・71表、図版14)

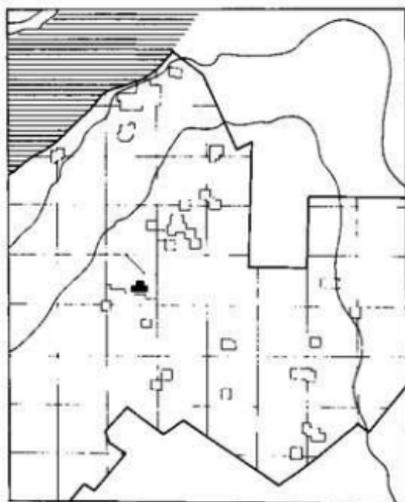
a) 分布

S41地点やS60地点が形成する環状ブロックの外側に位置し、M12-99グリッドを中心に遺物が分布している。また、同一文化層に帰属するS46地点と隣接し、共通する母岩もある。遺物の分布状況は視覚的に2箇所の核があるように見えるが、両者の間には接合資料も多く、一体のものとして捉えた。遺物の産出層準はIXa層を中心とし、標高21.8~21.85mにピークがある。

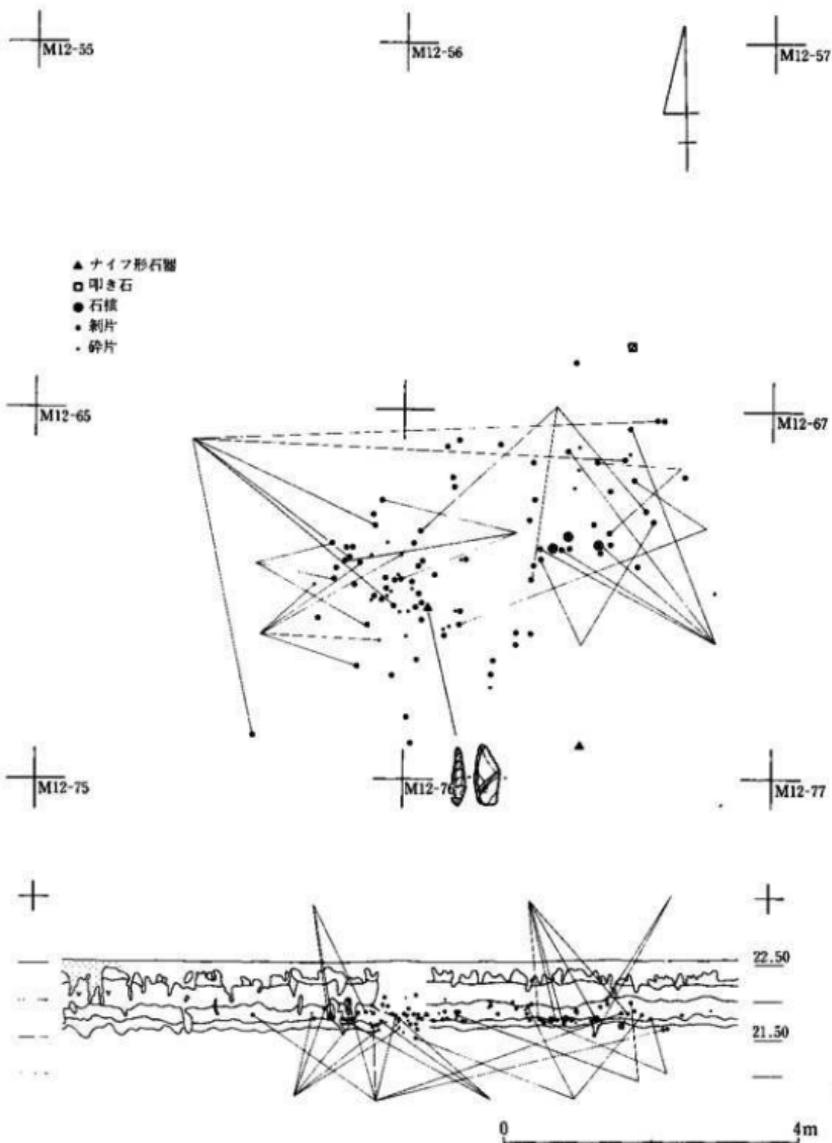
資料総数	108点
最大値	22.276m
最小値	21.501m
平均値	21.823m
標準偏差	0.1313

b) 石器

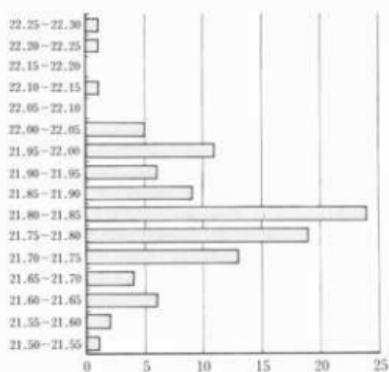
石器総数は108点で、使用石材はチャートが圧倒的に多い。その中でもチャート15としたものが卓越し、点数比で全体の89.81%を占める。チャート14は6点あるがいずれ



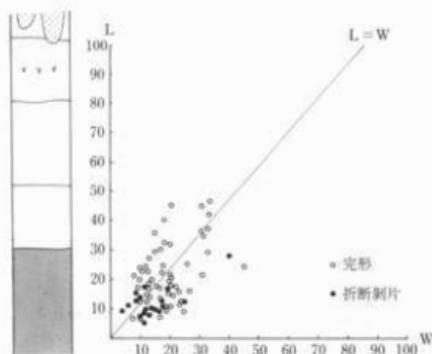
第186図 S45・S46地点の位置



第187図 S45地点遺物分布状況



第188図 S45地点遺物垂直分布



第189図 S45地点剥片計測値

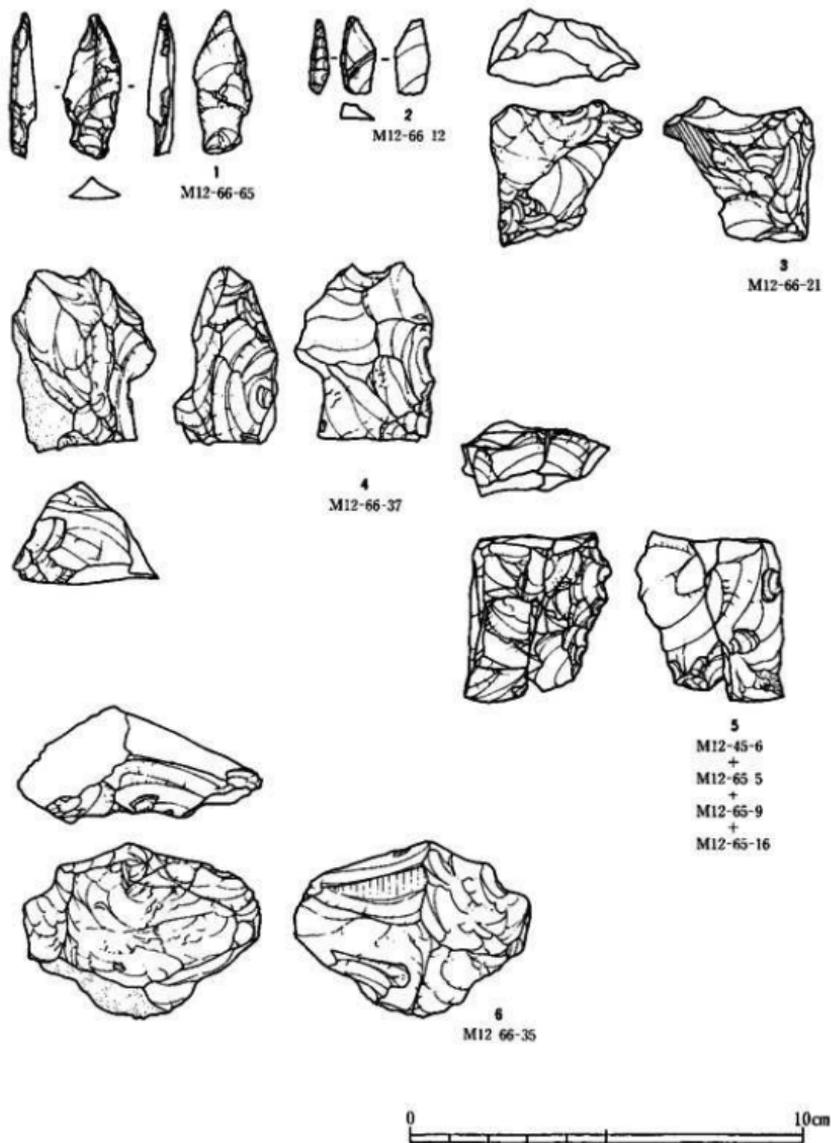
第70表 S45地点遺物集計表

母岩	石核	叩き石	ナイフ	剥片	碎片	合計	%
チャート14					6 4.90	6 4.90	5.56 0.55
チャート15	3 150.52		1 0.56	48 289.60	45 24.27	97 464.95	89.81 51.78
チャート29				1 2.23		1 2.23	0.93 0.25
珪質頁岩32			1 2.76			1 2.76	0.93 0.31
黒曜石27				1 1.95		1 1.95	0.93 0.22
変成岩		1 409.62				1 409.62	0.93 51.78
不明				1 11.50		1 11.50	0.93 1.28
合計	3 150.52	1 409.62	2 3.32	51 305.28	51 29.17	108 897.91	100.02 100.01
%	2.78 16.76	0.93 45.62	1.85 0.37	47.22 34.00	47.22 3.25	100.00 100.00	

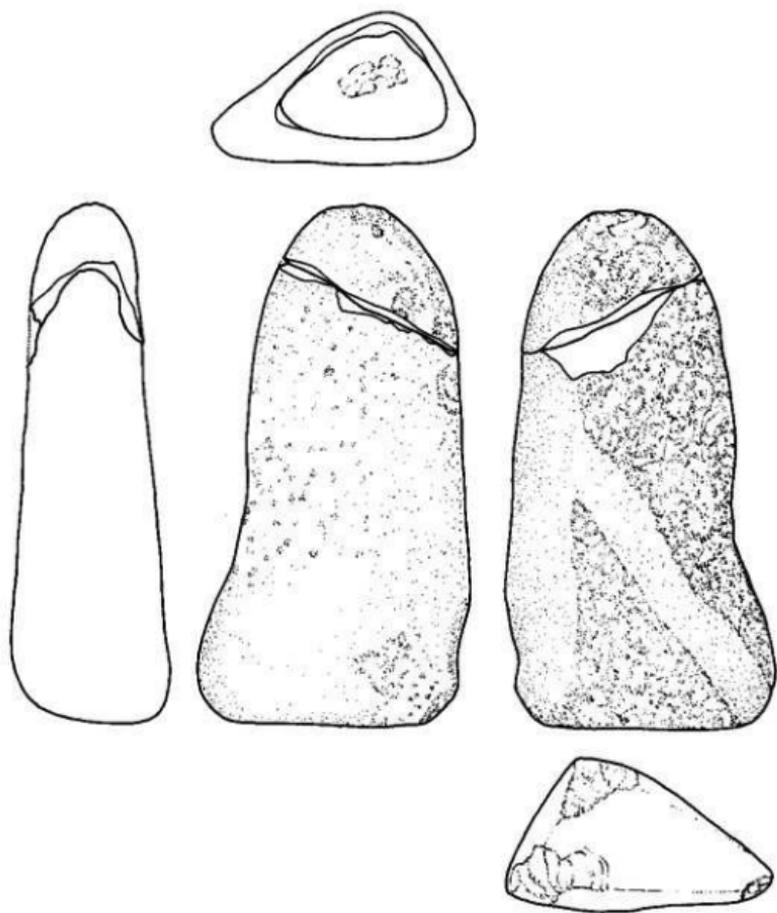
(上段は点数、下段は重量)

も碎片で、他の石材はすべて1点しか出土していない。

チャート15 黒色を呈し艶のある石材で、部分的に節理がみられる。第190図2はチャート15の可能性が高く、またチャート14も質感が劣るが同一母岩の可能性も否定できない。ナイフ形石器は縦長の剥片を素材とし、左側縁にブランティングを施している。剥片は接合する資料も比



第190图 S45地点石器夹测图 1



7
M12-56-2



第191圖 S45地点石器夹湖圖 2

第71表 S45地点遺物観察表

標号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	M12-66	65	ナイフ形石器	3.69	1.33	0.56	2.76	珩質頁岩	珩質頁岩32
2	M12-66	12	ナイフ形石器	1.90	0.78	0.45	0.56	チャート	チャート15
3	M12-66	21	剥片	4.49	3.07	1.69	20.09	チャート	チャート15
4	M12-66	37	石核	4.24	3.19	2.52	36.84	チャート	チャート15
5	M12-65	9	剥片	3.64	1.45	1.46	10.01	チャート	チャート15
5	M12-65	5	剥片	4.11	1.81	1.87	10.03	チャート	チャート15
5	M12-65	16	剥片	1.94	2.01	1.10	5.66	チャート	チャート15
6	M12-66	35	石核	4.32	5.93	2.24	55.69	チャート	チャート15
7	M12-56	2	叩き石	12.98	5.57	3.92	409.62	変成岩	未分類

較的多いが、全体として不定形ではほぼ同数の碎片がある。

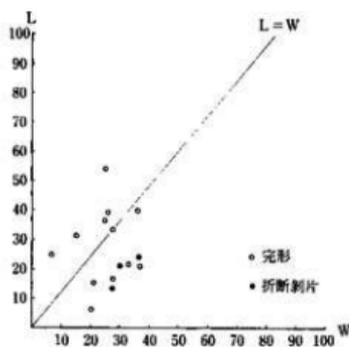
珩質頁岩32 ナイフ形石器が1点だけである。緑灰色の石材で、縦長の厚みのある剥片を素材とし、基部周辺にブランディングを施している。

9 S46地点 (第192・193図、第72表、図版14)

a) 分布

S46地点は環状ブロック群の外側に位置し、S45地点と隣接している。遺物はM12-67グリッドを中心に分布し、分布の範囲は直径3m程度に納まる。遺物の産出層準はIXa層からIXb層にかかり、環状ブロック群を構成する各地点より若干上位にあたる。

資料総数 19点
 最大値 22.368m
 最小値 21.478m
 平均値 21.859m
 標準偏差 0.211

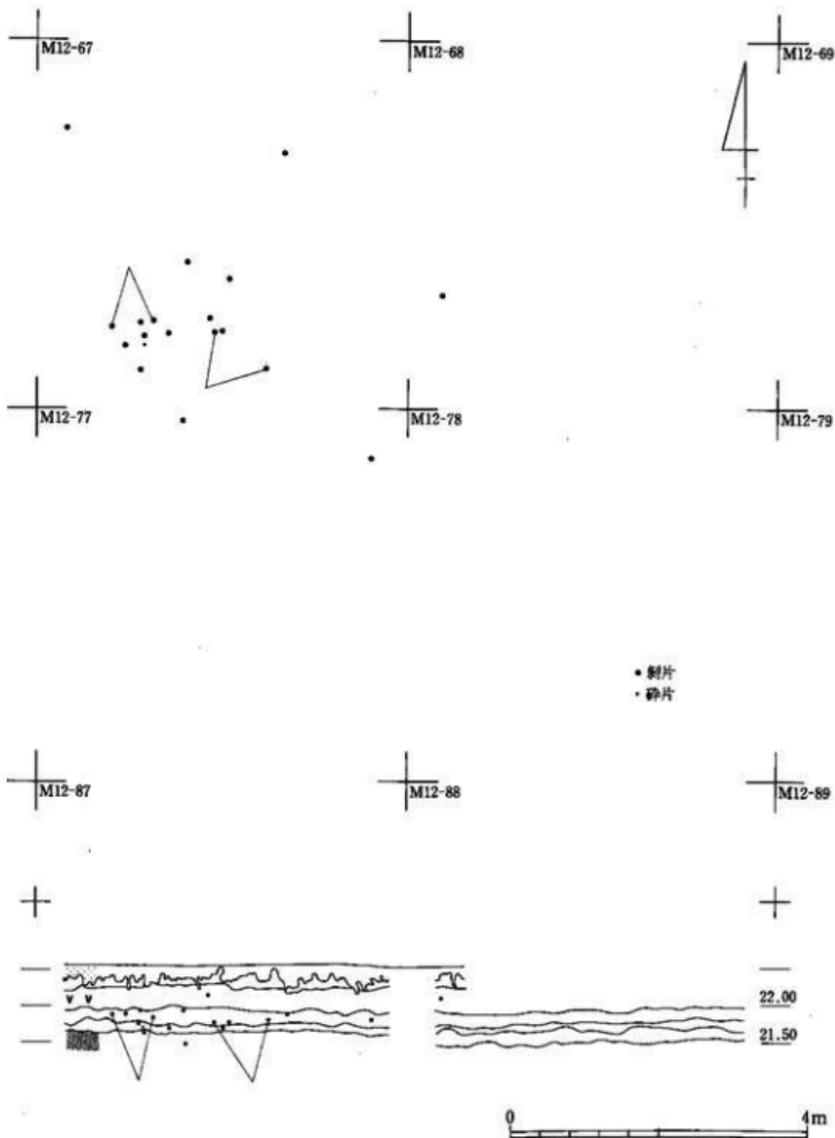


第192図 S46地点剥片計測値

第72表 S46地点遺物集計表

母岩	剥片	碎片	合計	%
チャート14	1 1.78		1 1.78	5.26 1.61
チャート15	3 3.80		3 3.80	15.79 3.43
チャート18	1 2.88		1 2.88	5.26 2.60
安山岩69	2 9.12	2 1.54	4 10.66	21.05 9.63
安山岩70	1 11.37		1 11.37	5.26 10.27
砂岩5	9 80.20		9 80.20	47.37 72.45
合計	17 109.15	2 1.54	19 110.69	99.99 99.99
%	89.47 98.61	10.53 1.39	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)



第193图 S46地点遺物分布状况

b) 石器

遺物総数は19点で、使用石材はチャート・安山岩・砂岩である。

チャート チャートは環状ブロック群を構成する地点と共通し、チャート14・チャート15・チャート18が見られる。チャート14・チャート18は各1点で、チャート15が3点ある。すべて剥片である。

安山岩 安山岩69と安山岩70がある。いずれも剥片と碎片で、安山岩69には接合する資料がある。

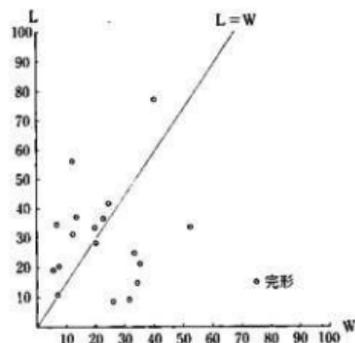
砂岩 砂岩はすべて同一母岩で、4点に原礫面を残している。

10 S60地点 (第194～198図、第73・74表、図版21・22)

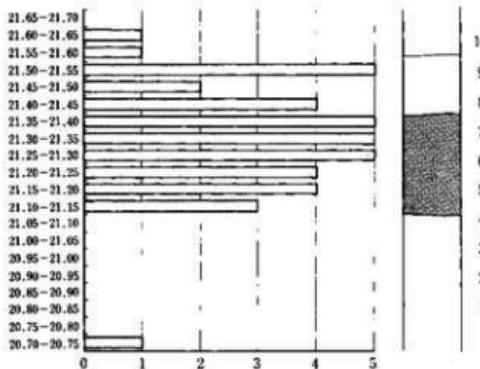
a) 分布

本地点は環状ブロック群の北東の弧を形成するもので、南側にS42地点が、西側にS61地点が隣接している。遺物はM12-03からM12-13グリッドにかけて分布し、その範囲は南北約8m、東西約2.5mを測る。隣接するS61地点とは最短遺物間距離が約5m、S42地点とは約4mの距離をおいている。遺物の産出層準はIXbからIXc層にあり、出土遺物の平均標高はS61地点とS42地点のほぼ中間に当たる。

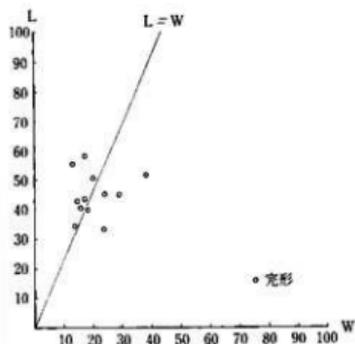
資料総数	45点
最大値	21.609m
最小値	20.741m



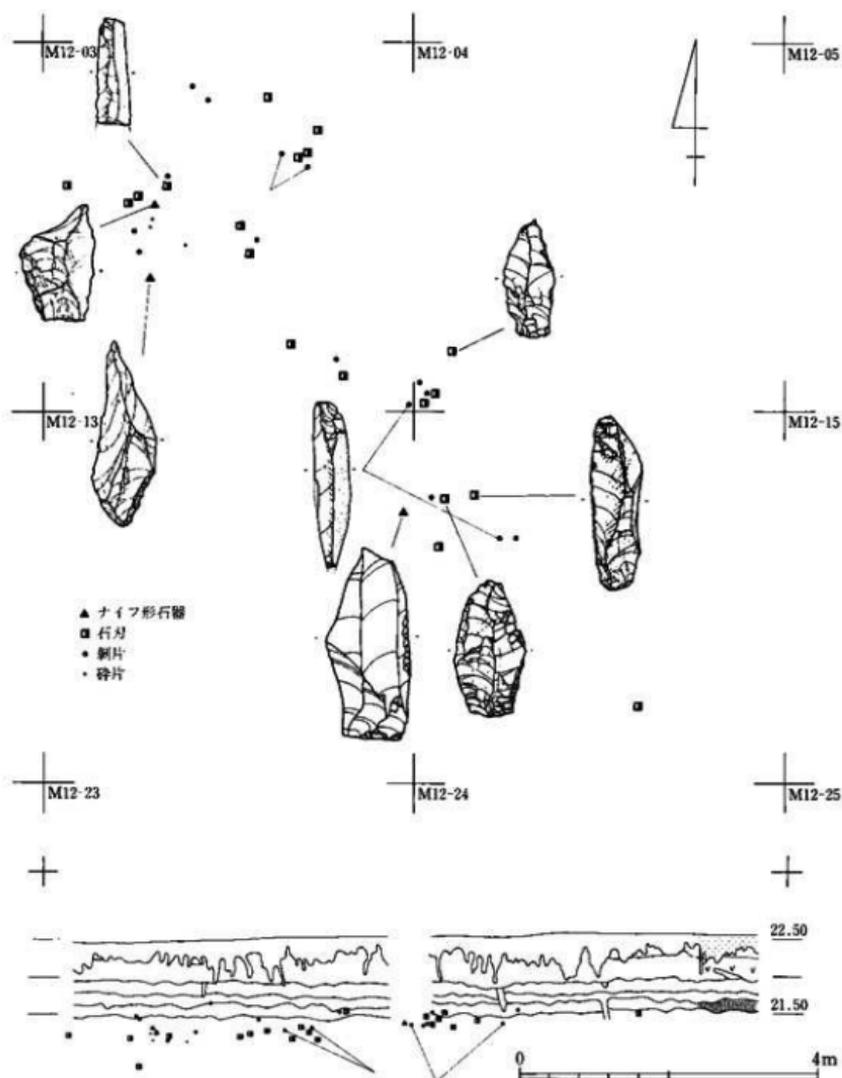
第195図 S60地点剥片計測値



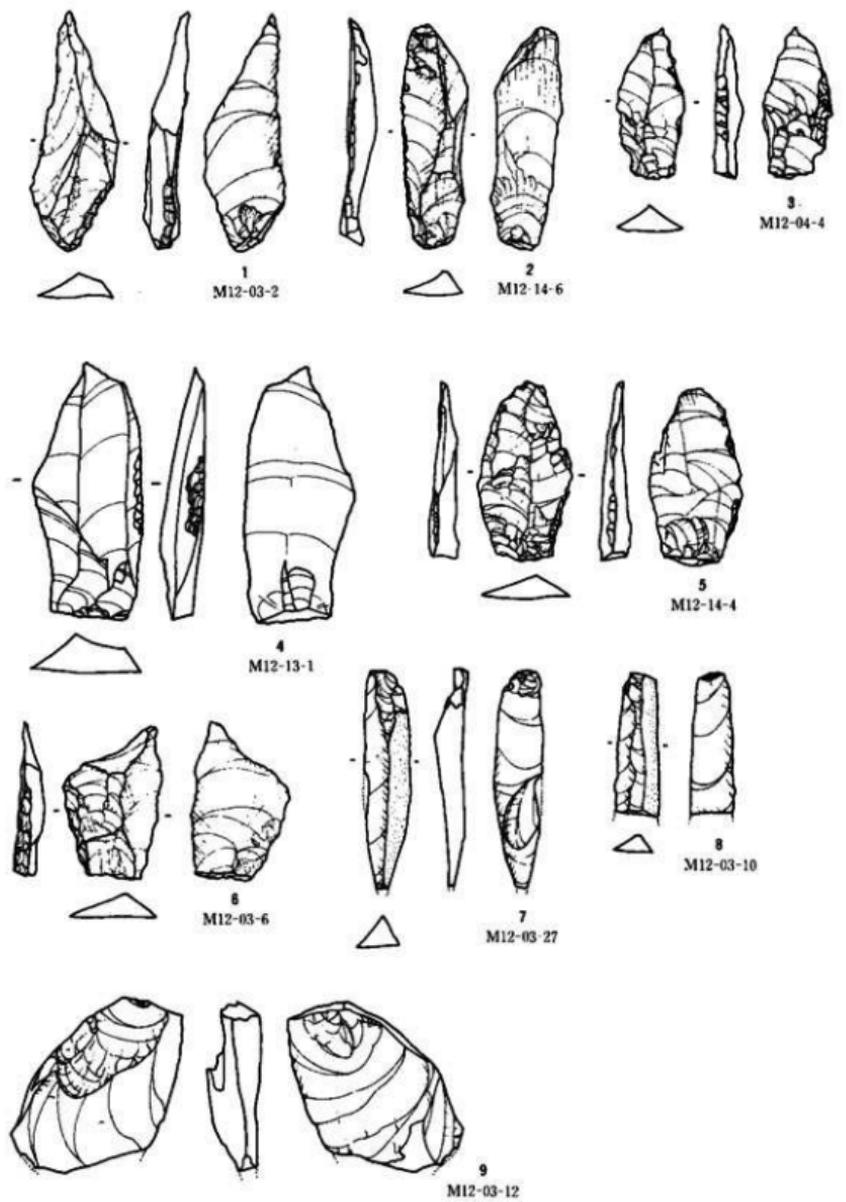
第194図 S60地点遺物垂直分布



第196図 S60地点石刃計測値



第197図 S60地点遺物分布状況



第198图 S60地点石器实测图

第73表 S60地点遺物集計表

母岩	ナイフ	石刃	剝片	砕片	合計	%
チャート16	3 31.31		1 5.15		4 36.46	8.89 14.30
チャート18	2 10.08	11 63.05	11 59.30	2 0.44	26 132.87	57.78 52.11
チャート27		1 3.30			1 3.30	2.22 1.29
珪質頁岩25		3 5.40			3 5.40	6.67 2.12
安山岩67		1 2.23			1 2.23	2.22 0.87
安山岩401		1 10.41			1 10.41	2.22 4.08
安山岩406		1 5.92			1 5.92	2.22 2.32
変成岩3			2 1.60	2 0.51	4 2.11	8.89 0.83
粘板岩			1 28.88		1 28.88	2.22 11.33
流紋岩12			3 27.38		3 27.38	6.67 10.74
合計	5 41.39	18 90.31	18 122.31	4 0.95	45 254.96	100.00 99.99
%	11.11 16.23	40.00 35.42	40.00 47.97	8.89 0.37	100.00 99.99	

(上段は点数、下段は重量)

平均値 21.325m

標準偏差 0.161

b) 石器

遺物総数は45点で、使用石材はチャートが圧倒的に多い。とりわけチャート18としたものが多く、チャート18は遺物全体の50%強を占めている。

チャート チャートは3種の母岩を判別した。チャート18は26点があり、石刃と剝片が11点ずつある。石刃は平均的に短く6cmを超えるものはない。チャート27は石刃が1点あるだけだが、チャート16は石刃を素材としたナイフ形石器が3点ある。ただし、チャート16はナイフ形石器の他に剝片が1点あるだけで、同一母岩から製作された石刃は出土していない。

流紋岩12 点数は少ないが、環状ブロック群を構成するいくつかのクラスターから出土している。本地点では剝片が3点出土した。

第198図1～6はナイフ形石器である。いずれも石刃を素材とし、側縁の一部に僅かに調整を加えただけの製品である。このうち1・4・6はチャート16を使用している。

第74表 S60地点遺物観察表

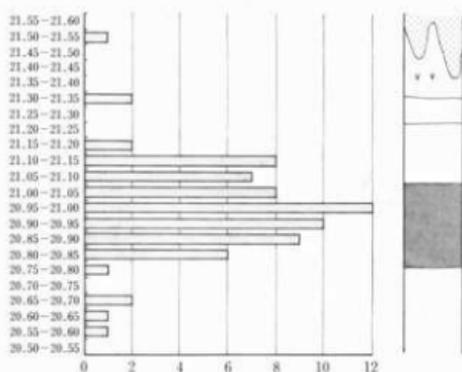
種図番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	M12-03	2	ナイフ形石器	6.23	2.07	0.86	8.20	チャート	チャート16
2	M12-14	6	石 刃	5.84	1.66	0.67	5.92	安山岩	安山岩406
3	M12-04	4	ナイフ形石器	3.96	1.76	0.66	3.58	チャート	チャート18
4	M12-13	1	ナイフ形石器	6.38	2.79	1.04	17.84	チャート	チャート16
5	M12-14	4	ナイフ形石器	4.52	2.36	0.72	6.50	チャート	チャート18
6	M12-03	6	ナイフ形石器	3.84	2.42	0.54	5.27	チャート	チャート16
7	M12-03	27	石 刃	5.58	1.18	0.73	3.78	珪質頁岩	珪質頁岩25
8	M12-03	10	石 刃	3.63	1.00	0.44	2.23	安山岩	安山岩67
9	M12-03	12	剝 片	3.37	5.22	1.25	21.89	流紋岩	流紋岩12

11 S61地点

(第199～204図、第70・76表、図版22)

a) 分布

本地点は環状ブロック群の北東の弧を形成するもので、東側にS60地点が、南側にS43地点が隣接している。遺物はM12-01からM12-11グリッドにかけて南北に細長く分布し、分布の範囲は南北約8m、東西約4mを測る。遺物の産出層準はIXbから



第199図 S61地点遺物垂直分布

IXc層にかかり、遺物の出土レベルの

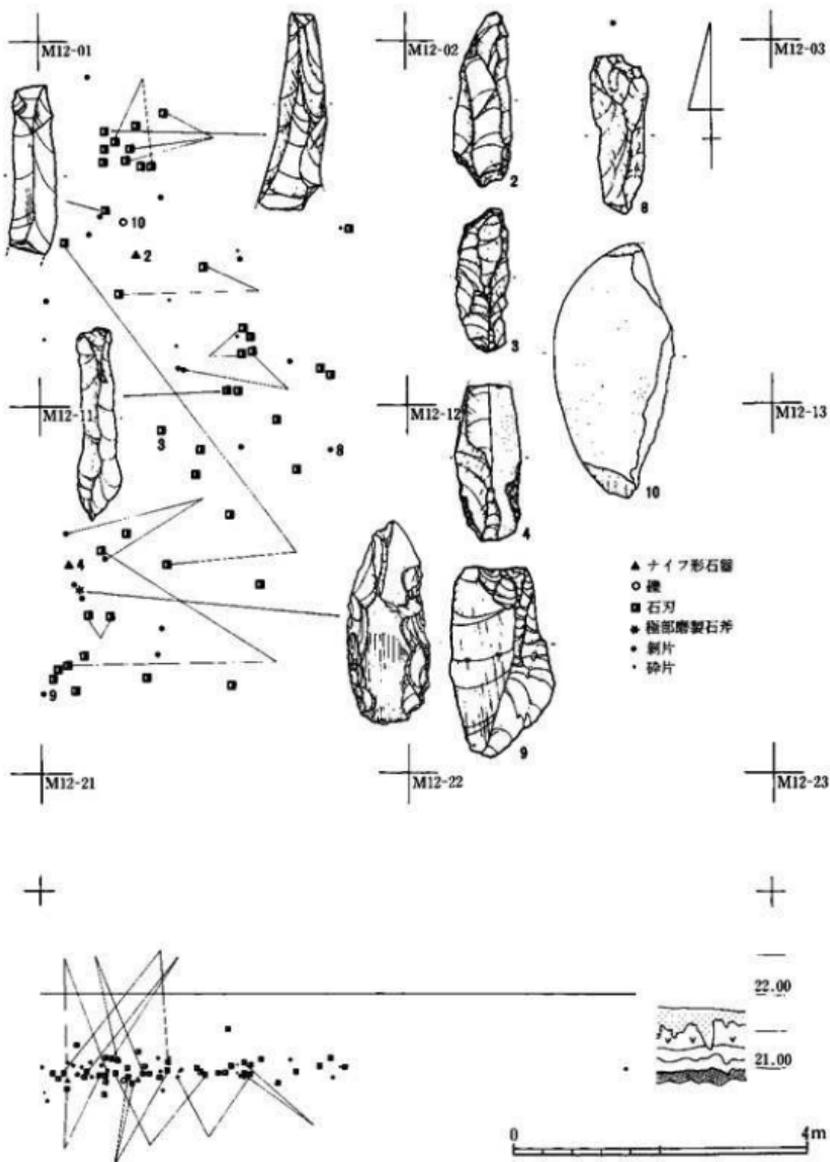
平均は環状ブロック群を構成するクラスターの中で最も低い位置にある。

資料総数	72点
最大値	21.548m
最小値	20.586m
平均値	20.976m
標準偏差	0.156

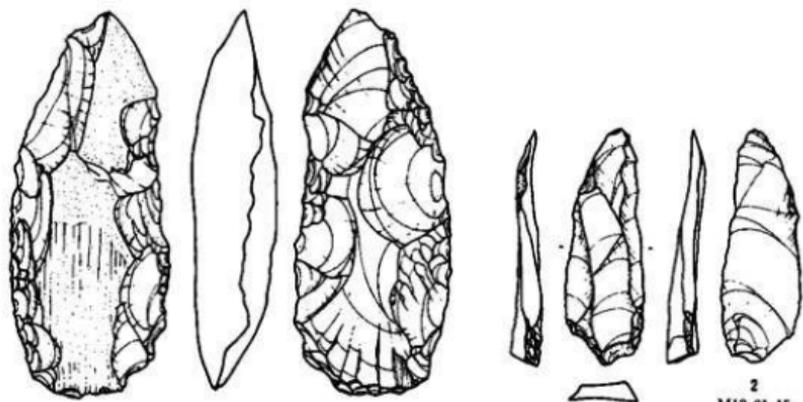
b) 石器

遺物総数は72点で、70%近くをチャートが占める。石刃の占める割合も高く、チャート18以外にチャート16や安山岩製の石刃も5点ある。石斧はS44地点の3点と比較して小さく、さらにS43a地点から出土した石斧刃部の破片と同一母岩から製作されたものである。ナイフ形石器は2点であり、石刃を素材として側縁に僅かに調整を加えたものである。

チャート チャートは4種の母岩に還元され、チャート18が圧倒的多数を誇る。チャート18は

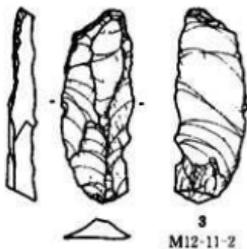
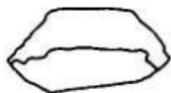


第200図 S61地点遺物分布状況

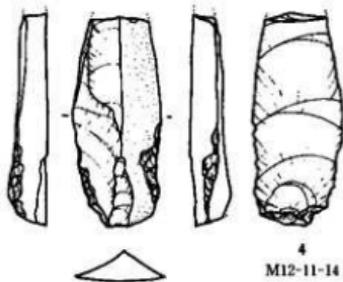


1
M12-11-15

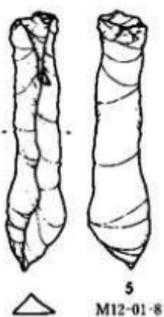
2
M12-01-15



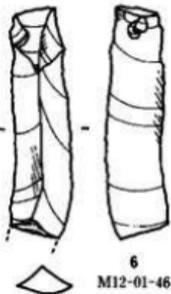
3
M12-11-2



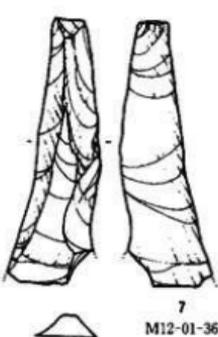
4
M12-11-14



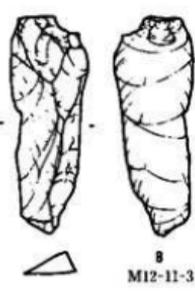
5
M12-01-8



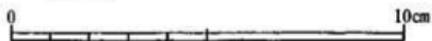
6
M12-01-46



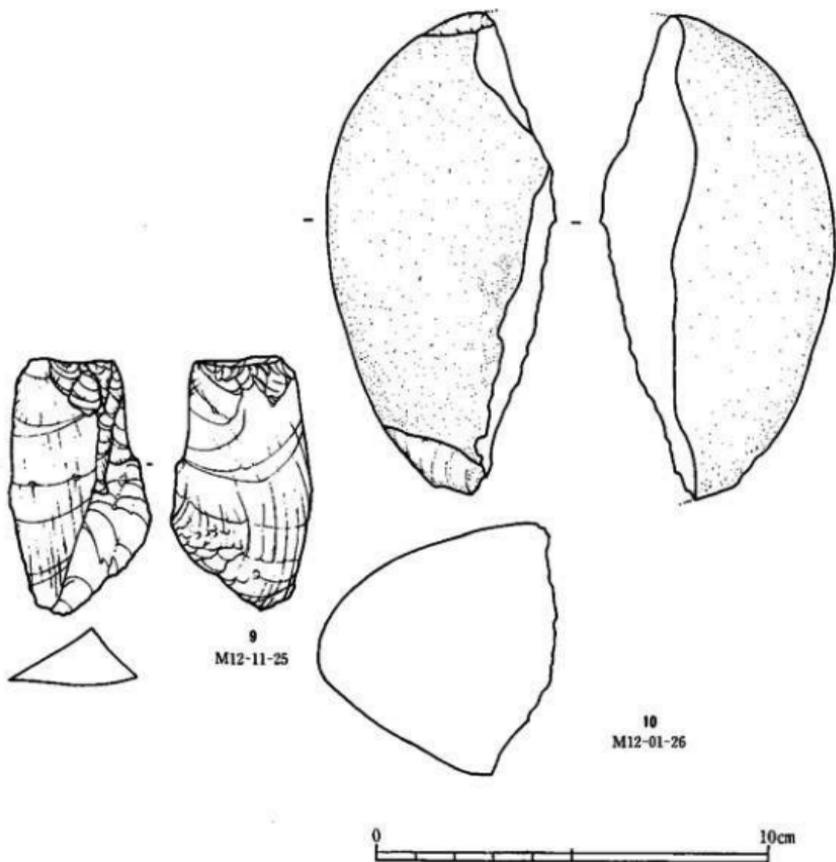
7
M12-01-36



8
M12-11-3



第201图 S61地点石器实测图 I



第202図 S61地点石器実測図 2

第75表 S61地点遺物観察表

挿図 番号	グリッド	遺物番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	母 岩
1	M12-11	15	石 斧	9.90	4.02	2.02	92.16	砂 岩	砂 岩 7
2	M12-01	15	ナイフ形石器	5.93	2.00	0.52	7.01	チャート	チャート16
3	M12-11	2	石 刃	4.87	1.80	0.64	5.10	チャート	チャート18
4	M12-11	14	ナイフ形石器	5.31	2.25	0.86	11.52	安山岩	安山岩114
5	M12-01	8	石 刃	3.65	2.28	0.70	10.35	チャート	チャート16
6	M12-01	46	石 刃	5.69	1.37	0.58	1.37	チャート	チャート16
7	M12-01	36	石 刃	6.80	1.82	0.70	10.30	安山岩	安山岩136
8	M12-11	3	石 刃	5.44	1.54	0.66	6.16	安山岩	安山岩63
9	M12-11	25	剝 片	6.39	3.47	1.35	28.38	安山岩	安山岩62
10	M12-01	26	礫	11.75	5.79	6.54	413.59	安山岩	安山岩121

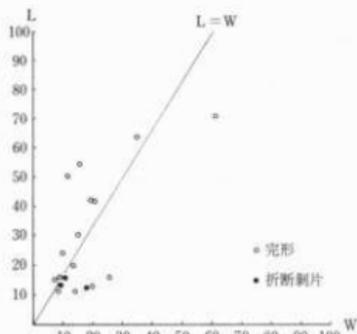
第76表 S61地点遺物集計表

母岩	礫	石斧	ナイフ	石刃	剝片	砕片	合計	%
チャート16			1 7.01	3 16.46	1 1.00		5 24.47	6.94 2.67
チャート18				37 205.83	2 6.82	3 3.64	42 216.29	58.33 23.57
チャート21					1 0.57		1 0.57	1.39 0.06
チャート22				1 2.21	1 1.01		2 3.22	2.78 0.35
安山岩61				3 17.98			3 17.98	4.17 1.96
安山岩62					3 37.94		3 37.94	4.17 4.13
安山岩63				1 6.16			1 6.16	1.39 0.67
安山岩65					1 70.13		1 70.13	1.39 7.64
安山岩103					2 2.17		2 2.17	2.78 0.24
安山岩114			1 11.52				1 11.52	1.39 1.26
安山岩121	1 413.59						1 413.59	1.39 45.07
安山岩136				1 10.30			1 10.30	1.39 1.12
変成岩1					4 5.94	3 3.47	7 9.41	9.72 1.03
黒曜石26					1 1.81		1 1.81	1.39 0.20
砂岩7		1 92.16					1 92.16	1.39 10.04
合計	1 413.59	1 92.16	2 18.53	46 258.94	16 127.39	6 7.11	72 917.72	100.01 100.01
%	1.39 45.07	1.39 10.04	2.78 2.02	63.89 28.22	22.22 13.88	8.33 0.77	100.00 100.00	

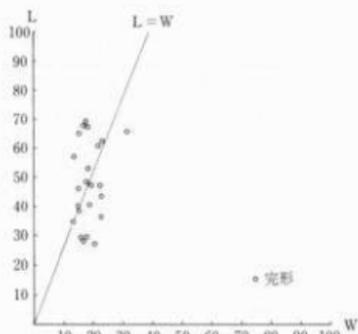
(上段は点数、下段は重量)

その90%近くが石刃で、僅かに剝片・砕片が見られる。基本的に石刃の製作を中心としたものである。チャート16も環状ブロック群の中で広く見られる石材で、環状ブロック群の北側に集中する傾向がある。

安山岩 点数は13点しかないが、8種の母岩に還元できた。それぞれの母岩は最大でも安山岩61・安山岩62の3点であり、非常に少ない構成である。石刃は5点あり、安山岩61には接合する資料も含まれている。



第203図 S61地点剥片計測値



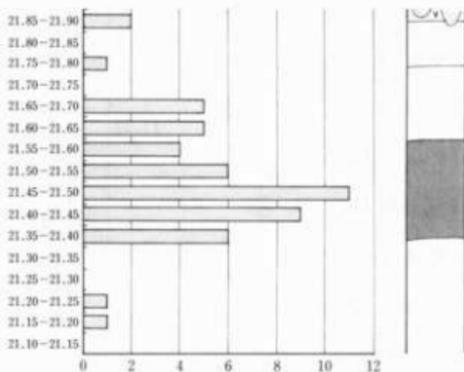
第204図 S61地点石刃計測値

12 S62地点

(第205～209図、第77・78表、図版23)

a) 分布

本地点は環状ブロック群の南東の弧を構成するもので、北側にS42地点が、南西にS44地点が隣接している。遺物はM12-34グリッドを中心に分布し、直径約3.2mの範囲に納まる。遺物の出土層準はIXbからIXc層にかかり、ピークはIXc層に当たる。レベル的にはS44地点とほぼ同様な数値で、以下のとおりである。



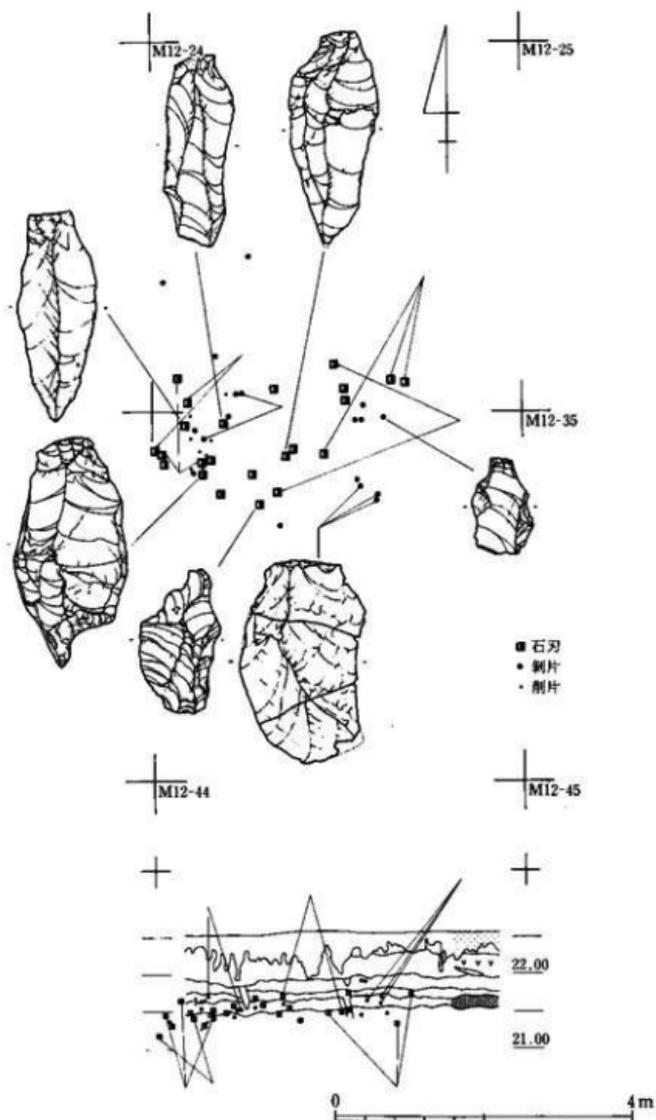
第205図 S62地点遺物垂直分布

資料総数	48点
最大値	21.882m
最小値	21.191m
平均値	21.515m
標準偏差	0.137

b) 石器

遺物総数は48点で、器種は石刃・剥片・碎片がある。出土遺物の約半数が石刃で、残りの半数ずつを剥片と碎片が占める。使用石材はチャートが圧倒的に多く、その中でもチャート18が主体となる。チャート以外に珪質頁岩・安山岩・流紋岩等が使用されている。

チャート チャート18をはじめ、3種の母岩に還元された。チャート18は遺物全体の約半数を

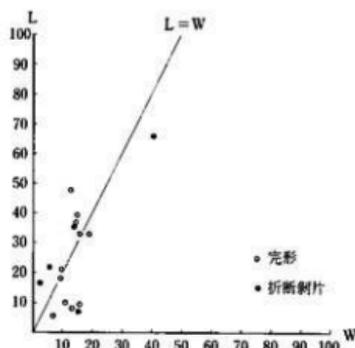


第206图 S62地点遺物分布狀況

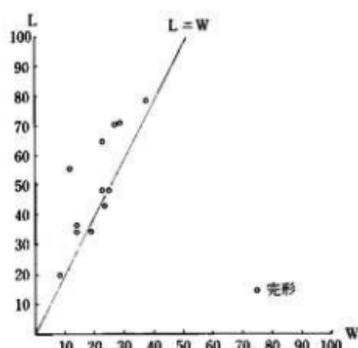
第77表 S 62地点遺物集計表

母 岩	石 刃	剥 片	碎 片	合 計	%
チャート15		2 15.36	5 3.96	7 19.32	14.58 7.79
チャート18	17 112.41	5 11.55		22 123.96	45.83 49.97
チャート20	1 21.47			1 21.47	2.08 8.66
珪質頁岩25	1 5.30			1 5.30	2.08 2.14
珪質頁岩31	1 11.94			1 11.94	2.08 4.81
安山岩61	2 14.20			2 14.20	4.17 5.72
安山岩64	1 15.09	3 30.16		4 45.25	8.33 18.24
安山岩242		1 0.50		1 0.50	2.08 0.20
安山岩319		1 0.21		1 0.21	2.08 0.08
流紋岩64			6 1.10	6 1.10	12.50 0.44
凝灰岩20		1 4.38		1 4.38	2.08 1.77
砂 岩			1 0.42	1 0.42	2.08 0.17
合 計	23 180.41	13 62.16	12 5.48	48 248.05	99.97 99.99
%	47.92 72.73	27.08 25.06	25.00 2.21	100.00 100.00	

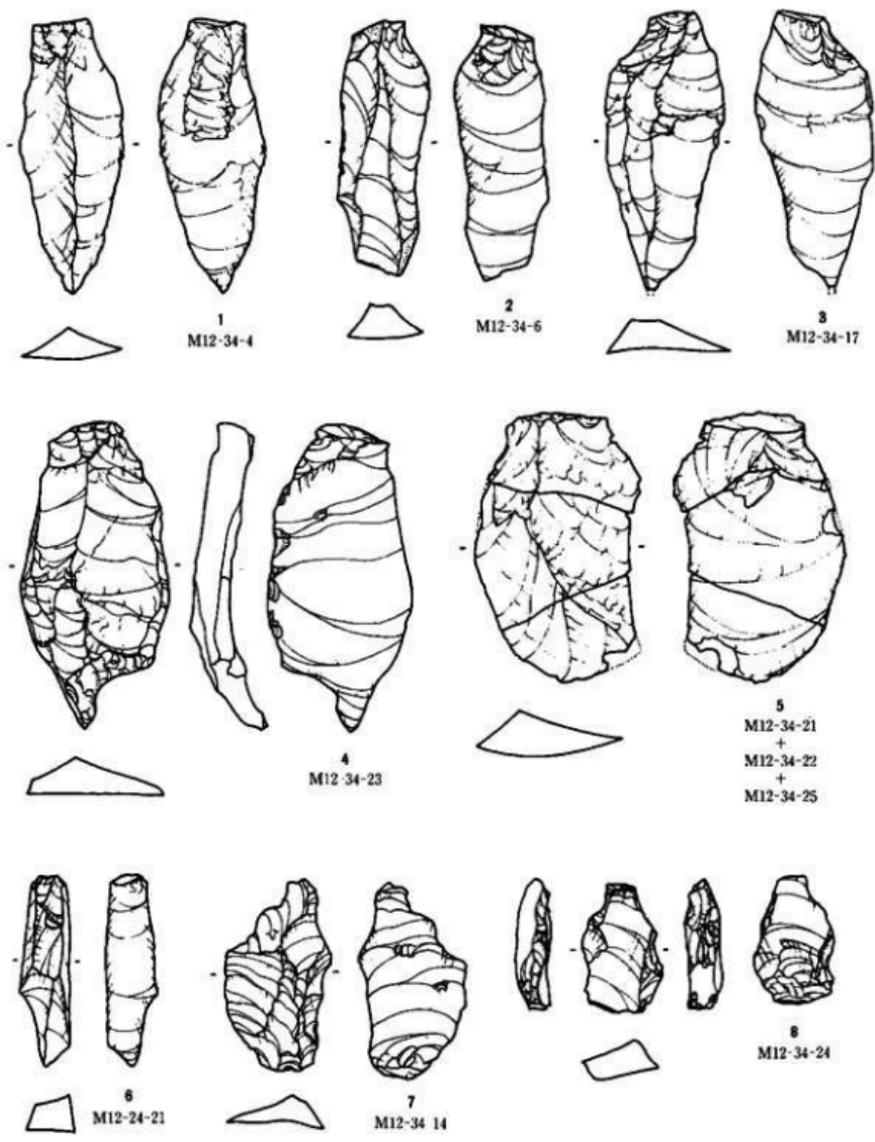
(上段は点数、下段は重量)



第207図 S 62地点剥片計測値



第208図 S 62地点石刃計測値



第209圖 S62地点石器夾糊圖

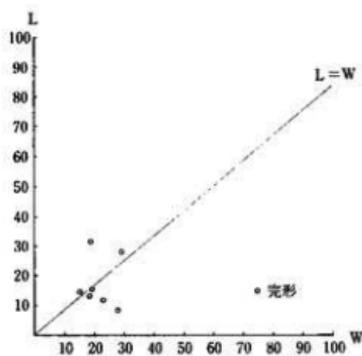
第78表 S62地点遺物観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	M12-34	4	石 刃	7.02	2.66	0.98	15.09	安山岩	安山岩64
2	M12-34	6	石 刃	6.50	2.26	0.90	11.94	珪質頁岩	珪質頁岩31
3	M12-34	17	石 刃	7.09	2.81	1.09	21.47	チャート	チャート20
4	M12-34	23	石 刃	7.80	3.71	0.98	26.60	チャート	チャート18
5	M12-34	21+22+25	石 剥片	6.59	3.95	1.13	30.16	安山岩	安山岩64
6	M12-24	21	石 刃	4.84	1.27	0.97	5.30	珪質頁岩	珪質頁岩25
7	M12-34	14	石 剥片	4.82	2.46	0.68	8.46	チャート	チャート18
8	M12-34	24	石 剥片	3.28	1.87	0.81	6.45	チャート	チャート18

第79表 S63地点遺物集計表

母岩	剥片	碎片	合計	%
安山岩	126	1 4.12	1 4.12	12.50 22.93
チャート	14	3 3.11	1 0.38	4 3.49
チャート	15	2 8.79	2 8.79	25.00 48.91
砂岩	5	1 1.57	1 1.57	12.50 8.74
合計	7 17.59	1 0.38	8 17.97	100.00 100.00
%	87.50 97.89	12.50 2.11	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)



第210図 S63地点剥片計測値

占め、17点の石刃が出土した。チャート15はチャート18と比較して透明感に欠け、白色と黒色の縞状の色調を呈している。本地点では碎片が優位であり、剥片も不定形である。チャート20は黒褐色の透明感のない石材で、1点しかないが石刃が出土している。

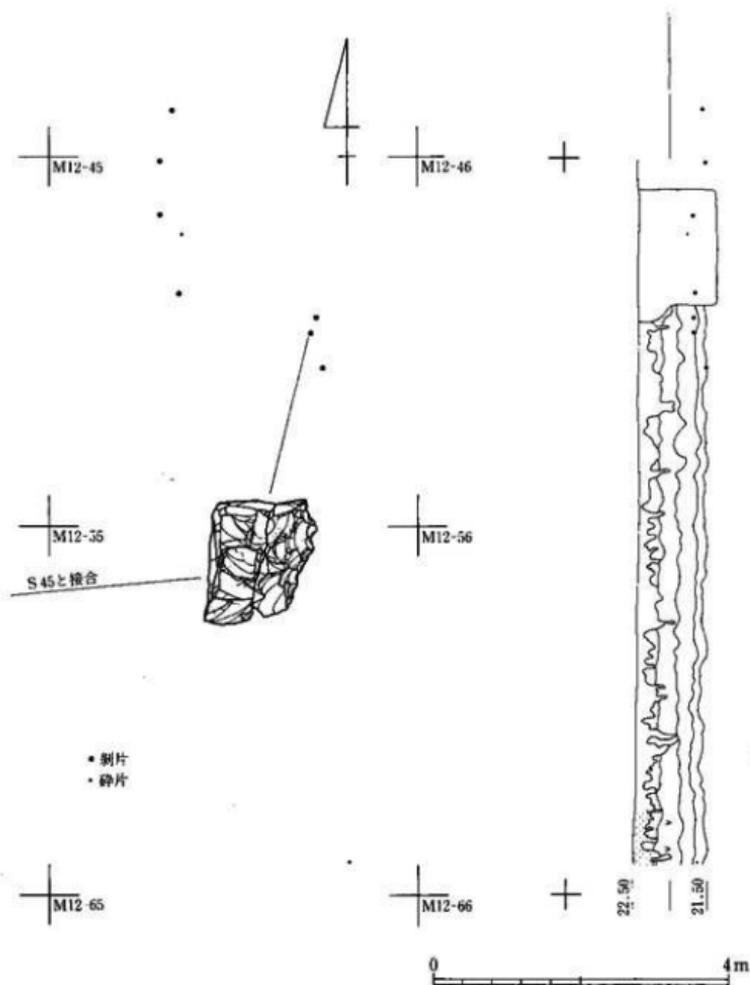
安山岩 4種の母岩に還元できたが、それぞれの母岩は安山岩64が4点、安山岩61が2点あるほかはすべて1点で構成される。安山岩64は石刃が製作され、3点の剥片も折断したもので、接合した。

第209図に遺物を図示した。1～4・6は石刃で、すべて打面を残している。2は両極から剥離している。

13 S63地点 (第210・211、第79表)

a) 分布

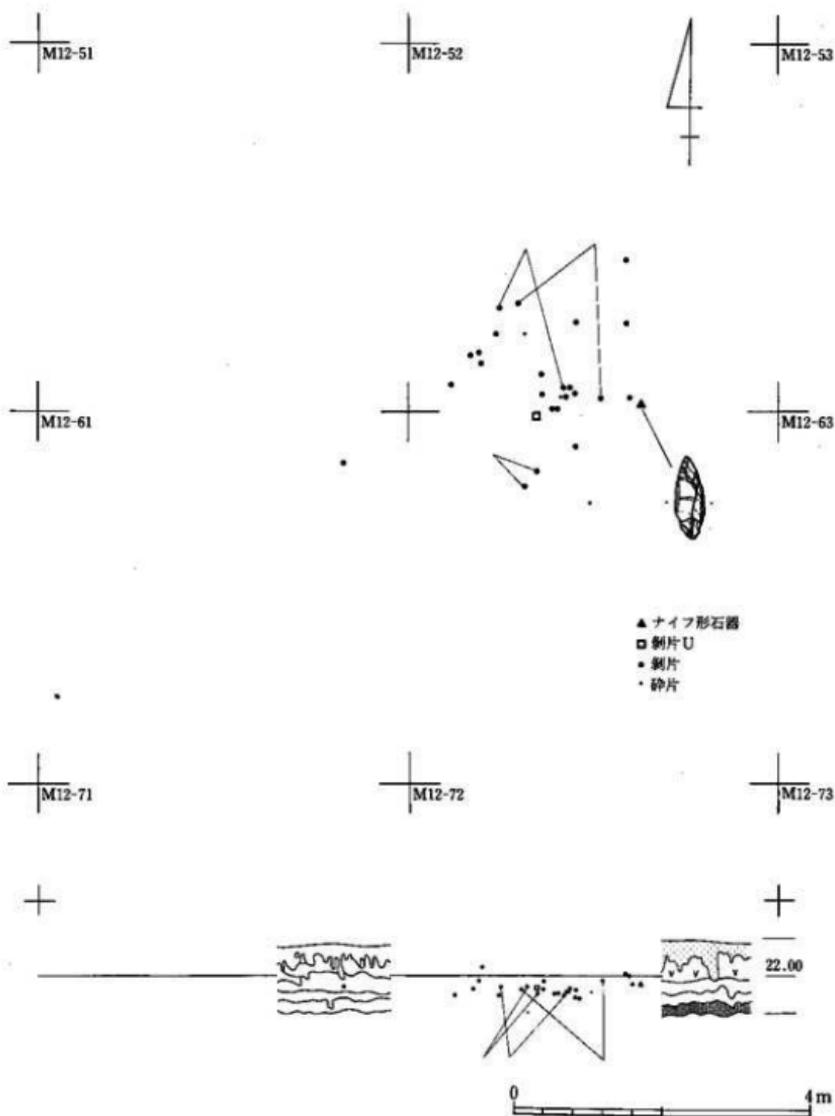
本地点は環状ブロック群の外側に位置し、環状ブロック群を構成するS62地点の南東約6mの位置にある。遺物はM12-45グリッドを中心に南北約4mの範囲に分布し、遺物の産出層準はⅡ



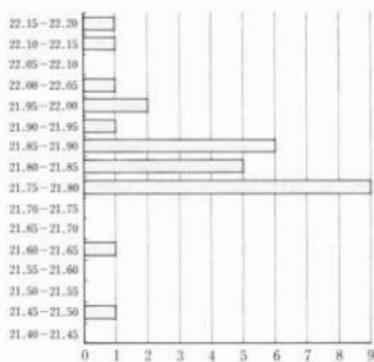
第211図 S63地点遺物分布状況

a層である。遺物の出土レベルは以下のとおりである。

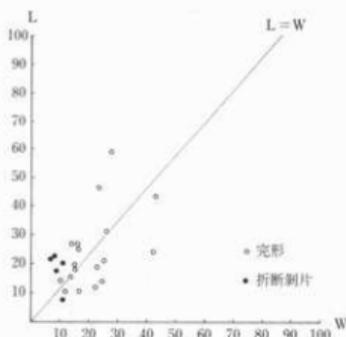
資料総数	8点
最大値	21.791m
最小値	21.516m
平均値	21.634m
標準偏差	0.095



第212図 S64地点遺物分布状況



第213図 S64地点遺物垂直分布



第214図 S64地点剥片計測値

b) 石器

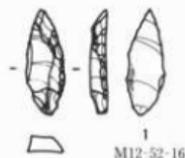
遺物は8点が出土した。ほとんどが小形の不整形な剥片で、チャート14・チャート15が主体となり、環状ブロック群南側に展開するS45地点やS46地点と共通した石材を使用している。なお、S45地点との間に接合資料があり、近接した時期に形成された遺物集中地点と理解できる。

14 S64地点 (第212～215図、第80・81表、図版15)

a) 分布

本地点は環状ブロック群の外側に位置し、環状ブロック群を構成するS44地点の南約10mにあたる。また、東側にはS65地点が隣接している。遺物はM12-52からM12-62グリッドを中心に分布し、範囲は直径約3mに納まる。遺物の産出層準はIXa層からIXb層にかかり、環状ブロック群と比較すると若干上位になる。IX層自体の標高もS44地点付近と比較して高いが、それ以上に遺物の平均出土レベルが高位になる。

資料総数	29点
最大値	22.176m
最小値	21.493m
平均値	21.844m
標準偏差	0.131



b) 石器

遺物総数は29点で、使用石材はほぼチャート15に限定される。チャート15はS64・S65地点を中心に分布するが、環状ブロッ



第215図 S64地点石器実測図

第80表 S64地点遺物集計表

母岩	ナイフ	U剥片	剥片	碎片	合計	%
チャート15		1 9.29	12 89.28	10 7.07	23 105.64	79.31 93.19
チャート21			1 1.83	2 2.13	3 3.96	10.34 3.49
珪質頁岩27	1 1.14				1 1.14	3.45 1.01
砂岩126				2 2.62	2 2.62	6.90 2.31
合計	1 1.14	1 9.29	13 91.11	14 11.82	29 113.36	100.00 100.00
%	3.45 1.01	3.45 8.20	44.83 80.37	48.28 10.43	100.01 100.01	

(上段は点数、下段は重量)

第81表 S64地点遺物観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	M12-52	16	ナイフ形石器	2.71	0.90	0.40	1.14	珪質頁岩	珪質頁岩27

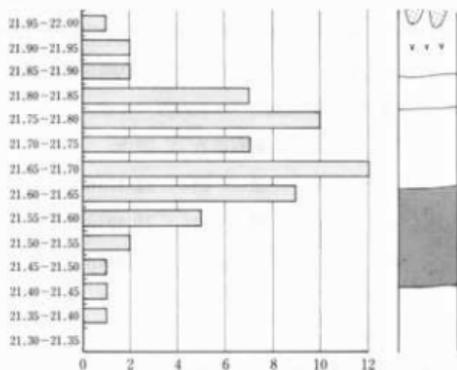
ク群を構成するS45地点等からも多く出土している。チャート15は剥片と碎片がほとんどで、剥片も不定形なものが多い。なお、本地点から石刃はまったく出土していない。

第215図1はナイフ形石器で、縦長の剥片を素材とし、基部の両側縁に調整を施している。使用石材は珪質頁岩27で、環状ブロック群を含め珪質頁岩27はこの1点だけである。

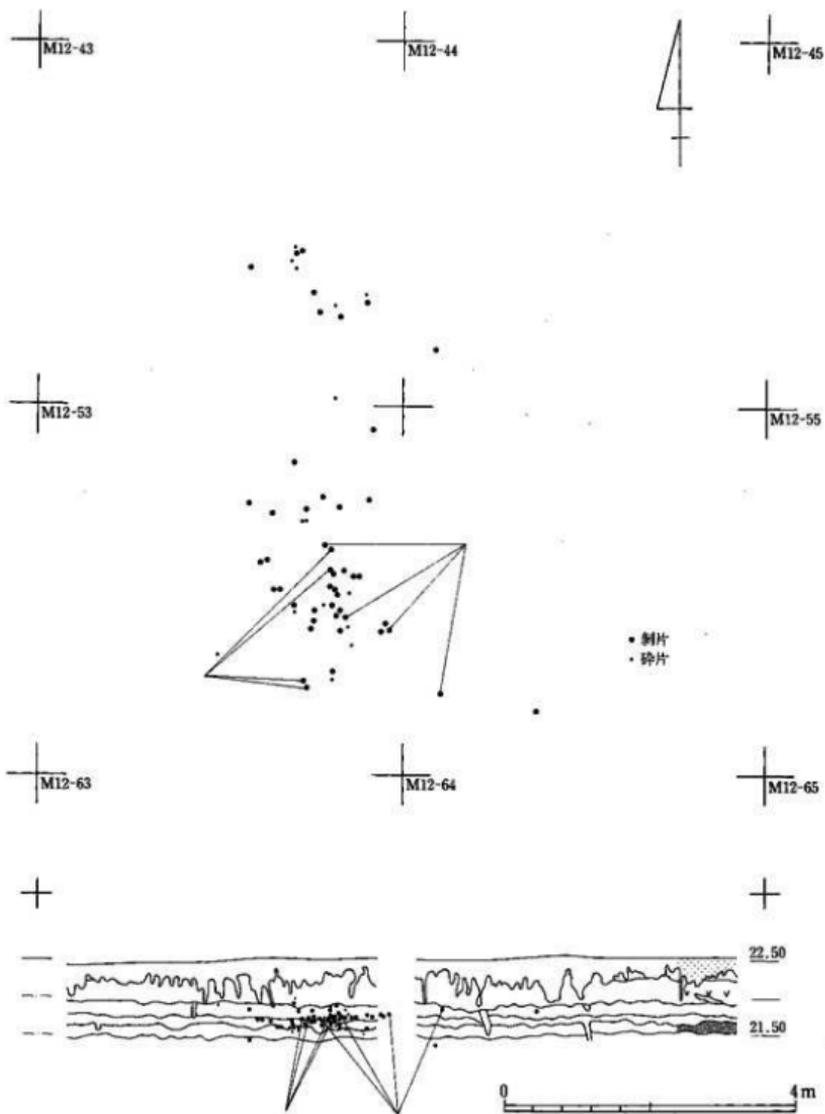
15 S65地点 (第216~218図、第82表、図版23)

a) 分布

本地点は環状ブロック群の外側に位置し、先述したS64地点の東側に隣接している。遺物はM12-43・M12-53グリッドを中心に分布し、分布状況から南北に2箇所の核が認められる。分布範囲は、全体で南北約6.4m、東西約2.4mを測り、北側の核が直径約2m、南側の核が直径約3mを測る。南北間にまたがる接合資料はないが、使用石材は共通している。遺物の産出層準はIXa層からIXb層にかかり、IXb層にピーク



第216図 S65地点遺物垂直分布

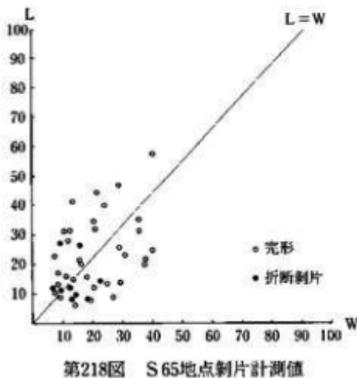


第217图 S65地点遺物分布状况

第82表 S 65地点遺物集計表

母岩	剥片	碎片	合計	%
チャート14	5	22	27	44.26
	8.85	9.75	18.60	9.71
チャート15	25	6	31	50.82
	147.74	2.49	150.23	78.42
チャート23	1		1	1.64
	7.55		7.55	3.94
安山岩86	1		1	1.64
	14.58		14.58	7.61
砂岩5		1	1	1.64
		0.62	0.62	0.32
合計	32	29	61	100.00
	178.72	12.86	191.58	100.00
%	52.46	47.54	100.00	100.00
	93.29	6.71	100.00	

(上段は点数、下段は重量)



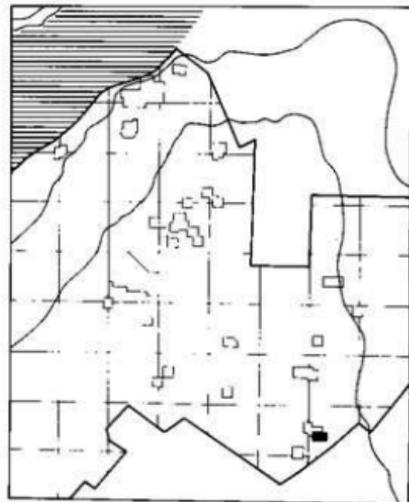
第218図 S 65地点剥片計測値

がある。これは環状ブロック群を構成する地点より若干上位に当たり、先述したS 64地点とほぼ同一の層準となる。

資料総数	61点
最大値	21.991m
最小値	21.351m
平均値	21.698m
標準偏差	0.118

b) 石器

遺物総数は61点で、使用石材はほとんどチャートである。チャートは3種の母岩に還元できたが、チャート23は1点で、チャート14・チャート15がそれぞれおおよそ半数を占めている。チャート14とチャート15はよく似た石材で、チャート15がより良質である。しかし、本地点でチャート15としたものは、S 64地点でチャート15としたものより節理が発達し、チャート14との分離にいささかの疑問が残る。さらに、これら2種のチャートはS 76地点などで出土しているチャート11・チャート13と酷似してお



第219図 S 52地点の位置

り、第4文化層との関係が示唆される。

本地点からはS64地点同様石刃はまったく出土しておらず、剥片も不定形なものがほとんどである。

16 S52地点

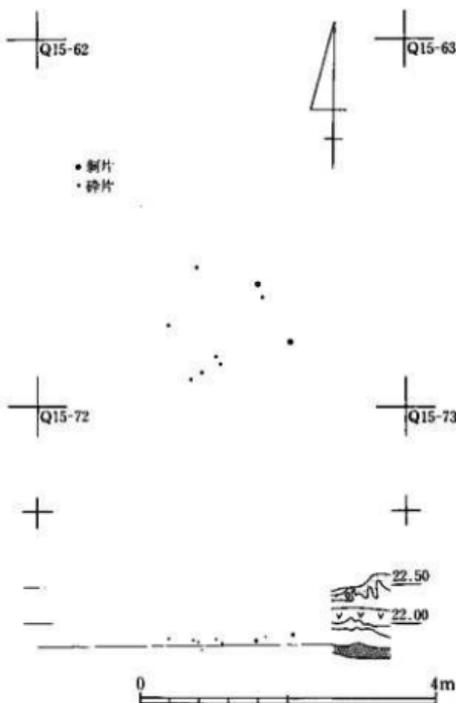
(第219～221図、第83表、図版23)

a) 分布

本地点は、第4文化層のS71・S107地点と重複する位置にあり、Q15-62グリッドに直径約1.6mの範囲に遺物が分布している。遺物の産出層準はIXb層にあり、第221図の遺物垂直分布からも文化層を分けることが可能である。遺物は9点で、すべて黒曜石13である。また、遺物は剥片が1点、碎片が8点ある。

b) 石器

遺物総数は9点で黒曜石13の単一母岩で構成される。剥片が1点あるが、ほとんど微細な碎片である。

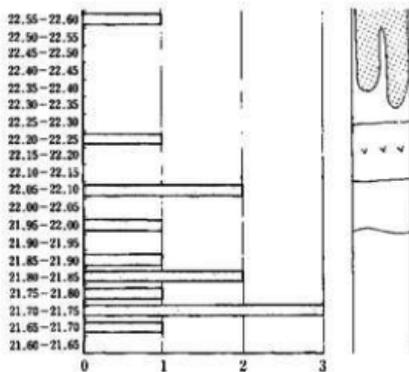


第220図 S52地点遺物分布状況

第83表 S52地点遺物集計表

母岩	剥片	碎片	合計
黒曜石13	1 1.16	8 2.03	9 3.19
合計	1 1.16	8 2.03	9 3.19

(上段は点数、下段は重量)



第221図 S52地点遺物垂直分布

第7節 第6文化層

第6文化層は第2黒色帯の下のX層を産出層準としている。坊山遺跡ではS48地点があり、萱田地区の各遺跡の中で、最も下位の文化層である。

1 S48地点

(第222～228図、第84・85表、図版24・25)

a) 分布

S48地点は坊山遺跡の台地中央部のO13グリッドに位置し、台地縁辺から100m近く離れている。しかし、Q13グリッド付近に浅い埋没谷があるようで、等高線が僅かに屈曲している。本地点はその埋没谷の谷頭に当たると推定される。遺物はO13-74からO13

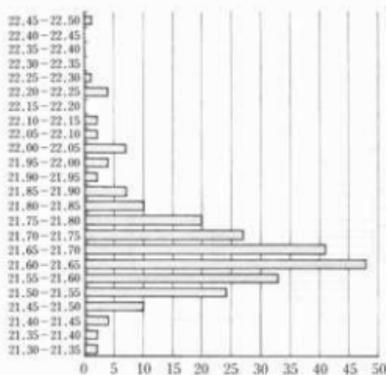
-85グリッドにわたって直径約10mの範囲に分布し、遺物の産出層準はIX層下部からX層にわたり、ピークはX層上部に求められる。遺物の分布状況は均質ではなく、分布の密な部分が所々に認められるが、それぞれが明確にクラスターを形成するものではない。また、礫群を伴い、大きく2箇所にくることができる。なお、礫は相互に接合資料がある。

資料総数 259点

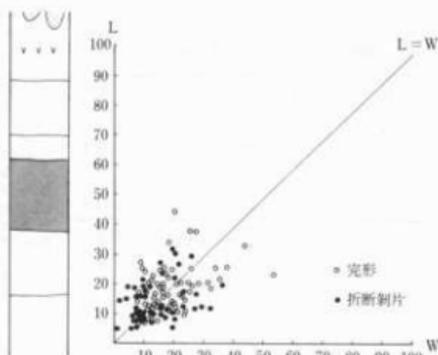
最大値 22.469m



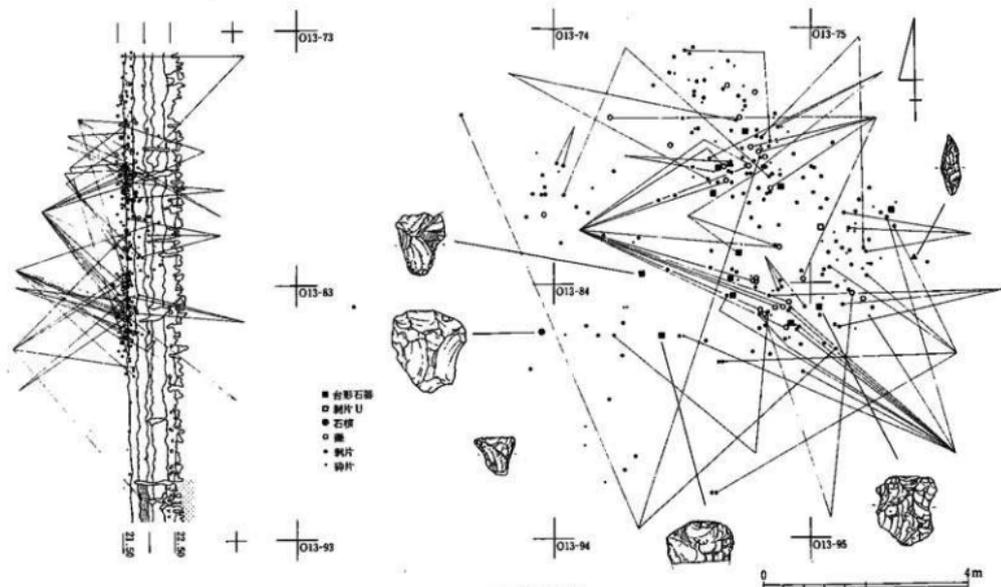
第222図 S48地点の位置



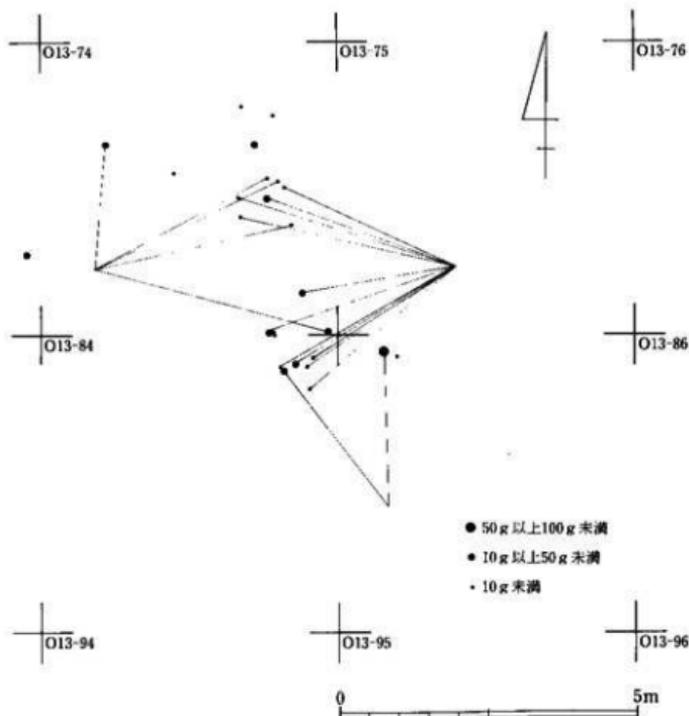
第223図 S48地点遺物垂直分布



第224図 S48地点剥片計測値



第225图 S 48地点遗物分布状况



第226図 S48地点出土礫の重量別分布

最小値	21.314m
平均値	21.682m
標準偏差	0.1696

b) 石器

遺物総数は259点で、台形石器を特徴とする集中地点である。台形石器と同一母岩に還元できる剥片・碎片も多いが、その母岩の石核はない。また、ナイフ形石器が含まれているが、これは出土層位がかなり上位にある。なお、礫群を伴っている。使用石材は黒曜石が主体となる。黒曜石以外には安山岩・チャート・メノウ等がある。礫はいずれも破砕礫で、安山岩・砂岩からなる。礫片は直径2～3cm程度の大きさに破砕されているが、原礫は拳大程度の大きさに還元できる。

安山岩 礫を除いて2種の母岩に還元することができたが、さらに母岩不明のものが8点ある。全体量は少なく、最も多いのが安山岩4の4点である。しかし、安山岩4は小形の剥片と碎片

第84表 S48地点遺物集計表

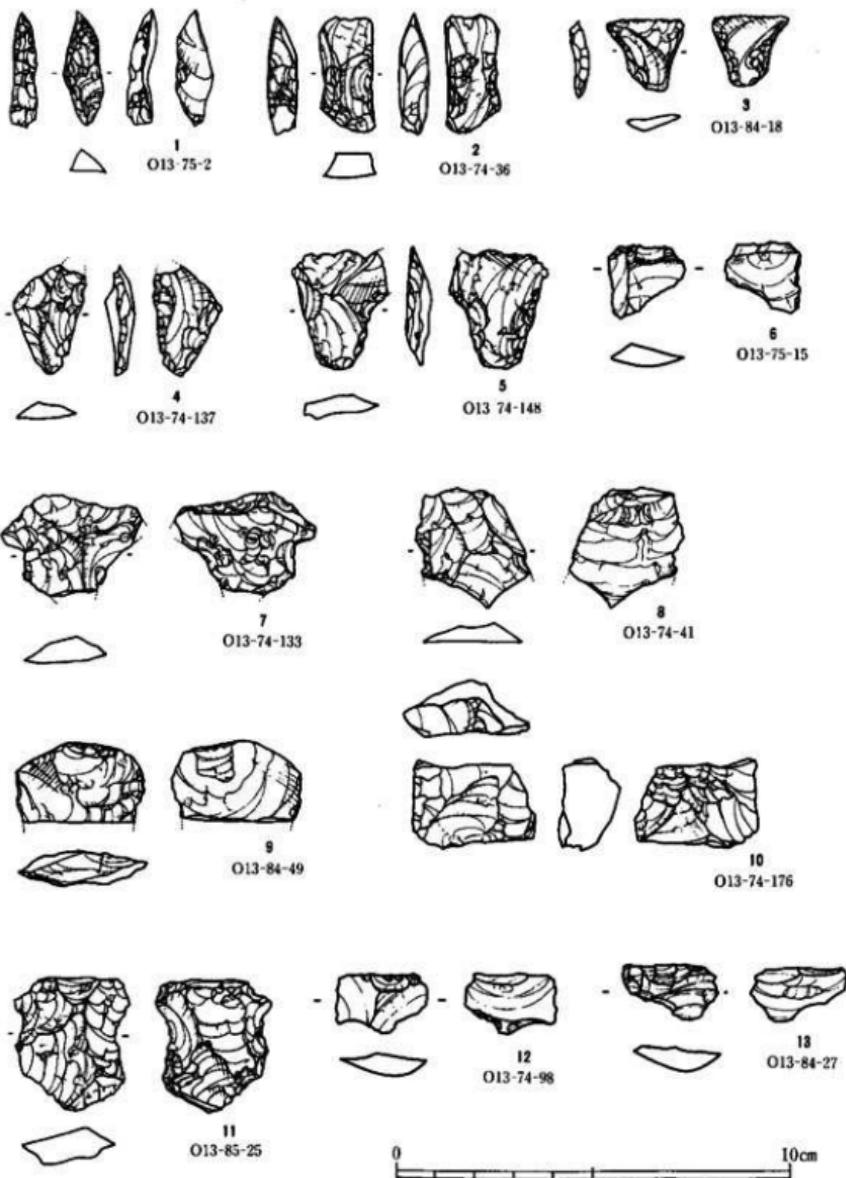
母岩	礫	石核	ナイフ	台形石器	U割片	剥片	碎片	合計	%
安山岩 4						2 1.99	2 0.58	4 2.57	5.41 0.32
安山岩 23						3 11.78		3 11.78	1.16 1.45
安山岩 24	2 74.73							2 74.73	1.54 9.20
安山岩 100	11 96.50							11 96.50	4.25 11.88
安山岩 102	6 58.09							6 58.09	2.32 7.15
安山岩	6 55.45					4 22.24	4 1.19	14 78.88	5.41 9.71
チャート 1		1 6.20		3 14.54		6 15.17		10 35.91	3.86 4.42
チャート			1 3.86			2 4.14	2 0.50	5 8.50	1.93 1.05
メノウ 1						7 39.23	16 4.57	23 43.80	8.88 5.39
黒曜石 9				3 43.84	1 5.41	15 33.72	4 1.51	23 84.48	8.88 10.40
黒曜石 10				1 1.24		1 1.30		2 2.54	0.77 0.31
黒曜石 11				4 19.86		39 94.29	32 6.45	75 120.60	28.96 14.85
黒曜石 12				4 10.03		28 45.23	32 6.88	64 62.14	24.71 7.65
黒曜石			1 1.53			9 5.82	4 2.44	14 9.79	5.41 1.21
流紋岩		1 27.46						1 27.46	0.39 3.38
砂岩 103	2 94.39							2 94.39	0.77 11.62
合計	27 379.16	2 33.66	1 5.39	15 89.51	1 5.41	116 274.91	96 24.12	259 812.16	100.01 99.99
%	10.42 46.69	0.77 4.14	0.77 0.66	5.79 11.02	0.39 0.67	44.79 33.85	37.07 2.97	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)

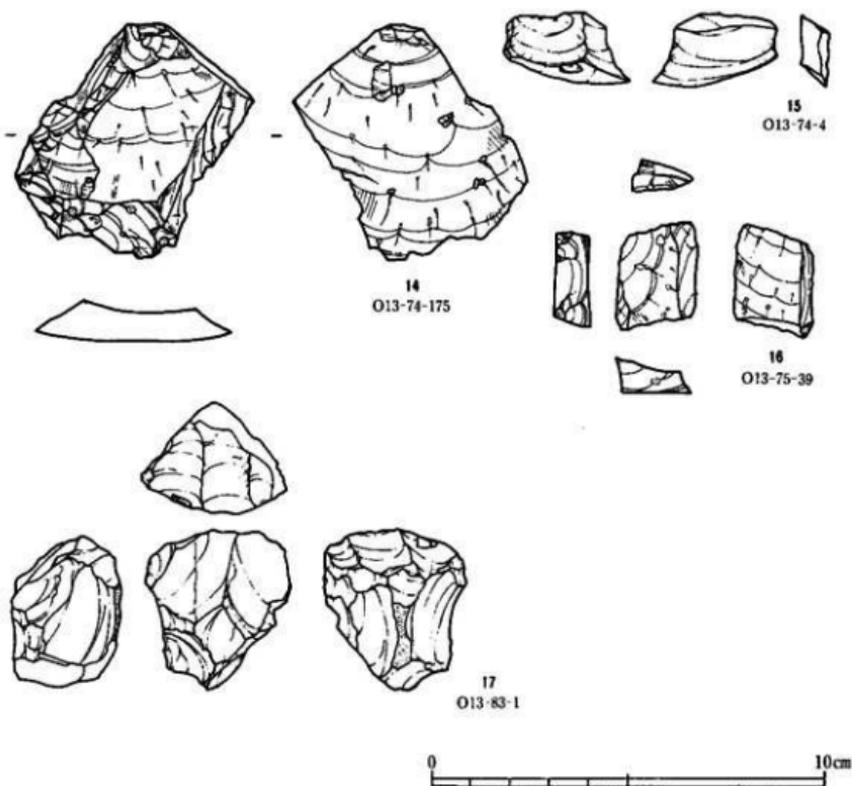
で構成され、重量として多い安山岩23も厚手の不定形な剥片で構成される。

チャート チャートは全体で15点が出土した。チャート1に還元できたものが10点、未分類のものが5点である。チャート1は青灰色で黒色の縞が入る石材で、第5文化層の環状ブロック群で多用されたチャート18とよく似たものである。剥片は肉厚で不定形なものが多いが、台形石器が3点出土している。なお、未分類のチャートには台形石器がある。

メノウ 単一の母岩から剥出されたもので、23点出土している。多くは破片で、剥片の占める



第227图 S48地点石器实测图 1



第228図 S48地点石器実測図 2

割合はかなり低い。剥片は長さが横幅に対して短いもので、いずれも小さいものである。なお、僅かに接合資料が含まれている。

黒曜石 黒曜石は本地点で主体となる石材で、点数比で70%近い178点が出土した。これらは4種の母岩に還元でき、そのほかに未分類のものが14点ある。黒曜石9は黒漆色を呈する光沢のある石材で、大粒の斑晶をやや多く含む。23点が還元でき、このうち剥片が15点を占める。剥片は肉厚で不定形な製品が多いが、僅かに台形石器の素材となり得る製品も含まれている。台形石器は3点あり、第228図14はかなり大形の製品である。黒曜石10は黒色で良質の石材ではあるが、表面の光沢は少ない。台形石器と剥片が各1点ある。黒曜石11は黒曜石9同様黒漆色を呈するが、斑晶が小さく透明感に欠ける石材である。資料数は75点と多く、剥片・破片がともに約半数を占める。剥片は比較的肉厚で、幅に対して長さが短く、不定形な製品も目立つ。台

第85表 S48地点遺物観察表

押 番 号	グリッド	遺物番号	種 類	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	母 岩
1	O13-75	2	ナイフ形石器	2.99	0.88	0.61	1.53	黒曜石	未分類
2	O13-74	36	台形石器	2.96	1.22	0.66	3.86	チャート	未分類
3	O13-84	18	台形石器	1.32	1.84	0.41	1.24	黒曜石	黒曜石10
4	O13-74	137	台形石器	1.37	2.61	0.58	2.06	黒曜石	黒曜石12
5	O13-74	148	台形石器	2.34	2.92	0.51	3.58	黒曜石	黒曜石9
6	O13-75	15	台形石器	1.70	1.82	0.59	1.49	黒曜石	黒曜石12
7	O13-74	133	剥片	2.50	3.40	0.90	6.88	黒曜石	黒曜石9
8	O13-74	41	台形石器	2.93	2.59	0.90	5.40	黒曜石	黒曜石12
9	O13-84	49	台形石器	2.03	3.17	0.64	5.75	黒曜石	黒曜石11
10	O13-74	176	台形石器	1.98	2.85	1.16	8.26	チャート	チャート1
11	O13-85	25	台形石器	3.35	2.42	0.95	8.26	黒曜石	黒曜石9
12	O13-74	98	剥片	1.00	2.20	0.44	1.27	チャート	チャート1
13	O13-84	27	台形石器	1.42	2.40	0.63	1.64	チャート	チャート1
14	O13-74	175	台形石器	5.94	3.72	1.11	32.00	黒曜石	黒曜石9
15	O13-74	4	剥片	1.93	2.62	0.72	3.48	安山岩	安山岩
16	O13-75	39	使用痕剥片	2.19	1.97	0.97	5.41	黒曜石	黒曜石9
17	O13-83	1	石核	3.59	3.58	2.89	27.46	流紋岩	流紋岩

形石器は4点ある。黒曜石12は黒曜石11に似た斑晶を含むが気泡が多く、白っぽい色調を呈している。遺物点数は黒曜石11について多く、64点を数える。やはり、剥片と砕片が約半数を占め、剥出された剥片の形状もよく似ている。台形石器は4点ある。

主要な遺物は第227図に示した。1はナイフ形石器で、全長が3cm以下の小形の製品である。透明感のある良質な黒曜石を使用し、厚みのある縦長の剥片を素材としている。剥片の左側縁の全部と右側縁の基部に調整を施している。なお、打面は完全に除去され、尖頭部側に用いられている。形状から本文化層に伴うものではなく、出土層位もIX層上部にあたる。

2～11・13・14は台形石器で、10・13がチャート1を使用し、2もチャート製である。台形石器の形状は長さが1.12cm～5.94cmに納まり、平均値は2.345cmとなる。幅は1.44cm～3.72cmに納まり、平均値は2.407cmとなる。ちなみに縦横比は最小0.525、最大1.597で平均値は0.955となり、0.8～1.0の間にピークがある。素材は横長に近い形状の剥片を素材とし、3などはかなり整った形状を呈しているが、僅かに打点を残している。形状にはバラエティーがあり、素材の向きも2～5は横方向、6以下は縦方向に使用している。

17は流紋岩製の石核であるが、この石核から剥出された剥片は出土していない。

第3章 縄文時代以降の遺構調査

粟田地区の遺跡群のなかにおいて坊山遺跡は縄文時代以降の遺構が極端に少ない。このことは、遺跡の立地条件と関係するものと思え、権現後遺跡をはじめとする各遺跡では新川に面して濃密に生活の痕跡が認められている。往時の生活に新川は欠かせないものであったことを窺わせる。本章では縄文時代以降の遺構を一括して報告する。

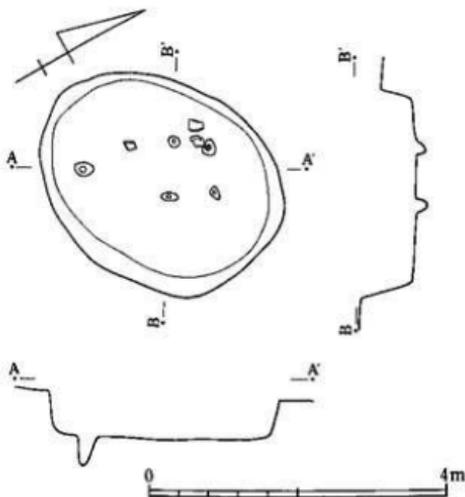
第1節 竪穴住居跡

坊山遺跡で検出された竪穴住居跡は合計5軒である。これらの住居跡はいずれも権現後遺跡を臨む須久茂谷津に面して位置している。

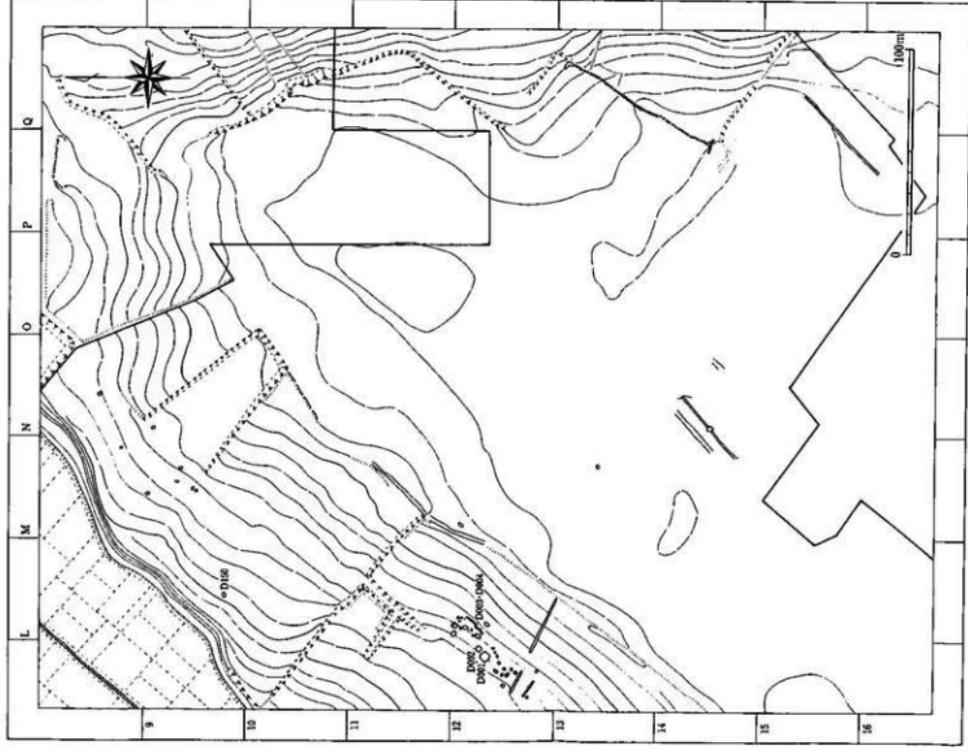
D150 L9-84に位置する住居で、3.4m×2.8mを測る楕円形を呈している。床面には直径20cm前後のピットが検出されたが、明確な主柱穴及び炉は存在しない。床面に近い位置から図示した土器が出土した。

土器は胴部の約1/2が欠損している。口縁部はわずかに内弯し、胴部は円筒状になる。文様は4単位の構成である。D001 K12-38に位置する住居で、規模は3.6m×3.4mを測る。床面は東西方向に長い帯状に硬化面が遺存している。柱穴は住居コーナーに4箇所検出された。カマドは南東壁中央に設置されている。

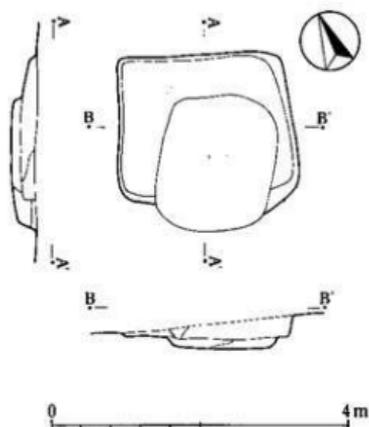
出土遺物は3点が図示できた。1・2はロクロ土師器坏で、1は口径15cmを測る大振りの製品であるが、底径は6cmと小さい。体部は内弯気味に立上り、体部下端に静止ヘラ削りを施して



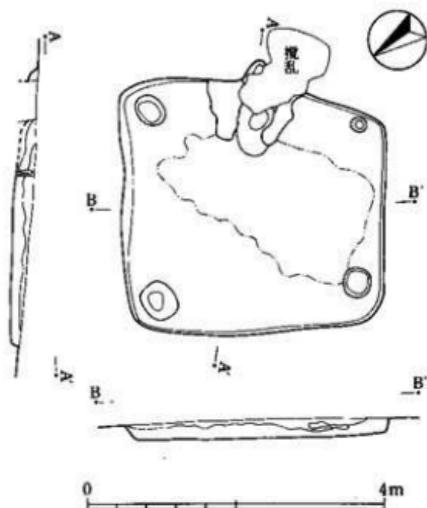
第229図 D150及び出土遺物実測図



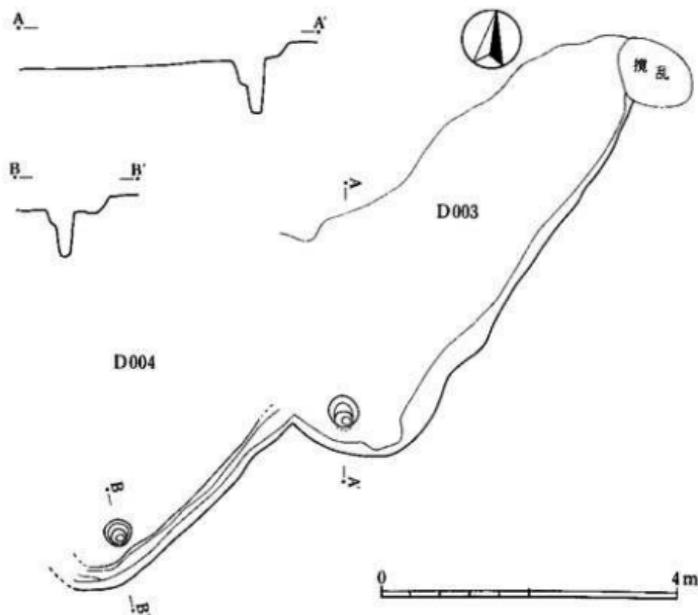
第230図 上四国標記地図



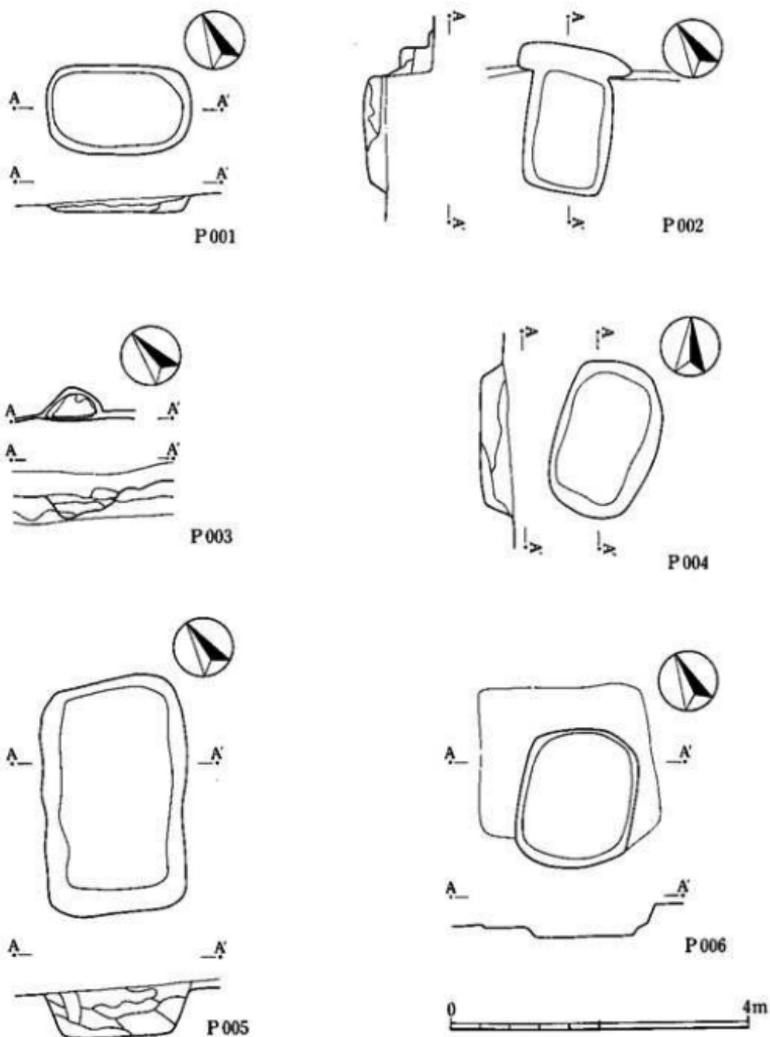
第232图 D002实测图



第231图 D001实测图

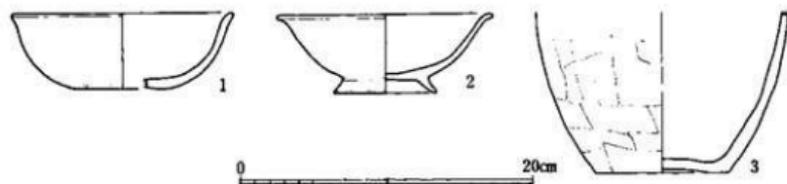


第233图 D003·D004实测图



第234図 P001～P006実測図

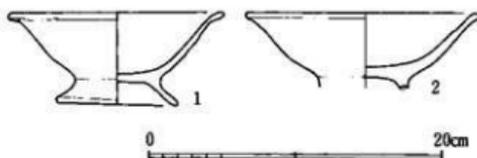
いる。底部は回転糸切り無調整である。2は高台が付くもので、高台高は1cm弱である。3は土師器壺の底部で、底部は回転糸切り無調整である。これらの遺物は10世紀前半の様相を呈し、萱田地区ではこの時期の遺物は出土例がない。北海道遺跡のP014やP015などの土壌からの出土例はあるものの、今まで該期の竪穴住居跡は検出されていなかった。9世紀後半以降の居住



第235図 D001出土遺物実測図

域の在り方を解明する上で貴重な資料といえよう。

D002 K12-19に位置する住居で、規模は2.3m×2.1mを測る。当住居とほぼ重複してP006が構築されている。柱穴・カマドは検出できなかった。出土遺物はない。



第236図 P005出土遺物実測図

D003・D004 L12-21に位置する住

居で、2軒が重複している。斜面にかかって構築されているため、遺存しているのは南東壁と床面の一部だけである。両住居とも住居南コーナーにピットが検出できた。出土遺物はない。

第2節 土 壤

P001 L12-00に位置する土壌で、規模は1.9m×1.2mを測り、確認面から0.2mの深さがある。形状は方形を呈し、底面はほぼ平坦である。出土遺物はない。

P002 L12-01に位置する土壌で、規模は2.0m×1.2mを測り、確認面から0.4mの深さがある。形状は方形を呈し、底面は平坦である。出土遺物はない。

P003 L12-11に位置する土壌で、約1/2を破壊されている。現存部分は直径0.8mの半円形を呈し、確認面から0.3mの深さがある。底面から若干浮いた状態で、厚さ15cm程度に貝が堆積している。貝はキサゴが主体となり、僅かにハマグリが混入している。

P004 L12-11に位置する土壌で、規模は2.1m×1.4mを測り、確認面から0.4mの深さがある。形状は方形を呈し、底面は平坦である。出土遺物はない。

P005 L12-20に位置する土壌で、規模は3.1m×1.9mを測り、確認面から0.6mの深さがある。形状は整った方形を呈し、底面は平坦である。覆土は僅かに焼土を含み、高台の付くクロロ土師器片が出土している。1・2ともほぼ同じ器形を呈し、D001出土の製品とも時期的に変わらないものである。

P006 D002と重複する土壌で、D002に先行して構築されている。規模は1.8m×1.5mを測り、確認面から0.3mの深さがある。出土遺物はない。

P007 K12-86に位置する土壌で、規模は直径0.8mを測り、確認面から0.5mの深さがある。形状は円形で、ピット状である。出土遺物はない。

P012 K12-45に位置する土壌で、規模は1.6m×1.3mを測り、確認面から0.4mの深さがある。形状は方形を呈し、底面は平坦である。出土遺物はない。

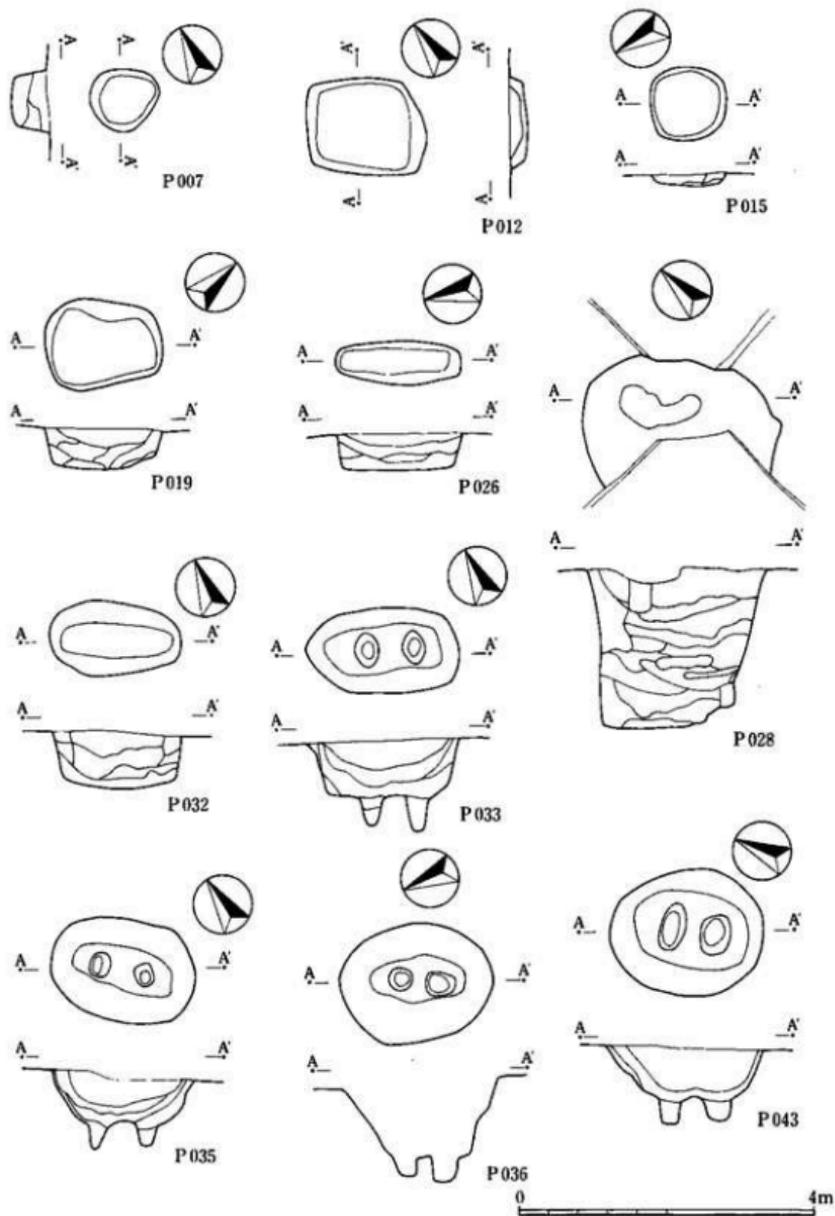
P015 K12-48に位置する土壌で、規模は直径1.0mを測り、確認面から0.2mの深さがある。形状は略方形で、底面はほぼ平坦である。出土遺物はない。

P019 L12-31に位置する土壌で、規模は1.6m×1.2mを測り、確認面から0.5mの深さがある。形状は略方形を呈し、底面は幾分凹凸がある。出土遺物はない。

P026 M12-11に位置する土壌で、調査時に10号土壌としたものである。規模は1.7m×0.6mを測り、確認面から0.5mの深さがある。形状は南北に長い方形を呈し、底面は平坦である。出土遺物はない。

P028 N14-40に位置する土壌で、調査時に12号土壌としたものである。所謂陥し穴状の土壌で、かなり破壊されているが、規模は2.7m×2.0mを測り、確認面から2.4mの深さがある。覆土は互層に堆積し、全体にロームブロックの混入が多い。出土遺物はない。

P032 N08-54に位置する土壌で、調査時に16号土壌としたものである。規模は1.8m×1.0mを測り、確認面から0.7mの深さがある。形状は東西に長い方形を呈し、底面には若干凹凸がある。



第237图 P007~P043实测图

出土遺物はない。

P033 M09-54に位置する土壌で、調査時に17号土壌としたものである。規模は1.5m×1.0mを測り、確認面から0.5mの深さがある。形状は楕円形を呈し、底面に直径0.3mのピットが2箇所ある。出土遺物はない。

P035 N09-00に位置する土壌で、調査時に19号土壌としたものである。規模は2.0m×1.3mを測り、確認面から0.7mの深さがある。形状は楕円形を呈し、底面に直径0.3mのピットが2箇所ある。ピットは底面から0.3mの深さがある。出土遺物はない。

P036 M09-35に位置する土壌で、調査時に20号土壌としたものである。規模は2.1m×1.6mを測り、確認面から1.0mの深さがある。形状は楕円形で、底面に直径0.3mのピットが2箇所ある。ピットは底面から0.3mの深さがある。出土遺物はない。

P043 M09-04に位置する土壌で、調査時に27号土壌としたものである。規模は2.1m×1.7mを測り、確認面から0.7mの深さがある。形状は楕円形を呈し、底面に直径0.3mのピットが2箇所ある。ピットは底面から0.3mの深さがある。出土遺物はない。

第86表 グリッド別土器出土量1

グリッド	1群	2群	3群	4群	5群	6群	7群	合計
K 9						16 160		16 160
K 10	6 85		3 40		33 555	174 2,435		224 3,245
K 11						29 530		29 530
L 9	159 1,485	150 1,680				265 4,410		574 7,575
L 10	14 205	11 165				257 4,220		282 4,590
L 11					1 10	2 20		3 30
M 8	2 30				16 280	127 1,790	1 20	175 3,150
M 9	1 40	24 380				1,512 21,195		1,544 21,705
N 8	4 95			5 190		347 5,405	1 45	363 5,790
N 11						1 25		1 25
O 10							9 205	9 205
小計	186 1,940	185 2,225	3 40	5 190	50 895	2,730 40,190	11 270	3,170 45,700

第4節 遺物包含層

坊山遺跡では、須久茂谷津に面する台地斜面に遺物量が多くない包含層が確認できた。多くの部分は確認調査のトレンチを拡張することで包含層調査を終了している。包含層の調査はM8グリッドからK10グリッドにわたる包含層調査区ⅠとI14グリッドからI16グリッドにわたる包含層調査区Ⅱの2箇所に分かれている。基本的には全遺物の出土位置が小グリッド単位に記録されており、時期ごとの遺物分布の傾向が把握できる。出土した遺物は土器と石器・土器片錘で、石器の量は極めて少ない。また、土器片錘は素材となった土器片から時期的に限定できるものである。土器は縄文時代早期から中期に及び、各時期とも比較的狭い範囲にまよまっている。土器は便宜的に下記の分類に基づいて説明する。

第87表 グリッド別土器出土量2

グリッド	1群	2群	3群	4群	5群	6群	7群	合計
I 14			6 110		3 120			9 230
I 15		7 95	72 900	16 310	3 70		21 775	119 2,150
I 16		2 110	31 395	1 50	245 4,180	22 560	10 405	311 5,700
J 14		3 70	8 65		40 810			51 945
J 15					15 300	1 20		16 320
J 16					210 4,875		2 50	212 4,925
K 14							9 155	9 155
K 15			1 10		7 60		9 230	17 300
L 14						1 25	4 160	5 185
L 15						1 25	3 75	4 100
L 16							6 160	6 160
N 13						1 30		1 30
小計	0 0	12 275	118 1,480	17 360	523 10,415	26 660	64 2,010	760 15,200
合計	186 1,940	197 2,500	121 1,520	22 550	573 11,310	2,756 40,850	75 2,280	3930 60,950

(上段は点数、下段は重量)

- 第1群土器 縄文時代早期の燃糸文系土器を一括してある。
- 第2群土器 縄文時代早期中葉の沈線文土器を一括してある。
- 第3群土器 縄文時代前期前半の黒浜式土器を一括してある。
- 第4群土器 縄文時代前期後半の諸磯式・浮島式土器を一括してある。
- 第5群土器 縄文時代前期末から中期初頭の土器を一括してある。
- 第6群土器 縄文時代早期中葉の土器を一括してある。
- 第7群土器 縄文時代中期後半の土器を一括してある。

土器 出土した土器は前述のように第1群から第7群までに分類した。土器の分布はL9からL10グリッドを中心とするものと、I15からI16グリッドを中心とする2箇所がある。総数は約4,300点、重量66.6Kgを量る。土器の分布は希薄であるが、その中でも密度の濃い部分があり、比較的短期間に廃棄された土器が拡散したものと考えられる。各地点の出土量は以下のとおりである。

第1群土器(第236図) 縄文時代早期の燃糸文系土器を一括してある。全体量としては少なく、全体で186点しかない。これらはすべて包含層調査区Iから出土した。L9グリッドを中心に散漫に分布し、その中でL9-81グリッド付近に多い。最低7個体が識別できたが、同一個体が30m程度の範囲に拡散している例もある。

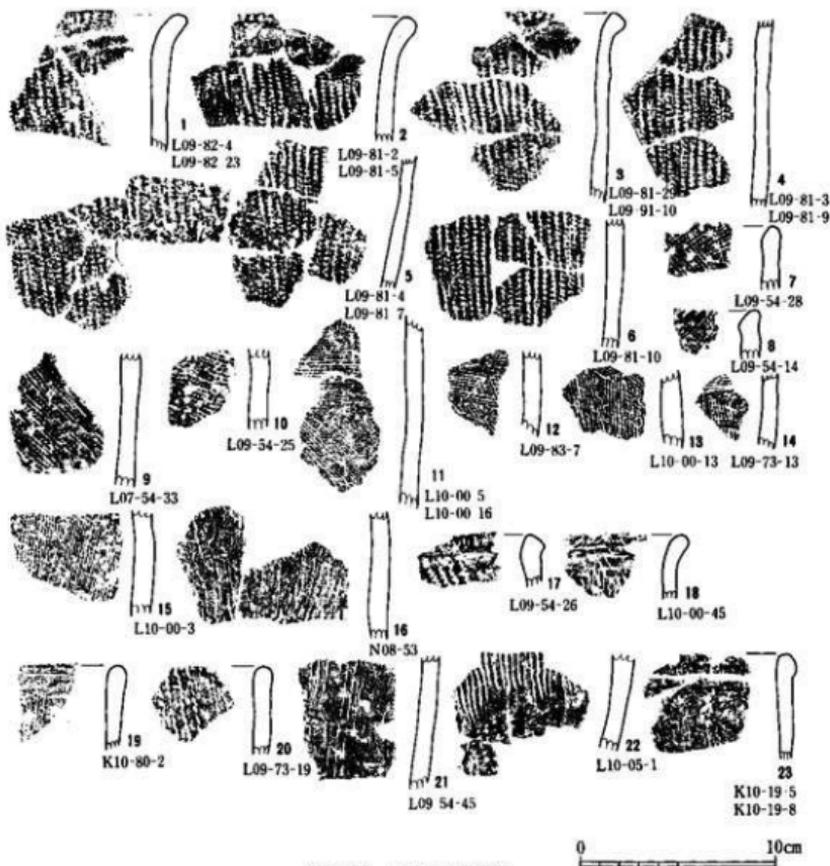
個体A 1～6は縄文施文で、同一個体の破片である。1～3には口縁部が残り、口縁部は短く外反している。口唇部は丸く納め端部は滑らかで、外側に縄文施文がある。口縁部は幅1.5～2.0cmの無文帯があり、胴部は縦位の縄文を施文している。縄文原体はL{R}である。胎土は砂粒が目立ち、色調は暗赤褐色を呈している。

個体B 7～10は細かい縄文施文で、同一個体の破片である。7・8に口縁部を残し、内側に稜を形成する。口縁部は羽状の縄文で、口唇部に棒状工具のスリットを施している。胴部は斜位の縄文で覆われる。縄文原体はL{R}である。胎土は大粒の長石粒が目立ち、色調は赤褐色を呈している。

個体C 11～15も細かい縄文施文で、同一個体の破片である。口縁部は遺存していないが、11・12に見るように横位の施文で文様体を構成している。胴部は斜位から縦位の施文で、15は胴部下位と推定される。胎土は砂粒が目立ち、色調は明褐色を呈している。

以下の土器はそれぞれ別個体の破片である。16・17は縄文施文の土器で、17が口縁部の破片である。16は施文の浅いもので、縄文原体はL{R}である。胎土は精緻で、色調は褐色を呈している。17は僅かに外側に肥厚する口唇部をもち、端部に棒状工具のスリットが施されている。口縁部に幅8mm程度の無文帯があり、無文帯以下に縄文を施している。縄文原体はR{L}である。胎土は雲母粒並びに長石粒を多く含み、色調は黒褐色を呈している。

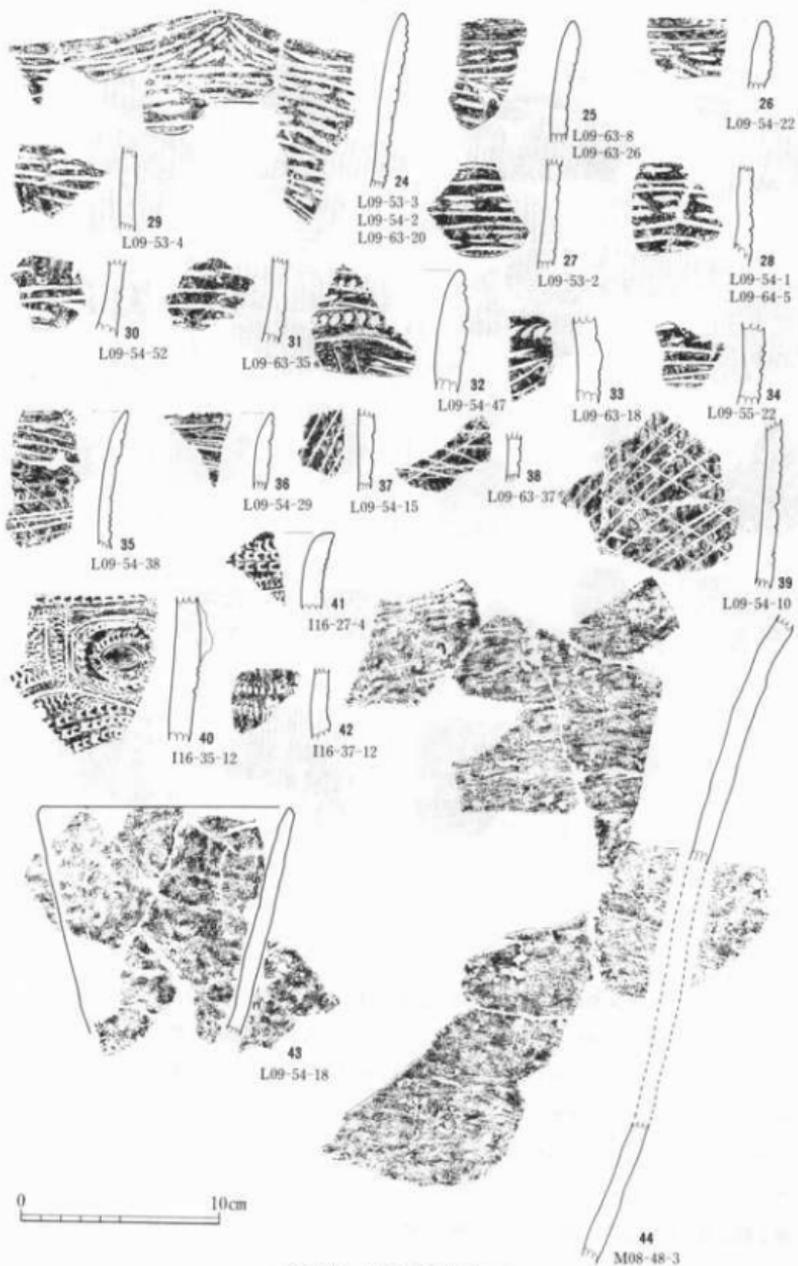
18～22は燃糸文施文の土器で、18～20が口縁部を残している。18は外側に肥厚する口縁部を



第238図 1群土器拓影図

もち、端部に燃糸文を施している。19・20は口唇部を丸く納めるもので、19は口縁部に無文帯を配し、その部分に横位のナデ調整を行っている。ともに、口唇部を磨いている。21・22は胴部の破片で、22は底部に近い部位である。22は施文下位を横方向に調整し、砂粒の動きが観察できる。内面は縦位に調整している。23は施文のない土器で、口縁部を残している。口縁部は僅かに外側に肥厚し、沈線様の区画で胴部と界する。胴部は内外面とも縦方向に調整を行っている。

第2群土器(第237図) 第2群土器は縄文時代早期の沈線文系の土器を一括してある。全体量は1群土器とほぼ同量で、破片総数197点を数える。分布はI 15グリッドから数点出土している



第239图 2群土器拓影图

が、中心はL9グリッドにあり、1群土器とほとんど重なる分布範囲を有している。個体数は10個体以上が存在し、同一個体の破片は最大15m程度に拡散している。

個体A 24～31は同一個体の破片で、24～26に口縁部を残している。24・25から口縁部は緩い波状口縁を呈することが知られ、恐らく4単位になると思われる。器面は太い沈線を横位に施し、すべて直線的な文様で構成される。しかし、口縁部の波頂部は不明瞭であるが文様帯を構成するものと想像できる。胴部から底部にかけては一様に横位の短い沈線で覆い、かなり底部に近い部位と推定できる30・31にも同様の施文がある。胎土は砂粒が目立ち、僅かに植物繊維を混入している。色調は明褐色を呈している。

個体B 32～34も沈線を主体とした施文で、32は口縁部を残している。沈線は浅く、32・33に見るように口縁部に文様帯を形成している。また、32・33とも棒状工具による列点文が器面をめぐり、33は低平な隆帯で区画している。内面は32・33が横に、34は縦に磨いている。胎土は砂粒が目立ち、僅かに植物繊維を混入している。

個体C 35～39も沈線施文の土器で、35・36は口縁部を残している。口縁部は外反し、端部は尖り気味で、35は小さな波状を呈している。器面は全体を縦方向に調整した後、細い沈線を施す。沈線は口縁部で横位、胴部以下は斜格子状に描いている。胎土は砂粒が目立ち、僅かに植物繊維を混入している。色調は明褐色を呈している。

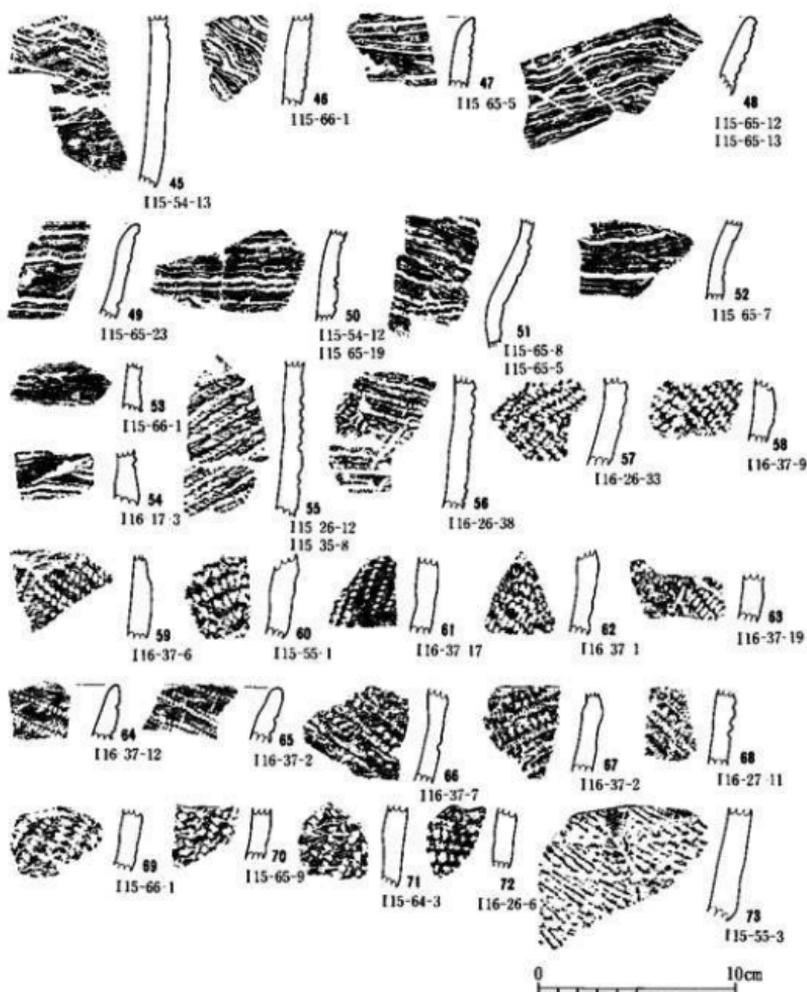
個体D 40・41は半載竹管と貝殻覆縁の刺突文を沈線で区画したもので、41は口縁部を残している。器面は数段の文様帯から構成されるようで、直線と曲線を取り混ぜた文様表出となっている。40は窓状の区画の中に円形にめぐる隆帯が配され、周囲を半載竹管の連続刺突文で飾っている。内面は41が横に、40は縦に磨いている。42は他に同一個体に帰属する破片がないが、竹管の刺突文を器面にめぐらせている。

43・44は施文のない土器で、43は比較的小形の土器である。43は口縁部を残し、端部は尖り気味である。器面は内外面とも縦方向に調整するが、凹凸が目立つ。胎土は植物繊維を含んでいる。44は胴部の破片で、器面は内外面とも横方向の擦痕様の調整が観察できる。胎土は植物繊維を含んでいる。

第3群土器 (第238図) 第3群土器は縄文時代前期の黒浜式土器を一括してある。分布はI15グリッドを中心に広がり、全体量は121点である。第1・2群土器と比較して同一個体の破片の拡散が著しく、50mを超えて接合した例もある。

個体A 45～53は同一個体で、頸部を有し口縁部が外反する深鉢形の土器である。口縁部は大きく開き、48にみるように波状を呈している。施文は半載竹管を使用した平行沈線を細かく波状に施文し、部分的に押し引きしている。45には底部無文帯が認められ、その上位に斜位の平行沈線が施文されている。内面はすべて磨かれ、胎土に植物繊維を混入している。

個体B 55・56は附加条の縄文が施文されるもので、56に見るように羽状に施文される部分も



第240図 3群土器拓影図

ある。縄文原体はR(上+Rである。

個体C 57~63は縄文施文の土器で、粒の大きい鮮明な施文である。57は口縁部に近い部位の破片と思われ、破片上端に半截竹管の刺突文がめぐっている。縄文原体はR(上で、59は羽状の施文が観察できる。60~63は同様の縄文施文の土器で、61に原体の縦回転の施文が見られる。

原体は60がL(Ⅱ)、他はR(Ⅱ)である。

個体D 64・65は疎らな縄文が施されるもので、ともに口縁部を残している。器面は内外面とも横位の調整で、縄文原体はR(Ⅱ)である。

個体E 66～68は附加条の縄文が施されるもので、撚りの粗い原体に密な原体を巻いている。原体はR(Ⅱ)+Rである。

69～73はその他の土器で、72は附加条の縄文が、69～71は斜行する縄文が施されている。73は結節を伴い、施文単位の境に粘土が盛り上がっている。

第4群土器 (第239図) 第4群土器は前期の諸磯式土器・浮島式土器を一括したもので、量的には非常に少ない。全体量は22点しかなく、分布範囲もI15-75・76グリッドに限られる。この範囲は前述の黒浜式土器の分布と重なり、後述する第5群の前期末から中期初頭の土器と近いものの、このグリッドから第5群土器はまったく出土していない。

個体A 74～77は口縁部に最大径を有し、大きく内弯するものである。74・75に見るように口縁部は4単位と考えられる波状を呈し、口縁部文様帯は波頂部分を中心に展開する。施文は半截竹管を用いた平行沈線を密に施し、口縁部文様帯では地文の縄文がほとんど観察できない。77は胴部の破片で、横位の平行沈線を施している。縄文原体はR(Ⅱ)である。内面の調整は粗雑で、口縁部にもかなりの凹凸が認められる。胎土は大粒の混入物がある。色調は明赤褐色を呈している。

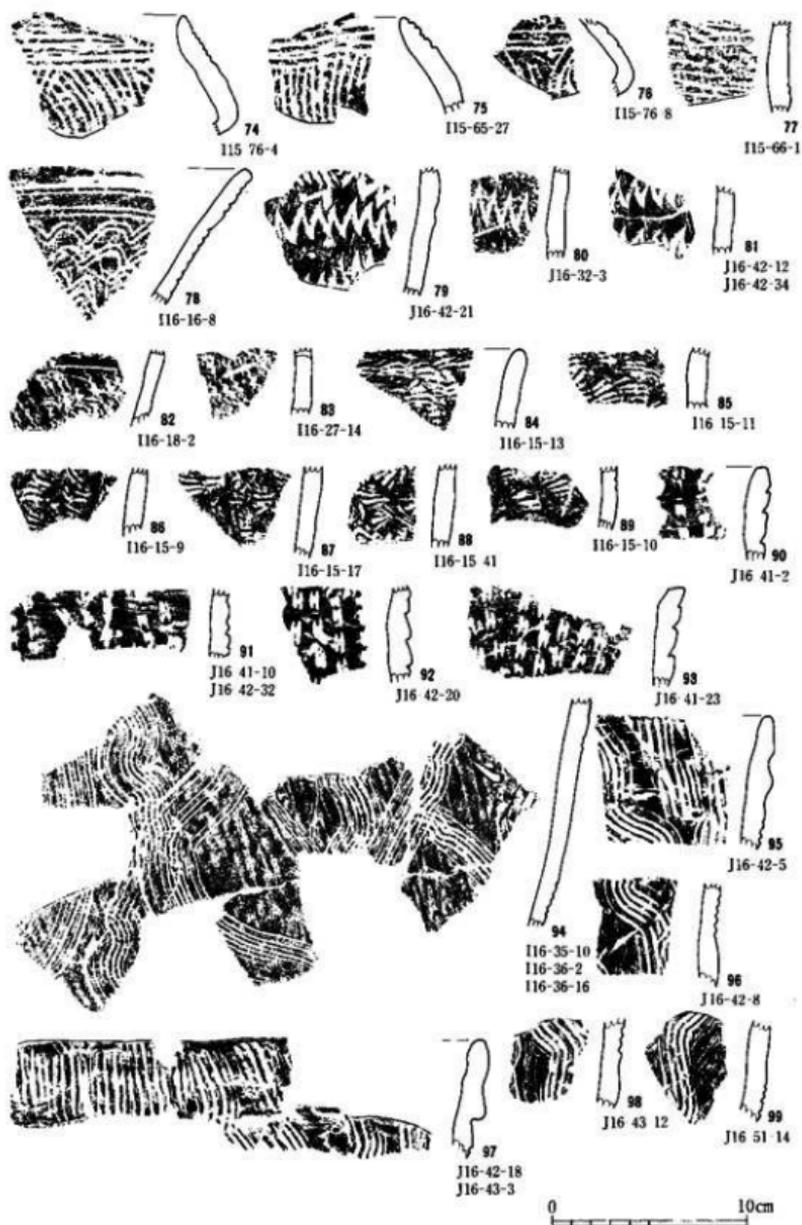
78は口縁部が直線的に開くもので、やはり半截竹管の平行沈線を施している。文様帯は口縁部に沿った2条の平行沈線で区画され、内部に波状の平行沈線を描いている。器面の遺存状況が不良で明確ではないが、地文にまばらな燃糸文が施されている可能性がある。内面は横位の調整が観察できる。

79～83は貝殻覆緑文を施すもので、79～81はハマグリ等による施文で、82・83はアナダラ属の貝による施文である。

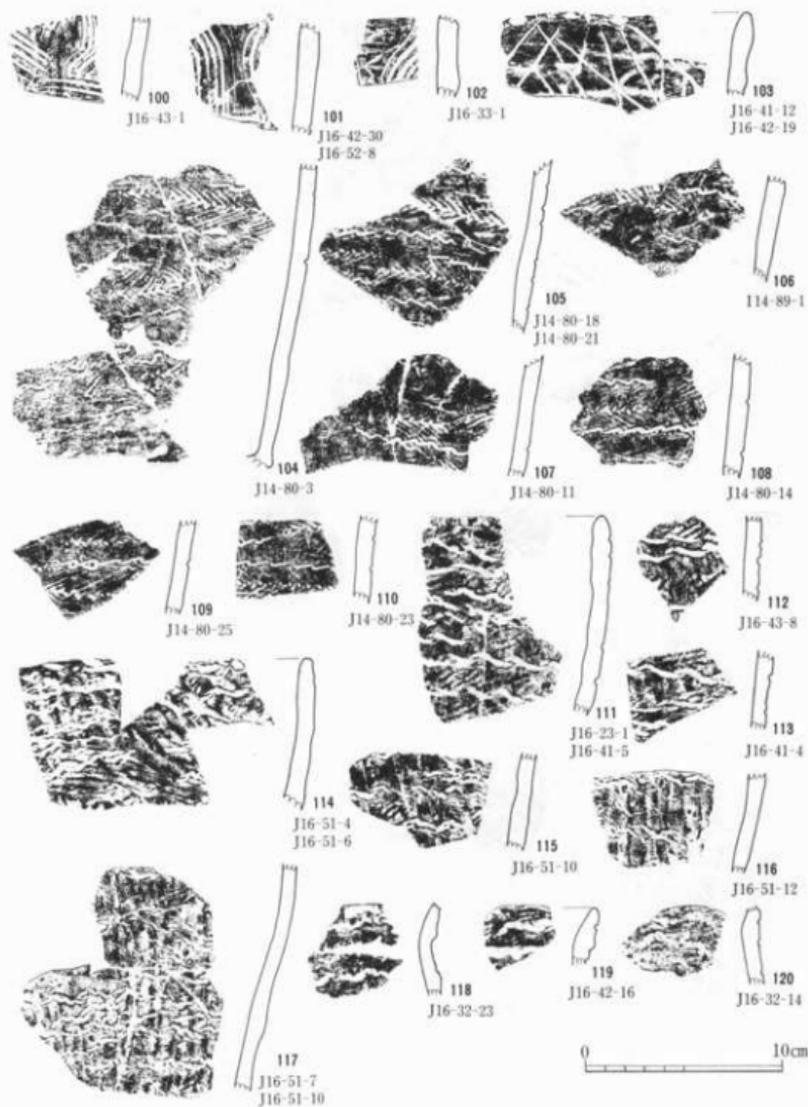
第5群土器 (第239～241図) 第5群土器は前期末から中期初頭の土器を一括してある。量的にも豊富で、全体量は573点、重量11.310gを量る。分布範囲はI16からJ16グリッドを中心とし、I16-26から最も多く出土している。この分布状況は第3群土器の黒浜式土器に近い様相を呈している。個体数も50個体以上と推定でき、接合状況も比較的近い位置で接合しているものがほとんどであるが、例外的に50m以上離れて出土した破片が接合した例もある。

個体A 84～89は貝殻背圧痕を施すもので、84は口縁部を残している。器形は底部から直線的に開く深鉢形と考えられ、残された破片に屈曲部はない。施文は口縁部を横方向に連続させ、底部に近い89は縦方向に連続して行っている。いずれの場合も施文原体となる貝は横位に押圧している。胎土は砂粒が目立ち、植物繊維は含まれていない。

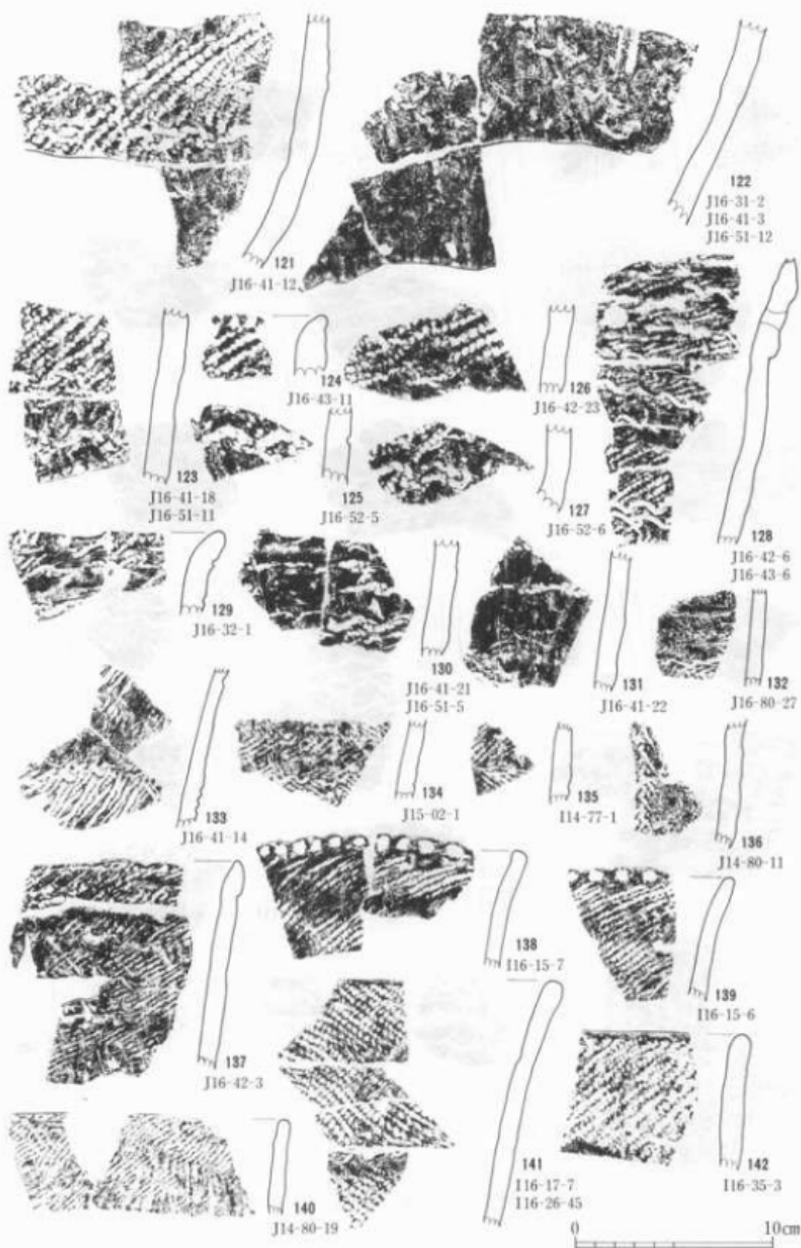
個体B 90～93は先端に加工を施した半截竹管の刺突文があるもので、施文具や施文間隔、色



第241图 4群·5群土器拓影图 1



第242图 5群土器拓影图 2



第243图 5群土器拓影图 3

調から90・91と92・93は別個体と考えられる。90は口縁部を残し、口唇部は丸く納め、端部にも半截竹管を使用したスリットを施している。口縁部は端部から3.5cm前後の位置に折り返し状に粘土紐接合痕を残している。施文具は半截竹管の端部を鋭く加工したもので、いずれも縦に連続する刺突を行っている。刺突の条間は92・93の方が密である。胎土は砂粒が目立ち、色調は90・91が暗褐色を、92・93は明褐色を呈している。

個体C 94は櫛歯状工具による平行沈線を施したもので、蛇行させることを基本としている。沈線は2種類の施文具を用い、断面が丸く仕上がるものと、鋭利に仕上がるものが混在している。器面は内外面とも縦位の調整を行っている。

個体D 95～99も個体Cと同様の施文を施すもので、沈線はより幅広でしっかりしたものである。95・97は口縁部の破片で、個体B同様に口縁部に折り返し様の接合痕を僅かに残している。施文は口縁部から胴部へ連続し、接合痕の段をほとんど意識していない。

100～102も同様の施文で、100には横走する沈線が見られる。103は沈線で器面を覆うものであるが、沈線は直線的に交差している。施文原体は2種が確認でき、いずれも平行沈線ではない。口縁部はあまり丁寧な調整は行われず、所々に指頭による押圧がある。また、口縁端部から2cm前後と4cm前後のところに僅かに接合痕を残している。

個体E 104～110は器面全面に横回転の結節縄文が施されるものである。口縁部は残されていないが、104はほぼ底部に接する位置まで施文が見られる。施文は施文単位の条間に無文帯をはさんでいる。縄文原体はR(Ⅰ)である。遺存部分の内面はすべて縦方向の調整が観察できる。胎土は砂粒が目立つが焼成は良好で、色調は明褐色を呈している。

個体F 111～114も器面を横回転の結節縄文で覆うもので、111は口縁部を残している。口縁部の調整は粗雑で、端部にスリットを施し、口縁部外面にも縦の短い沈線施文を横に並べている。縄文は個体Eと比較して密に施され、原体はL(Ⅱ)である。胎土は砂粒がかなり目立ち、色調は明赤褐色を呈している。

個体G 115～117も横回転の結節縄文が施されているもので、115は口縁部を残している。口縁部は丸く納め、端部に棒状工具によるスリットを斜めに入れている。器面は縄文の結節部分だけが密に施され、凹凸もかなりある。また、116・117は外面に縦位の調整が明瞭に観察できる。胎土は砂粒が目立つが、焼成は良好で、色調は褐色を呈している。

個体H 118～119も横回転の結節縄文を施すもので、118・119は短いながら大きく外反する口縁部破片である。端部から2cm前後のところに複合口縁様の接合痕を明瞭に残している。施文は個体G同様に、縄文の結節部分だけを施文している。

個体I 121～127も横回転の結節縄文を施すもので、124は口縁部を残している。器面は口縁部から結節縄文を施し、口唇部にも縄文原体を押圧している。122は底部に近い部分の破片で、僅かに結節縄文が見られるが、縦方向の調整が顕著で、下位でへら磨きを施している。縄文原体

は大粒のL {Rで、結節部分以外の縄文も明瞭に施文されている。

個体J 128も横回転の結節縄文を施すもので、口縁部を残している。口縁部は丸く納め、端部から2cm前後・3.5cm前後・5cm前後のところに接合痕を残している。接合痕の部分は幅約8mmの隆帯状に高くなり、その頂部に縄文を施している。縄文原体はL {Rである。

個体K 129～131も横回転の結節縄文を施すもので、129は口縁部を残している。口縁部は短く外返し、端部に不規則に縄文原体を押圧している。施文はほとんど縄文の結節部分だけで、原体はL {Rである。

132～135も横回転の結節縄文が施されているもので、縄文原体は133を除いてL {Rである。133はL {Iである。胎土は134・135に長石粒を多く含んでいる。136は縦回転の結節縄文が施されているものである。

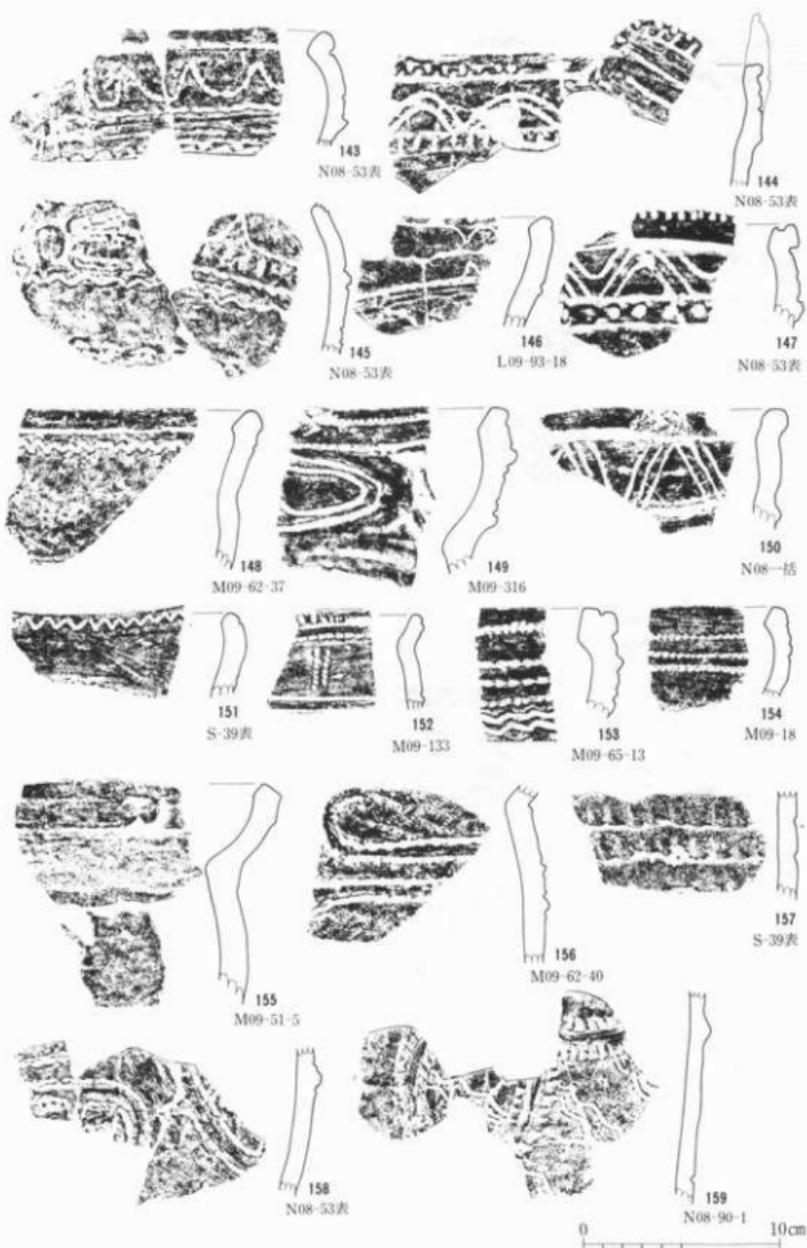
137～142は結節を伴わない縄文施文のものである。すべて口縁部の破片を図示したが、137は複合口縁様の接合痕を端部から1.5cm前後の所に残し、口唇部にも縄文を施している。縄文原体はL {Rである。138・139は同一個体の破片で、口唇部に棒状工具を押圧している。縄文原体はL {Iである。140は口唇部にも縄文を施し、141・142は丸く納めている。縄文原体は140・142がL {R、141はR {Iである。

第6群土器 (第242図) 第6群土器は中期の阿玉台式土器を一括した。量的に包含層出土土器の主体となるもので、3,000点近い破片が出土している。分布範囲はN11グリッドからK10グリッドまで台地縁辺に広がり、長軸は約150mを測る。その中で特にM9グリッドとL10グリッドから多くの土器が出土している。接合した土器片も多いが、全体形を窺うことができる個体はなく、数点が接合する例がほとんどである。多くの個体は比較的近接した位置で接合しているが、中には約100m離れた土器片が接合した例もある。予想される最小個体数は50個体以上になる。

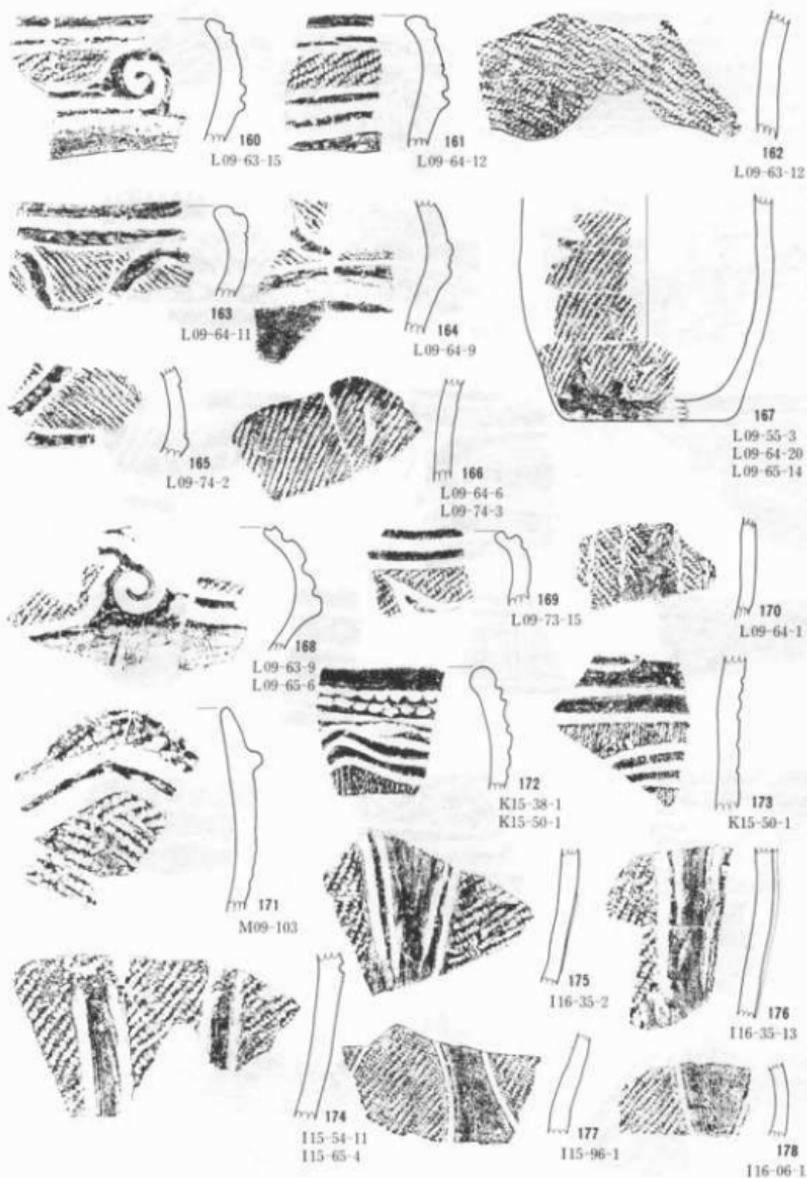
143～155は口縁部文様帯の破片である。いずれも内湾する口縁部をもち、144は扇状の把手が付けられている。口縁部文様帯はその下部を隆帯で区画し、幅の狭い押し引き沈線を施している。口唇部はすべて内側に稜をもち、147は端部にも施文がある。156～159は胴部の破片で、157は粘土紐接合痕を残している。156・158・159は隆帯と隆帯に沿った角押文によって文様を表出し、159は幅広の角押文を施している。

第7群土器 (第243図) 第7群土器は中期後半の加曾利E式土器を一括した。第6群土器と比較してかなり少なく、全体で75点しか出土していない。分布範囲は第6群土器と重なるものの、その範囲は著しく縮小している。

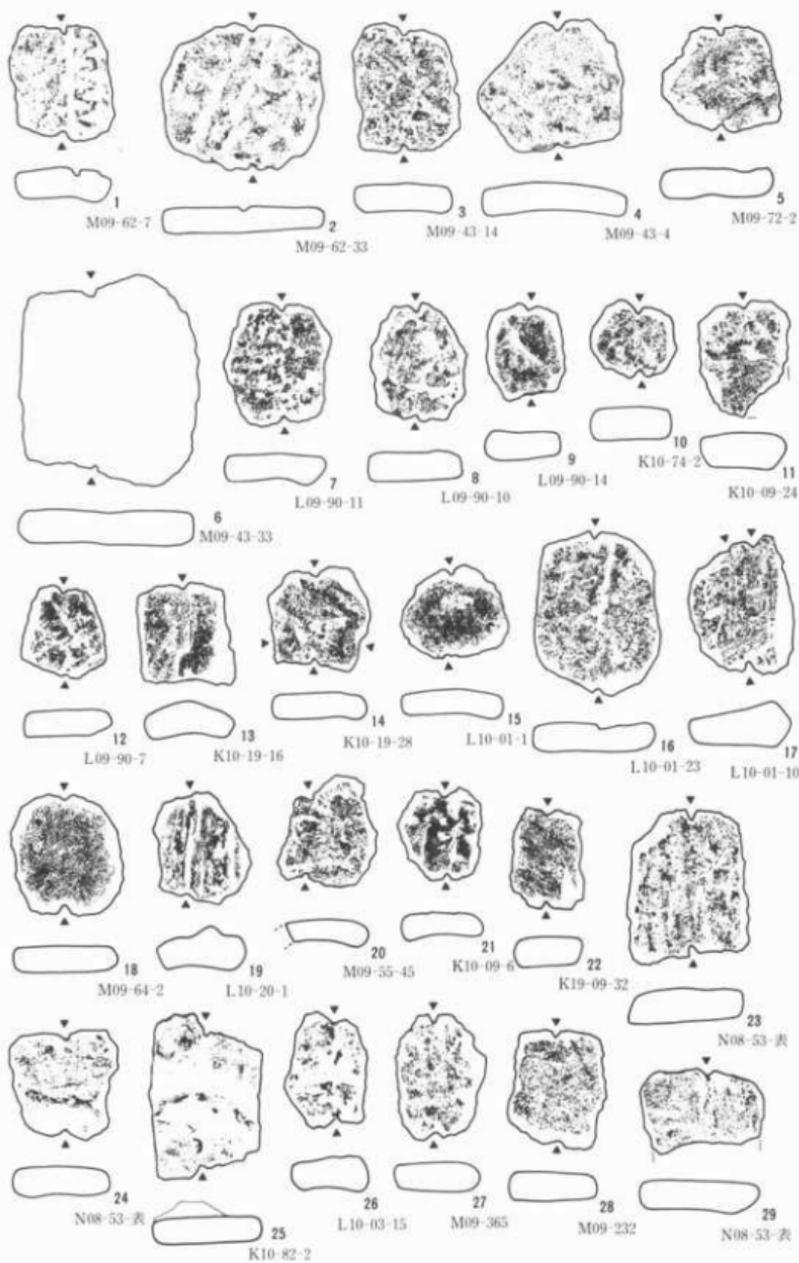
個体A 160～162の3点で、160・161は口縁部の破片である。口縁部文様帯は整った渦巻文を配し、口縁部文様帯直下に無文体を巡らす。162は胴部の破片であるが、現存する部分に懸垂文は見られない。縄文原体はL {Rである。



第244图 6群土器拓影图



第245图 7群土器拓影图



第246图 土器片鉢実測图

個体B 163～166の4点で、163～165は口縁部文様帯の破片である。口縁部文様帯には渦巻文は見られず、隆帯を蛇行させている。口縁部文様帯の直下には無文帯をめぐらせ、胴部の破片である166にも見ることができる。166には懸垂文は見られない。縄文原形はLⅡである。

個体C 167は底部の破片で、懸垂文はなく、縄文を一面に施している。縄文原形はLⅡである。

個体D 168～170の3点で、168・169は口縁部文様帯の破片である。口縁部はかなり大きく内湾し、隆帯により渦巻文を表出している。また、隆帯のみならず幅広の沈線による施文も見られる。口縁部文様帯直下には無文帯をめぐらせている。口縁部文様帯の内部にはLⅡの複節の縄文を施文している。170は胴部の破片で、懸垂文は見られないが、結節を伴うLⅡの複節の縄文を縦に回転している。

個体E 171の1点であるが、大きく波状を呈する口縁部である。口縁部文様帯は隆帯で区画し、現存部分には意匠は見られない。縄文は粒が大きく、原形はLⅡである。

個体F 172・173は所謂連弧文土器で、172は口縁部の破片である。口縁部文様帯・胴部ともに太い沈線で連弧を描き、地文は原形Lの燃糸文である。

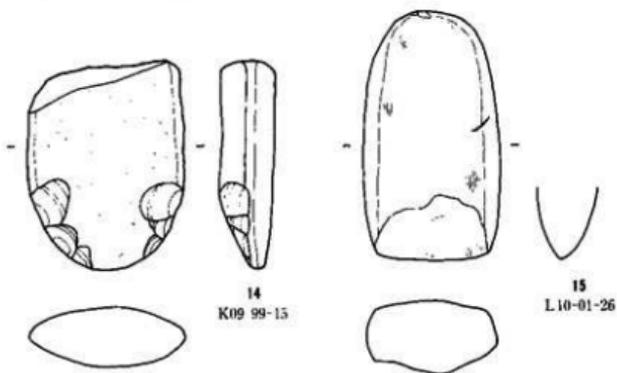
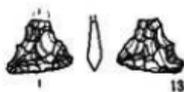
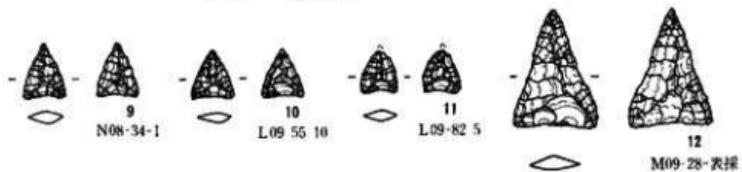
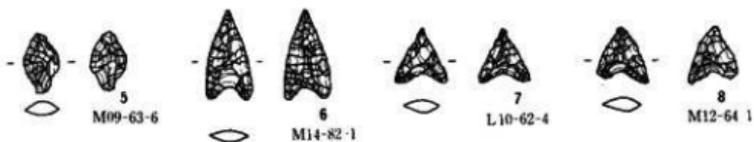
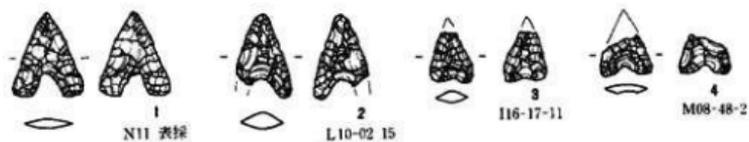
個体G 174の1点である。口縁部は欠損し、胴部だけであるが、幅広の沈線で区画した懸垂文が垂下している。懸垂文の上は閉じている。縄文原形はLⅡである。

個体H 175・176の2点である。ともに胴部の破片で、低い隆帯に区画された幅広の懸垂文が施されている。175は上方に向かって懸垂文が開いており、加曾利E式土器でも新しい様相を呈している。縄文原形はRⅠである。

個体I 177・178の2点である。ともに胴部の破片で、沈線区画の無文帯が垂下している。懸垂文の端部は“U”もしくは“V”字状になるものと思われる。原形はRⅠである。

土器片錘 (第244図) 出土した土器片錘はすべて阿玉台式土器の破片を利用したもので、出土位置も阿玉台式土器の分布範囲と重なっている。糸掛けの刻みは土器に対して横方向に付けられてものが圧倒的に多く、縦方向の2倍になる。長径は平均4.06cmで、縦方向利用の平均が3.55cm、横方向利用の平均が4.12cmとなる。重量は平均18.24gとなる。

石器 (第245図) 石器は石鏃・石斧などが出土したが、その量は決して多いとは言えない。1～12は石鏃で、1・2・4・5が黒曜石製、12が安山岩製、他はチャート製である。14・15は石斧で、14は基部を欠損し、刃部周辺に粗雑な調整が認められる。14は砂岩製、15は蛇紋岩製である。



第247図 縄文時代石器実測図

第4章 まとめ

第1節 各文化層の石器群

坊山遺跡ではソフトローム層からX層にいたる各層準から石器が検出され、本書では第1文化層から第6文化層として紹介した。石器集中地点は51箇所を数え、そこから出土した石器は総数約4,500点を数える。

第1文化層 ソフトローム層(III層)を産出層準とするもので、本文文化層は5箇所の遺物集中地点を報告した。S39地点を除いた4箇所の遺物集中地点はいずれも小規模なもので、検出した石器も10点以下である。特にS105地点は石槍が1点含まれるものの、礫を主とした集中地点である。S39地点は小形の石槍が特徴的な遺物集中地点で、削器として分類したものも含めると18点を数える。使用石材は安山岩・流紋岩・凝灰岩等があり、製品と同一母岩に帰属すると思われる剥片も多量に出土している。しかし、石器組成として碎片の占める割合が異常に少ない点は注目できる。さらにS39地点は礫群を伴っており、重量比で40%を超える遺物が礫で占められている。礫の分布は直径約8mの集中地点の中において、かなり限定された一角に集中する。

第2文化層 ハードローム層上部(IV・V層)を産出層準としたもので、この文化層には合計16箇所の遺物集中地点が含まれている。第2文化層に帰属する遺物集中地点は萱田地区の他の遺跡でも豊富な資料を提供しており、特に須久茂谷津に面する北海道遺跡から坊山遺跡にかけて、多くの遺物集中地点が密集している。坊山遺跡ではS95・S96地点から1,181点の遺物が出土し、第2文化層の他の遺物集中地点を凌駕している。北海道遺跡から坊山遺跡にかけての第2文化層に帰属する遺物集中地点は50箇所を数え、そこから出土した遺物の総数は2,857点であることを考えると、実に約40%の遺物がS95・S96地点に集中している。一般的には遺物点数が40点以下の集中地点が圧倒的に多く、36箇所が40点以下の遺物から構成されている。

礫群を伴う集中地点は3箇所、北海道遺跡をも含めて考えた場合、比較的多くの集中地点に礫群を伴っているといえる。坊山遺跡では礫群を構成する礫片は点数比で出土遺物の50%前後の組成率を示すが、S95・S96地点では出土遺物の総点数があまりにも多いため、礫片の組成率は4%強に留まっている。北海道遺跡第9ブロックや同第17ブロックでは礫片の組成率が90%前後という高率を示しているが、両地点とも集中地点を形成する遺物点数は30点以下である。遺物の総点数と礫群の関係は弱い正の相関関係が認められるが、遺物総点数と礫片の点数における相関係数は0.487であり、礫片の点数が遺物総点数に必ずしも比例しないことを示している。

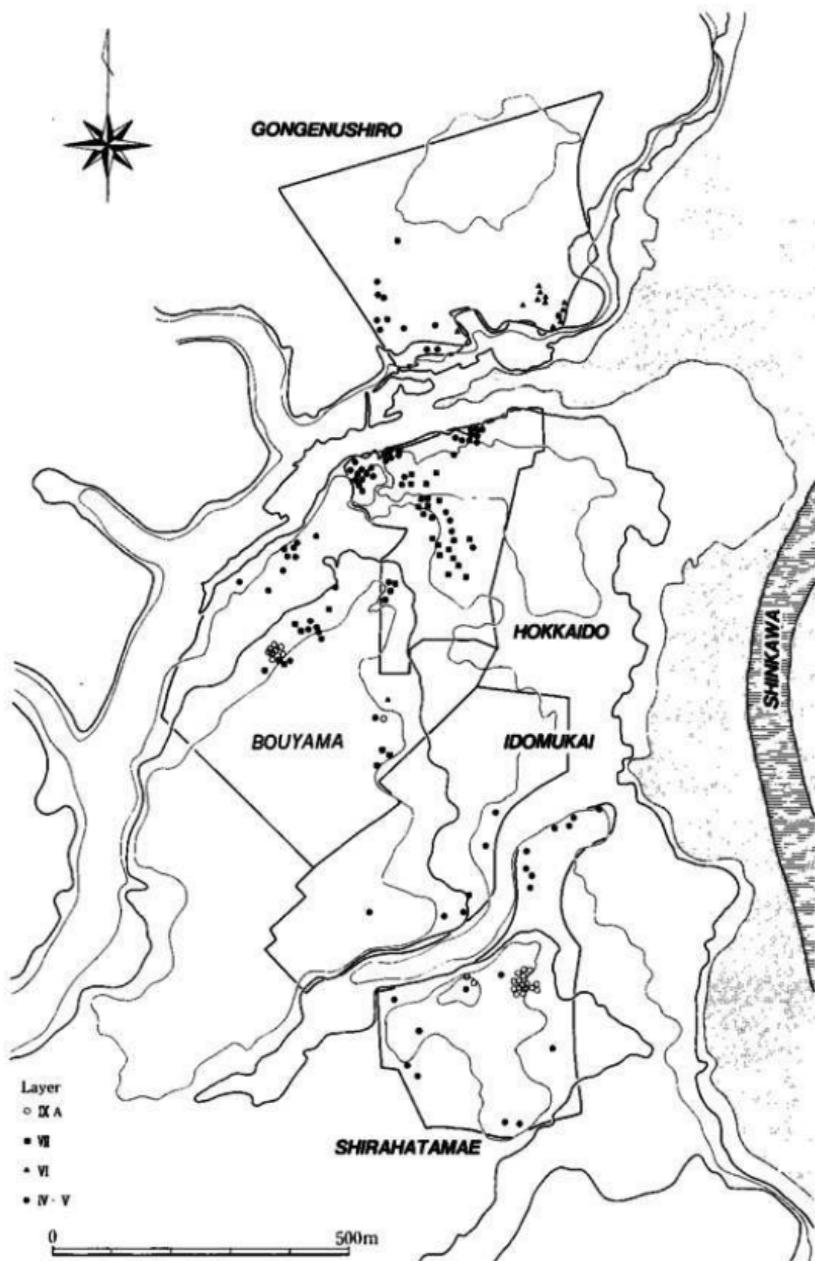
第3文化層 VI層を産出層準としているもので、単独出土地点1箇所がある。VI層を産出層準

とする集中地点は北海道遺跡・坊山遺跡ともに良好な資料が得られておらず、権現後遺跡第4文化層が若干まとまった存在である。

第4文化層 VII層からIXa層を産出層準としているもので、坊山遺跡では14箇所の集中地点を報告した。坊山遺跡の調査を行った時点で、VII層からIX層全般に対する認識が統一されておらず、内容的に不明瞭な点があるのも事実である。全体にあまり大きな集中地点はなく、10点以下の遺物からなる集中地点が4箇所ある。第1・2文化層と大きく異なる点は、第1・2文化層が台地の縁辺部と須久茂谷津に臨むかなり標高の低い位置に展開しているのに対し、第4文化層はその分布が段丘上位面の縁辺部に限られる。このことは旧地形と密接な関係があるものと思え、萱田地区全体を眺めてみたときでも、北海道遺跡でVII層を産出層準とする集中地点が展開するものの、IXa層以下の集中地点は段丘中位面には見られない。石器は剝片が卓越し、石刃様の剝片を特徴とする。ナイフ形石器も僅かに伴うが、石刃様の剝片に調整を施したものが主体となっている。なお、礫群を伴う集中地点はほとんどなく、S71地点に僅かに見られるだけである。

第5文化層 IXb層からIXc層を産出層準としているもので、坊山遺跡では14箇所を報告した。この内の8箇所は環状ブロックを形成する集中地点で、石刃に特徴づけられる文化層である。特に環状ブロック群では遺物全体の31%をも石刃が占め、活発な石刃製作が窺われる。これに対して、環状ブロック群以外の集中地点では石刃は出土しておらず、不定形な剝片と砕片が主体となる。同じように環状ブロック群に隣接するS64・S65地点でも使用石材はチャートが卓越するものの、石刃はなく、不定形な剝片と砕片で構成される。環状ブロック群ではチャートが卓越し、安山岩の使用も僅かに認められるが、チャートはほとんどがよく似た石材を使用している。さらに、ブロック群を構成する個々の集中地点内での接合関係はあるものの、集中地点間での接合はほとんどない。このような石器組成の違いは、単に環状ブロック群とそれ以外の集中地点という差を表しているだけでなく、時間的な違いも示している可能性がある。集中地点を構成する遺物点数は相対的な開きは認められるが、環状ブロック群を構成する集中地点と、それ以外の集中地点を遺物点数から区別することはできない。使用石材は環状ブロック群ではチャートが卓越し、石刃はないものの環状ブロック群に隣接するS64・S65地点でもチャートが高率で選択されている。しかし、これ以外の集中地点では、地点により使用石材に違いが認められ、S33地点では珪質頁岩・安山岩が、S52地点では黒曜石が、S59地点では安山岩・凝灰岩が主体的に使用されている。S52地点は遺物点数も9点と少なく、黒曜石の単一の母岩からなる離散的な集中地点と理解できる。

第6文化層 X層を産出層準としているもので、S48地点の1箇所だけである。S48地点は台地のほぼ中央部に位置しているが、寺谷津側へ開析する浅い谷の谷頭にあたる。使用石材は黒曜石が卓越し、そのほかに安山岩・メノウが僅かに使用されている。台形石器を多く生産し、



第248図 萱田地区先土器時代遺物集中地点の分布

石刃は全く含まれていない。製片は不定形なものが多い。

第2節 第2文化層の特質

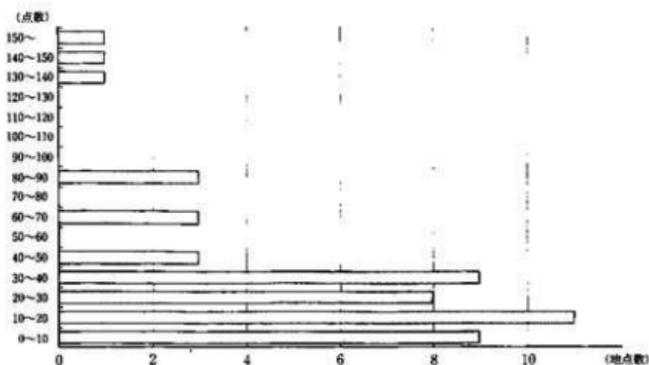
1 集中地点の分布

第1節でも述べたように、第2文化層はS95・S96地点を中心として多くの遺物集中地点が分布している。第2文化層、即ちIV層からV層にかけての石器群は萱田地区のすべての遺跡で検出され、遺物数においても他の文化層に勝っている。各遺跡での集中地点の分布は、台地の縁辺部に多く分布し、権現後・ヲサル山・北海道・坊山の各遺跡では須久茂谷津に面する台地縁辺に、坊山・井戸向・白幡前では寺谷津に面する台地縁辺に分布している。特に北海道遺跡から坊山遺跡にかけて須久茂谷津に面する台地縁辺から斜面にかけて多くの集中地点が連なっており、萱田地区全体から見た場合、極めて顕著な集中地点として抽出できる。坊山遺跡での分布の傾向は、須久茂谷津に面する標高15～16mの緩斜面に一群が、須久茂谷津に面する台地縁辺の標高約20～23mに一群が、寺谷津に面する台地縁辺に一群が、台地中央部に一群が存在する。しかし、これはかなり局所的な見方であり、坊山・北海道・井戸向の各遺跡が立地する大きな台地を対象として見た場合、大きく次の3つに分類できる。

- (1) 須久茂谷津に面する段丘中位面に位置するもの。
- (2) 段丘上位面の縁辺に位置するもの。
- (3) 寺谷津に臨んで位置するもの。

(1)は北海道遺跡の大部分と坊山遺跡のS40・S78・S95・S96・S97・S103・S104地点が該当し、第2文化層に帰属するかなりの集中地点が選択した立地形態である。

(2)は(1)と比較して地点数が少なく、北海道遺跡第51ブロックをはじめ坊山遺跡を含めても9箇所を数えるだけである。坊山遺跡S49地点は台地中央部に位置する特異な存在であるが、遺



第249図 第2文化層の出土遺物点数別集中地点ヒストグラム

物点数は7点と極めて離散的な地点である。分布の傾向は、あたかも(1)としたものと対応するかのごとく、台地の縁辺に分布している。

(3)はすべて井戸遺跡である。地形的には台地上から段丘斜面にかけて分布するが、寺谷津に沿うように分布している。

井戸遺跡では第2文化層に帰属する集中地点が必ずしも多いとは言えないが、坊山・北海道遺跡ではかなり多くの集中地点が位置している。坊山・北海道遺跡での集中地点の立地は上記(1)・(2)に集約できるが、遺物点数の多い集中地点、とりわけ50点以上の遺物が出土している地点はすべて(1)の立地形態をとっている。(2)の台地縁辺に立地する坊山遺跡S37・S58・S72・S73地点はクラスター状の集中地点を形成するが、概ね30点以下の遺物点数である。さらに付け加えるならば、隣群を伴う集中地点も(1)の立地に限定できる。このことは(1)と(2)という二つの立地形態に、集中地点内部の機能的な差が存在したことを明示している。

2 使用石材

第2文化層の石器には安山岩・黒曜石をはじめ、約12種に及ぶ石材が使用されている。主体となるのは安山岩・黒曜石であり、僅かにチャートが見られるものの他の石材は極めて少数である。主成分分析により固有値が1.0を超すものは安山岩・黒曜石・チャート・珪質頁岩・頁岩の上位5種であり、ここまでの累積寄与率は0.824に達する。相関行列の固有ベクトル値からは、互いに影響を与えている主成分は検出できないが、安山岩とチャートについて互いに負の影響を与えている可能性がある。正の相関関係にある石材はなく、石材ごとにはほとんど相関関係は認められないが、安山岩と黒曜石は相関係数 $r = -0.566$ となり、他の石材同士より若干高い負の相関係数を示している。

さて、上位5種の石材の組成率を元にクラスター分析を行ったところ、以下のクラスターに分割することが可能となった。

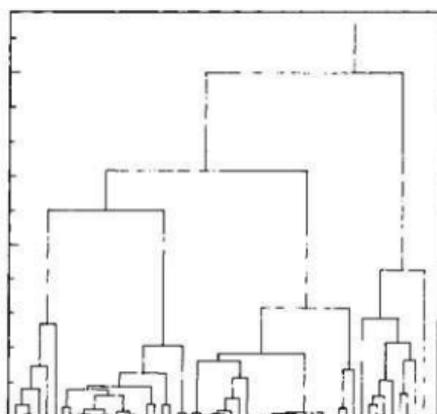
- (a) チャートが高率で使用され、黒曜石・安山岩が続く。
- (b) 安山岩が卓越し、その他に黒曜石・チャート・珪質頁岩が含まれる。
- (c) 黒曜石が主体となり、僅かに珪質頁岩を伴う。

第88表 使用石材の構成比による相関行列の固有ベクトル

	安山岩	チャート	黒曜石	頁岩	珪質頁岩	メノウ	流紋岩	玄武岩	固有値	寄与率	累積寄与率
(1)	0.652	-0.022	-0.588	0.017	-0.034	-0.040	0.437	0.184	1.808	0.226	0.226
(2)	-0.168	0.070	-0.450	0.640	0.257	0.446	-0.296	-0.046	1.426	0.178	0.404
(3)	0.103	-0.717	0.131	0.009	0.607	-0.010	0.144	-0.262	1.235	0.154	0.559
(4)	0.036	-0.516	0.104	-0.021	-0.273	0.309	-0.228	0.707	1.091	0.136	0.695
(5)	-0.006	-0.127	0.122	-0.031	-0.448	0.651	0.381	-0.446	1.030	0.129	0.824
(6)	-0.074	0.233	-0.196	-0.703	0.417	0.462	-0.086	0.113	0.803	0.100	0.924
(7)	-0.534	0.090	0.043	0.160	0.187	-0.002	0.702	0.391	0.591	0.074	0.998
(8)	0.495	0.369	0.607	0.261	0.285	0.258	0.058	0.178	0.014	0.002	1.000

第89表 器種構成比による相関行列の固有ベクトル

	剥片	砕片	鏝	ナイフ	石核	削器	R剥片	固有値	寄与率	累積寄与率
(1)	0.649	-0.102	-0.611	0.413	0.052	-0.117	0.090	1.943	0.278	0.278
(2)	0.006	-0.725	0.314	0.205	0.565	0.072	0.100	1.432	0.205	0.482
(3)	-0.104	-0.009	-0.179	-0.030	-0.108	0.714	0.659	1.135	0.162	0.644
(4)	-0.214	-0.040	0.245	0.487	-0.392	-0.485	0.517	1.039	0.148	0.793
(5)	-0.008	0.357	-0.102	-0.340	0.602	-0.390	0.482	0.735	0.105	0.898
(6)	-0.391	0.434	-0.089	0.645	0.386	0.205	-0.209	0.662	0.095	0.992
(7)	0.607	0.384	0.647	0.134	0.040	0.202	0.069	0.055	0.008	1.000



左から

H 1, H 4, H 10, H 25, H 2,
B 73, H 5, I 34, H 7, B 95,
I 8, H 29, I 4, H 8, B 78,
B 97, B 103, H 19, H 55, H 16,
B 66, H 27, B 40, H 3, H 6,
H 11, H 12, H 13, B 49, H 24,
I 11, H 14, H 15, B 30, B 32,
B 58, B 37, B 72, H 17, H 45,
B 104, I 3, H 9, H 18, H 21,
H 20, H 23, H 43, H 28, H 39,
H 26, H 38, H 51, H 22.
(H = 北海道, B = 坊山, I = 井戸向)

第250図 石材クラスターデンドログラム

(d) 黒曜石と珪質頁岩がほぼ同数使用される。

(e) 珪質頁岩や頁岩が多いが、卓越した存在ではなく、使用石材がバラエティに富んでいる。

(f) これ以外に頁岩が主体となる地点や、メノウが主体となる地点が僅かにある。

比較的近接した集地点は、同じクラスターに分類されることが多いが、先の立地の特質と併せて特徴を抽出してみたい。

(a)はチャートをよく使用しており、北海道遺跡第1・2・4・10・25ブロックと坊山遺跡S 40地点が該当する。これらは須久茂谷津に面した段丘中位面の縁辺に立地し、大きく3箇所のクラスターに分離できる。このうち、北海道遺跡第25ブロック・坊山遺跡S 40地点に雑群を伴っている。

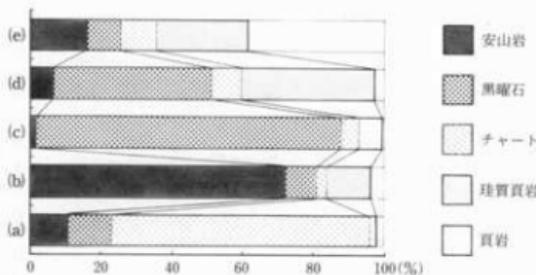
(b)は安山岩を多用するもので、立地の特質は(a)に共通する部分が多い。ただ、台地中央部に坊山遺跡S 49地点があり、井戸向遺跡でも8・11・34地点が該当する。際だつのは坊山遺跡の

第90表 石材クラスター一覧表

	坊山遺跡	北海道遺跡	井戸向遺跡
(a)	40	1, 2, 4, 10, 25	
(b)	49, 78, 95, 96, 97, 103, 104	5, 7, 8, 16, 19, 29, 62	8, 11, 34
(c)	32, 37, 58, 72, 73, 66	3, 6, 11, 12, 13, 14, 15, 17, 24, 45	3, 4, 13, 24
(d)		9, 18, 21	
(e)		20, 26, 28, 38, 39, 43, 51	
(f)	30	22, 55	

S95・S96地点をはじめとする極めて大きな集中地点である。

(c)は黒曜石が主体となるもので、坊山・北海道の両遺跡で最も多くの集中地点が該当する。やはり須久茂谷津に面した段丘中位面の縁辺に大きく3箇所のクラスターを形成



第251図 石材クラスターの石材組成率

するが、坊山遺跡S37・S58・S72・S73地点のように、上位面縁辺に立地する地点があるのも見逃せない。また、井戸向遺跡でも3・4・13地点がある。

(d)は質的に(c)と大きな違いはないものと思え、黒曜石・珪質頁岩が主体となる。(c)に分類できる北海道遺跡第24ブロックや同12・13ブロックでも珪質頁岩が使用されている。地点数は少なく、段丘上位面には存在しないが、須久茂谷津に面した段丘中位面の縁辺に立地し、(c)と近接した位置に3箇所のクラスターを形成している。北海道遺跡第9ブロックで礫群を伴っている。

(e)は珪質頁岩や頁岩が多く使用されるが、特に卓越した石材がないもので、段丘斜面の降りきったあたりに大きく3箇所のクラスターを形成し、これらを見おろす段丘上位面の縁辺に1箇所ある。前述の(a)～(d)と比較して須久茂谷津より若干内部に入った立地となる。

(f)は特異な例となる。北海道遺跡第22ブロックや同第55ブロックが該当するが、いずれも遺物点数が10点以下の小規模な集中地点で、使用石材に対する多様度に偏りがある。

以上のことを簡単にまとめると、(f)は例外として(a)～(e)の各石材クラスターは基本的に須久茂谷津に面した段丘中位面に、大きく3箇所のクラスターを形成し、(c)・(e)は上位面にも点在する。礫群を伴う集中地点は段丘中位面に限られ、各石材クラスターごとに礫群を伴っていた可能性がある。

3 器種構成

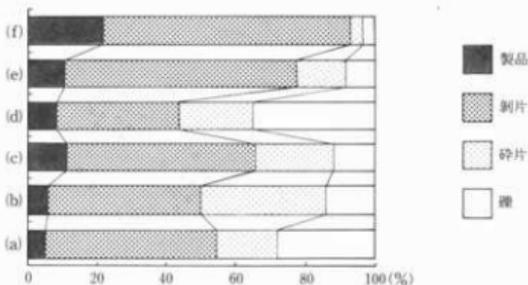
使用石材のクラスターをもとに、各石材クラスター内の器種構成を概観してみたい。各集中地点に普遍的に見られる器種はナイフ形石器と削器がある。集中地点内での全出土遺物に対するこれらの製品の組成率はそれほど高いものではないが、かなり普遍的に

出現している。小規模な集中地点では器種構成に偏りがみられ、ナイフ形石器・削器の組成率が著しく高い地点もあるが、第2文化層全体の遺物点数からみれば、ナイフ形石器が3.57%、削器が1.4%を占めている。使用石材のクラスターによる器種構成の差は、若干の高低があるものの取り立てて指摘するまでの違いは認められない。主成分分析により固有値が1.0を超す器種は剥片・碎片・礫・ナイフ形石器で、ここまでの累積寄与率は0.793である。全器

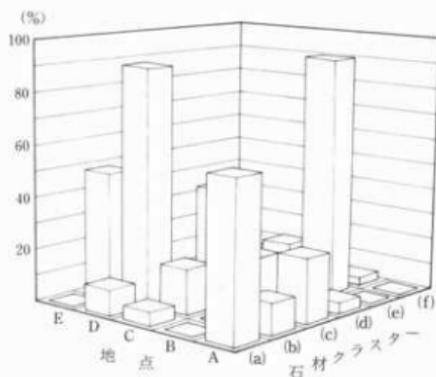
種を対象としたクラスター分析では、剥片・碎片・礫の点数と比較して、製品の占める割合が著しく低いため、製品の構成比を反映した結果は得られないが、北海道遺跡第45地点を例外として、器種構成は3つのクラスターに分割できる。

- ① 剥片が50%以上の組成率を示し、碎片はあまり多くない。
- ② 剥片と碎片が40%前後で、ほぼ同率となる。
- ③ 剥片・碎片は少なく、礫が高率である。

以上のクラスターは全体的な傾向を示しているに過ぎず、個々の集中地点の特徴を端的に表現したものではない。例えば、③は明らかに礫群を伴っていると判断できるが、①・②の中にも礫群を伴った集中地点は存在し、③をもって礫群を伴った集中地点と判断することはできない。ここで、例外とした北海道遺跡第45地点はナイフ形石器の組成率が異常に高く、66.67%となる。ナイフ形石器の組成率が10%を超える集中地点は合計7地点あり、これらはいずれも遺



第252図 石材クラスターの器種構成



第253図 地点・石材クラスター別遺物点数比



第254図 坊山・北海道遺跡の遺物集中地点の分布

物点数が少ない集中地点で、なおかつ器種構成クラスターの①に分類される。即ち、剥片と製品だけが卓越し、その地点での石器製作の痕跡は認められず、極めて離散的な内容となっている。

4 おわりに

さて、ここまでいくつかの変量について確認してきたが、最後にもう一度確認しておきたい。今までに取り上げた変量とは以下の5項目である。

- 1 立地
 - (1) 須久茂谷津に面する段丘中位面
 - (2) 段丘上位面の縁辺
 - (3) 寺谷津に臨む

第91表 変量別得点表

	地点	点数	ランク	石材クラスター	器種構成	磔
H 2	A	144	A	a	1	
H 4	A	30	B	a	1	
H10	A	27	C	a	1	1
H 1	A	12	C	a	1	
H 5	A	33	B	b	4	23
H 8	A	5	C	b	1	
H 7	A	4	C	b	1	
H 3	A	80	B	c	1	
H 6	A	7	C	c	1	
H 9	A	15	C	d	4	13
H45	B	3	C	c	1	
H43	B	31	B	e	3	
H38	B	19	C	e	1	
H39	B	10	C	e	1	
H55	B	2	C	f	1	
H25	C	35	B	a	4	15
H19	C	68	B	b	2	20
H62	C	32	B	b	1	1
H29	C	12	C	b	4	6
H27	C	4	C	b	2	1
H13	C	86	B	c	1	1
H15	C	61	B	c	2	
H11	C	47	B	c	1	6
H12	C	34	B	c	1	4
H17	C	24	C	c	4	22
H16	C	23	C	c	4	14
H14	C	13	C	c	1	1
H24	C	10	C	c	1	
H21	C	63	B	d	2	16
H18	C	39	B	d	2	7
H20	C	45	B	e	1	
H23	C	41	B	e	1	1
H26	C	20	C	e	1	
H28	C	7	C	e	4	3
H22	C	10	C	f	1	
B40	D	143	A	a	4	81
B95	D	1181	A	b	2	50
B104	D	87	B	b	2	4
B97	D	36	B	b	2	5
B103	D	25	C	b	2	
B78	E	132	A	b	4	66
B49	E	7	C	b	1	
B32	E	31	B	c	1	
B37	E	23	C	c	2	1
B73	E	22	C	c	2	
B66	E	21	C	c	1	1
B72	E	18	C	c	2	
B58	E	13	C	c	1	
H51	E	6	C	e	1	
B30	E	16	C	f	1	

- 2 遺物点数
- 3 礫 群
- 4 使用石材
 - (a) チャート主体
 - (b) 安山岩主体
 - (c) 黒曜石主体
 - (d) 黒曜石・珪質頁岩主体
 - (e) 珪質頁岩・頁岩が多いがバラエティに富む
 - (f) その他
- 5 器種構成
 - (1) 剝片主体
 - (2) 剝片・碎片がほぼ同数
 - (3) 礫主体

立地については、3つの特徴的な立地形態を抽出したが、(3)はすべて井戸向遺跡に属するために除外し、さらに(1)を細分して坊山・北海道遺跡の集中地点を便宜的に5箇所の地点に分けてみた。もちろん、確認調査による集中地点の捕捉率とも関係して、このような分類が適切であるのか疑問も多いが、あくまで便宜的な位置関係としておきたい。遺物点数も便宜的にランクaを100点以上、ランクbを30点以上100点未満、ランクcを30点未満とした。使用石材・器種構成はクラスター分析の結果をそのまま使い、礫群はある・なしとし、それぞれの変量の得点を第91表に示した。

まず、変量 [地点] を主軸として使用石材を変数とした場合、各地点ごとにいくつかの石材クラスターを包含していることが理解できる。石材クラスターは同一のクラスターに属する地点どうしが時期的にかなり近い可能性があり、このことから逆に、異なる石材クラスターが時期の差を表していると仮定すれば、各地点とも断続的ではあるにせよ、相次いで居住したことを示していると言える。さらに、各地点ともいくつかの石材クラスターを包含しているにもかかわらず、包含する石材クラスターに偏りが認められ、顕著な例として地点Dでは石材クラスターaが全く見られないということもある。地点と石材クラスターを軸とした遺物点数を第251図にグラフ化したのが、遺物点数のピークは地点ごとに異なった石材クラスターに表れている。もし、先のごとく石材クラスターを時期差として受け取るならば、時期により生活の中心がわずかずつ移動していることを示していると言える。

さて、変量 [地点]・[使用石材] を主軸とし、[ランク] を変数とした場合はどうであろうか。地点Aの石材クラスターaを例に見ても、各地点の個々の石材クラスターに遺物点数の階層性を確認することができる。また、多くの場合、上位の階層に礫群を伴っていることから、ある程度質的に安定した集中地点の構成を窺うことができる。例外として、地点Cの遺物点数ランク

cに礫群を伴う地点が2箇所ある。この2地点では出土遺物のほとんどを礫が占め、田村隆は「八千代市白幡前遺跡」において、このような地点をCacheとして捉え、「礫群の一部については居住地点に固定化された装備と認識する必要を生じるであろう」としている。実際地点Cにおける石材クラスターcの上位階層であるランクbでは礫の出土点数が少ないことも見逃すことができない。また、地点Bには礫群を伴う集中地点はなく、便宜的ではあるにせよ地点Bの捉え方が適切でなかったか、地点Bが現在確認されている集中地点で完結していないことを物語っている。さらに、地点Aでは石材クラスターbに礫群を伴っているが、地点Aでの遺物点数のピークは石材クラスターaにあり、これも同様の指摘ができよう。

器種構成は全遺物を対象としてクラスターに分割したため、製品に対する特徴を表していない。結果として大きな意味を持たないが、器種構成(2)は地点A・Bを除いた地点に見られる。碎片の量の多少から単純に集中地点の性格を決定できないことは明白であるが、ここで器種構成(2)とした地点では、少なからず石器製作の痕跡が認められ、同時に遺物点数が上位の階層となる集中地点では礫群を伴っている場合が多い。このような集中地点は他の地点と比較してより長期的な居住が想定でき、近接した時間内における複数の集団による継起的な地点形成という可能性とともに、単一集団による機能を異にした作業空間の連続的形成という可能性も残されるのではないだろうか。

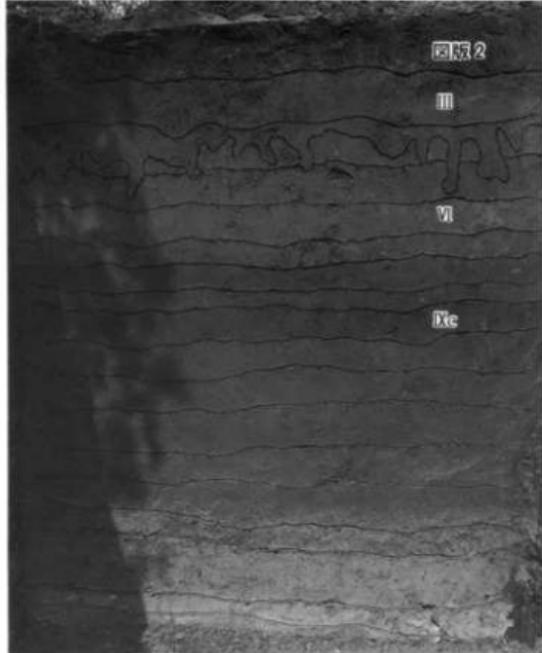
報告書抄録

フリガナ	ヤチヨシボウキマイセキ							
書名	八千代市坊山遺跡							
副書名	壹田地区埋蔵文化財調査報告書VI							
巻次								
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第226集							
著者名	大野康男							
編集機関	財団法人千葉県文化財センター							
所在地	〒284 千葉県四街道市麗後809-2							
発行年	1993年1月29日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 . . .	東経 . . .	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
坊山遺跡	八千代市天和由新田	12201	004	39.40.15.	136.50.50.	19791001- 19850308	81850	土地区画整理
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
坊山遺跡	包蔵地	旧石器 縄文 平安	遺物集地点51 竪穴住居1 竪穴住居4		局部磨製石斧 台形石器 阿玉台式土器		Ⅱ層下部の環状ブロック群	

写 真 图 版



1. 葦田地区全景



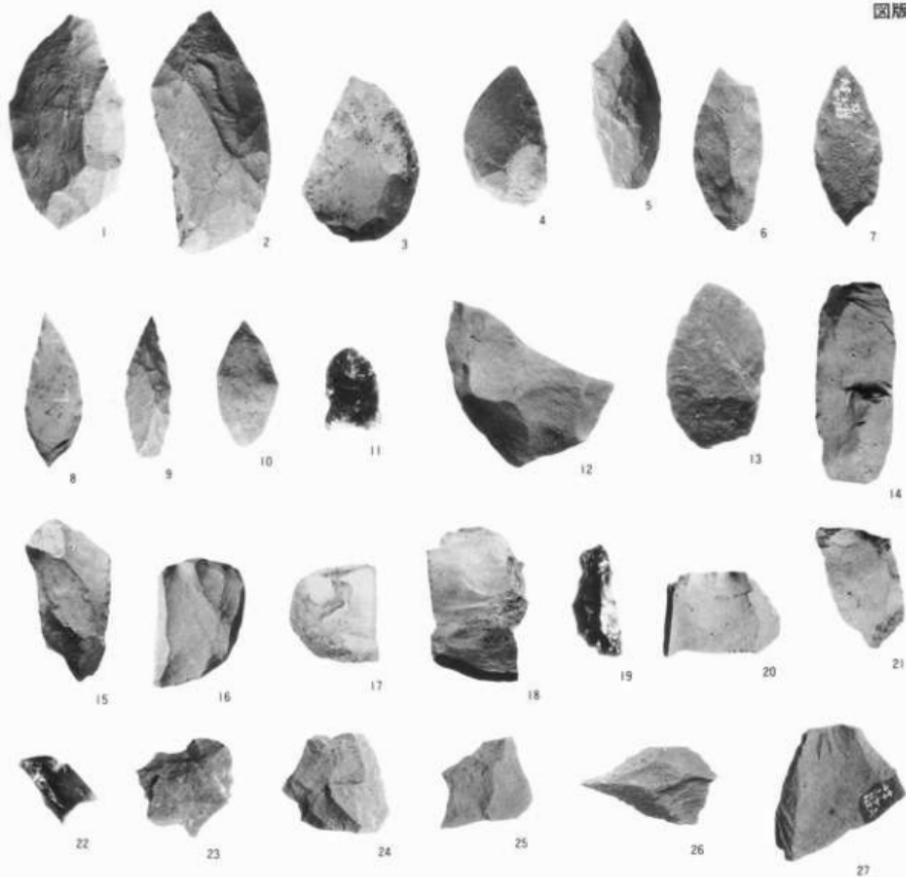
1. ローム層断面



2. S39地点遺物分布状況



3. S39地点礫出土状況



1. S39地点出土石器



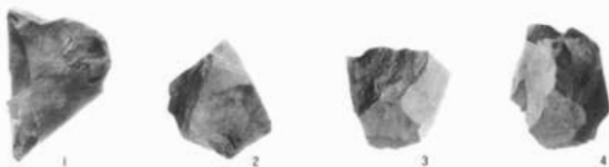
28

2. S39地点出土砾





1. S53·S63地点遺物分布状况



2. S53地点出土石器

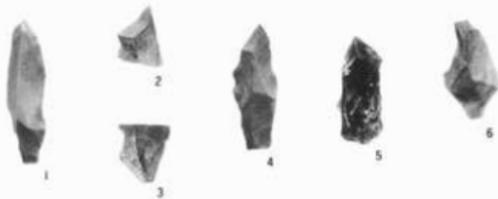
3. S105地点遺物分布状况
(左奥)

4. S105地点出土石器





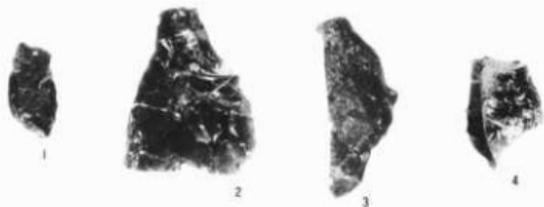
1. S30地点遺物分布狀況



2. S30地点出土石器

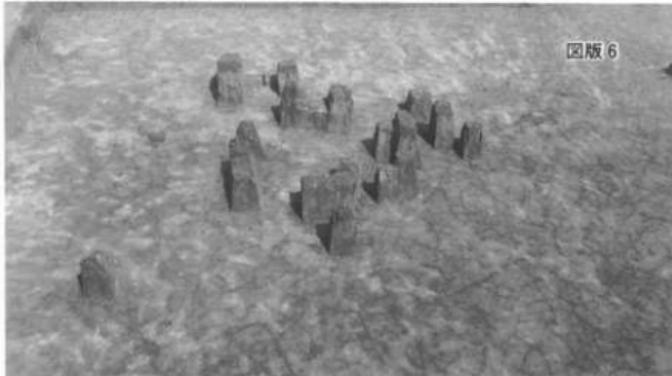


3. S32地点遺物分布狀況

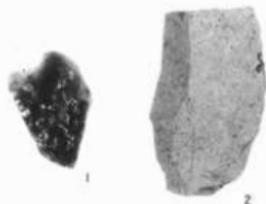


4. S32地点出土石器

1. S37地点遗物分布状况



2. S37地点出土石器



3. S58地点遗物分布状况



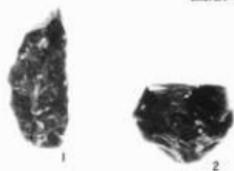
4. S58地点出土石器



5. S72地点遗物分布状况



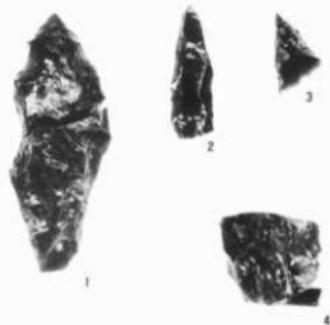
1. S72地点出土石器



2. S73地点遗物分布状况



3. S73地点出土石器



4. S40地点遗物分布状况



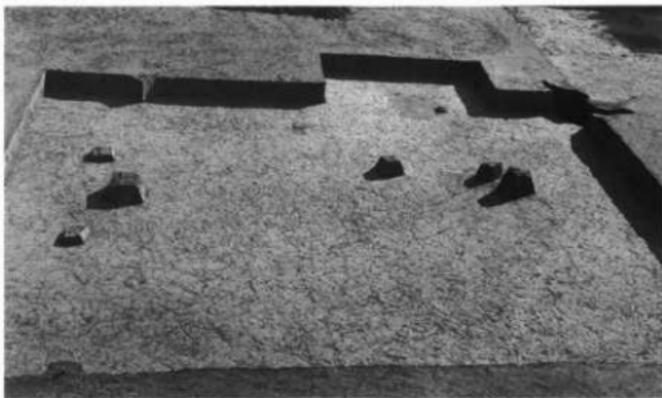
1. S40地点
出土石器



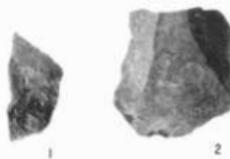
2. S40地点出土礫

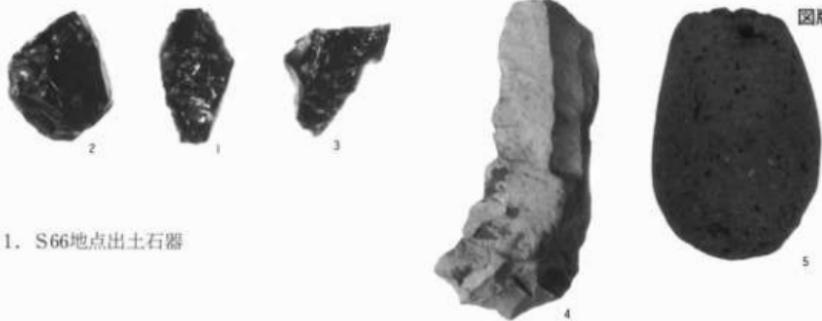


3. S49地点遺物分布狀況

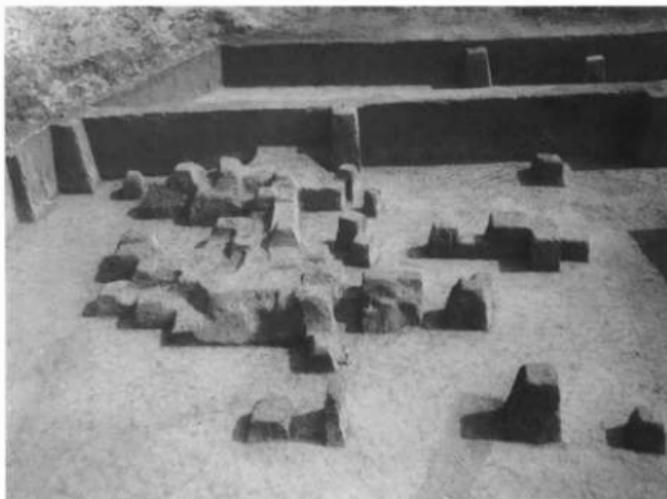


4. S49地点出土石器

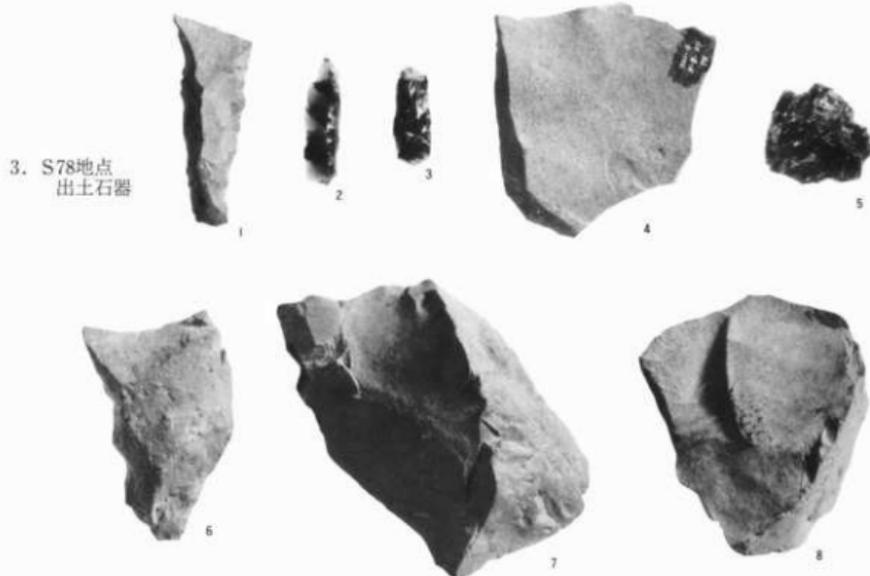




1. S66地点出土石器



2. S78地点遺物分布狀況



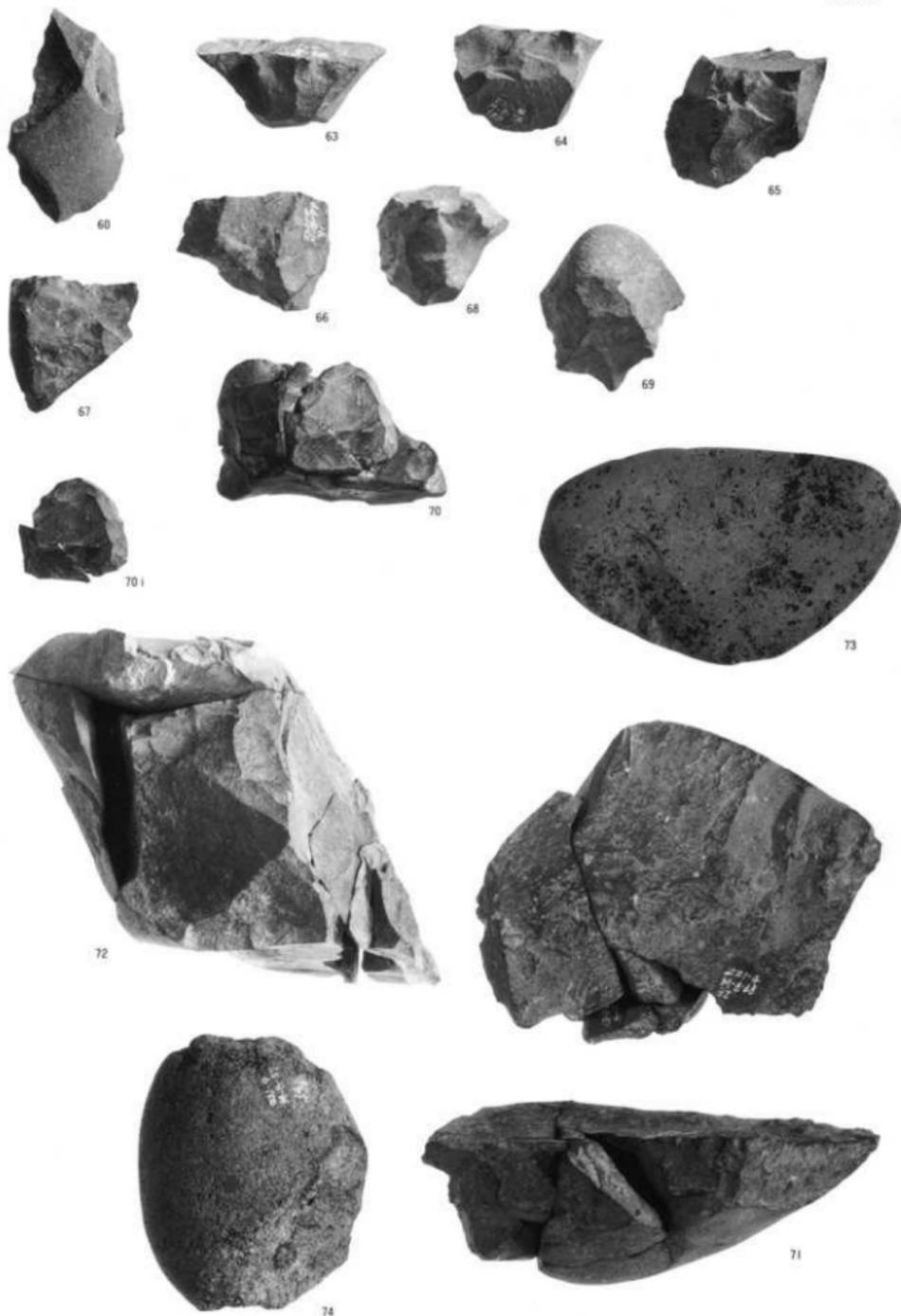
3. S78地点
出土石器



1. S95·S96地点遺物分布狀況

2. S95·S96地点出土石器





1. S95·S96地点出土石器



1. S97·S104遺物分布狀況



2. S95·S96地点出土礫



3. S104地点出土礫

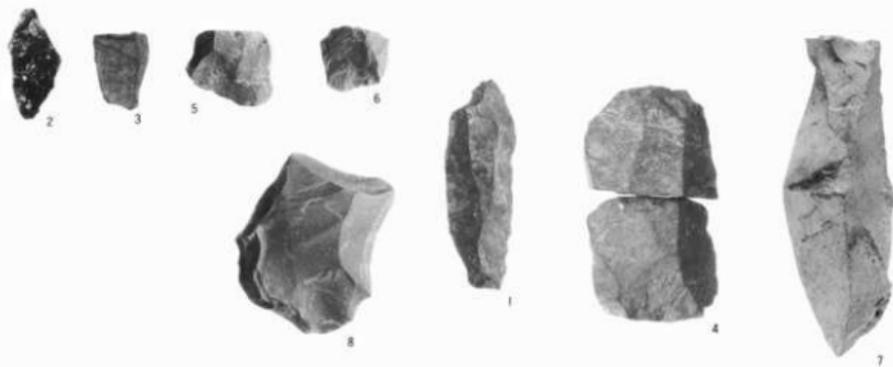


4. S103地点出土石器

1. S101地点出土石器

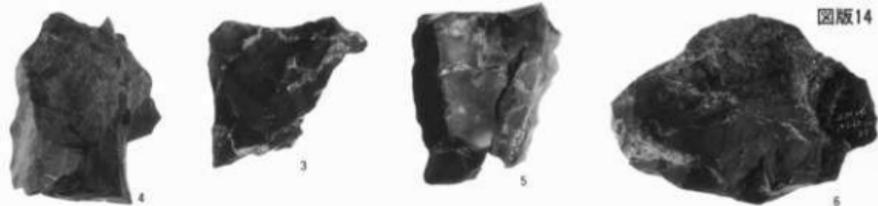


2. S38地点遺物分布狀況



3. S38地点出土石器





1. S45地点出土石器



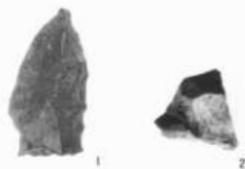
2. S46地点遗物分布状况



3. S47地点遗物分布状况



1. S47地点出土石器



2. S64地点遺物分布状况



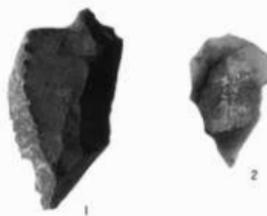
3. S64地点出土石器



4. S69地点遺物分布状况

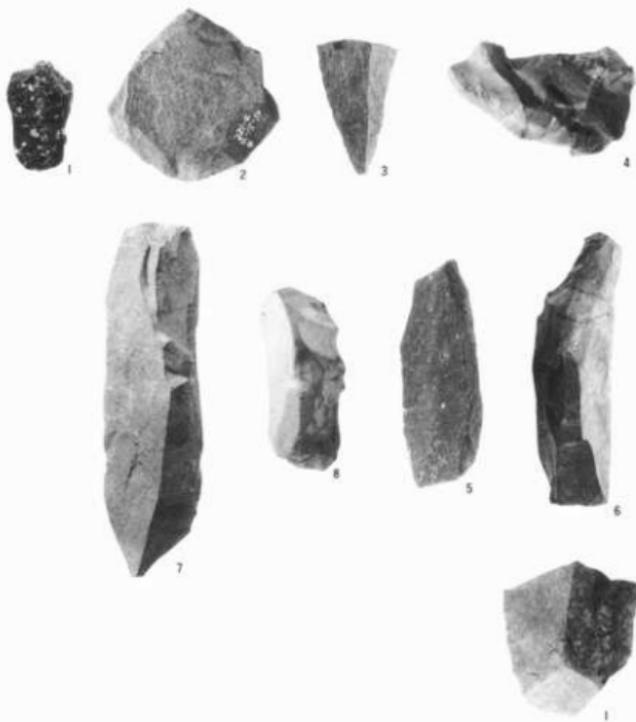


5. S69地点出土石器





1. S71·S107地点遺物分布狀況

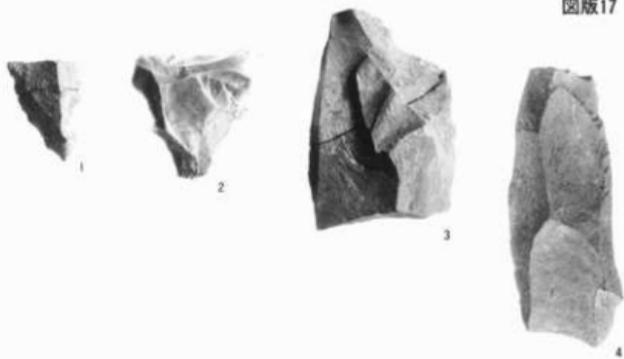


2. S71·S107地点出土石器

3. S74地点出土石器



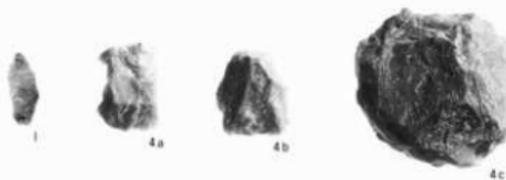
4. S75地点遺物分布狀況



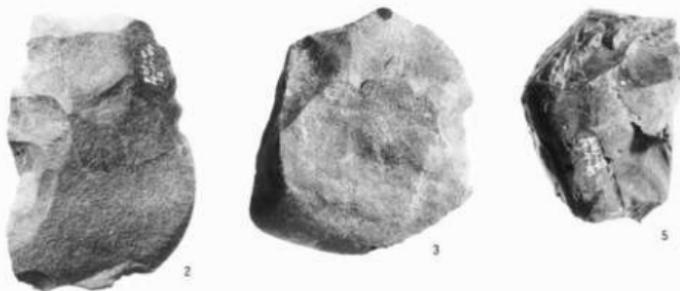
1. S75地点出土石器



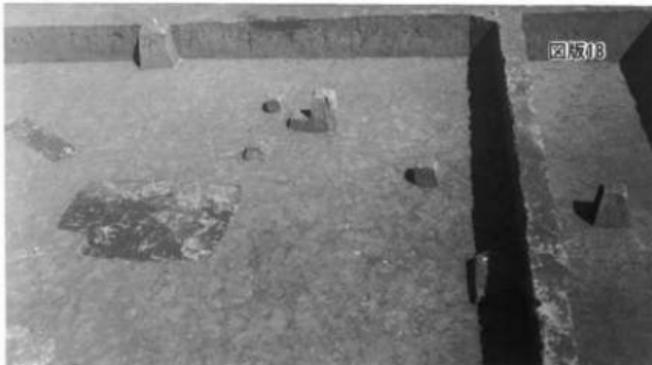
2. S76地点遗物分布状况



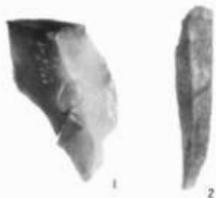
3. S76地点出土石器



1. S106地点遗物分布状况



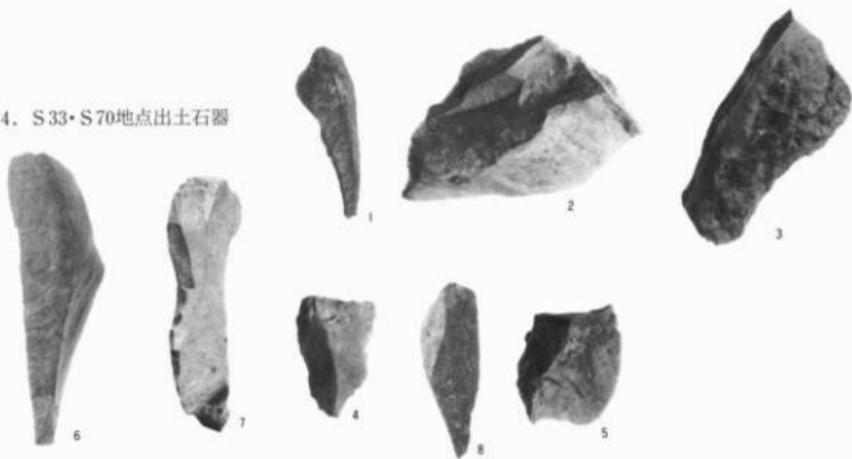
2. S106地点出土石器



3. S33地点遗物分布状况



4. S33·S70地点出土石器



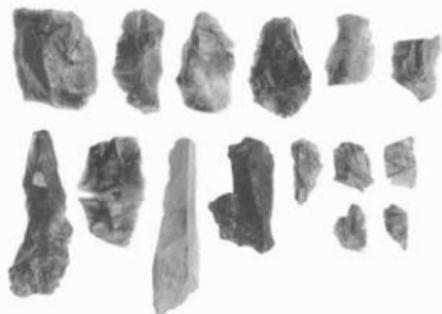
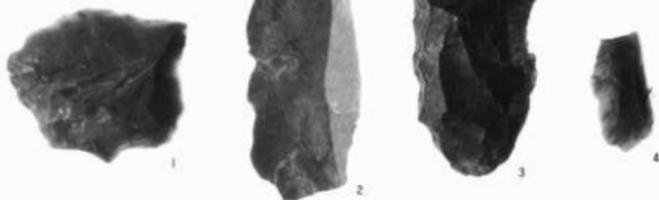


1. S41~S44·S60~S63
地点遺物分布状況

2. S41地点出土石器

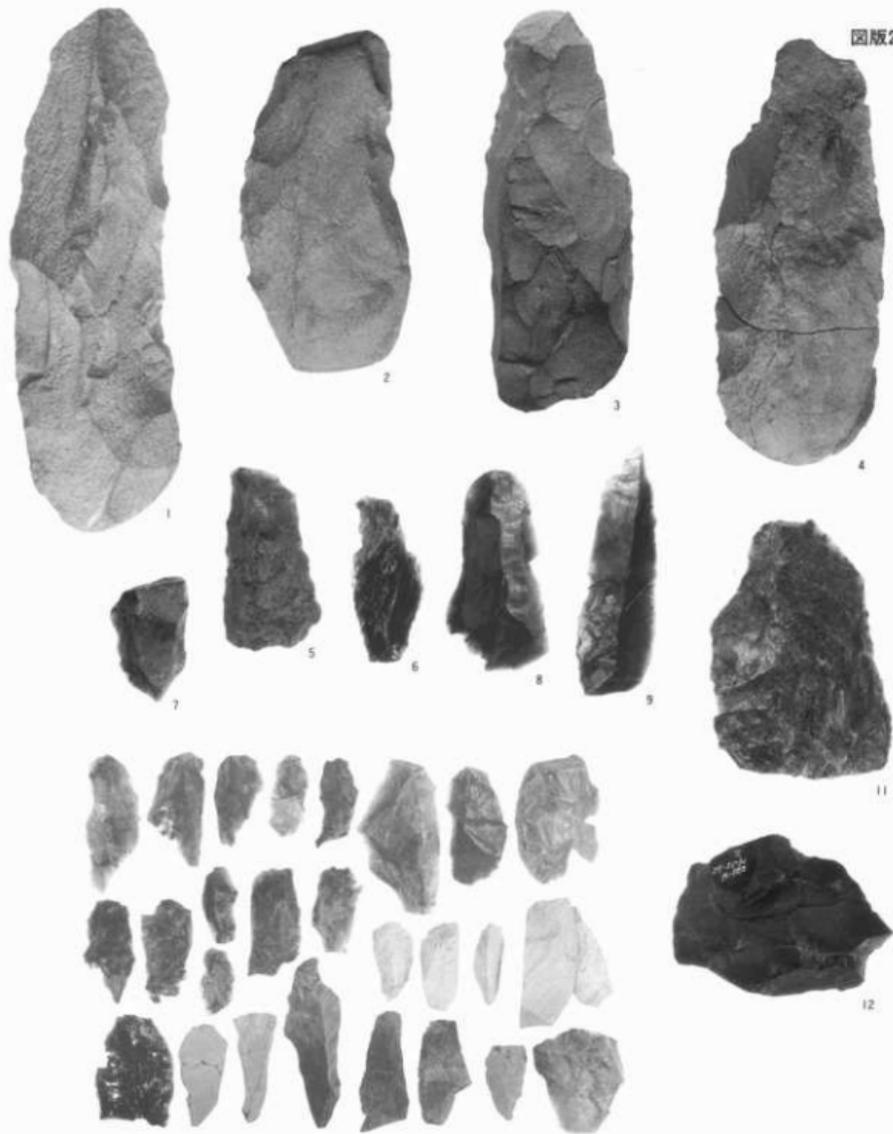


1. S42地点出土石器



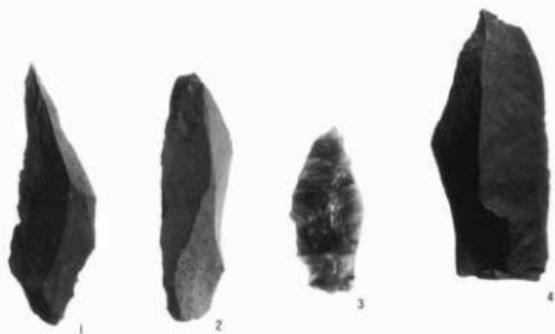
2. S43地点出土石器

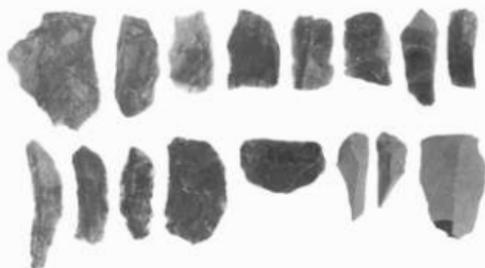
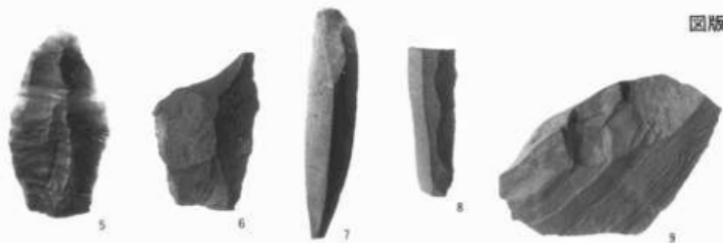




1. S44地点出土石器

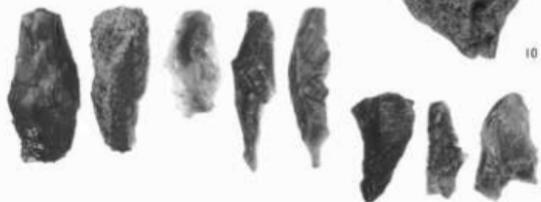
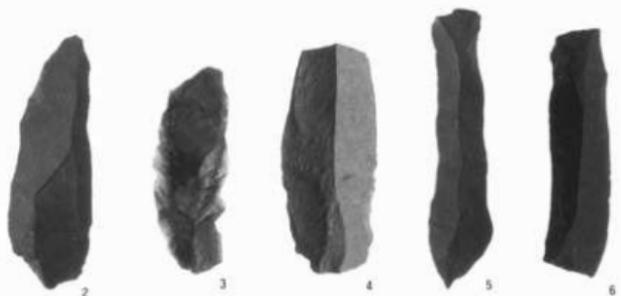
2. S60地点出土石器

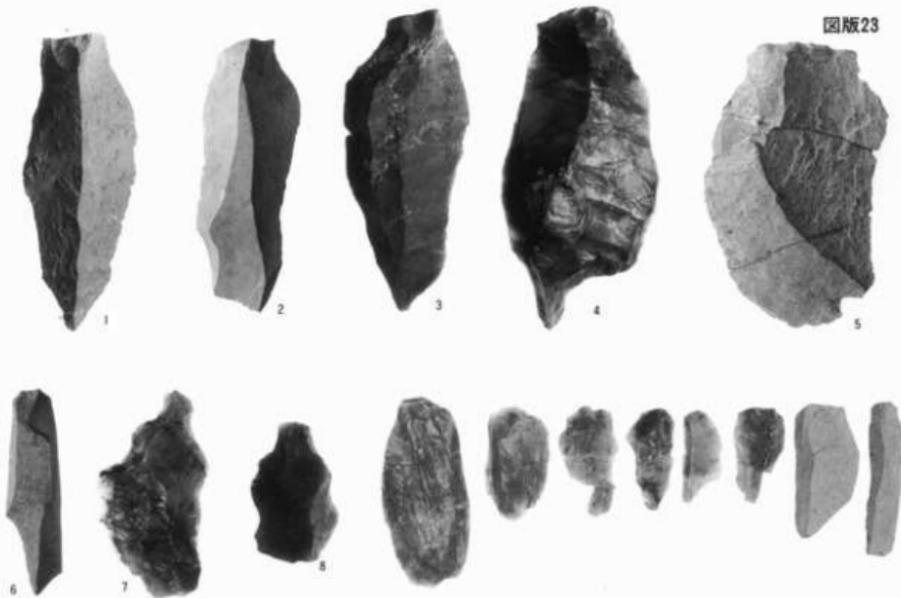




1. S60地点出土石器

2. S61地点出土石器





1. S62地点出土石器

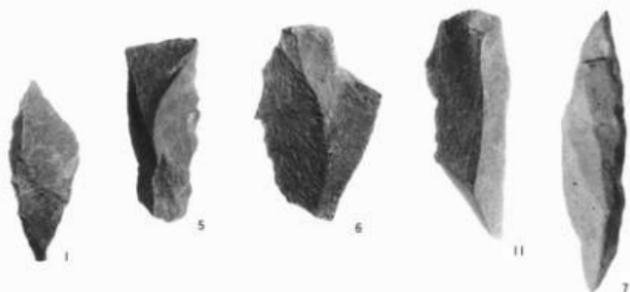


2. S65地点遺物分布狀況



3. S52地点遺物分布狀況

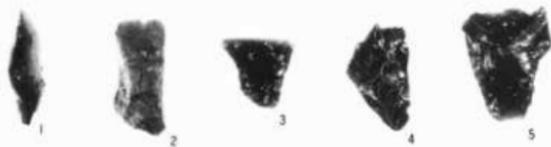
1. S59地点出土石器

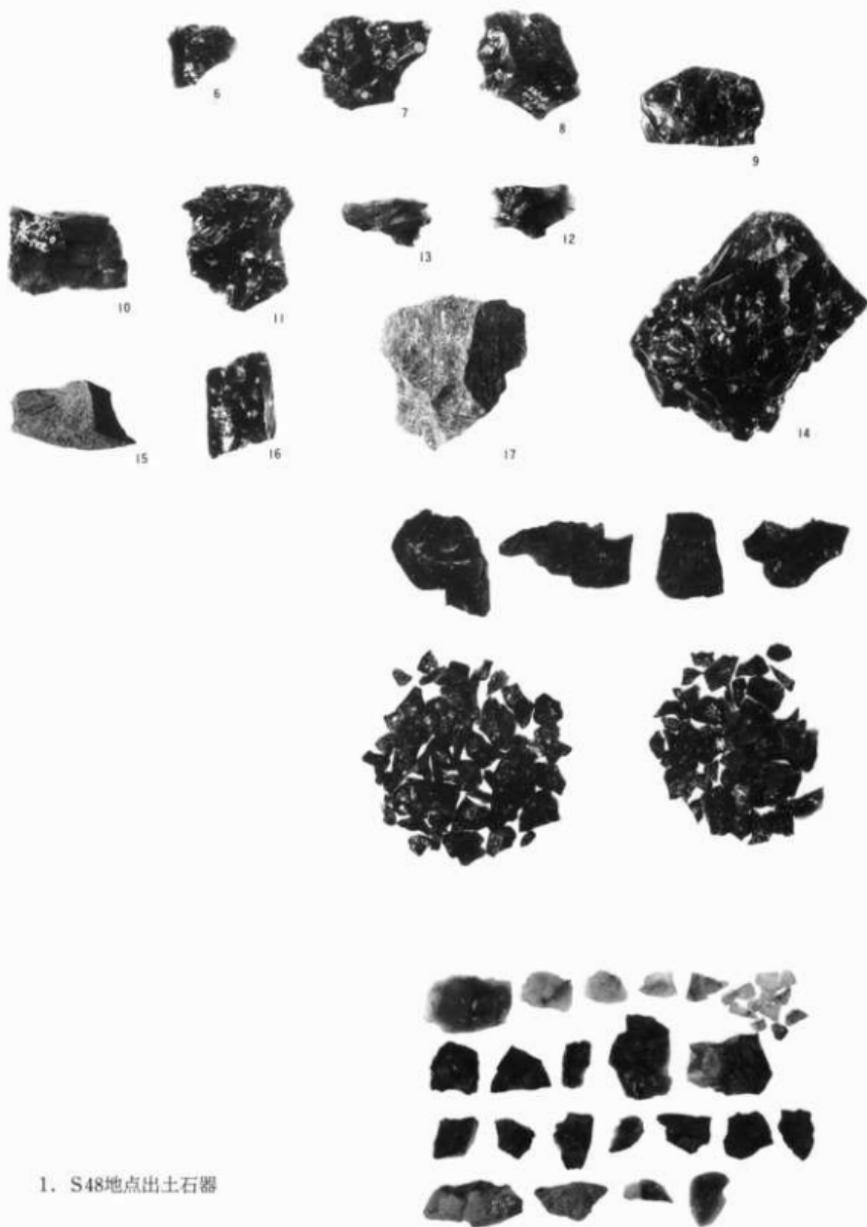


2. S48地点遗物分布状况



3. S48地点出土石器





1. S48地点出土石器



1. D150全景

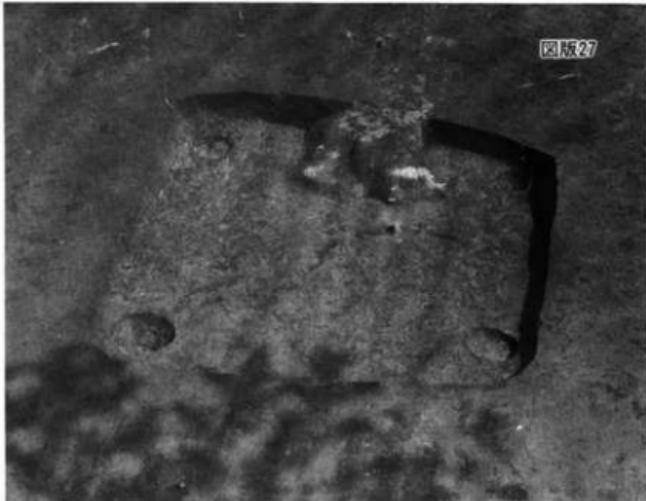


2. D150遺物出土狀況

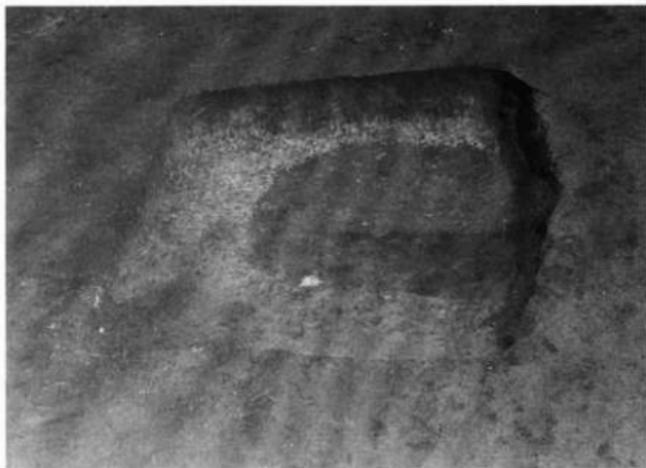


3. D150出土遺物

1. D001全景



2. D002全景



3. D003·D004全景

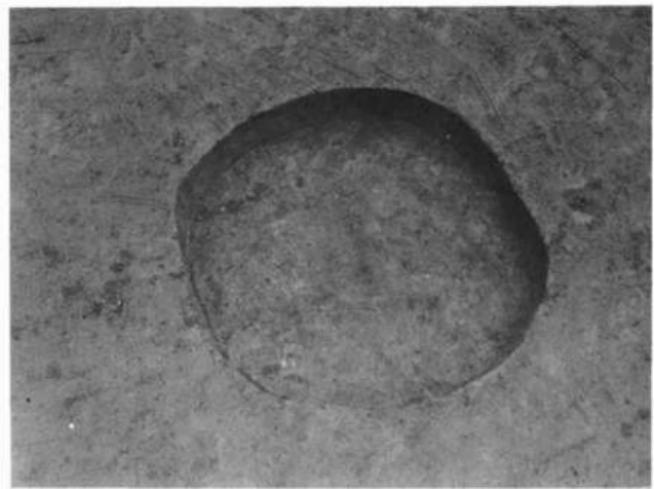




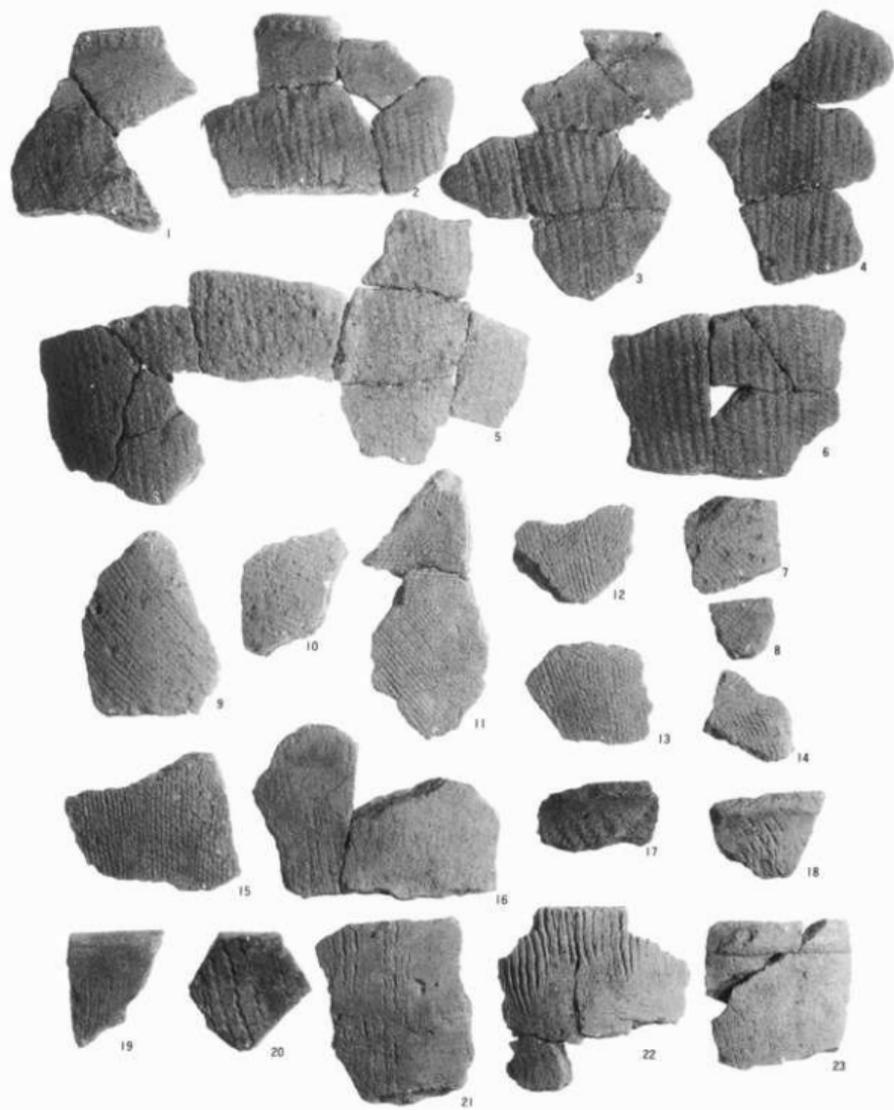
1. P002全景



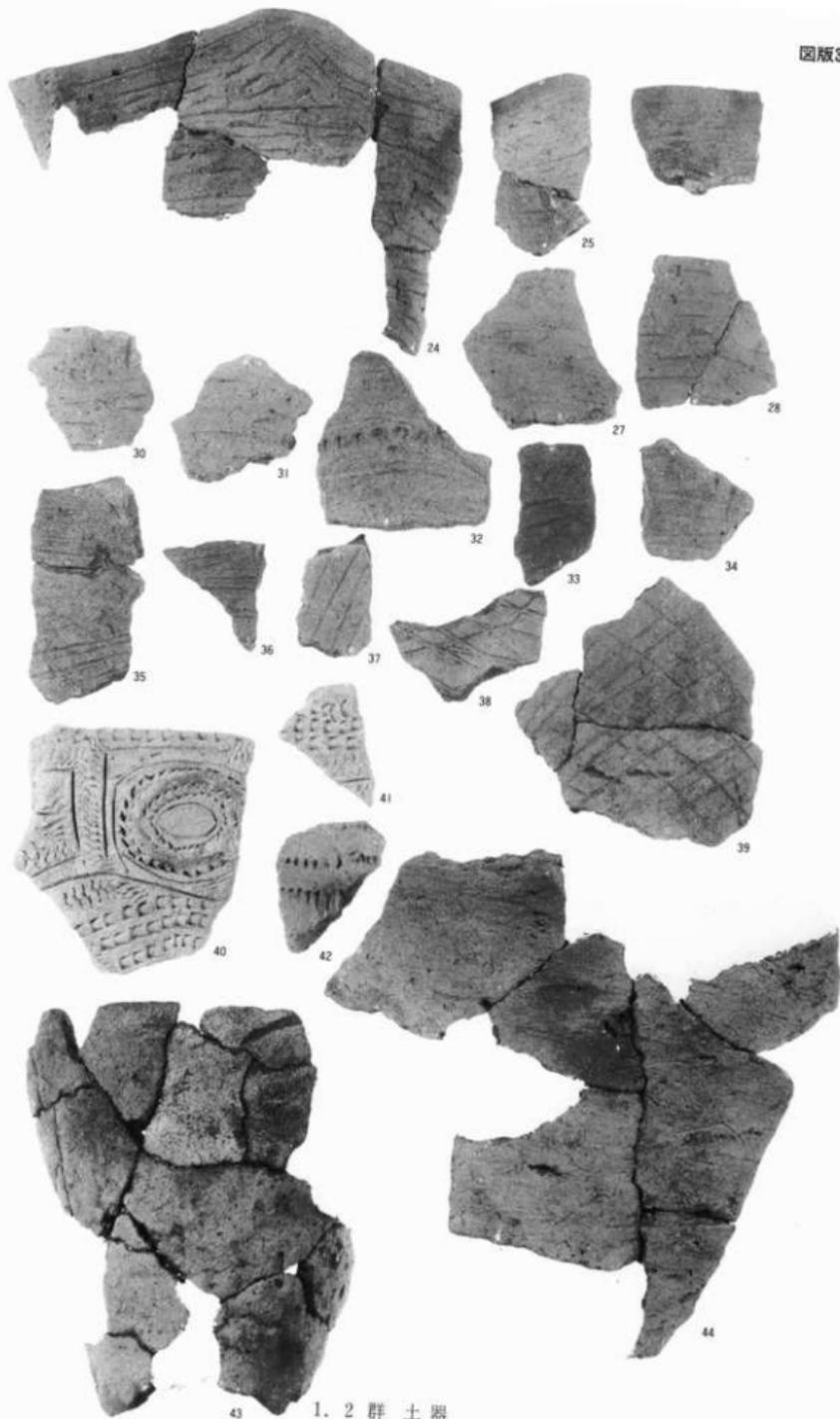
2. P004全景

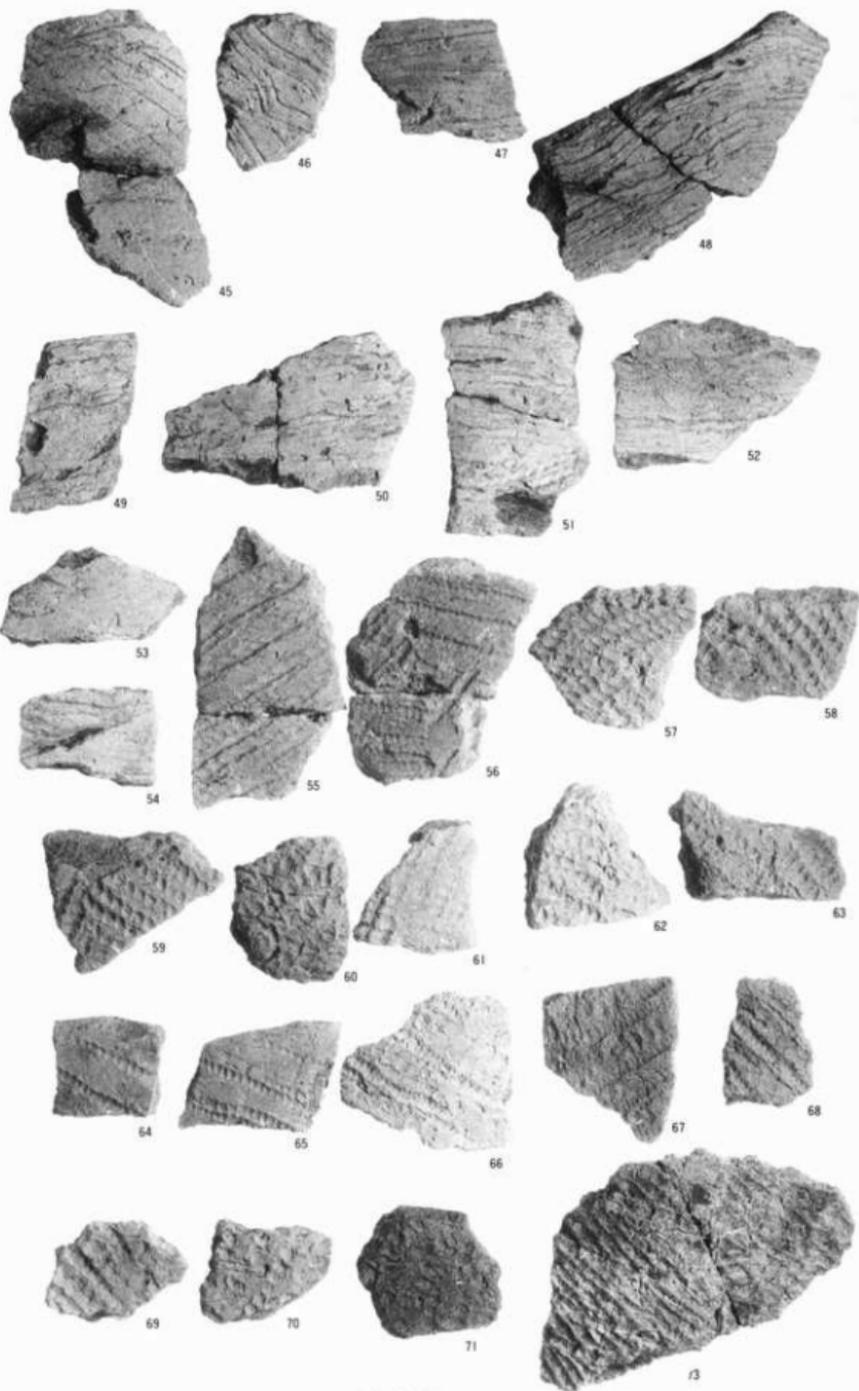


3. P015全景

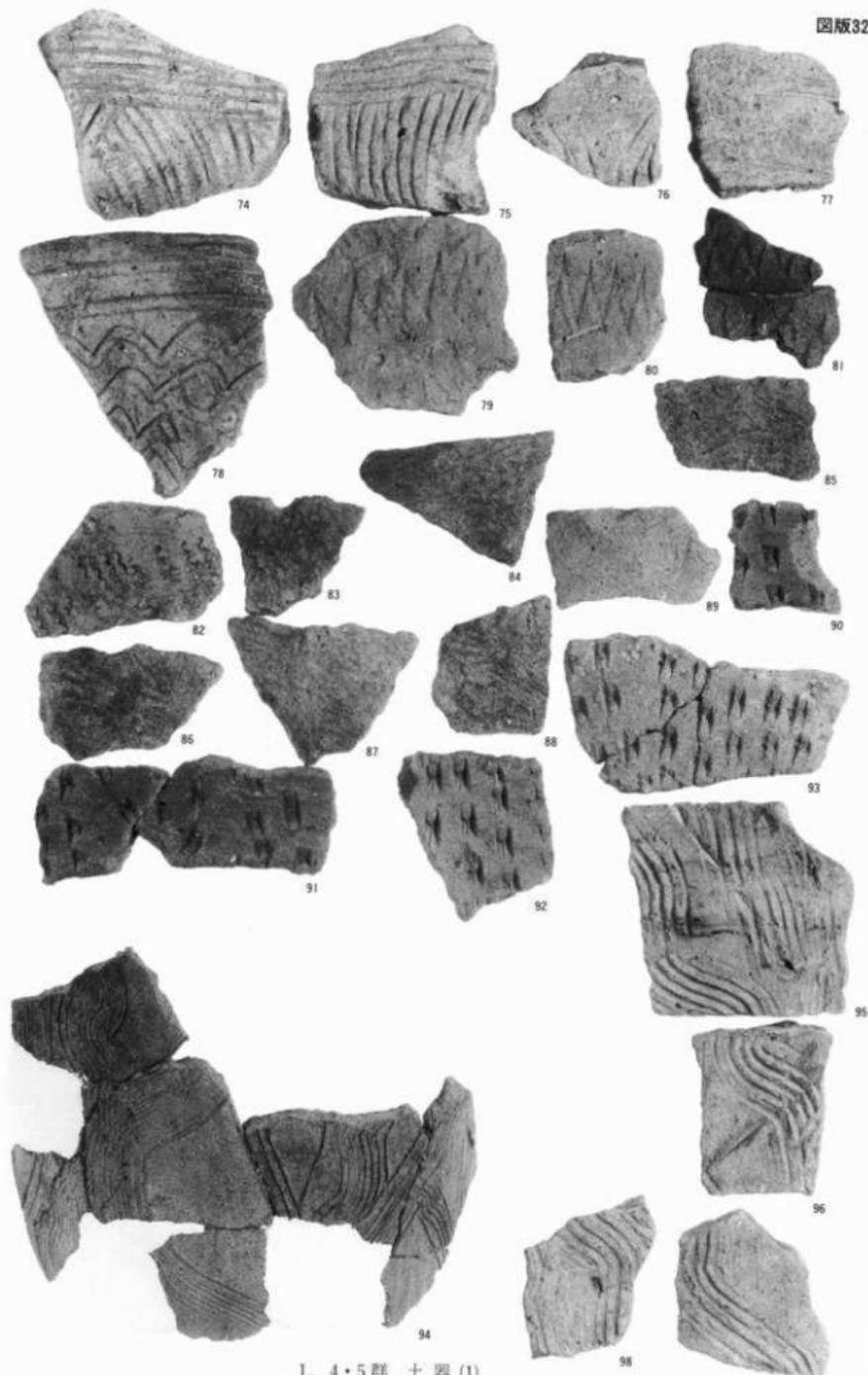


1. 1群土器

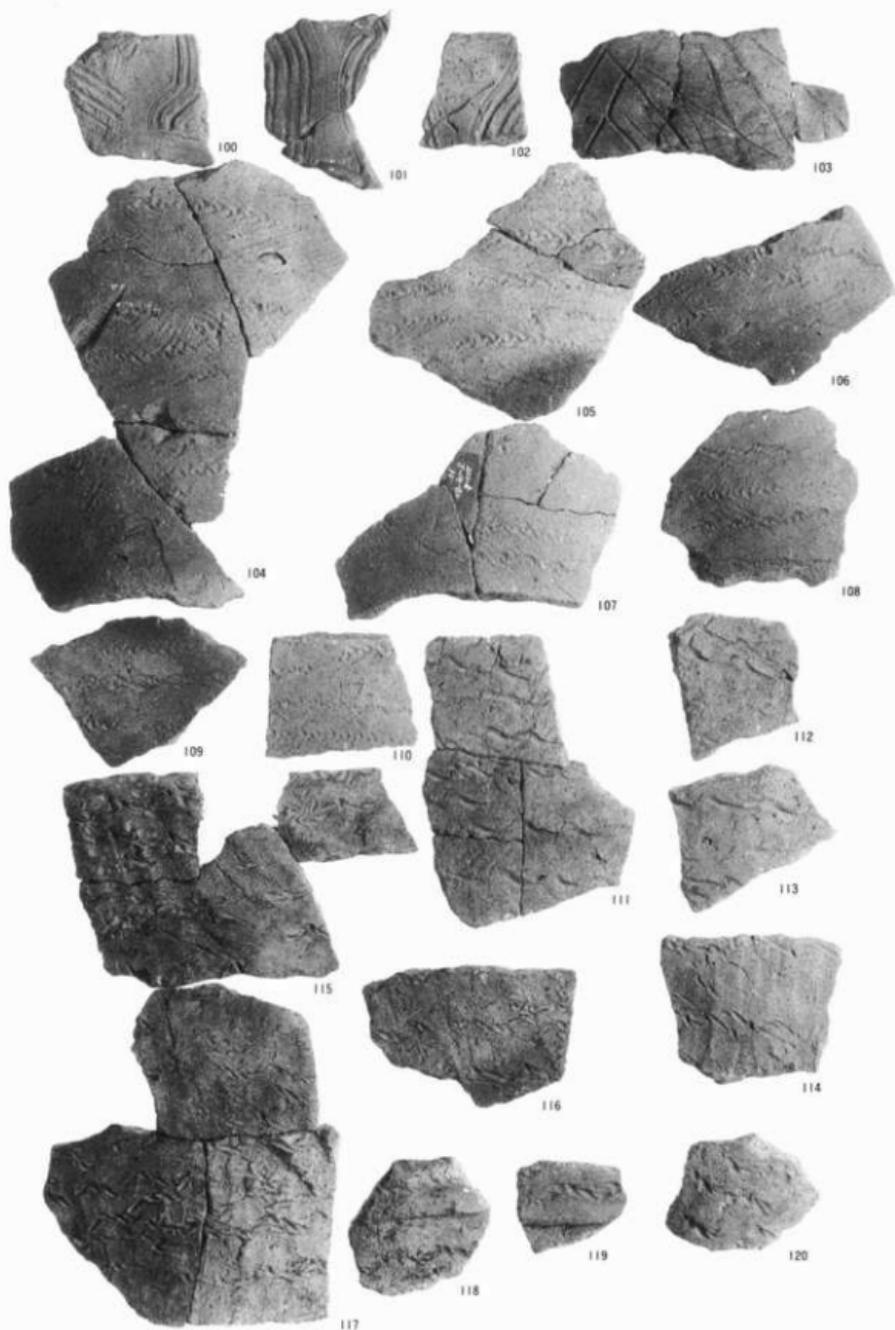




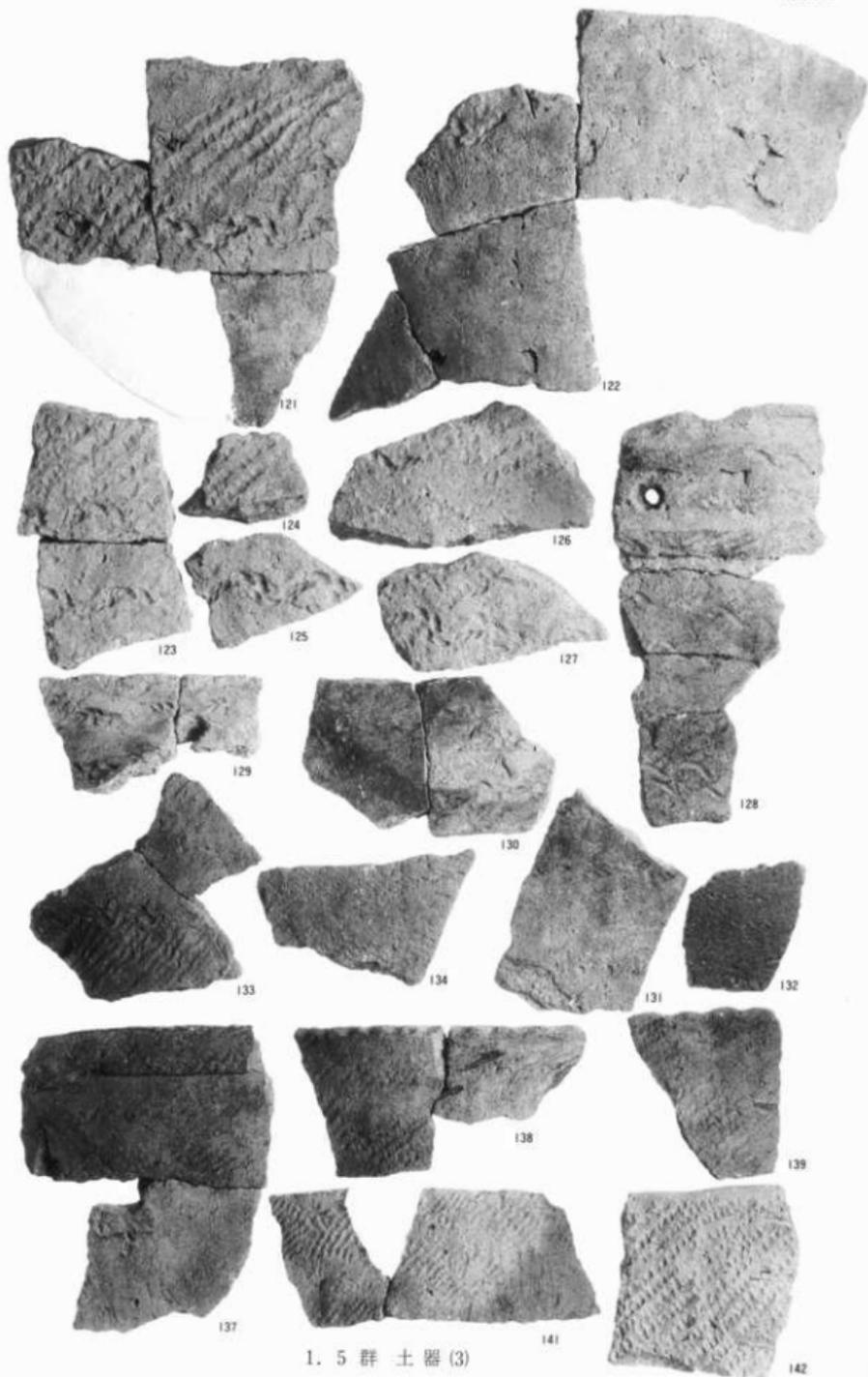
1. 3 群 土 器



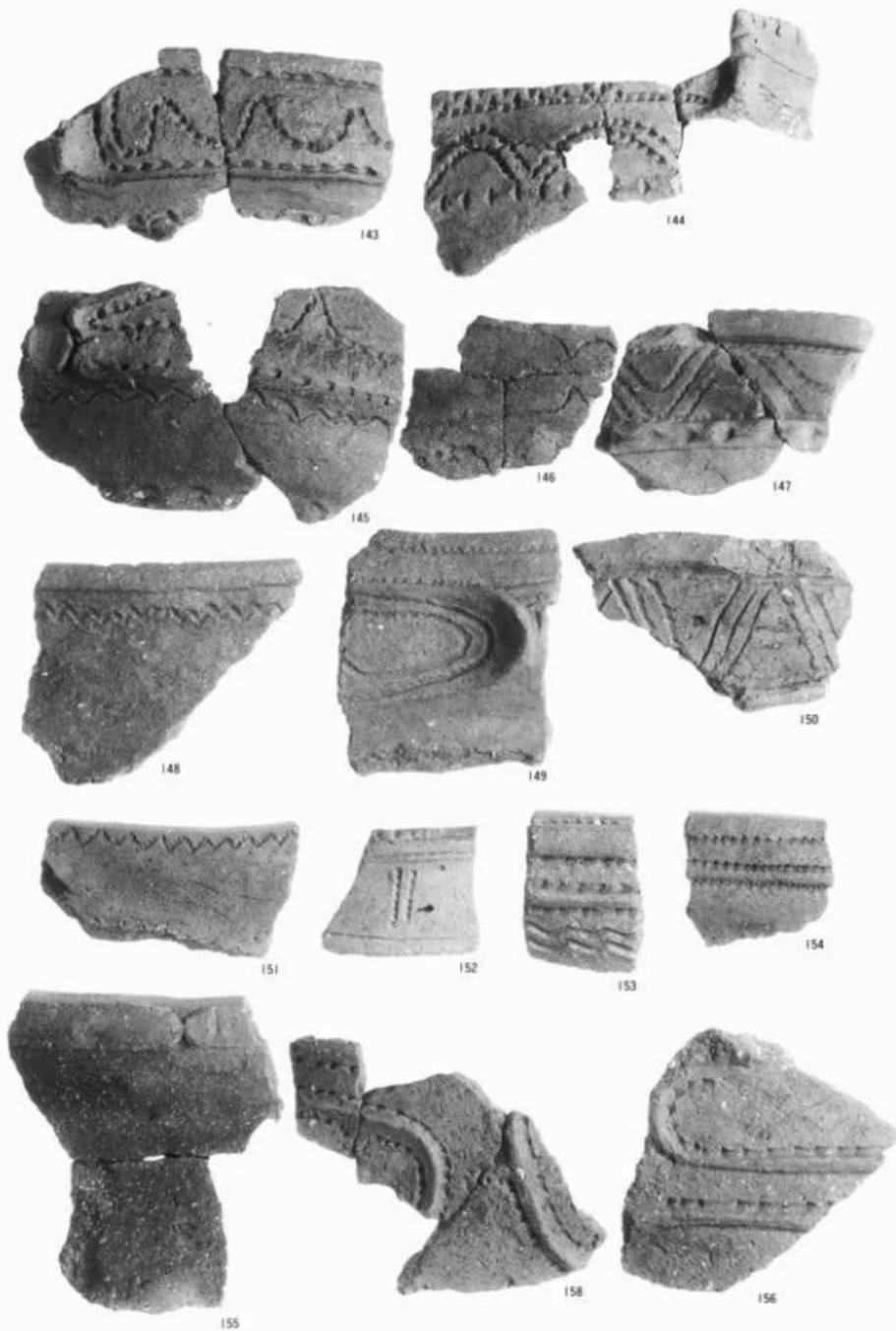
1. 4·5群 土器 (1)



1. 5 群 土 器 (2)



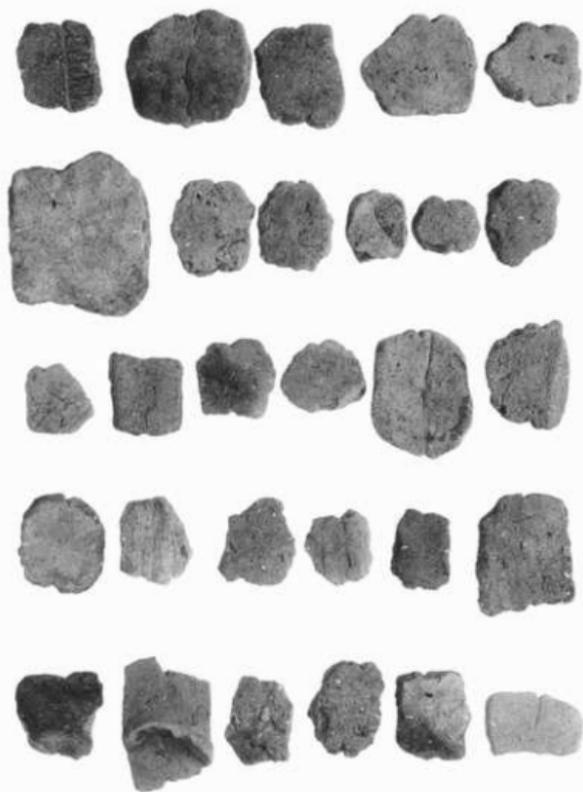
1. 5 群 土 器 (3)



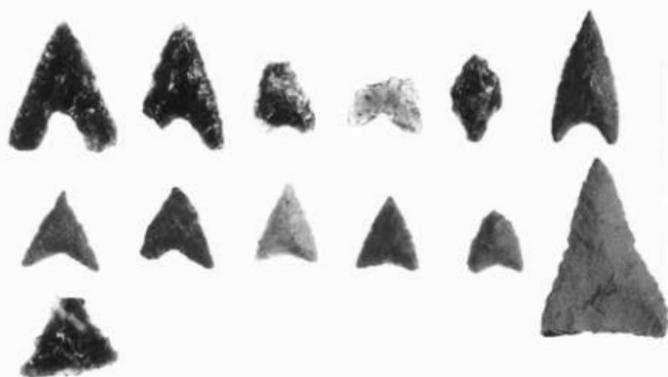
1. 6 群 土 器



1. 7 群 土 器



1. 土器片錘



2. 縄文時代石器

千葉県文化財センター調査報告第226集

八千代市坊山遺跡

— 萱田地区埋蔵文化財調査報告書VI —

平成5年1月25日 印刷

平成5年1月29日 発行

発行 住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部
東京都新宿区新宿4丁目3番17号

編集 財団法人 千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2

印刷 株式会社 み つ わ
千葉県千葉市美浜区新港213-5
